

**全学共通科目
(1～3年次)**

授業科目名	HG200U 北陸学院セミナー			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	通年	単位	1単位	授業形態	礼拝・セミナー
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>1. 大学礼拝 礼拝: 毎週平均2.5回以上の出席。水曜: 献金礼拝、宗教行事や世界の子ども支援に用いる。花の日: 6月 花を諸施設に届ける。特別伝道礼拝: 牧師を招き秋は2・4年生を対象に、2年生は必ず出席。創立記念礼拝: 9月 学院の歴史、建学の精神に触れる。大学祭開会礼拝: 10月 栄光祭時。収穫感謝: 11月 果物を諸施設に届ける。クリスマス礼拝: 2020年度は12月22日。学外説教者を招き、特別な礼拝を行う。学科ごとに祝会も行う。2年生は必ず出席。</p> <p>2. オータム・セミナー 本学独自の行事。全学科1・2年生が出席。聖書の世界に触れ、自分の生き方を考える。学科ごとに準備、事前・事後学習も行う。2020年度: 11月13日(金)~14日(土) 学科ごとの会場で行う</p>				<p>1) 聖書の言葉を、心を落ち着け、静かに聴いて親しみ、その意味を聴き取る方法を体得する</p> <p>2) 賛美歌に親しみ、キリスト教精神を感得する</p> <p>3) 祈りに加わり、有限な世界を越えた永遠の世界に思いを馳せる</p> <p>4) 生の意味について考え、自分の存在の意味を考える</p> <p>5) 世界と歴史の意味に触れる</p> <p>6) 自己を発見し、職業選択を含めた、自分に与えられた使命を自覚する</p> <p>7) 教職員や友人と交流し、価値観を広げるとともに、意思伝達能力や集団における行動力を育む</p>			
教授方法	大学礼拝およびオータム・セミナーへの参加						
履修条件	キリスト教概論 および の単位を取得していることが望ましい。オータム・セミナーについての学科オリエンテーションと準備作業に参加する。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
礼拝出席回数と姿勢	50	・聖書・讃美歌を持参し、週平均2.5回以上大学礼拝に出席し、特別な礼拝にも主体的に参加している。チャペルでは私語を慎み、心を静めて礼拝に集中している。レポートに記入し、押印カードを提出している。		課題・レポート	10	・セミナーの課題やレポートが期日までに提出されている。分量や内容について、指示どおり適切に作成されている。	
オータムセミナーへの参加	40	・事前の準備に積極的に参加している。 ・セミナーでの講演を主体的に聞いて理解し、グループでの話し合いなどに参加している。 ・事後のレポート等で振り返りを行っている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>1) 日頃より、聖書・讃美歌に親しむことが望ましい。 2) 地域の諸教会で行われている日曜日の礼拝に出席することが望ましい。〔90分〕出席する教会については学生要覧を参照、または宗教主事に質問する。 3) セミナーの準備に主体的に参加する。〔60分〕 4) セミナー参加後、レポート等により問題意識を深める。〔30分〕 5) 1年生もオータム・セミナーに参加する。</p>				<p>セミナーに対する感想や疑問の要点を捉え、大学礼拝での奨励の主題に取り入れて語る。</p>			
受講生に望むこと	<p>1) 毎日の大学礼拝に聖書と讃美歌を持って主体的に参加する。携帯電話等は持ち込まない。方が一持ち込んだ場合は電源を切り、鞆にしまふ。私語を慎み、礼拝に集中する。終了時にカードに押印を受け、押印が終了したページを、裏面に感想を記し、前期・後期ともに、定められた提出期限内に提出する。私語や携帯使用など姿勢に問題がある場合、またカードが未提出の場合、欠席したとみなされる。 2) セミナーに主体的に参加することを望む。</p>			教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HG110U 初教概論		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	橋本 史郎						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は全学生必修科目であり、北陸学院の基本精神である旧新約聖書について学ば入門科目である。キリスト教は世界で最大の信仰者を擁する宗教で、人類の歴史に大きな影響を与えてきた。今日の世界標準global standardの多くは、キリスト教の背景を持つ。聖書はその基準であり、現在、もっとも広く読まれているベストセラーでもある。</p> <p>本講義では、担当教員を紹介し、心の根幹にかかわる信仰および宗教とは何かを知ることから始める。続いて、キリスト教について、聖書に基づき、概要を話し、他の宗教との違い、とくに各々の人間観・世界観・歴史観の相違を学ぶ。さらに、新約聖書の記述に直接触れつつ、おもにマルコによる福音書に基づいて、イエス・キリストの生涯について学び、新約聖書を聴き取るためのガイダンスで本講義を終わる。</p>			<p>北陸学院の建学の精神である「キリスト教に基づく人間教育」の根幹をなすキリスト教の思想を、聖書の学びによって知り、人間観、世界観、歴史観を広げる。</p> <p>具体的には、聖書を学ぶことによって</p> <p>聖書について、キリスト教について、イエスの地上の生涯について、概略を理解することができる。</p> <p>聖書を読み、その中心思想を理解し、それに対する自分の思考を文章によって表現する力を身に付ける。</p> <p>世界とその歴史に触れ、国際人として広い視野を持つことができる。</p> <p>人間理解を深め、自分自身の生き方を考え、求める方法を身に付ける。</p> <p>他者や社会を尊重し、それらと自己との関わりを理解し、深めることができる。</p> <p>北陸学院の建学の精神を知り、ここでの全ての学びの基礎を身に付ける。</p>				
教授方法	講義と応答レポート作成・提出を組み合わせて行う						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	自分を見つめる。担当者の紹介と授業予定、礼拝の守り方、聖書の開き方、賛美歌の歌い方を学ぶ。大学礼拝の守り方を知る。信じることで生きることについて考え、宗教とは何かを学ぶ。信じることの意味を知る。						
2	諸宗教のなかでのキリスト教の位置、および聖書の背景について学ぶ。日本と世界の宗教理解の相違を知る。新約の時代と歴史について学び、旧約と新約の継続性と違いを知る。新約の構成と背景にあるイエスの生涯の概略を理解する。						
3	時間論的視点から旧約と新約の違いを知る。宗派・教派による聖書の違いについて基本知識を持つ。イエスの生涯 マルコ福音書1:9-14により、神が人となる受肉の意味を学ぶ。キリストの両性の意味を理解する。						
4	イエスの生涯 マルコ5:1-20から、真の自分を取り戻し、真の自己となることの意味を学ぶ。真の自己の存在を知る イエスの生涯 マルコ8:27-9:1から、疎外からの解放がどのように行われるのかを学ぶ。真の自己となることの意味を知る						
5	イエスの生涯 う マルコ10:1-12から、聖書の結婚観、夫婦観、家族観を学ぶ。聖書の結婚観を知り、自己の結婚観・家族観を養						
6	イエスの生涯 存在の意味 マルコ10:35-45から、人間の存在の意味について学ぶ。自己の生の意味を他者との関係で捉える。 イエスの生涯 マルコ12:28-34から、神への愛と他者への愛、真の自己愛とは何か、学ぶ。愛の構造を理解する。						
7	小テスト およびイエスの生涯 マルコ14:1-11から、受難の社会的構造を学ぶ。イエスの死の経緯と 救済史的な意味を理解する。 イエスの生涯 マルコ14:22-26から、最後の晩餐が示すイエスの死の贖罪の意味を知る。イエスの死の意味を知る。						
8	小テスト および新約の中心的使信について説明し、それを聴き取るためのガイダンスを行う。新約の中心的メッセージを理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度・理解度	20	毎回の講義内容をミニレポートにまとめ提出する。 授業内容を理解している それを自分の言葉で掴み、表現している 疑問や質問など、問題意識を持っている		新約聖書の目次を覚え 小テスト	20	新約27書の正式書名を覚え、正典の順序で正しく書き記す	
新約等前期授業の内容について小テスト	30	新約関連の重要語、思想、その理解とそれに対する自己の考えを問う		レポート	30	教会の主日(日曜)礼拝への参加態度 そこでの説教内容のまとめ それに対する自己の意見	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>聖書およびそれに立つ北陸学院の基本姿勢を理解するため、大学礼拝および特別な礼拝への主体的参加を求める。〔20分〕</p> <p>さらに、地域諸教会における主日礼拝への参加を勧める〔60分〕</p> <p>フレッシュマンセミナーへの積極的参加を求める。〔28時間〕</p> <p>日頃より聖書に親しみ、北陸学院宗教諸行事への積極的参加を求める。</p>			<p>毎回の授業で、前回のミニレポートについて、また小テストやレポートについても、必要なコメントをする。</p>				
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加し、自分のメモを取ること 聖書を必ず持参すること 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等を鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること		教科書・テキスト	『聖書協会共同訳・旧新約聖書』日本聖書協会 毎回授業に持参する。『讃美歌21』			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	原則として1回90分に、45分授業2コマ分を行う。1回欠席すると2コマの欠席となるので、出席に努める。毎回の授業レポートを丁寧に記し、提出すること。提出しないと欠席扱いとする。小テストを授業時間のなかで行うので、必ず受験すること。レポートは必ず指定された期限内に提出すること。			
実務経験を活かした授業の概要							
<p>牧師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教諭としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスパー入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。</p>							

授業科目名	HG130U 初教人間論			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格		なし			
授業の概要				授業の到達目標			
キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書の理解に基づいてかたちづけていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは 学生が礼拝の作法を身に着け、礼拝者として整えられること、 学生が聖書の使信との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していきけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。				北陸学院の「建学の精神」を理解し本学院の学生としてのアイデンティティーが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「主の祈り」と「十戒」を会衆と共に唱導できるようになる。 聖書のストーリーとのつながりの中で自分の人生を理解し、人生と世界の諸課題を主体的に考察し、自分の考えを表現できるようになる。			
教授方法	レジュメに基づく講義、映画の鑑賞、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	・本コースの概要を理解し、学びの姿勢を整える。 ・「運命ではなく摂理」(創世記45:1-8): 運命論ではなく、神の摂理に導かれた人生観を発見する。						
2	・「建学の精神」と北陸学院の歩み: 学院の形成にあたり重要な役割を果たした先達たちと出会う。 ・「本当の友とは」(ヨハネ15:11-17): 主イエスが私たちの本当の友となってくれることを発見する。						
3	・「主の祈り」・「讚美歌フェスティバル」(ルカ11:1-13) 「主の祈り」を理解し、祈り始める。心から賛美できるようになる。						
4	・「献金」(マルコ12:41-44): 献金の心構えについて理解し実践する。 ・「労働と余暇」(ローマ12:1-8): 働くことにはどんな意味があるのかを問い、使命探求型人生を発見する。						
5	・「十戒」: 神が授けられた自由の道しるべとしての十戒を知る。 ・「愛国心と国際理解」(イザヤ2:1-5): 偏狭なナショナリズムを超える神の国の倫理を発見する。						
6	・「人格的交わりとしての性」(エフェソ5:21-33): 真に相手を人格として受け止め、尊敬をもって互いに接することができるようになる。恋愛や結婚についても聖書の御言葉の光の下で理解を深める。						
7	・「聖書」という書物(テモテニ3:14-17): 聖書の成り立ちやジャンルを学ぶ。 ・「環境と飢餓」(申命記24:19-22): 世界の飢餓問題について聖書から語りかけられるメッセージに聴く。						
8	・「教会暦」(コリントー12:12-26): 教会の暦について大事なものを理解できるようになる。 ・「生と死」(コリントー15:50-58): 命を神からの授かりものとして受け止め直すことができるようになる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度・理解度	10	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめ、感想や疑問を表現できているかを評価。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。		小テスト	20	学期中2回(「主の祈り」「十戒」)、重要語句を書けるようにする小テストで評価。	
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できているかを評価。		学期末試験	50	講義内容の理解度を測る期末試験で評価	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティーを確かにするため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]				毎回の授業で、前回提出の振り返りシートについて必要に応じてコメントする。学期末試験や教会訪問レポートについては全体講評をメソフィア等で告知する。			
受講生に望むこと	積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。 本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとっていくこと。 聖書・プリント用ファイル必ず持参すること。 遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/『神学よるこびーはじめての人のための『キリスト教神学』ガイド』新装増補改訂版、アリスター・E・マクスグラス(芳賀力訳)、キリスト新聞社、2017年。ISBN: 978-4-87395-721-0 『聖書は何を語るか』、大島力、日本キリスト教団出版局、1998年。ISBN: 978-481840316 その他、授業内で紹介する。			その他・特記事項	・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的社会マナー違反は放置しないで注意。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HG140U 初歩教人問論			開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>キリスト教概論 及び 得た基礎理解を土台として、学生が自分の人生観や価値観を聖書的理解に基づいてかたちづくっていくために助けとなる素材を提供する。ねらいは、学生が礼拝の作法を身に付け、礼拝者として整えられること、学生が聖書の使信（メッセージ）との関わりの中で自らの人生を主体的に形成していきけるようになること、である。学生はキリスト教大学である本学で学ぶことの意味を理解し、北陸学院の学生としてのアイデンティティが深まり、世界と人生の諸課題にキリスト教の視点からアプローチし取り組めるようになる。</p>				<p>北陸学院の「建学の精神」を理解し本院の学生としてのアイデンティティが深まり、教会・学校・人生を通して礼拝者として生きる姿勢を習得する。礼拝者としての姿勢が整えられ、「使徒信条」を会衆と共に暗唱できるようになり、前期と合わせて三要件を身に付けて、豊かな礼拝体験を持てるようになる。</p> <p>聖書のストーリー、歴史を生きた信仰者とのつながりの中で自分の人生を理解し、聖書の「大いなる物語」の一部として自分もこの人生を生きていることを理解できるようになる。</p>			
教授方法	レジュメに基づく講義、映画の鑑賞、振り返りシート、レポートのための教会出席。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	・イントロダクション：本コースの概要説明 ・「自分史」を描いてみよう！映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
2	「信頼」：自分の人生を神が導く冒険として受け止め、神の導きに信頼して歩み出すきっかけを持つ。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
3	「使命」：自分の人生を神から与えられたミッション（使命）に生きる旅として受け止められるようになる。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
4	「勇気」：人生の諸課題に神への信頼から来る勇気をもって立ち向かえるようになる。 映画「フェイスング・ザ・ジャイアント」						
5	「祈りとへりくだり」：神の正義と平和を求めて祈り働く者としての構えと出会う。 映画「祈りのちから」						
6	「感謝」：罪赦された者の感謝に生きる姿を理解でき、自らもそのように生きるきっかけを発見する。 映画「祈りのちから」						
7	クリスマス礼拝賛美練習 映画「祈りのちから」						
8	「愛」：神に愛されているがゆえに、自分も隣人を愛するように招かれていることを発見する。 映画「祈りのちから」						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業態度	20	「振り返りシート」で授業内容を自分の言葉でまとめて感想や疑問を表現できている。授業の妨げとなる態度・行為は大きく減点。		小テスト	20	学期中2回（「使徒信条」「キリスト教史」）行う小テストで評価。	
教会出席レポート	20	教会の主日礼拝に出席し、説教内容についての感想を自分の言葉によって表現できている。		学期末レポート	40	聖書箇所 聖書の人物またはキリスト教史の人物 映画の登場人物 それらに学びつつ自分はどういう人生を歩みたいかをまとめたレポートにより評価。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>「建学の精神」について理解を深め、北陸学院の学生としてのアイデンティティを確かにするため、大学礼拝への主体的参加を求める。[30分] その週の授業内容をプリントで復習し、小テストに備えて勉強し、自分の興味関心を広げて参考図書を読んでみる。[30分] 日頃より聖書に親しみ、学院のキリスト教諸行事への積極的参加を求める。[15分] 少なくとも学期に1度、地域諸教会における主日礼拝への出席を求める。[70分]</p>				<p>「振り返りシート」については適宜コメントする。「教会出席レポート」、「学期末レポート」については全体講評をメソフィア等で告知する。</p>			
受講生に望むこと	<p>積極的に発言し、共に授業をつくりあげていく姿勢を大事にすること。 本コースのファイルを用意し、毎回配布されるプリントをとしていくこと。 聖書・プリント用ファイルを必ず持参すること。 遅刻や欠席、無断での途中退席、私語等をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること。 本学ならではの学びのチャンスにまずは心を開いて向き合ってみてほしい。</p>			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	<p>アウグスティヌス（山田晶訳）『告白』（中公文庫、2014年）。 アリスター・E・マクグラス（芳賀力訳）『神学によるこびりはじめの人のための「キリスト教神学」ガイド』新装増補改訂版（キリスト新聞社、2017年）。 その他、授業で紹介する。</p>			その他・特記事項	<p>・毎回聖書を持参すること。 ・授業中の他科目の内職、私語、スマホ操作など基本的な社会マナー違反は放置しないので注意。繰り返されるマナー違反は厳しく減点する。他の受講生のためにも最低限のマナーは守ること。</p>		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	GE100U 総合教養A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	福江 厚啓・中野 聡・齊藤 英俊・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1-3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものか考えることができる。(福江)</p> <p>4-6回：子どものメンタルヘルスの課題について理解し、心理的な支援について自らの考えや意見をもちつて考えるようになる。(齊藤)</p> <p>7-9回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にある「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心がもてるようになる。(向出)</p> <p>10-12回：乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても保育・子育てに関する社会的問題に興味・関心を持ち、考えられるようになる。(高村)</p> <p>13-15回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を、通時的・共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものかを経験を通して考えることができる。(中野)</p>			
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう。					福江
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江
4	子どものメンタルヘルスにおける今日的課題：「いじめ」の問題を通して、子どものメンタルヘルスについて考える。					齊藤
5	子どものメンタルヘルスにおける今日的課題：「不登校」の問題を通して、子どものメンタルヘルスについて考える。					齊藤
6	子どものメンタルヘルスへの心理的支援：教育現場における子どもへの心理的支援のあり方について考える。					齊藤
7	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(1)実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。					向出
8	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(2)遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。					向出
9	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。					向出
10	赤ちゃんの不思議！少子化と言われる今だから考えたい：動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村
11	乳幼児と絵本：絵本の読み聞かせが持つ乳幼児への効果について理解する。					高村
12	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉について考える。					高村
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること					中野
14	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」					中野
15	意味あるやり取り：Small Talkについて					中野
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からそれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]			各教員ごとに対応する。			
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては異なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも意識してもらっている。</p> <p>中野：小学校での指導経験を生かして具体的な事例を紹介しながら小学校外国語・英語科の大切にするべきことを指導している。</p> <p>福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の中の子どもの姿、幼稚園や小学校における実際の子ども姿を紹介し、「物語論的」に子どもの内面世界を見取ることの豊かさについて話題提供している。</p> <p>高村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の不思議な力や、身近な大人との関わりについて、実例を提示しながら、乳幼児の理解につなげている。</p>						

授業科目名	GE110U 総合教養A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修	
担当教員名	福江 厚啓・中野 聡・虫明 淑子・向出 圭吾・高村 真希 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「総合教養科目」に位置付けられている科目である。「子ども」をキーワードに様々な角度から話題を提供する。少子化が進行する時代において、子どもの魅力、子育ての楽しさ、子どもから学ぶことなど、多くの事例を通して理解を深める、オムニバス方式の本講義に幼、小、中それぞれの現場の様子や、それら教育実践を貫く教育思想について5人の教員がリレー方式で、各担当の専門分野を活かしながら3回ずつ講義を担当する。</p>			<p>1-3回：子どもは皆、それぞれの認識世界に生きているということを理解し、幼小接続期の子どもや特別な支援を必要とする子どもの事例をもとに、育ち・学びとはどのようなものか考えることができる。(福江)</p> <p>4-6回：子どもが生きる未来をよりよくするには、園や学校の協働と家庭や地域が連携して社会で子どもを育てる視点をもつこと、幼児期の教育を充実させることが重要であることを理解する。(虫明)</p> <p>7-9回：幼稚園・保育園時代に誰もが体験した「遊び」の中にあるような「学び」があることを遊びの体験を通して感じ取り、今後の幼稚園・保育園の動向についても興味・関心をもてるようになる。(向出)</p> <p>10-12回：乳幼児の心と身体の育ちを理解し、日常生活においても保育・子育てに関する社会的問題に興味・関心を持ち、考えられるようになる。(高村)</p> <p>13-15回：令和2年度から本格実施される小学校外国語活動(3,4年生)、英語科(5,6年生)の現状を過時的、共時的に理解するとともに、「意味あるやり取り」とはどのようなものかを経験を通して考えることができる。(中野)</p>				
教授方法	5名の子ども教育学科教員によるオムニバス形式の講義						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：担当教員紹介、科目を学ぶ意義、レポートの書き方 子どもの世界は「物語」：子どもの姿から、一人ひとりを見てみよう。					福江	
2	幼保から小学校へ：就学期に子どもが感じるエトセトラ。					福江	
3	小学校の特別支援教育：一人ひとりに応じること、協働すること。					福江	
4	子どもを取り巻く環境はどう変わったのか					虫明	
5	幼児期における「遊び」と子どもの発達					虫明	
6	今後の幼児教育における可能性					虫明	
7	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(1) 実際に遊びを体験することによって、学びの原点について考える。					向出	
8	遊びを通して学ぶ幼児期の子ども(2) 遊びを繰り返すこと、継続することによって学びが深まる過程を考える。					向出	
9	今後の幼稚園・保育園の行方：幼稚園・保育園の現状について理解するとともに、認定こども園への移行、保育教諭、幼児教育・保育の無償化等、今後の動向について考える。					向出	
10	赤ちゃんの不思議！少子化と言われる今だから考えたい：動画を通して、赤ちゃんの不思議を考える。					高村	
11	乳幼児と絵本：絵本の読み聞かせが持つ乳幼児への効果について理解する。					高村	
12	乳幼児の内なる言葉：人の感じ方や思いはそれぞれ異なる。乳幼児の内なる言葉について考える。					高村	
13	小学校の外国語活動・英語科の現状：子どもたちが今取り組んでいること、取り組もうとしていること					中野	
14	言語活動を通して学ぶ：小学校外国語活動の歴史、諸外国の現状、「意味あるやり取り」					中野	
15	意味あるやり取り：Small Talkについて					中野	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
担当者ごとの授業後の課題レポート	100(20×5)	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
今、子ども・教育問題への関心はどの年齢層にとっても関心が強く、社会で論議されている。普段からこれらの論議に関心を寄せると共に、授業の中で生まれた課題意識を授業者が紹介した書籍等から積極的に学んで深めてほしい。[30分程度]			各教員ごとに対応する。				
受講生に望むこと	子ども教育学科生以外それぞれの専門領域ではないが、どの職業も何らかの形で人に関わること、今という学生時代を仲間と共に生きること、将来家庭をつくり子育てに関わる可能性が高いことを考えれば、人がどのように学び、育つのかを深く理解しておくことは極めて重要である。ぜひ意欲と関心を高めて授業に参加してほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
<p>向出：子どもの遊びは、幼稚園現場においては単なる遊びに終わるのではなく、その中に学びがあることを、実際の現場の遊びを通して他学科の学生にも認識してもらっている。</p> <p>中野：小学校での英語活動を通して具体的な事例を紹介しながら小学校外国語活動・英語科の大切さを指導している。</p> <p>虫明：保育園現場において多くの子どもが保護者や後輩に代わって遊びを体験すること、遊びを中心とした幼児期の教育がなぜ小学校以降の学習の基礎で、人格形成の基礎を築くと言われるか等に関する幼児期における教育の重要性について具体的に説明する。</p> <p>福江：幼稚園、小学校の教諭としての経験をもとに、絵本の子どもとの関わり、幼稚園や小学校における実際の子どもとの姿を結び、「物語的」に子どもの内面世界を捉えることの難しさについて話している。</p> <p>高村：保育士としての経験をもとに、乳幼児の不思議な姿や、身近な大人との関わりについて、実践例を提示しながら、乳幼児の理解につなげている。</p>							

授業科目名	GE120U 総合教養B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・加藤 仁 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤
12	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。	
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]			個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE130U 総合教養B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	田中 純一・小林 正史・加藤 仁 (代表教員 田中 純一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、社会学、比較文化、心理学といった各担当教員の専門分野の視点から、人間と社会との関係に焦点をあて、社会における人間のありようと抱える課題について考える。			<ul style="list-style-type: none"> ・災害が炙り出す社会システムの脆弱性と諸課題について理解する(田中) ・超少子高齢社会におけるボランティア、地域社会の役割について理解する(田中) ・食器などの比較を通して、伝統的(手作り)技術の優れた面を理解できるようになる(小林) ・心理学の研究知見に基づくこころの働きについて理解する。また、心理学の基礎知識から日常を振り返り、生活に役立てられるようになる。(加藤) 			
教授方法	3名の社会学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目概要、到達目標、受講する際の注意事項について理解する。復旧・復興過程と諸課題：東日本大震災および過去の災害事例から、復旧 復興の各プロセスにおける被災生活支援のあり方について理解する。					田中
2	災害と地域防災：超少子高齢社会における自助・共助・公助のあり方について理解する。					田中
3	災害ボランティア：過去の災害事例から、ボランティアの役割と課題について理解する。					田中
4	防災教育：国内・海外の実践事例から、防災教育の意義について理解する。					田中
5	住み続けられる地域とは：災害多発国である我が国において、万が一被災しても暮らし続けられるために地域社会はどうあるべきなのか について、減災という観点から理解する。					田中
6	食器の作り分け：日本の飯碗と汁椀の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する。					小林
7	食器の作り分け：日本と韓国・中国の食器の違いが使い方の違いをどのように反映するかを理解する					小林
8	稲作農耕民の飲食方法民族誌：箸食・匙食との比較をとおして手食の役割を理解する。					小林
9	炊飯方法と食べ方の歴史：米調理方法が米品種の特徴に合わせて変化すること、および、食べ方が米調理方法に合わせて変化することを理解する。					小林
10	日本と英語圏の食文化の比較：稲作文化圏と小麦文化圏の比較をとおして、食材、調理方法、食べ方の関連を理解する。					小林
11	パーソナリティの心理学：ダークトライアド概念について理解する。					加藤
12	自己の心理学：自己概念について理解し、自分自身への理解を深める。					加藤
13	道徳の心理学：道徳心理学の観点から公正の概念について学習し、自身の価値観を振り返る。					加藤
14	人間関係の心理学：恋愛・結婚に伴う人間関係のさまざまな側面について理解を深める。					加藤
15	ポジティブ心理学：自己実現を達成するための心理学の技法について学習し、実際に体験する。					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加態度および意欲	30	授業への取り組み姿勢・講義時に求められる提出物の取り組み状況	レポート提出	50	各担当者の講義終了時(5回講義1セット)にレポートを作成し提出する。レポートの形式はその都度担当教員の指示に従うこと。	
小レポート等の提出	20	授業時間外で行う小課題が適切に作成されている。また、提出期限を守っている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前に配布されたレジュメ等は必ず目を通しておくこと[30分] その日のうちに学んだことを復習すること[30分]			個々の教員の指導に従うこと。			
受講生に望むこと	授業への積極的な参加を求めるとともに、講義中に学んだことを深く掘り下げる努力をする。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	配布された資料を読むように指示されることがある。		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE140U 総合教養C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・上農 肇・坂井 良輔・田中 弘美・三田 陽子 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	5名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	日本人の食生活の変化と問題点：自分の食生活を見直し、問題点を見つける。					田中
3	食品の一次、二次、三次機能とは何かについて学ぶ					坂井
4	食品の一次機能について学ぶ -タンパク質、脂質、糖質-					坂井
5	食品の一次機能について学ぶ -味成分、香り成分、色素成分-					坂井
6	食品の三次機能について学ぶ -機能成分-					坂井
7	日本人の食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、行事食や郷土食の継承について考える。					三田
8	食に関する情報と健康：食を取り巻く様々な情報の取捨選択の仕方について考える。					三田
9	献立作成の基本を学ぶ。(食事摂取基準、食事バランスガイドの理解を含む)					田中
10	ライフステージを通して、健康な食事を考える。					田中
11	食物摂取と健康の概念：私たちはなぜ食べるのか？健康とはなにか？を考える。					三田
12	食事と環境：人間と食べ物と環境のつながりから、環境調和型食生活の意義を考える。					三田
13	食と心理：食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					上農
14	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					上農
15	21世紀の国民健康づくり運動：「健康日本21」が策定されたことを踏まえ、国民一人ひとりがどうあるべきか考える。					田中
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている 質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]			毎回の授業ごとに対応は異なるが、課題の記載内容について講評することもある。			
受講生に望むこと	各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない		教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE150U 総合教養C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	新澤 祥恵・西 正人・依 万里子・上農 肇 (代表教員 新澤 祥恵)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生活環境の変化に伴い、食環境も多様化する中で、肥満ややせ、メタボリックシンドロームなど食に関連する問題が多く提起されている。健康づくりには、「栄養」「運動」「休養」の3つのバランスが大切であるが、中でも、栄養(食生活)が基本的な問題といえる。この授業では、今日的課題である「食育」「食の安全・安心」といった視点も踏まえ、次のテーマをとおして、これからの食生活の在り方を考えていきたい。</p>			<p>食物と健康の関連を理解する。 栄養素と健康の関連を理解する。 正しい食生活のあり方を理解する。 食と心理の関係を理解する。 食糧需給の現状を理解し、課題意識を持つ。</p>			
教授方法	4名の食物栄養学科教員によるオムニバス形式の講義。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	食と生活：人間にとって食とは、どのようなものかを考え、理解する。					新澤
2	ライフステージに応じた食育(胎児期・乳児期)：健康な心身の基礎を作るための望ましい食生活のあり方について考える。					依
3	ライフステージに応じた食育(成長期)：心身の健全な成長・発達のための食生活のあり方について考える。					依
4	ライフステージに応じた食育(成人期)：生活習慣病予防のための食生活のあり方を考える。					依
5	運動・スポーツと栄養：運動・スポーツ時の身体変化とそのために必要な栄養摂取について理解する。					依
6	食品と薬剤1：ヒトの消化器系の構造と機能、生体内に薬剤が吸収される仕組みを理解する。					西
7	食品と薬剤2：薬剤の服用方法や食品の薬効に及ぼす影響とその仕組みについて学ぶ。					西
8	食品と薬剤3：食品中の特定成分(カフェイン、色素、食品群別)が薬効に及ぼす影響について学ぶ。					西
9	アレルギーと経口免疫寛容4：経口免疫寛容の成り立ち。アレルギーや経口免疫寛容に影響する機能性食品や腸内細菌の働きについて学ぶ。					西
10	食と心理：食を食べることや食べるものによる、私たちの心理面や行動面に与える影響について考える。					上農
11	食と心理：食行動の健康と病理について、現代の青年における問題を考える。					上農
12	食と流通：世界の食料資源はどうなっているか理解し、日本の食料需給の問題を考える。					新澤
13	健康と食文化：人間が育んできた食の歴史から食文化を理解し、健康との関連を考える。					新澤
14	環境と食：環境負荷の少ない調理など、環境調査型食生活の意義を考える。					新澤
15	食の安全安心：食の安全安心をハザードとリスクや食育の視点から理解する。					新澤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
担当者毎のレポート	90	授業内容と課題に応じて論理的に考察されている質的量的に適切である 指定期日までの提出		受講態度	10	授業参加意欲
授業外における学習(事前・事後学習等)						
食生活と健康に関する情報に関心を持ち、これらに関連する本や新聞、雑誌の記事を読むこと。毎回の授業内容をまとめる。[毎回30分程度]				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
受講生に望むこと	各担当者が出す課題のレポートを確実に提出すること 授業中の私語を慎み、遅刻をしない			教科書・テキスト	授業ごとに担当者が配布する資料を用いる	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE160U 総合教養D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義では先ずはじめにキリスト教的視点から学ぶ。次にホスピタリティ産業から、サービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながる、日々の生活にも欠かせない、現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。			ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。 サービスとホスピタリティの違いを説明できる。 ホスピタリティマインドを理解する。 基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。			
教授方法	講義とグループワークを組み合わせ実施(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。					富岡・葦名
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡
3	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡
4	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡
5	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡
6	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡
7	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡
8	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。					葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する。					葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。					葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。					葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート	35	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。		自己紹介プレゼン	20	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名担当分〕
授業への参加態度	25	演習への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名担当分〕 グループワークの参加度や積極的な発言の有無など〔富岡担当分〕		レポート	20	授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡担当分〕
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
【葦名】日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔30分〕 【富岡】シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕				【葦名】課題提出物などについては指定の講義日に返却する。その他質問などは講義時間内に受け付ける。 【富岡】レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。 ・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む。 ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	GE170U 総合教養D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	富岡 和久・葦名 理恵 (代表教員 富岡 和久)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
日本の産業界では「おもてなし」と同義で「ホスピタリティ」が使われている。一方欧米ではキリスト教精神が根付いており、日本とは別の視点で捉えられている。本講義では先ずはじめにキリスト教的視点から学ぶ。次にホスピタリティ産業から、サービスとホスピタリティの違いや、顧客満足、従業員満足につながる、日々の生活にも欠かせない、現場で役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。 この科目は全学共通科目における「総合教養科目」に位置づけられた科目である。			ビジネスとしてのホスピタリティとキリスト教の精神に基づいたホスピタリティの違いを理解している。 社会福祉の視点からの思いやりについて例を挙げて説明できる。 サービスとホスピタリティの違いを説明できる。 ホスピタリティマインドを理解する。 基本的なコミュニケーションスキルを身につけている。			
教授方法	講義とグループワークを組み合わせ実施(1回～8回)。講義形式で行う(9～15回)。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	15回の流れについての説明を聞き、全体の流れを理解する。富岡担当授業内容とグループワークの進め方の説明。グループ分け。テーマの設定及び資料収集方法の決定をする。ホスピタリティとサービスの違いについて理解している。					富岡・葦名
2	ヒトはなぜ人を助けるのか。 目標：なぜ人間だけが他者を援助するのかについて理解している。					富岡
3	社会福祉とホスピタリティ ビジネスにおけるホスピタリティと社会福祉の観点からのホスピタリティの違いを理解している。					富岡
4	茶道に見るおもてなしの原点。 茶道の作法から日本におけるおもてなし精神の源流を理解している。					富岡
5	ヤヌシュ・コルチャックに学ぶ。 ヤヌシュ・コルチャックの活動から子どもへの思いやりについて理解している。					富岡
6	ヘレン・ケラーに学ぶ。 ヘレン・ケラーの生涯から他者への思いやりについて理解している。					富岡
7	マーティン・ルーサー・キング・ジュニアに学ぶ。 マーティン・ルーサー・キング・ジュニアの公民権運動から他者への思いやりについて理解している。					富岡
8	マザー・テレサに学ぶ。 マザー・テレサの活動から死を待つ人々への思いやりについて理解している。					富岡
9	ホスピタリティの基礎知識 ・サービスとの違いを理解し説明できるようになる。					葦名
10	ホスピタリティ産業とは？ プライダル業を一例にホスピタリティマインドを理解する。					葦名
11	コミュニケーションスキル 挨拶・自己紹介テキスト作成する。					葦名
12	コミュニケーションスキル 外見からの第一印象を通し、身だしなみの必要性を理解する。					葦名
13	コミュニケーションスキル 聞く力 普通の会話のやり取りを例にアクティブ・リスニングを理解する。					葦名
14	コミュニケーションスキル 話す力 スピーキングの技術を理解し表現できるようになる。					葦名
15	コミュニケーションスキル最終回 自己紹介を「自己プレゼンテーション」として表現できるようになる。					葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
振り返りシート	35	授業ごとのまとめシート(ワークシート)にて授業内容の理解度を確認し、評価する。		自己紹介プレゼン	20	学んだ内容(コミュニケーションスキル)を活用した内容を評価する。〔葦名担当分〕
授業への参加態度	25	演習への積極的参加や取り組み態度を評価する。〔葦名担当分〕 グループワークの参加度や積極的な発言の有無など〔富岡担当分〕		レポート	20	授業時間外に鑑賞した指定の映画のレポート内容を評価する。〔富岡担当分〕
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
【葦名】日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること〔30分〕 【富岡】シラバスに標記された各回のテーマと目的を参考に、事前に不明な点を調べる。また、授業後疑問や新たな課題について調べる。〔30分〕 授業で取り上げられた人物について調べる。〔15分〕 指定の映画を鑑賞し、そこから発見したことや疑問を抽出する。〔約70分〕				【葦名】課題提出物などについては指定の講義日に返却する。 その他質問などは講義時間内に受け付ける。 【富岡】レポート類は採点の後、講義終了後に返却する。		
受講生に望むこと	日ごろから他者とのかわり(コミュニケーション)の際に学習したスキルの活用を心掛けること。 ・コミュニケーションスキルの基本を身につけ、実践できるようになるため、積極的な受講態度を望む。 ・ビジネスシーンだけでなく、日常生活でのホスピタリティのあり方について考えてほしい。			教科書・テキスト	適宜、プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし 適時講義の中で紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LJ090U 日本語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	自由	
担当教員名	竹下 正弘						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は大学での講義受講やレポート作成に必要なとされる日本語表現の基礎力養成を目的としている。「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を充実させ、大学生活に必要な「文章表現」「口頭表現」の力を伸ばす。また、大学生活を豊かにする「文学作品」「日本の美しいことば」等に触れる。			辞書に親しみ、使いこなすことができる 決められた「テーマ」「時間」で文章表現ができる 表現力を豊かにするために「漢字」「語彙」「文法」などの基礎力を伸ばす 口頭表現に慣れ親しむ				
教授方法	演習と講義。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：「日本語基礎力」とはどのようなものを理解する。「自己紹介文」を書く。						
2	前回の「自己紹介文」を「口頭表現」「文章表現」として発表し、「すばらしい点」「直したい点」を考える。 辞書を使い慣れる（漢字の「読み」と「意味」）						
3	表現力を豊かにする語彙（対義語） 辞書を使い慣れる（「対義語」）						
4	文章表現の基礎（「構成」を考える） 表現力を豊かにする語彙（同義語） 辞書を使い慣れる（「同義語」）						
5	文章表現の基礎（「構成」「起承転結」を考える） 表現力を豊かにする語彙（四字熟語） 辞書を使い慣れる（「四字熟語」）						
6	文章表現の実践（「エッセイ」を書く） 表現力を豊かにする語彙（三字熟語） 辞書を使い慣れる（「三字熟語」）						
7	口頭表現の実践（「詩」の朗読） 表現力を豊かにする語彙（故事成語） 辞書を使い慣れる（「故事成語」）						
8	口頭表現の実践（「詩」「散文」の朗読） 表現力を豊かにするために（仮名遣い） 辞書を使い慣れる（仮名遣いに注意して） 到達確認テスト						
9	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を豊かにするために（言葉の意味を知る）						
10	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を豊かにするために（「ことわざ」を使いこなす）						
11	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（教育漢字の確認）						
12	口頭表現の実践（前回の「意見文」を推敲し、発表する） 表現力を確実にするために（常用漢字の確認）						
13	文章表現の実践（「意見文」を書く） 表現力を確実にするために（表外漢字の確認）						
14	文章表現の実践（小論文）を書く） 表現力を確実にするために（日本語の乱れ・文法）						
15	文章表現の実践（「小論文」を書く） 表現力を確実にするために（まとめ）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期テスト (16 回目)	50	各回の講義内容・演習内容を理解している。	到達確認テ スト(8 回 目)	20	各回の講義内容・演習内容を理解している。		
各回の課題 提出	20	定められた書式・時間に従って提出しているか。さらに、「文章表現」においては自分の考え・意見を表現している。	授業参加態 度	10	課題に取り組み、弱点を克服している。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
毎回学んだ内容をまとめ、配布された資料・プリントを復習しておくこと [40分]			<ul style="list-style-type: none"> ・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。 				
受講生に 望むこと	授業を通して、大学生活に必要なマスメディア・文学・辞書などに触れる習慣を身に付けよう。		教科書・ テキスト	担当者が配布する資料・プリントを用いる。			
指定図書/ 参考書等	なし/なし		その他・ 特記事項	辞書（電子辞書が望ましい）を持参すること			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	LJ110U 日本語表現法		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實・竹下 正弘 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部の言語教育科目に位置付けられている。受講生は本授業内の演習や課題作成を通して、大学における授業理解の土台となる文章表現力と口頭表現力の基礎を培う。文章表現においては、問題演習を通して語彙を増やし、具体的かつ適切に言葉を用いる技術を学ぶ。口頭表現においては、敬語の理解を通してまとまった内容を人前で話すことについての基本を学ぶ。また、さまざまな場面を想定した会話を練習することによって、正しい敬語を使用することに慣れる。			言葉で伝えるための基本的な姿勢を習得する。(聞き方、話し方、読み方、書き方) 敬語の基本を理解し、敬語を適切に用いた表現ができる。 問題演習などを通して、大学生・社会人レベルの語彙を身につけ、適切な漢字表記ができる。 基本的な文章作成のルールを身につけ、読み手にわかりやすい文章を作成することができる。 総合的な日本語表現力(日本語検定2級を目指す実力)を身につけている。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。随時ディスカッションを行う。					
履修条件	「日本語基礎」履修者は、単位修得後に「日本語表現法」を履修することができる。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の位置づけ、授業の進め方について理解する。グループ内で自己紹介する。この授業で何を学ぶかを知る。					全員
2	話の聞き方について学ぶ、相手に理解してもらうための自己紹介を行う。敬語の種類と使い分けについて理解する。					全員
3	発声・発音の基本、敬語の使い分けを復習する、注意すべき敬語について理解する。					全員
4	朗読について学ぶ。配慮を示す言葉について理解する。					全員
5	品詞・活用の種類について理解する、ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉について理解する。					全員
6	レポートの形を知り、アイデアを練る。					全員
7	構想を練り、情報を調べる。文のねじれと言葉の係り受け、あいまい文について理解する。					全員
8	テーマを絞り込み、目標を規程する。接続語・指示語と文章について理解する。					全員
9	文章を組み立てる。類義語・対義語について理解する。					全員
10	組み立てを再検討する。動詞の自他・視点について理解する。					全員
11	パラグラフを考える。文体、話し言葉、書き言葉について理解する。					全員
12	本文を書きこんでいく。コロケーションについて理解する。					全員
13	引用しながら書く。部首・音訓・熟語について理解する。					全員
14	資料の作り方を学ぶ。仮名遣い・送り仮名について理解する。					全員
15	総合問題に挑戦する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加状況	20	必要な準備をして参加している。毎回の学習事項について予習復習をしている。積極的にディスカッションに参加している。		提出課題	30	授業時に指示する課題について、学習した事項を踏まえて表現し、提出している。日本語検定・領域別問題集について、指示された書式・期日を守り、自己採点を行った上で提出している。
単位認定試験	50	授業で取り組んだ各分野の内容を概ね習得している。得意な分野を伸長し、苦手な分野を克服している。日本語検定3級以上の実力が付いている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回指定された課題・問題に取り組む。[40分] 苦手な分野の克服に向けて努力する。具体的には、苦手とする領域の問題集(指定図書(欄参照))に取り組む。[40分] 前期の授業で学んだ内容をもとに、夏季休業中にレポートを作成して、後期の授業に持参すること。[夏期休業中に10日~14日間程度]			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	毎回、必ず国語辞典を持参すること。(電子辞書可) 主体的に課題やディスカッションに取り組むこと。 各自の学習成果を確認するため、日本語検定を受験すること。		教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6 『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会GK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書/参考書等	日本語検定委員会(東京書籍 2008)発行の以下のテキストより1冊を選んで問題を解く。 日本語検定公式テキスト『日本語中級3・4級』ISBN 978-4487802906 日本語検定領域別問題集『敬語』ISBN 978-4487802760 日本語検定領域別問題集『語彙・言葉の意味』ISBN 978-4487802784 日本語検定領域別問題集『文法』ISBN 978-4487802777 日本語検定領域別問題集『漢字・表記』ISBN 978-4487802971		その他・特記事項	基礎学力テストで一定の基準に達しなかった学生は「日本語基礎」の授業を履修し、単位取得した後で履修すること。 日本語表現法 においてもテキストを継続して使用する。		
実務経験を活かした授業の概要						
幸：小学校教諭としての経験をもとに、スピーチや音読活動等、実際の小学校の国語科の授業で行ったやり方をふまえ、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。						

授業科目名	LJ120U 日本語表現法		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	幸 聖二郎・亀田 孝太郎・清水 實 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、言語教育科目に位置付けられている。受講生は、日本語表現法 で学んだことを基礎として、大学生活から社会生活におけるさらに高度な文章表現力と口頭表現力を培う。文章表現においては、レポート作成を通して形式に則った作成方法を学ぶ。口頭表現においては、相手の話の要点を的確に把握し、論理的で説得力のある話し方について考え、スピーチやディベートなどの体験を通して実践的に学ぶ。			言葉で伝えるための実践的な知識・技能を身につけている。敬語の知識を身につけ、場に応じて相手に配慮した適切な敬語を使うことができる。定型文章表現(主としてレポート作成)に必要な知識やルールを理解して、適切に表現することができる。人前で改まった内容のスピーチを行うことができる。資料に基づいて論理的に物事を説明することができる。グループで協力してディベートを行うことができる。			
教授方法	講義と演習を織り交ぜた形式。					
履修条件	「日本語表現法」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：日本語表現法 で学ぶ文章表現、口頭表現について概要を説明する。					全員
2	文章・表現・形式を点検する。プレゼンテーション・内容の構成について学ぶ。テキスト：重要語句を確認する。					全員
3	発表を準備する。プレゼンテーションについて考える。テキスト：重要語句を確認する。					全員
4	口頭発表をする。話し方の技術について学ぶ。テキスト：重要語句を確認する。					全員
5	口頭発表をする。テキスト：重要語句を確認する。					全員
6	学んだことを振り返る。テキスト：重要語句を確認する。					全員
7	スピーチ原稿、手元資料(メモカード)を作成する。重要語句を確認する。					全員
8	発表資料(レジュメなど)を作成する。重要語句を確認する。					全員
9	スピーチの実践(前半グループ)。					全員
10	スピーチの実践(後半グループ)。					全員
11	ディベートについて理解し、論題についてディスカッションを行う。					全員
12	ディベートの技術(準備を行う)。					全員
13	ディベートの実践(前半グループ)。					全員
14	ディベートの実践(後半グループ)。					全員
15	後期の授業で学んだことを振り返り、グループで話し合う。自己の課題を取り上げ、ミニレポートを作成する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	必要な授業準備をして参加している。与えられた役割・課題を果たして、ディスカッションやディベートに参加している。毎回学習する事項について予習復習をしている。		課題レポート	30	形式・内容の両面において、学習内容が反映されている。計画通りにレポートが作成できている。大学生レベルの語彙力・表現となっている。
口頭表現発表態度	40	学習内容を理解して発表を行っている。ディベートやディスカッションのルールを理解し実践している。相手の意見をしっかりと聞き、積極的に発言している。		レポート発表会	10	周到な準備ができている。定められた時間内にまとまった内容を発表している。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
日本語表現法 で課されたレポートを夏季休業期間を利用して作成し、初回の授業で提出すること。[夏期休業中に10日～14日間]ディベートはグループごとに役割分担をして、資料収集・論点組立の準備をする。[120分]レポート発表は、各自が自分に最適と思われる方法を考え準備する。			・質問は、授業中や授業の前後に受け付ける。 ・毎回授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。 ・提出された課題で返却するものは授業の中で返却し、随時フィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「日本語表現法」で学んだ内容を踏まえた上で授業を行うため、必要に応じて復習をしておくこと。毎回辞書を持参し、分からない単語や表現などはその都度調べるなどして語句の理解に努めること。授業時はもちろん相当量の事前事後学習が求められるため、学習する時間を確保して、集中して取り組むこと。		教科書・テキスト	『ピアで学ぶ大学生の日本語表現 第2版 プロセス重視のレポート作成』大島弥生他 ひつじ書房 2014 ISBN: 978-4-89476-709-6『スキルアップ!日本語力 大学生のための日本語練習帳』名古屋大学日本語研究会OK7 東京書籍 2018(第13刷発行) ISBN: 978-4-487-80364-4		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	日本語表現法 で使用したテキストを継続して用いる。		
実務経験を活かした授業の概要						
幸：小学校教諭としての経験をもとに、レポート発表会の際に、小学校の国語科の授業で行ったやり方を参考に、主体的・対話的で深い学びにつながる様な授業を展開している。						

授業科目名	LE090U 英語基礎		開講学科	人間総合学部	必修・選択	自由	
担当教員名	宮浦 国江						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「基礎力強化科目」に位置付けられている。本授業では英語学習の仕方や中学校程度の基礎知識（文法的知識や語彙・発音）の定着することを目標に、「予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習」サイクルで授業を行う。具体的には、毎回テキストに従って、基本的文法事項の理解確認と同時に、練習問題やペアワークを通じて大学生の日常生活に必要な語彙を使って発信できる力を養う。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・大学での英語学習に必要な基本的語彙・文型を用いて、シンプルな文を自分で組み立てられる。 ・シンプルな文でスピーキング・ライティングができる。 ・自律的に英語を学ぶ姿勢が身についている。 				
教授方法	演習（予習 授業での理解確認 テスト 復習・予習）の形式で行う。						
履修条件	入学時基礎学力テスト結果に基づき総合的に判断した結果、本授業履修が必要と判断された者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション、クラスルール、ノートの作り方、テキストの使い方について学ぶ。英語での自己紹介をする。						
2	Lesson 1: This is my everyday life. 一般動詞(1)現在形の肯定文、否定文、疑問文を学ぶ						
3	前回の授業で学んだ文型を用いて、日常生活の表現を実際に聞き、読み、話し、書く。						
4	Lesson 2: Do you keep a diary? 一般動詞(2) 一般動詞のWh-疑問文と答え方。人称代名詞の使い方を学ぶ。日常生活について、質問の仕方、答え方を実際に使えるようにする。						
5	Lesson 3: These are my family photos. be動詞(1) be動詞現在形を使い、家族についての紹介の仕方を学ぶ。						
6	Lesson 4: Where are you from? be動詞(2) be動詞のwh-疑問文を使って、相手の状態や持ち物についての質問の仕方と答え方を学ぶ。予習						
7	Lesson 5: We love our town, Sakura-Yokocho. 場所の表現 基本的な前置詞を用いて、街の紹介文を理解し、発信できるようにする。						
8	Lesson 6: I'm so busy this month! 時の表現 時点、期間、回数など様々な時の表現を用いて過去の行為や予定についての表現を学ぶ。						
9	Lesson 7: Are you enjoying the Autumn Festival? 進行形 進行形を用いて目の前の出来事の記述や過去のある時点での行為の説明の仕方を学ぶ。						
10	Lesson 8: How was the job interview? 助動詞 面接試験の場面を題材に義務・可能・許可などの表現の仕方を学ぶ。						
11	Lesson 9: What does he look like? Wh-疑問文 wh疑問文を用いて相手から情報を得たり、答えたりする表現を学ぶ。						
12	Lesson 10: Can you come to our Christmas Concert? 基本動詞 get, have, come, go等の基本動詞の用法を学び、発信に使う						
13	Lesson 11: Santa Claus is coming. 基本動詞の前置詞 put, take等基本動詞の句動詞としての用法を学び、発信に使う。						
14	Lesson 12: Let's take a trip. 英語で自分を表現するために 英語で発信する際の文の組み立て方を確認する。						
15	文法事項を復習し、まとめとして自分の日常生活またはこれからの予定など、自分についての短いスピーチ原稿を書き、発信する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	授業に取り組む姿勢(発音、ペアワーク、質問等)	ノートづくり・課題への取り組み	50	予習：指定された範囲の課題(ノートづくり)ができる。 質問して分かったことがノートにメモされている。 復習：本時の学習事項を定着すべく練習している。		
スピーチ原稿と発信	10	学んだことをいかに自分についてのスピーチ原稿を作り、発信する。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<p>授業は予習型で進められる。単語や文の意味(発音・ストレスは音声データを用いて練習)を下調べし、練習問題の答を書いてくる。[40分]不明な点等があれば授業で質問すること。 授業後は内容を確認しながら音読するなど復習をして定着を図ること。[20分] 目安として毎日30分程度の学習を行うよう課題が出される。計画的に取り組むこと。</p>			随時行う				
受講生に望むこと	1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に辞書を持参すること。		教科書・テキスト	『Communication in Simple English発信型シンプル・イングリッシュ』三修社 2007年 ISBN:978-4-384-33378-7 C1082			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	入学時基礎学力テストで「英語基礎」に該当した者は、「英語基礎」の単位を修得しなければ、「英語F」を履修できない。本科目を1年次に2回履修し、単位修得できなかった場合には進級基準により3年次への進級できないことが確定する。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	LE155U 英語A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態 演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・言語学習経験等アカデミックな話題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・Making money等ビジネスの話題について英語を適切に用いて、理解、発信ができる。 ・準動詞や副詞などを適切に運用できる。 ・CEFRのC1レベルに近い言語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1 Achieving goals; Lesson 1 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 動詞/形容詞+前置詞を用いて言語学習経験について討論することができるようになる。(復習) 受動態を用いて自分の知っている事/知らないことについて述べるができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了を用いて、自分がなし得た事柄について話すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Places and communities; Lessons 1-2 動名詞/不定詞を用いて、訪問すべき場所についての助言ができるようになる。 比較級を用いて、公式/非公式の言語の特徴が使いこなせるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 形容詞を用いて、土地についての描写ができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Stories; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて逸話を話すことができるようになる。 複合形容詞を用いて人物を詳細に描写することができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 動名詞句、過去分詞、現在分詞を用いて、冗談を言えるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Moving forward; Lessons 1-2 未来形を用いて物事が起こる確率について描写することができるようになる。 未来形を用いて計画や調整について話すことができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 主語と動詞の倒置表現を用いて、広範囲にわたる議論を理解することができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Making money; Lessons 1-2 強調表現を用いて、仕事関係について話すことができるようになる。 条件節を用いて、金融に関する決定や後悔について討論することができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 文を修飾する副詞を用い優先順位を表すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認と単元テスト					
14	外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE160U 英語A		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・The Natural world等現代社会の広範な話題について英語を柔軟かつ効果的に用いて、理解、発信ができる。 ・談話標識などを効果的に運用できる。 ・CEFRのC1レベルの言語運用力を身につける。 			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。					
履修条件	「英語A」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Understanding power; Lesson 1 冠詞を用いて貴重な建物や建造物について描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 whatever, whoever, whenever節を用いて流暢に話されるスピーチのメモを取ることができるようになる。時間と対比を論理的に繋げて自伝的文章が書けるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 The natural world; Lesson 1 形容詞節を用いて手順を説明することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 不定詞/動名詞が続く動詞を用いて広範囲にわたる散文に基づき推測ができるようになる。 as..as表現や量を表す表現を用いて、広告が書けるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ。					
6	Units 6-7の理解確認とテスト					
7	Unit 8 Problems and issues; Lessons 1-2 伝達動詞を用いて違う質問をされた際に引き伸ばし戦術をとることができるようになる。 継続表現を用いてライフスタイルについて討論することができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 話題化(文の先頭に移動)する方法を用いて、日々の問題を説明することができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 9 People with vision; Lessons 1-2 動詞句など前置詞との連語を用いて、物事の確からしさの程度を表すことができるようになる。 談話標識を用いて自分の好みを説明するために口頭表現を用いることができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 仮定法過去を用いて仮定的な質問に答えることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 10 Expressing feelings; Lessons 1-2 助動詞を用いて感情がいかに自分に影響を与えるか討論することができるようになる。 推量の助動詞を用いて非現実的な状況について考え、述べることができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 wouldを用いて子どもの頃の思い出を描写することができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>			随時行う			
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。		教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627313 『English in Common with Workbook 6』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132678964		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE145U 英語B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・Making a living等留学場面で求められる話題について適切な英語を用いて、理解、発信ができる。 ・Taking risks等仕事で求められる話題について適切な英語を用いて、理解、発信ができる。 ・付加疑問文や助動詞などを有効に使用できる。 ・CEFRのB2に近いレベルの英語運用力を身につける。 			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1 Making connections; Lesson 1付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。					
2	Unit 1 Lessons 1-2 付加疑問文を用いて、情報を確認することができるようになる。(復習) any/every/no/someを伴う代名詞を用いて、賛成・反対を表明することができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 could/might/must/mayなどの助動詞を用いて、推測を表すことができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 Making a living; Lessons 1-2 will/be going toを用いて、将来の計画や予測を表現することができるようになる。 未来進行形や未来完了形を用いて、調査結果を報告することができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 just in caseを用いて、就職採用試験申込書の添え状が書けるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Lessons from history; Lessons 1-2 動詞の過去形を用いて短編物語を書くことができるようになる。 a/an/the/(なし)を用いて、材料、所有物、発明品について話すことができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 形容詞、副詞、位置を表す表現を用いて、ある場所についてプレゼンテーションをすることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Taking risks; Lessons 1-2 if節を用いて日記やブログの書き込みができるようになる。 義務を表す助動詞を用いてスポーツなどのやり方を説明することができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 強調表現を用いて、写真を比較し、違いを述べたり意見を述べたりすることができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Looking back; Lessons 1-2 used to/would/get used toを用いて、過去の外見を描写することができるようになる。 能力の程度を表す表現を用いて、思い出について語るすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 although/however/neverthelessを用いて本について話すことができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認と単元テスト					
14	外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。 外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE150U 英語B		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	キャサリン シュリーヴズ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・Aiming for success等留学や仕事で求められる抽象な話題や専門的な議論に用いられる語彙・表現を習得し、理解、発信ができる。 ・間接話法や条件節を適切に使用できる。 ・CEFRのB2レベルの英語運用力を身につける。 			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語B」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、Unit 6 Exploring the world; Lesson 1 現在完了形と現在完了進行形の用法の違いを理解し、それを用いてくれた電子メールを書くことができるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 直接・間接話法の疑問文を用いて見知らぬ土地について質問をしたり答えたりすることができるようになる。比較級を用いて土地や人々について比較し、表現できるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Indulging yourself; Lesson 1 加算・不加算名詞を用いて、食事の料理や用意の仕方を描写することができるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 受動態を用いて正式なクレーム書面を作成することができるようになる。使役動詞のhave/get something doneを用いて、サービスについて話すことができるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 まとめと理解確認、Units 6-7 単元テスト					
7	Unit 8 Aiming for success; Lessons 1-2 It's time/I'd rather/I'd betterの表現を用いて様々なタイプの人間について描写することができるようになる。間接話法を用いて人が言ったことを伝えたり描写したりすることができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 hard/hardlyを用いて調査から分かったことについて報告書を書くことができるようになる。本課のまとめ。					
9	Unit 9 Crime solvers; Lessons 1-2 原因を表す従属節を用いて、面白い物語を作ることができるようになる。must/might/can't haveなどの助動詞を用いて過去の出来事について推測したことを表現できるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 関係代名詞を用いて記事が書けるようになる。本課のまとめ。					
11	Unit 10 Mind matters; Lessons 1-2 再帰代名詞を用いて、自分の信条や意見について議論できるようになる。動名詞や不定詞を用いて、人の見解に対する賛成・反対意見を書くことができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 様々な条件節を用いて、後悔や決意を話すことができるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト(特記事項参照)による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト	単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[50分]</p>			随時行う			
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。		教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627290 『English in Common with Workbook 5』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132629027		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE135U 英語C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カーラ カリー					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・Relationships等学校等身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・相手によって表現や語彙を適切に使い分けながらの言語使用ができる。 ・単純過去と過去進行形の使い分けや可算名詞・不可算名詞の使い分け等が適切にできる。 ・CEFRのB1+~B2に近いレベルの英語運用力を身につける。 			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit1 Relationships; Lesson 1 助動詞を用いて一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。					
2	Unit1 Lessons 1-2 助動詞を用いて一般化した物事を理解したり述べたりすることができるようになる。(復習) 単純現在と現在進行形を用いて、くたけた電子メールを書くことができるようになる。					
3	Unit 1 Lessons 3-4 現在完了と単純現在を用いて、読んだり聞いたりしたことを自分の言葉で言い換えることができるようになる。 本課のまとめ。					
4	Unit 2 In the media; Lessons 1-2 受動態を用いて賛成・反対意見を述べるができるようになる。 関係代名詞節を用いて問題解決場面での質問や助言ができるようになる。					
5	Unit 2 Lessons 3-4 単純過去と過去進行形を用いて、自分の人生で大切な出来事について描写することができるようになる。 本課のまとめ。					
6	Units 1-2の理解確認と単元テスト					
7	Unit 3 Home sweet home; Lessons 1-2 現在進行形、be going to、willを用いて、未来の事を話したり、Home Exchangeで借りた家について、クレームの手紙を書いたりすることができるようになる。 比較級や最上級を用いて、都市の比較をすることができるようになる。					
8	Unit 3 Lessons 3-4 未来形を用いて、形式ばった電話をかけることができるようになる。 本課のまとめ。					
9	Unit 4 Wealth; Lessons 1-2 付加疑問文を用いておしゃべりすることができるようになる。 義務や禁止を表す助動詞を用いて、招待したり招待への返答ができるようになる。					
10	Unit 4 Lessons 3-4 if/when/unless/as soon asから始まる節を含む文を用いて、広告を書くことができるようになる。 本課のまとめ。					
11	Unit 5 Spare time; Lessons 1-2 現在完了形と現在完了進行形を用いて、自分の考えを提案したり他人の考えに返答したりすることができるようになる。 動名詞/不定詞を目的語にする動詞を用いて映画や本の描写をすることができるようになる。					
12	Unit 5 Lesson 3 加算名詞・不加算名詞を用いて、レストランを推薦することができるようになる。					
13	Unit 5 Lesson 4 本課のまとめ、Units 3-5の理解確認、単元テスト					
14	外部テスト(特記事項参照)によるレベル到達度確認					
15	テスト返却・前期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分] 不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分] 毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。[30分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目に間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE140U 英語C		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	カール カリー					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能（聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く）の伸長を目指す。</p>			<p>・ Lifelong learning等学校等身近な場面に加えて一般化した話題にも使われる語彙や表現になじみ、理解、発信ができる。 ・ 使役表現や句動詞等が適切にできる。 ・ CEFRのB1+～B2レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習（ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト）。					
履修条件	「英語C」を履修した者（単位未修得可）。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション Unit 6 Travel tales; Lesson 1 過去完了形を用いて思い出深い写真を描写できるようになる。					
2	Unit 6 Lessons 2-3 likeの様々な用法を用いて、行ったことのない場所に行くために、読んだり話したりすることができるようになる。冠詞を用いて、自分の興味や驚いたことについて、読んだり話したりすることができるようになる。					
3	Unit 6 Lesson 4 本課のまとめ Unit 7 Lifelong learning; Lesson 1 疑問詞が主語/目的語の疑問文を用いて、学習経験について読んだり話したりできるようになる。					
4	Unit 7 Lessons 2-3 used to/wouldを用いて、昔習った先生について描写することができるようになる。能力を表す助動詞を用いて過去から現在に至るまでの能力について読んだり話したりできるようになる。					
5	Unit 7 Lesson 4 本課のまとめ					
6	Units 6-7 理解確認と単元テスト					
7	Unit 8 Making changes; Lessons 1-2 仮定法過去を用いて原因と結果を述べることができるようになる。副詞を用いて世界的課題について話すことができるようになる。					
8	Unit 8 Lessons 3-4 仮定法過去完了を用いて重大な決断による効果について描写することができるようになる。 本課のまとめ					
9	Unit 9 On the job; Lessons 1-2 make/let/allowを用いて自分の意見をグループメンバーに伝えることができるようになる。間接話法を用いて情報を伝達することができるようになる。					
10	Unit 9 Lessons 3-4 過去の義務/許可を表す表現を用いて、仕事に必要な日課をこなすために何を学ばねばならなかったのか表現することができるようになる。 本課のまとめ					
11	Unit 10 Memories of you; Lessons 1-2 I wish/if onlyの表現を用いて願いごとを言うことができるようになる。 過去時制を用いて過去の出来事や人物について討論することができるようになる。					
12	Unit 10 Lesson 3 句動詞を用いて別れを告げる表現を学び適切に使えるようになる。					
13	Unit 10 Lesson 4 本課のまとめ、Units 8-10の復習					
14	Unit 10単元テスト、外部テスト（特記事項参照）による到達度確認					
15	テスト返却・後期の学習のまとめ。リフレクション提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語（発音・意味）や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。〔40分〕不明な点は授業中に質問すること。</p> <p>授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。〔20分〕毎日行う課題として、テキストと連動したWorkbookを授業進行と合わせて計画的に進めること。〔30分〕</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出（予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること）等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	『English in Common with Active Book 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132627283 『English in Common with Workbook 4』Maria Victoria Saumell & Sarah Louisa Birchley著 ピアソン・ジャパン株式会社 2012年 ISBN: 9780132628945	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A～F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14～16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE125U 英語D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・エリック モーニン (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣等の話題に用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてスピーキング、ライティングができる。 ・CEFRのA2+~B1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等) Unit 1 世界遺産とは何かを4技能を用いた様々な活動を通じて理解する					
2	Unit 2 (1) 古代ローマ遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
3	Unit 2 (2) 古代ローマ遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表する					
4	Unit 3 (1) 姫路城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
5	Unit 3 (2) 姫路城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
6	Unit 4 (1) グランドキャニオンをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
7	Unit 4 (2) グランドキャニオンについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
8	これまでに学んだテーマから1つを選びショートスピーチをする、 Unit 5 (1) 万里の長城をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
9	Unit 5 (2) 万里の長城について前回学んだことを基にまとめ発表する					
10	Unit 6 (1) マチュピチュをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
11	Unit 6 (2) マチュピチュについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
12	Unit 7 (1) カップドキアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
13	Unit 7 (2) カップドキアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマから1つを選びプレゼンテーションを行う、リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。 [20分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE130U 英語D		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	高島 彬・エリック モーニン (代表教員 高島 彬)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・世界遺産をテーマに、身近な話題・海外の行儀や習慣あるいは新聞記事等で用いられる語彙や表現を理解し、発信に用いることができる。 ・理解した内容についてプレゼンテーション、ライティングができる。 ・CEFRのA2+~B1レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語D」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 自由の女神をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
2	Unit 8 (2) 自由の女神について前回学んだことを基にまとめ発表する					
3	Unit 9 (1) 古代エジプト遺跡をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する。					
4	Unit 9 (2) 古代エジプト遺跡について前回学んだことを基にまとめ発表す					
5	Unit 10 (1) 知床をテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
6	Unit 10 (2) 知床について前回学んだことを基にまとめ発表する Unit 8 ~ Unit 10の振り返り					
7	Unit 11 (1) アンコールワットをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
8	Unit 11 (2) アンコールワットについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
9	Unit 12 (1) ウルルをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
10	Unit 12 (2) ウルルについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
11	Unit 13 (1) サグラダファミリアをテーマに対話、リスニング、リーディング等を行い理解する					
12	Unit 13 (2) サグラダファミリアについて前回学んだことを基にまとめ発表する					
13	Unit 11 ~ Unit 13の振り返り Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてリサーチを行いプレゼンテーションの準備をする					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	Unit 14 各自が選んだ世界遺産についてプレゼンテーションを行う 振り返り、リフレクション最終提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。 [20分]</p>				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	笹島茂編『CLIL World Heritage』2018年 三修社 ISBN: 9784384334784	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE115U 英語E		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・中野 聡・マシュー ボッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基づいた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・異文化理解、外国語学習など大学生に身近な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、発信に用いることができる。 ・CEFRのA2に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等)					
2	Unit 1 (1)異文化理解をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 1 (2) 異文化理解について前回のリーディングの要点を確認し、テキストの内容について自分の意見をまとめ、発表する					
4	Unit 2 (1) 和食をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 2 (2) 和食について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 3 (1) 外国語学習をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
6	Unit 3 (2) 外国語学習について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 4 (1) スポーツをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					各担当教員
7	Unit 4 (2) スポーツについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する					
8	Unit 1~Unit 4の復習、振り返り Unit 5 (1) ファッションをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
9	Unit 5 (2) ファッションについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 6 (1) 生き物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
10	Unit 6 (2) 生き物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 7 (1) 芸術について英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
11	Unit 7 (2) 芸術について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 8 (1) 核廃棄物をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
12	Unit 8 (2) 核廃棄物について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 5 ~ Unit 8の復習、振り返り					
13	Unit 1~Unit 8で学んだことから各自 1つのテーマを選び、プレゼンテーションの準備をする					各担当教員
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					各担当教員
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
中野: 小中学校での指導経験を生かしてオーラルイントロダクションや様々なペアワーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。						

授業科目名	LE120U 英語E		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	宮浦 国江・中野 聡・マシュー ボッシュ・白井 雅代・本間 千重子 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・児童就労や長寿などの社会的な話題について、リスニング、リーディングにより正しく内容理解ができる。 ・学んだ内容について、要点を確認した後、スピーキング、ライティングに適切に用いることができる。 ・CEFRのA2レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	「英語E」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、前期の振り返り、short speeches on summer vacation等					
2	Unit 9 (1) ニンジャをテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
3	Unit 9 (2) ニンジャについて前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 10 (1) 児童就労をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
4	Unit 10 (2) 児童就労について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 11 (1) 長寿をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
5	Unit 11 (2) 長寿について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 9 ~ Unit 11の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
6	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 12 (1) 騒音公害をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
7	Unit 12 (2) 騒音公害について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 13 (1) 食物廃棄をテーマに英会話・リーディング活動を中心にポイントを把握する					
8	Unit 13 (2) 食物廃棄について前回のリーディングの要点を確認した後、意見を発表する Unit 12 ~ Unit 13の復習、振り返り、その中からテーマを各自1つ選びショートスピーチの準備をする					
9	各自が選んだテーマについてのショートスピーチを行う Unit 14 (1) ダンスクラブと法規制をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
10	Unit 14 (2) ダンスクラブと法規制についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認の後、意見発表の準備をする					
11	Unit 14 (3) ダンスクラブと法規制について意見を発表する Unit 15 (1) ドローン为例に科学技術の進歩をテーマに英会話・リスニング活動を中心にポイントを把握する					
12	Unit 15 (2) ドローン为例に科学技術の進歩についてリーディング活動を中心に理解を深め、部分作文で確認し、意見発表の準備をする					
13	Unit 15 (3) ドローン为例に科学技術の進歩について意見を発表する Unit 12 ~ Unit 15の復習、振り返り、その中からテーマを各自一つ選びプレゼンテーションの準備をする					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。 教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。 学習内容確認の小テスト	単元テスト ・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。	
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。 指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。	外部テスト	20	目標レベルに到達している。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。 [20分]</p>			随時行う			
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。		教科書・テキスト	VELC研究会教材開発グループ編著/熊沢孝昭・静哲人・望月正道著『Ambitions Elementary』2018年 金星堂 ISBN:9784764740549		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。		
実務経験を活かした授業の概要						
中野: 小中学校での指導経験を生かしてオーラルイントロダクションや様々なペアワーク、グループワークを取り入れて意見が発表できるように指導している。						

授業科目名	LE105U 英語F		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子 (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基いた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・自己紹介、住む町など日常生活で使用する身近な表現や簡単な語彙、基礎的表現を用いて、理解、発信できる。 ・基本文型、現在形、過去形等、文法の基礎を理解し、発信に用いることができる。 ・CEFRのA1に近いレベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト)。					
履修条件	基礎学力テストおよび入学時提出の検定級(証明書コピー)によって本レベルの受講を指定された者。または「英語基礎」の単位を修得済の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	全体オリエンテーション(授業のねらい・教員紹介・履修上の注意等) その後、各クラスでのイントロダクション(クラスルール、学生自己紹介等)					
2	Unit 1 (1) 動詞の現在形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてテキストの登場人物について基本情報を理解する					
3	Unit 1 (2) 自己紹介文の構成を理解し、自分の自己紹介文を作り発表する					
4	Unit 2(1) 代名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の住む町について説明する					
5	Unit 2 (2) 自分の住む町について説明する文を理解し、自分の住む町についてライティングと発表を行う					
6	Unit 3 (1) 時を表す前置詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて休日の過ごし方を述べる					
7	Unit 3 (2) 休日の過ごし方を述べる英文を理解し、自分の休日の過ごし方についてライティングと発表を行う Unit 1 ~ Unit 3の振り返り					
8	Unit 4 (1) 英語の基本文型を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の持ち物について説明する表現を学ぶ					
9	Unit 4 (2) 自分の持ち物について説明する英文を理解し、自分の持ち物についてライティングと発表を行う					
10	Unit 5 (1) 動詞の過去形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてある日の行動についての表現を学び、自分のある日の習慣的行動を作文する					
11	Unit 5 (2) 自分のある日の習慣的行動について発表を行う Unit 6 (1) 進行形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて過去と現在における自分の変化を述べる表現を学び、作文する					
12	Unit 6 (2) 過去と現在における自分の変化についての発表を行う Unit 7 (1) 未来形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて自分の未来の目標や夢について述べる表現を学び、作文する					
13	Unit 7 (2) 自分の未来の目標や夢についての発表を行う Unit 4 ~ Unit 7の振り返り					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマのうち各自が選んだテーマについてショートスピーチを行う、振り返り リフレクション提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。リフレクションへの記入: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]				随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出される期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE110U 英語F		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択必修
担当教員名	木村 ゆかり・本間 千重子 (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「全学共通科目」のうち人間総合学部の「言語教育科目」に位置付けられている。国際化が進む中、英語力を用いて物事をやり遂げられる力がますます求められている。本授業では、文脈の中でいかに英語を用いるかという視点で、実際場面に基ついた文法の復習や訳・運用方法を学び様々な活動を行うことにより5技能(聞く・読む・口頭でやり取りする・発表等話す・書く)の伸長を目指す。</p>			<p>・今後の予定、大学についての説明など日常生活で使用する身近な表現や語彙を用いて、理解、発信できる。 ・現在完了形、受動態等を理解し、適切に用いることができる。 ・CEFRのA1レベルの英語運用力を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト等)。					
履修条件	「英語F」を履修した者(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション Unit 8 (1) 助動詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて今後の予定を述べる表現を学ぶ					
2	Unit 8 (2) 今後の予定について述べる英文を理解し、自分の今後の予定について作文する発表を行う					
3	Unit 9 (1) 不定詞や動名詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて友人の好きなこと/嫌いなことを述べる					
4	Unit 9 (2) 他人の好きなこと/嫌いなことを述べる英文を理解し、自分の親しい友人の好きなこと/嫌いなことについてライティングと発表を行う					
5	Unit 10 (1) 現在完了形の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてこれまでの経験について述べる表現を学ぶ					
6	Unit 10 (2) これまでの状況や経験を説明する英文を理解し、自分の過去3ヶ月に経験したことについてライティングと発表を行う					
7	Unit 11 (1) 接続詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じていろいろな場面での自分の感情について述べる					
8	Unit 11 (2) 自分がどのような時にどのような感情をもつかについての発表を行う Unit 8~Unit 11の振り返り					
9	Unit 12 (1) 比較表現の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてスポーツや人物を比較する表現を学び、自分の2人の友人についての作文をする					
10	Unit 12 (2) 自分の2人の友人についての発表を行う Unit 13(1) 受動態の用法を確認しつつ、様々な活動を通じてお気に入りの映画等について説明する表現を学び、作文をする					
11	Unit 13 (2) 自分のお気に入りの映画について発表を行う Unit 14 (1) 分詞の用法を確認しつつ、様々な活動を通じて絵に描かれている状況を説明する表現を学び、作文をする					
12	Unit 14 (2) 絵に描かれている状況説明の発表を行う Unit 15 (1) 関係詞の用法を確認しつつ、一年間の活動やある場所を説明する表現を学び、自分の大学についての作文をする					
13	Unit 15 (2) 自分の大学についての発表を行う Unit 12 ~ Unit 15の振り返り					
14	外部テストによる到達度確認(特記事項参照)					
15	これまでに学んだテーマから各自が選んだテーマについてプレゼンテーションを行う リフレクション最終提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	(小テスト・発表・タスク等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加している。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいる。学習内容確認の小テスト		単元テスト・期末テスト	40	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等が揃っている。
提出物(宿題、リフレクション等)	10	課題を正しく理解し課題に沿った内容になっている。指示通りの形式になっている。 リフレクション: 毎回授業終了時に学習内容や自己学習への省察等が適切に記入されている。		外部テスト	20	目標レベルに到達している。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題の解答を書いて、授業に臨むこと。[40分]不明点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること。[20分]			随時行う			
受講生に望むこと	1回目のオリエンテーションで配布・説明されるクラスルールを守ること。守らない場合、単位認定に影響することがある。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。		教科書・テキスト	Robert Hickling・白倉美里著『English First Basic』2014年 金星堂 ISBN:9784764739703		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	当該レベルの英語の単位が未履修の場合、原則として同一レベルの英語の授業を履修し、翌年英語を再履修する。「英語A~F」のうち、当該レベルのI・IIの2単位を2年次後期までに修得しない場合、進級基準により3年次に進級することができない。外部テストは教室使用可能状況により、14~16回目の間に実施される可能性がある。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE165U アクティブ・イングリッシュA		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。本授業では、まず英語に浸ることで自分のこれまでの学びが現実のものであることを認識し、その中から伝えたいことを探し、まとめ、最終的に伝えたいことを効果的に述べることができるプレゼンテーションスキルを身に付ける。事前授業では英語でのプレゼンテーションに必要な知識・技能を学び、British Hills(福島県)では英語漬けの生活を送る中で体験的学びをしつつ、プレゼンテーションの仕上げ・発表を行う。研修中は毎日英文日誌を書く。事後学習で、学内での成果発表会でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>自分の言いたいことを効果的に述べることができるようになる。英語によるプレゼンテーションスキルを身に付ける。英語がコミュニケーションのツールである体験を積み重要性に気付く。英語運用能力を現在のレベルよりも向上させる。異文化・異言語間のコミュニケーションとはどのようなものか知る。異文化・異言語の壁を越えるためのスキルを身に付ける。異文化コミュニケーションの楽しさを体験的に学び楽しさを知る。</p>			
教授方法	講義と演習：ペアand/orグループワーク、発表、プロジェクト。					
履修条件	英語だけで行われる授業を受ける語学力・意欲・忍耐力があり、また3泊4日の宿泊研修(福島県)に参加できる者。大学および施設でのルールが守れる者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1):クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					
2	事前学習(2):British Hillsでの研修に関連するテーマを選びリサーチをする。英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。					
3	事前学習(3):各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。研修に必要な英語表現を学ぶ。					
4	British Hills(以下BH)(1)Check-in, Orientation, Guide & BH Tour:英語でチェックインし、BHスタッフよりルール説明を受け、その後BHツアーに参加する。					
5	BH(2)Interview & Orienteering: BHスタッフに英語でインタビューをしつつBHについて学ぶ。					
6	BH(3)Dance: 英国に伝わる伝統的な、様々なスタイルのダンスを覚える。(受講者が8名に満たない場合には別のテーマになる)					
7	BH(4)Group presentation 1: 効果的なプレゼンテーションとは何かを学ぶとともに、事前学習で準備した内容をグループワークでさらに深め、内容を確定する。					
8	BH(5) British Wedding: イギリスで行われている、伝統的な結婚式の流れや習慣について学ぶ。後半、花嫁・花婿・参列者となり、実際にチャペルで模擬結婚式を行う。					
9	BH(6) World of Food:世界の様々な食についての知識を深め、食に関する表現・フレーズなどについて学ぶ。					
10	BH(7) Travel in UK: 英国を中心に主要都市、観光スポット、食事などを通して、それぞれの地域の知識を深める。					
11	BH(8)Group presentation 2: グループ発表内容についてのスライドを作成しつつ、効果的なプレゼンテーションについてのスキルを養う。					
12	BH(9)Culture and Manners: 挨拶の仕方など、日本と海外の文化・慣習の違いを学ぶことを通して異文化についての知識を広げる。					
13	BH(10)Group presentation 3: 最終発表に向けて、声の大きさ、姿勢、ジェスチャーにも気を配りつつ、リハーサルを行う。					
14	BH(11)Group presentation 4: 最終プレゼンテーション 自己評価、相互評価のほか、BHスタッフ・教員が評価を行う。					
15	事後学習:学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、BH(10),BH(11)に基づきプレゼンテーションを行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、自分の選んだテーマについてのスライドを仕上げ、聞き手に分かりやすく発表する。英語運用力測定。		BH研修参加態度	50	British Hillsで規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。多くの人と積極的にコミュニケーションをとる。
英文日誌	10	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。指示された文字数等分量を書いている。		事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。事後レポートを期日までに英語・日本語で作成し、提出する。英語運用力測定。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
与えられた課題に対し、単語や文型を下調べして臨むこと。[40分] 授業で学んだことや指摘事項を次回に活かすべくメモをとり、改善し、定着・反映させるようにすること。[20分] イギリスの文化や福島県のBritish Hillsとはどのようなものなのか、自分はそのようなテーマで取り組むのが、書籍や新聞、ネットなど様々な方法を駆使して調べておくこと。[60分]				随時行う		
受講生に望むこと	英語を積極的に学び、使う姿勢を持つこと。 会話だけでなく、読んだり書いたりすることでより英会話力が上がる。そのサイクルを大切にすること。 集団生活なので、個人差はあるがストレスを生じることがある。健康管理に気を付けること。			教科書・テキスト	Akira Morita他. 『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年. 成美堂. ISBN: 9784791934249	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修登録変更期間締切時点で登録が5名に満たない場合は未開講となる。団体研修であるため、人数によって参加費用は変動する。1時間目のオリエンテーションに募集要項を用いて説明を行う。必ず参加し、よく内容を理解すること。新白河駅集合・解散。団体生活であるため、学生生活上問題があると判断された学生については参加を許可しないことがある。事後学習の学内発表会の他にも、研修について発表する可能性がある。事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LE170U アクティブ・イングリッシュB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・葦名 理恵 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>2020年8月下旬～9月上旬に14日間の予定でカナダ・オンタリオ州スーセントマリー市アルゴマ大学(Algoma University)での語学研修・地域でのボランティア活動・ホームステイを通して、カナダの文化と社会について学ぶ。海外研修中は毎日、英文日誌をつける。</p> <p>事前学習で、海外渡航・生活面・日本文化紹介・プレゼンテーションについて学び準備を整える。帰国後に事後学習としてレポートを提出するとともに、成果発表会では英語でプレゼンテーションを行う。</p>			<p>海外語学研修の準備を通じ、グローバル社会の一員として必要な基礎知識を体験的に学ぶ。</p> <p>英語で積極的にコミュニケーションをとることができる。</p> <p>異文化理解への開かれた態度を持つとともに、日本文化にも目を向け英語で紹介できるようになる。</p> <p>ホームステイを通じてホスピタリティを体験し、理解する。</p> <p>語学研修・ボランティア活動を通して、カナダの社会・文化の側面を理解するとともに、英語力を向上させる。</p> <p>語学研修の経験を英語によるプレゼンテーションで報告できるようになる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、研修先での諸活動					
履修条件	「異文化コミュニケーション論」を履修する(している)ことが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習(1): クラスオリエンテーション(授業のねらい、クラスルール、旅行参加条件等) 参加希望者は必ず出席すること。					伊藤・葦名
2	事前学習(2): 英語プレゼンテーションの留意点・構成・語彙・文型などを学ぶ。教科書の自己紹介スクリプトを参考にプレゼンの準備をし、プレゼン用ソフトを用いて英語で自己紹介を行う。					伊藤・葦名
3	事前学習(3): 各自がリサーチしたテーマについてのミニ・プレゼンテーション。日本文化についてのトピックを一つ設定し、外国人に説明するためのプレゼンを行い、事後学習(発表会)の練習をする。					伊藤・葦名
4	アルゴマ大学での英語研修・自己紹介を含む、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
5	アルゴマ大学での英語研修・日本文化紹介プレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
6	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
7	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
8	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
9	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
10	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
11	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
12	アルゴマ大学での英語研修、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
13	アルゴマ大学での英語研修・研修成果についてのプレゼンテーション、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
14	アルゴマ大学での英語研修・修了式、ボランティア活動、ホームステイ先でのコミュニケーション活動					葦名
15	事後学習: 学内で開催される「アクティブ・イングリッシュ」成果発表会で、研修先での発表に基づきプレゼンテーションを行う。					伊藤・葦名
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
事前学習	20	ミニ・プレゼンテーションに積極的に取り組み、聞き手に分かりやすく発表する。 事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	カナダ研修参加態度	40	カナダ・アルゴマ大学、ホームステイ先で規律を守り、かつ協力的な態度で研修に取り組んでいる。 多くの人と英語やジェスチャーを用いて交わろうとしている。	
英文日誌と事後レポート	20	授業(活動)の概要について具体的に記載できている。 自分の学び、気づき、弱みや強みを具体的に記載できている。 指示された文字数等分量を書いている。	事後学習	20	学内での成果発表会で、他のメンバーと協力的にプレゼンテーションを行う。 事前事後にCASEC(英語コミュニケーション能力テスト)を受験し英語力の伸長を測定・評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。[30分] どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、英語学習を含め積極的に取り組むこと。[毎日60分] 集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。			随時行う			
受講生に望むこと	渡航前にそれぞれ自分の研修の目的を明確にすること。 どれだけ準備をして臨むかによって成果が大きく異なることを理解し、積極的に取り組むこと。 集団での海外渡航やホームステイを含め異文化での生活など、初めて経験することも多いと思われるので、万全の体調で臨めるよう健康管理に気を付けること。		教科書・テキスト	『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentations』 Akira Morita他著 成美堂 2018年 ISBN: 978-4791934249		
指定図書/参考書等	なし/ 『今日から使える! 留学&ホームステイのための英会話』 細井忠俊、バーウィック 妙子・著、アルク、2016年 (ISBN: 978-4757426658)		その他・特記事項	履修登録者が10名に満たない場合、実施しない。また、学生生活や学業等において問題があると判断した場合、参加を認めないこともある。 事前学習以外にも、必要に応じてオリエンテーションが行われることがあるので、必ず参加すること。 事後学習としての成果発表会以外にも、研修について発表する可能性がある。 事前・事後学習の一環として英語力測定を行う。		
実務経験を活かした授業の概要						
3年間のイタリア滞在経験を活かし、コミュニケーション力の必要性や国際理解の大切さを話し、学生が充実した海外生活(約2週間)を実現するための一助としている。						

授業科目名	LE175U アクティブ・イングリッシュC		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1・2・3・4年	開講時期	後期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目の言語教育科目に位置付けられている。中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得する学生には、アクティブ・イングリッシュA,B,Cから1科目以上選択必修の科目である。</p> <p>本科目は、学内の手続きを経て承認された学生が、本学の提携校で、英語力向上をめざして3週間以上の研修を行う。学生は担当教員の指導の下、計画段階(事前学習)から実施(留学)及び終了段階(事後学習)まで見直しをもって主体的に取り組む。留学先では、英語研修・寮滞在の経験を通じ、また留学先アドバイザーの指導の下で、英語力や専門に関する学びを深めるだけでなく、現地の人々等と交流し、国際的な視野を広げる。帰国後は、事後学習においてレポートを作成、発表し、個々の学びの共有化を図る。</p>			<p>・留学目的を明確にし、指導教員等のアドバイスに留意しつつ留学計画立案・諸準備等に計画的かつ主体的に取り組むことができる。</p> <p>・事前学習では、英語力を高め、異文化理解への態度・スキルを養うとともに、授業の全体計画や留学先での研修内容や記録の仕方を理解することができる。</p> <p>・提携校での研修では、研修の目的や計画に沿った研修を行うとともに地域の人々との交流を英語で積極的に実行することができる。また、日々の研修内容を英文で記録するなど、帰国後の発表活動の準備も自力で行うことができる。</p> <p>・事後学習では、研修中の記録をもとにレポートを英文で作成する。その際、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。作成したレポート内容をもとに海外留学報告を英語で行うことができる。</p>			
教授方法	渡航に関するオリエンテーション、事前・事後学習、提携校での研修(オリエンテーション、提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)					
履修条件	学科指定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前学習 オリエンテーション：渡航・留学先での研修及び事後学習までの本授業の目標と内容を正しく理解するとともに、主体的に取り組む姿勢や意欲を高める。					
2	事前学習 研修先で自己紹介、故郷紹介、日本文化紹介がスムーズにできるようにグループで役割分担して練習をする。また、留学先及び現地での生活や学修に必要な英語表現を学ぶ。					
3	事前学習 留学先機関・地域についての調査を行いまとめる。研修先での学修についての自己のテーマや計画を明確にし、英文にまとめ、研修先に伝えられるようにする。					
4	提携校での研修、オリエンテーション、ホームステイまたは寮滞在					
5	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
6	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
7	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
8	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
9	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
10	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
11	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
12	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
13	提携校での研修(提携校の指定する英語集中クラス、異文化交流イベント)、ホームステイまたは寮滞在					
14	事後学習 研修中の記録に基づき、英文でレポートを作成する。その際に、研修の目標がどの程度達成できたか自己評価して記す。また、海外留学報告会を学生主体で準備をする。(開催案内のチラシ作成と告知)					
15	事後学習 海外留学報告会において、作成したレポートをもとに、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。運営全般や進行なども学生主体で行う。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
事前学習	10	留学への取り組み、計画書等諸書類作成に適切かつ積極的に取り組んでいるかどうかを評価する 英語運用力測定		留学先での英語学習・調査研究に関する評価	60	研修先での成績や活動に基づき総合的に評価する
留学中の報告書	10	定期的に留学に関する報告書が提出されているかどうかを評価する		事後学習	20	帰国後にレポートを提出するとともに日本語と英語で留学の報告を行い、これを評価する 英語運用力測定
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
留学の目的を明確にし、1年以上前から継続して英語の学習をすること。[毎日40分]英語研修が目的の学生は目的とするレベルを明確にし、英語の授業等をできるだけ多く履修し、積極的に参加すること。調査研究が目的の学生はアドバイザーの指導の下、専門的な内容をまとめておき、渡航先での調査目的・方法等を明確にしておくこと。英語で説明できるように準備する。[毎日30分]				適宜行う		
受講生に望むこと	現地では自力で問題解決する必要に迫られるため、日ごろから情報収集・計画の立案・実施・評価等をする力を養うこと。英語力は4技能が必要である、会話だけではなく読み書き・論理的思考力向上にも励むこと			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/『今日から使える!留学&ホームステイのための英会話』細井忠俊、パーウィック妙子・著、アルク、2016年(ISBN: 978-4757426658)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 提携校指定英語集中クラスについてはアドバイザーから別途詳細についてのガイダンスを受ける。 英検2級程度の英語力がある者に限る。準備の過程で、学生生活および授業の面で問題があると判断した場合には、留学を中止することもある。「留学の手引き」をよく読むこと。 事前・事後学習の一環として英語力測定を受ける 留学時期によって報告会が年度内に不可能な場合は別途指示する。 	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LC100U 中国語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では中国語を用いた初歩的なコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。そのために発音を確実に身につけながら、「話す」スキルを向上させていく。同時に「聞く・読む・書く」技能もバランスよく習得する。また、中国との経済交流や人的交流が多い今日、本授業で中国語を学びながら中国に関する新たな知識や理解を得る。</p>			<p>発音の基礎を身につけ、中国語を正確に発音できるようになる。 中国語を用いてコミュニケーションがとれるようになる。 中国語の文法を理解する。 中国語の基本的な知識を身につけ、文章を作ることができるようになる。</p>			
教授方法	講義形式とペアワークやグループワーク、ロールプレイ等の能動的な練習を主におこなう。					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス(授業の進め方と成績評価の方法等について)後、単母音の発音と声調(音の高低)を習得する。					
2	複母音、子音の発音を練習し、子音と母音を組み合わせて発音できるようになる。					
3	鼻音、軽声、声調変化などピンインを読む際のルールを習得する。					
4	発音を総復習してから自分の名前を中国語で言う練習をし、挨拶等の簡単な日常会話ができるようになる。					
5	第1課「あいさつする」(中国語の挨拶を身につけ、さらに相手の国籍を尋ねたり自分の国籍を言えるようになる。)					
6	第2課「名前を尋ねる」(相手の名前や趣味等の情報を聞き出す表現を習得し、さらにそれらの質問に答えられるようになる。)					
7	第3課「食べたいものを尋ねる」(食べたいもの、飲みたいものを言えるようになる。さらに質問相手に質問を返す表現を身につける。)					
8	第4課「近況を尋ねる」(相手の近況を尋ねたり、週末の予定について話せるようになる。)					
9	第1課から第4課の復習をし、本文を参考にして友人の紹介ができるようになる。					
10	第5課「予定を尋ねる」(相手に直近の予定を尋ねたり、何時に何をするかという表現を身につける。)					
11	第6課「場所を尋ねる」(場所の表し方を学び、行きたい場所がどこにあるのかを尋ねられるようになる。)					
12	第7課「注文する」(中国語での数量の言い方や、要求する際の表現を習得する。)					
13	第8課「値段の交渉をする」(品物の値段を尋ねたり、値段を交渉する表現を習得する。)					
14	第5課から第8課の復習後、前期に習得した文法を用いて自己紹介文を完成させる。流暢に発音できるよう練習する。					
15	口頭発表の質疑応答練習をして、自分の書いた内容に関する質問に答えられるようになる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	語学は毎日の積み重ねが大事です。多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりとこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用い		小テスト	30	授業内容を理解できているか。(2つの課が終了することに、学習の到達確認のための小テストをおこなう。)
自己紹介文の作成	10	文法がどれだけ身についているか、文章は正確か。		期末試験(口頭発表)	40	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか、質問に答えられるか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[40分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[60分] 期末試験前は自己紹介文発表に備えて、原稿の発音練習をすること。[30分]</p>				<p>小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自己紹介文は口頭試験前に添削をし、随時返却する。 採点や評価等に対しての疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。</p>		
受講生に望むこと	語学は毎日の積み重ねが大事です。授業に出席し、多くの中国語を聞き、積極的に話すようにしてください。授業後は復習をしっかりとこない、語彙や文法の知識を積み上げていきましょう。単語を調べるときは辞書を用いてください。			教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著 白水社 2019年 ISBN :978-4-560-06935-6	
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LC110U 中国語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	渡邊 彩奈					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では中国語を用いて自らの考えや意見を表現できるようになることを目的とする。授業ではペアやグループでのロールプレイ形式の練習を取り入れ、コミュニケーションをとることに重点を置く。前期に習得した「話す・聞く・読む・書く」スキルをさらにレベルアップさせ、表現の幅を広げる。語学を身につけると同時に、教科書の会話や本文を通して、中国への知識や理解をより一層広める。</p>			<p>中国語を正確に発音できるようになる。 中国語でコミュニケーションを取れるようになる。 中国語の構造に関する知識を身につけ、いくつかの文法が混在した複雑な構造の文を作ることができるようになる。 習得した文法や語彙を用いて、自分の考えを他者に伝えられるようになる。</p>			
教授方法	講義形式とペアワークやグループワーク、ロールプレイ等の能動的な練習を主におこなう。					
履修条件	『中国語』の単位を修得済の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	前期の復習と、第5課から第8課の復習の文章を参考に日記を書いたり、相手を勧誘する言い方を習得する。					
2	第9課「出来事を尋ねる」(完了形の言い方を習得し、さらに「～しに行く、しに来る」という連動文の言い方を身につける。)					
3	第10課「出来事を尋ねる」(動作の様子や状態を表す様態補語を習得し、「～するのが...だ」という表現ができるようになる。)					
4	第11課「希望を尋ねる」(相手の希望を尋ねられるようになり、さらに「どこで～する」の表現を身につける。)					
5	第12課「行き方を尋ねる」(目的地までどうやって行くのかを尋ねたり、選択疑問文を習得する。)					
6	第13課「経験を尋ねる」(「～したことがある」という経験の有無の言い方を習得する。)					
7	第9課から第13課を復習し、本文を参考に自分の夏休みの過ごし方や感想を言えるようになる。					
8	第14課「相手の都合を尋ねる」(相手の都合を尋ねたり、中国語の可能表現を身につける。)					
9	第15課「比較する」(中国語の比較表現を習得する。)					
10	第16課「条件・情報を尋ねる」(自分の希望を実現するための条件や情報を尋ねられるようになる。)					
11	第17課「進行状況を尋ねる」(進行形の言い方や動作の結果を言い方を習得する。)					
12	第18課「別れを告げる」(変化を表す言い方や、「～しなければならない」等の助動詞の用い方を身につける。)					
13	第14課から第18課の復習をし、本文を参考に自分の希望や予定を言ったり、状況の説明ができるようになる。					
14	1年間で習得した文法を総復習する。期末試験の自由テーマ文を完成させ、流暢に発音できるように練習する。					
15	口頭発表の質疑応答練習をして、自分の書いた内容に関する質問に答えられるようになる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	予習復習をおこない、積極的に授業へ取り組む姿勢を評価する。		小テスト	30	授業内容を理解できている。(2つの課が終了することに、学習の到達度確認のための小テストをおこなう。)
自由テーマ文の作成	10	文法が身につけている。文章は正確である。		期末試験(口頭発表)	40	発音は正確か、相手へ伝えようとする意欲が見られるか、質問に答えられる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業前には教科書に目を通し、新出単語と文法事項を確認、それからCDで音声聞きながら実際に声に出して発音練習をすること。[30分] 授業後は新出単語(発音、ピンイン、簡体字)を暗記し、新たに学習した文法項目を復習すること。[30分] 期末試験の自由テーマ文発表に備えて事前にテーマを決め、中国語で文章を作成した後、発表に向けて発音の練習をすること。[50分]</p>				<p>小テストは採点をしたものを次回授業の冒頭に返却する。 自由テーマ文は提出後添削し、随時返却する。 採点や評価等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応する。</p>		
受講生に望むこと	<p>期末試験では自由なテーマで文章を発表してもらいます。そのために事前にテーマを決めて文章を作成し、第14回の授業終了時までに提出してください。発表する原稿は必ず添削されたものを用いてください。</p>			教科書・テキスト	『できる・つたわるコミュニケーション中国語』第7刷 岩井伸子・胡興智著 白水社 2019年 ISBN :978-4-560-06935-6	
指定図書/参考書等	なし/『日中辞典[第3版]』小学館 2015年 『中日辞典[第3版]』小学館 2016年 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書<新訂版>』相原茂・石田知子・戸沼市子著 同学社 2016年			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LF100U フランス語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
フランス語を初めて学ぶ学生を対象にアルファベットの読み方から始め、発音の基礎やフランス語のルール、また文法を一通り解説します。口頭練習を通して日常生活に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく、言葉の背景となるフランスの文化について、様々な角度から知り、体験していきたいと思えます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。			フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要な基本的なフランス語表現を理解し習得する。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することは、その国の文化を深く知り、また世界的な視野が広がることです。フランス語という言語を通してその実感を体験しましょう。			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	フランス語の基礎・発音・挨拶 Eléments de base, prononciation, salutations, tu/vous					
2	自己紹介・国籍・名前 Est-ce que tu es japonais? Moi aussi. Moi non plus.					
3	国籍・職業・形容詞の女性形・男性形 masculin / féminin					
4	規則動詞 -er の活用 verbes réguliers, habiter, travailler					
5	住んでいるところや出身地について話す。疑問文や否定文の作り方。 Tu es de Tokyo?					
6	交通手段について話す。動詞venir, 疑問詞を使った疑問文 Questions ouvertes. Tu viens ici comment?					
7	定冠詞と不定冠詞 article, verbe parler					
8	アルバイトについて話す。 Parler des petits boulots.					
9	願望の表現 C'est +adjectif, expression de la volonté					
10	ペットなどについて話す。 Est-ce que tu as un chien?					
11	動詞avoir . 不定冠詞 article indéfini. Parler de ses animaux domestiques.					
12	科目・先生について話す。数学の先生は好きですか? Est-ce que tu aimes bien le prof de maths?					
13	科目の名称・定冠詞・形容詞の性数の一致 Parler des matières et des profs.					
14	食べ物について話す・部分冠詞 Parler de ce qu'on mange. article partitif					
15	家事について話す。 Qui fait la cuisine chez toi? C'est moi qui fait la cuisine.					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得している。		受講態度	30	講義に積極的に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
授業内容に関して指示されたことに基き予習・復習をきちんと行う。 自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習、復習をして下さい。[120分]			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック 付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。 提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。 予習してくると余裕を持って学び、理解することが容易になります。		教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著（アルマ出版）2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。 プリントや資料等は随時配布します。		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	LF110U フランス語		開講学科	人間総合学部	必修・選択	選択
担当教員名	濱西 和子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>前期にフランス語を学んだ学生を対象に、基礎の上に更に時制やテキストの後半部分の文法や基本文型などを一通り説明します。前期と同じく口頭練習を通して日常会話に必要な基本的なフランス語表現を学んでいきます。また言葉だけでなく言葉の背景となるフランスの文化について様々な角度から知り、体験していきたいと思ひます。フランスの社会に内在する諸問題や芸術、文化、料理などを通してフランス人の生活や思想を学びましょう。</p>			<p>フランス語の基礎を固めると同時に、日常生活に必要なフランス語表現を理解できるようにする。 言葉だけでなく、言葉の背景となるフランス文化を理解する。 一つの言語を習得することはその国の文化を深く知り、また世界的な視野が展がることです。言語を通してその実感を体験しましょう。</p>			
教授方法	文法の説明とグループワークによる会話練習。					
履修条件	『フランス語』の単位を修得済みの者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	家族について話す・所有形容詞 mon / ton について Parler de sa famille.					
2	数字 1-6・9・3人称単数形、複数形 Ton frère a quel âge?					
3	クラブ活動について話す・課外活動はしていますか? 動詞faire Parler des loisirs.					
4	習慣について話す・よく肉を食べますか? 頻度を表す語彙・否定疑問文 Parler de ses habitudes.					
5	週末の過ごし方について話す・近接未来形・動詞aller Parler du week-end.					
6	時間について話す・何時ですか? 曜日・代名動詞 Parler de l'heure. Il est quelle heure?					
7	休暇中の活動について話す・複合過去形について Parler des vacances. Passé composé.					
8	経験について話す・外国へ行ったことがありますか? Il y a~の使い方、Tu es déjà allé à l'étranger?					
9	地理について話す・場所を表わす前置詞・地方について話す Tu connais Lille? Localisation					
10	天気について話す・天気を表す語彙 Parler du temps. Il fait quel temps à Paris?					
11	過去について話す・半過去形 Est-ce que tu faisais du sport au lycée? Imparfait					
12	道を尋ねる・パリの観光名所 Demander son chemin. Découvrir Paris.					
13	レストランで注文する・メニューの見方 Commander au restaurant. Une carte.					
14	カフェで飲み物を注文する Un café, s'il vous plaît.					
15	買い物をする・数量と値段・店員との会話 Faire les courses. Acheter dans un magasin.					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	学習内容をきちんと習得している。		受講態度	30	講義に積極的に参加している。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
講義内容に関して指示されたことに基き予習、復習をきちんと行う。自宅学習を少なくとも講義の前後に一時間ずつ予習・復習をして下さい。[120分]			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック 付属ブックレットの問題を自分で練習して、講義の理解が十分か否かを自己採点して下さい。 質問があれば、授業中または授業の前後に講師室で受け付けます。提出された課題は、翌授業以降に返却とフィードバックをします。			
受講生に望むこと	語学学習は反復学習が大切です。何度もCDを聞き口に出して練習してください。予習してくると余裕を持って学び理解することが容易になります。		教科書・テキスト	『Moi, je... コミュニケーション』 Bruno Vannieuwenhuyse 他著(アルマ出版)2015年 ISBN 978-4-905343-03-5		
指定図書/参考書等	授業中に随時紹介します。プリントや資料等は随時配布します。		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(ゴルフ)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ゴルフ」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ゴルフ」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ゴルフの競技特性を理解する。 ゴルフの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ~ を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ゴルフ競技の説明、用具の説明。ゴルフというスポーツを理解する。					
2	パッティングゲーム：パッティングゲームを通してゴルフのゲーム性に触れる。					
3	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング 正しいグリップ、ポスチャー及びエイミングを理解し、ショートスイングを通して習得する。					
4	ショットの基礎：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、ハーフショットまでの技術を習得する。					
5	ショットの基本：グリップ、ポスチャー、エイミング～ショートスイング～ハーフスイング～フルスイング 前回までの学習を踏まえ、徐々にスイング弧を大きくし、フルショットまでの技術を習得する。					
6	ショットの基本：ボール弾道の法則とフェースコントロール・・・スイング及びフェースの向きによって生じる9種類の弾道を理論として理解し、各自のスイングの修正に結びつけることができるようになる。					
7	ショットの基本：VTRによる視覚的フィードバック。 自分のスイングを映像で見ること、体内感覚と実際の運動のずれを確認し、修正することに結びつける。					
8	ショットの基本：アプローチ 練習グリーンに向かってショットを行うことで、具体的な距離と方向をコントロールする技術を習得する。					
9	ショットの基本：グリーン周りの技術～パッティング グリーン周りの各種ショット技術及びパッティングの基礎技術を習得する。					
10	ショットの基本：ショートアイアンとミドルアイアン ショートアイアンとミドルアイアンを使い分け、クラブによって距離をコントロールすることを理解する。					
11	ショットの基本：ウッドクラブ これまで学習してきた内容を元に、ウッドクラブのスイング技術を習得する。					
12	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのゲーム性に触れる。					
13	ターゲットバードゴルフ ターゲットバードゴルフを利用しゴルフのルール、ラウンド方法、マナーを学習する。 一回目のスコアを元に個人的に目標を立ててラウンドする。					
14	ターゲットバードゴルフ これまでのスコアを元に個人的な目標を立ててラウンドし、ゲームを楽しむ。					
15	ショートゲームテストとまとめ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[準備体操を含め60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し、実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主にグラウンドで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子、ゴルフグローブなどを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	US PGA TOUR Golf Lesson Vol.1 ~ 7 MICO ケンメディア			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(テニス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子・熊谷 史佳 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたりスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「テニス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「テニス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>テニスの競技特性を理解する。 テニスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かしゲームを楽しむ。 ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 ～ を通じ、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、用具の説明。					田邊・熊谷
2	グリップング、ラケットワーク。					田邊・熊谷
3	基本ストローク(フォア) 1：フォアハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
4	基本ストローク(フォア) 2：フォアハンドストロークの打ち方の習熟を目指す。					田邊・熊谷
5	基本ストローク(バック)：バックハンドストロークの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
6	簡易ゲーム(フォア・バック)：簡易ルールでフォアとバックを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
7	基本ストローク(ボレー)：ボレーの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
8	基本ストローク(サーブ)：サーブの打ち方を理解し、習得する。					田邊・熊谷
9	簡易ゲーム(フォア・バック・ボレー・サーブ)：簡易ルールでフォア、バック、ボレー、サーブを用いたゲームを楽しむ。					田邊・熊谷
10	講義：ルール説明と審判法：テニスの正式なルールと審判法を理解し、実際のゲームで活用できるようにする。					田邊・熊谷
11	ゲーム 1：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに審判の方法についてお互いに確認し合う。					田邊・熊谷
12	ゲーム 2：グループ内でダブルスのゲームを楽しむとともに一人で審判ができるようにする。					田邊・熊谷
13	ゲーム 3：クラス内でダブルスのリーグ戦を行う。					田邊・熊谷
14	ゲーム 4：クラス内でダブルスのリーグ戦の続きを行う。					田邊・熊谷
15	ゲーム 5：クラス内でリーグ戦の続きを行う。結果を集計し、その結果を踏まえこれまでの授業での学びを各自で振り返る。					田邊・熊谷
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。[準備体操を含め 60分程度]ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に屋外テニスコートで実技を行いますので、外履きの運動靴を用意して下さい。また、必要に応じて帽子などを用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE100U 生涯スポーツA(ダンス)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・木藤 由麻 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因とされている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。ここでは生涯スポーツとして実戦人口の多い種目の中から「ダンス」を実技種目として選択し、競技を楽しむために必要な知識と技術特性の理解を深め、「ダンス」を通してスポーツを日常化・生活化し、また同時に、スポーツを「する・みる・支える・知る」といった、スポーツに対する多様な関わり方を学ぶことで、豊かで健康的なスポーツライフを継続し、自他の健康課題を解決できる能力と習慣を獲得する。</p>			<p>ダンスの特性を理解する。 ダンスの基本的技術を習得する。 習得した技能を生かし、ダンスを表現・創作することを楽しむ。 ～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。 ～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：種目選択、グルーピング、ダンスを理解する。					木藤
2	リズムの基礎：リズムの考え方、アイソレーションを理解し習得する。					木藤
3	伝統的なダンス(フォークダンス)：フォークダンスを通して踊りの特性に触れる。					木藤
4	基本のステップ 1：ダウン・アップのリズムを理解し、習得する。					木藤
5	基本のステップ 2：サイドステップ・スリーステップターン・ボックスステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
6	基本のステップ 3：クロスステップ・サイドランジ・ランニングマンのリズムを理解し習得する。					木藤
7	簡易創作 1：習得したステップをグループ内で組合せ、発表を楽しむ。					木藤
8	基本のステップ 4：ニュージャックスイング・クラブステップのリズムを理解し、習得する。					木藤
9	簡易創作 2：簡単なルーティーンのアレンジ・フォーメーション作品を創作する。					木藤
10	創作活動 1：グループ内で、これまでに習得した技術を組合せ、ダンス作品を創作する。					木藤
11	創作活動 2：グループ内で作品創作を継続して行う。					木藤
12	創作活動 3：グループ内で作品創作を継続して行い、作品を完成させる。					木藤
13	作品発表 1：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価ならびにVTRによるフィードバックを行い、作品の修正・発展に結びつける。					木藤
14	創作活動 4：フィードバックを通して作品の修正を行い、最終発表に向け作品を完成させる。					木藤
15	作品発表 2：グループ内で創作した作品を発表しあう。 相互評価を行い、その結果を踏まえこれまでの学びを各自で振り返る。					木藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		種目毎に実施するスキルテスト	40	各種目において実施されるスキルテスト。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。[準備運動を含め60分程度] ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。 運動のできる服装で参加して下さい。 主に体育館で実技を行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。 また、必要に応じてタオルなどを用意して下さい。 詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。 (事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE110U 生涯ｽｰﾎﾞB (集中講義:ｽｰﾈﾈｰ)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは冬期休業期間に長野県桐池高原スキー場にて3泊4日の合宿形式にて行う。スキーはウィンタースポーツの代表格ともいえるスポーツである。遊びの要素をふんだんに含み、自然環境と相まって素晴らしい満足感・達成感を与えてくれることから、生涯スポーツとして最も親しまれているものの一つである。本授業では、スキー技術について基礎から応用まで各々のレベルに応じて身に付けることをねらうが、単にスキーの技術を学ぶだけでなく、健康管理、安全管理、リスクマネジメント、社会スキルとの醸成なども合宿を通して学習し、「スキーヤー」としての基本を身につけることを目的とする。さらに、技術レベルに応じた別での実習を行うため、チームワークを重視し仲間を思いやる気持ちも学んでいく。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「スキーセミナー(本質)」の他に「後期開講する授業」及び「ゴルフセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)各セミナーの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>スキーの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。 スキーに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。 スキーの技能改善のための知識批判力と方法論的能力を修得する。 ウインタースポーツを通じた人間関係能力を養う。 ウインタースポーツを通じた環境への感受性や認識力を高める。 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践することの意義を理解する。 合宿を通じて、生涯にわたりスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スキー実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション：ガイダンス、合宿に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握 用具の準備(用具とその使用法の説明、パッキング)					永山、田邊
2	【実習 1日目 午後】開講式/クラス編成確認(技術レベル別に編成)					各班担当者
3	【実習 1日目 午後】クラス別レッスン					各班担当者
4	【実習 1日目 夜】講義：スキー技術の変遷/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
5	【実習 2日目 午前】VTR 撮影/クラス別レッスン					各班担当者
6	【実習 2日目 午前】クラス別レッスン					各班担当者
7	【実習 2日目 午後】クラス別レッスン					各班担当者
8	【実習 2日目 午後】クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
9	【実習 2日目 夜】VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキーのメンテナンス					永山、田邊
10	【実習 3日目 午前】VTR 撮影/クラス再編成/クラス別レッスン					各班担当者
11	【実習 3日目 午前】クラス別レッスン					各班担当者
12	【実習 3日目 午後】クラス別レッスン					各班担当者
13	【実習 3日目 午後】クラス別レッスン / VTR 撮影					各班担当者
14	【実習 3日目 夜】VTR によるフィードバック/クラス別ミーティング/スキー用具のメンテナンス					永山、田邊
15	【実習 3日目 午前】クラス別レッスン / 開講式					各班担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	<ul style="list-style-type: none"> 実技への受講態度を重視する。 実技に対して積極的に参加しているか。 自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。 		実習終了後のレポート評価	20	<ul style="list-style-type: none"> 1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたりスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。実習前に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行います。【最低1日】ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。			
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。3泊4日の合宿になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは初回のガイダンスにて説明いたします。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB (集中講義: ゴルフセミナー)		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本野外活動プログラムは4日間にわたる集中講義にて行う。ゴルフは広く社会に普及しており、年齢や性別に関わらず誰でも出来ることから生涯スポーツの主流になりつつある。これは昨今のプレーヤーの層の変化に加え、ジュニア期から世界的に活躍し、話題性の多い若手選手の活躍が一般に知れ渡ったことにも関与していると考えられる。また、自分の健康や楽しみのためのプライベートプレーもさることながら、職場や地域の人々とのコミュニケーションの場としてゴルフが活用されるケースが多いためではないかと考える。従って、本講義の開設は将来を見据えたものであり、前期授業において習得したゴルフの基礎技術を確認し、最終日のラウンド実習につなげることでゴルフの楽しさをより深く体感することができ、生涯を通してスポーツに親しむ態度の育成に寄与するものとする。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「ゴルフセミナー(本頁)」の他に「後期開講の授業」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p> <p>各プログラムの日程、詳細内容、費用等は別途通知する。</p> <p>各プログラムの予定受講数を大幅に超える希望がある場合には、抽選にて受講を決定する。</p>			<p>ゴルフの特性を理解し、自分で準備し安全に楽しむ能力を修得する。ゴルフに関する知識や技術を自分で深め高める能力を修得する。グリップ、ボスチャー、エイミングなどアドレスの基本技術を修得する。ショートスイングからフルスイングまで段階的にスイングの基本技術を身につける。</p> <p>距離感や方向性などボールコントロールの理論及び方法を理解する。基本的なルールやマナーを理解し、安全なプレー・ラウンドが出来るようになる。</p> <p>ゴルフを通じた人間関係能力を養う。</p>			
教授方法	ゴルフ実技 (大学グラウンド及びゴルフ練習場における練習とラウンド実習)。					
履修条件	前期「生涯スポーツA」の単位を修得済みの者の内「ゴルフ」を選択した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	事前オリエンテーション: ガイダンス、屋外実習に関する諸注意、事前準備について、健康状態の把握/用具の準備。					永山、田邊
2	【実習 1日目 午前】 開講式/レッスン : スタンスの確認(グリップ、ボスチャー、エイミング) ショートスイング ~ スリークォータースイング(9I)					永山、田邊
3	【実習 1日目 午前】 レッスン : スリークォータースイング ~ ハーフスイング(9I)					永山、田邊
4	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I)					永山、田邊
5	【実習 1日目 午後】 レッスン : ハーフスイング ~ フルスイング(9I、7I、5I)					永山、田邊
6	【実習 2日目 午前】 レッスン : 9I、7I、5Iまでを利用して段階的にスイング技術を習得する。また、距離の打ち分けに関する理論及び技術を習得する。/VTR 撮影					永山、田邊
7	【実習 2日目 午前】 レッスン : 「ボール弾道の法則」を理解する。また、その理論により各自のスイング及び弾道をセルフチェックし、修正に結びつけられるようにする。/ VTR撮影					永山、田邊
8	【実習 2日目 午後】 レッスン : ウッドクラブによるスイング(ゴルフ練習場)。					永山、田邊
9	【実習 2日目 午後】 レッスン : パッティング及びグリーン周りのアプローチショット技術を習得する。					永山、田邊
10	【実習 3日目 午前】 レッスン : VTR によるフィードバック/クラブ選択を行いながらの打ち込みを行う。					永山、田邊
11	【実習 3日目 午前】 レッスン : ルール解説、ラウンド方法及びラウンドマナーの講習/グルーピング/打ち込み。					永山、田邊
12	【実習 3日目 午後】 レッスン : グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。					永山、田邊
13	【実習 3日目 午後】 レッスン : グラウンド仮設コースによるラウンド練習を行う。ラウンド方法に慣れ、コースマネージメントの考え方を学習する。					永山、田邊
14	【実習 4日目 午前】 レッスン : 民間練習場にてウッド・アイアンショットの確認を行う。					永山、田邊
15	【実習 4日目 午後】 ラウンド実習 : 本コース 9ホールの中ホール体験を行う。/閉講式					各担当者
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか。・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		実習終了後のレポート評価	20	1. 指定されたフォーマットに準じて記載されているか。 2. 本セミナーの経験を、生涯にわたるスポーツに親しむ態度に結びつけて考えられているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。前期の授業中に学んだことを夏期休業中に自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。(1回60分程度)ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。4日間の集中講義になりますので体調を整えて参加して下さい。詳しくは事前オリエンテーションにて説明いたします。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。場合によっては実習への参加を認めない場合があります。(事故防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE110U 生涯スポーツB		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修
担当教員名	永山 亮一					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。健康の維持・増進を考えた場合、日常生活における身体活動量は非常に重要な要因としてあげられている。従って、若年層より生涯にわたるスポーツに親しむ態度を養うことは、健康的な生活を営むにあたりきわめて重要な意味を持つと考えられる。</p> <p>ここでは生涯スポーツとして実践人口も多く、社会体育としても積極的に導入されている「ニュースポーツ」を必修科目として採用する。</p> <p>ニュースポーツは軽度な運動量に加え、初歩的な技術レベル及び筋力が低い者でも十分に楽しむ事ができるスポーツ群であると考えられ、スポーツに対して苦手意識を持つ者でも参加しやすく、スポーツの楽しみや喜びを感じやすいカテゴリーであると考えられる。そこからスポーツを日常化・生活化し、豊かで健康的な生活を営む能力と習慣の獲得につなげる。</p> <p>なお、「生涯スポーツB」の単位は、「毎週開講する授業(本頁)」の他に「ゴルフセミナー」及び「スキーセミナー」のいずれか一つを履修することで取得が可能である。(詳細はシラバス別頁を参照)</p>			<p>各種ニュースポーツの競技特性を理解する。</p> <p>各種ニュースポーツの基本的技術を習得する。</p> <p>習得した技能を生かしゲームを楽しむ。</p> <p>～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践することの意義を理解する。</p> <p>～を通じ、生涯にわたるスポーツを実践していく態度を養う。</p>			
教授方法	スポーツ実技。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：ニュースポーツというスポーツカテゴリーを理解する。					
2	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 各種投法を理解し、ディスクをコントロールして投げられるようになる。					
3	フライングディスク：フライングディスクという競技を理解し、実践する。 前回習得した技術を基に、ドッチビーなどのゲームを楽しむ。					
4	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 オーバーパス、アンダーパスなどの基礎技術を習得する。					
5	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。 習得した技術を基に簡易ゲームを行い、ルールを覚える。					
6	ソフトバレーボール：ソフトバレーボールという競技を理解し、実践する。リーグ戦形式で複数のゲームを楽しむ。					
7	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。インディアカボールを扱う基本的技術を習得する。					
8	インディアカ：インディアカという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
9	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。 フレッシュテニスの基礎的技術を習得する。(ラケットワーク、フォアストローク、バックストローク)					
10	フレッシュテニス：フレッシュテニスという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
11	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。 ユニホックの基礎的技術を習得する。(スティックワーク、パス、ショット)					
12	ユニホック：ユニホックという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
13	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。タグラグビーの基礎的技術を習得する。					
14	タグラグビー：タグラグビーという競技を理解し、実践する。習得した技術を基にゲームを楽しむ。					
15	まとめ：小・中・高と体験してきた学校体育とは違ったスポーツの体験をまとめ、今後、生涯スポーツとしてスポーツに親しむ礎とする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。 ・実技に対して積極的に参加しているか。 ・自分自身について課題を見つけ、課題克服のために努力しているか。		授業中に実施するミニスキルテスト	20	スポーツ技術の習熟度をスキルテストによって確認する。 ・詳細は各種目毎に説明する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
運動の技術は繰り返し練習を行う事で身につきます。授業中に学んだことを自主練習することを勧めます。その際の用具の貸し出しは行いません。〔準備体操を含め60分程度〕ただし、安全面を十分に考慮した上で練習を行って下さい。				小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。詳しくは初回ガイダンスにて説明します。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	PE120U 健康科学		開講学科	人間総合学部	必修・選択	必修	
担当教員名	永山 亮一						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、全学共通科目における「スポーツ・健康科目」に位置づけられている。現在我々を取りまく生活環境は刻々と変化し、少子・高齢化社会・労働内容の合理化・自由時間の増大・食生活環境の変化といった様々な変化に適応・対処して行かなければならない。その中で健康的な生活を営んでいくためには、個人が自立して体力や健康の維持増進を図ることができる知識・能力を身につけること、各種スポーツの特徴を理解し積極的に余暇時間にスポーツ活動を取り入れていくこと、バランスのとれた運動と休養のタイミングを理解すること、肥満の解消に有効な運動の内容を理解し実践することなど、様々な事柄に対する理解を深める必要がある。本講義において、これらの基礎的な知識を学習することで、様々な環境に適応し、健康的で豊かな生活を送って行くための自己管理能力を身につける。</p>			<p>健康的な生活の意義を理解する。 健康的な生活を営むために必要な事柄を理解する。 健康的な生活を自らデザインし、実践していく態度を身につける。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	健康の意義：健康的な生活の意義について理解を深める。						
2	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「栄養（食生活）」についての理解を深める。						
3	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「運動」についての理解を深める。						
4	健康的な生活：健康の三大要素について理解し、健康的な生活について考える。 健康の三大要素の内の一つである「休養」についての理解を深め、三大要素のバランスについて考える。						
5	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「飲酒」「喫煙」に対する理解を深める。						
6	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「薬害」「アレルギー」に対する理解を深める。						
7	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「感染症」に対する理解を深める。						
8	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして、「性感染症」について学ぶとともに「免疫機能」に関して理解を深める。						
9	健康を脅かすもの：健康を脅かすものとして「生活習慣病」について理解を深める。 「肥満」「糖尿病」「脂血症」「高血圧」						
10	健康を脅かすもの：生活習慣病の理解とともに、代表的な死因との関係を学ぶ。 「虚血性心疾患」「脳血管障害」「悪性腫瘍」						
11	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。						
12	運動習慣と疾病の関係：生活習慣病及び代表的な死因との関係を理解するとともに、運動習慣との関係を学ぶ。 「生活習慣病」と「肥満」の関連性を理解し、疾病予防についての運動習慣の有効性を学ぶ。						
13	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの基本理論を理解する。						
14	健康増進及び疾病予防のための運動プログラミングの考え方：健康を目的とした運動プログラミングの内容を考え、自分に合ったプログラムを作成できるようになる。						
15	まとめ：これまでに学習してきた内容をまとめ、各自において健康的な生活を営む計画を立案する。 また、その計画を実践できるような心構え・態度を獲得する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
受講態度	60	受講態度を重視する。 ・学んだ内容を基に自分自身の生活を振り返り、健康的なモノへと変化させているか。		学期末試験	40	講義内容に関する筆記テストを行う。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
各講義を振り返り、分からなかった用語などを調べ、理解を深める。[30分] 各講義の内容を自分の生活と結びつけ、健康的な生活へと改善を図る。[30分] なお、事前事後学習内容の詳細に関しては授業内で説明する。			小テストの実施やレポートの提出を課した場合には、原則として次の冒頭に採点およびコメントをつけて返却します。				
受講生に望むこと	本講義で学ぶ内容を各々の生活に還元し、健康的な生活を営む礎として下さい。			教科書・テキスト	教員が作成するプリントを使用する。		
指定図書/参考書等	「現代人のための健康づくり」 石川県大学健康教育研究会編著 北國新聞社 2014年 ISBN：978-4-8330-1972-9			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HC100U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	高村 真希・松本 理沙 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。キャリアデザインとは、自分の人生の中で職業を主体的に構想したり、設計したり、実現することである。そのために自分の適性と、社会の現状を知り、将来を見通すことが求められる。具体的には本学内の大学祭の企画・運営の過程の中でチームで働く力を身につけることを目指す。			自己理解：自分に足りない能力や自分の能力・正確に気づく。 課題対応能力・対人対応能力：社会の中で人と関わる力・社会で必要となる力に気づく			
教授方法	講義、演習、体験学習					
履修条件	なし。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、授業外における学習など。					高村、松本
2	現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインとは何か、キャリアデザインの基本と方法					高村、松本
3	「大学で学ぶ意義」第1回：学びの姿勢を考える（4年後を見据えて）					高村、松本
4	「大学で学ぶ意義」第2回：自己管理とは					高村、松本
5	「大学で学ぶ意義」第3回：人と共に学び合うとは					高村、松本
6	キャリアデザインと人生設計：現代人のライフサイクルと職業について					高村、松本
7	マナー講座第1回：「あいさつとコミュニケーション」					外部講師
8	マナー講座第2回：「自分のキャリアは自分がつくる」「本当の自分とは」					外部講師
9	学童保育とは：実際に学童クラブで児童と関わる方から学ぶ。					外部講師
10	1年次体験活動について：体験活動を充実させるためのポイントを考える。					高村、松本
11	大学祭とは：大学祭の在り方を考えると共に、イベントの企画を行う。					高村、松本・ 学生支援係
12	大学祭： イベントの企画・準備を行う。					高村、松本
13	大学祭： イベントの企画・準備を行う。					高村、松本
14	組織マネジメントの理解とチームワークの醸成					高村、松本
15	最終レポートを基に協議する。					高村、松本
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	30	講義及びグループでの活動に積極的に取り組むことができる。		報告書・レポート	30	「大学祭企画書」及び「最終レポート」
提出物	40	マナー講座からの学び×2回				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回の講義における演習を理解するために、ねらい及び目的を理解する。[30分] 授業内容から自身の知的好奇心を促進したものについての自己分析を行う。[40分]				グループ単位で事前事後のディスカッションを行うことでPDCAサイクルを体験する。		
受講生に望むこと	キャリアデザインは、自分の人生についての設計を考える大切な科目であり自分自身と真摯に向き合うことが望まれる。理論だけでなく、実際に行動することで自分の位置を知る体験学習がある。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義配付資料にて演習を展開する。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC100U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	加藤 仁・小林 正史・松下 健 (代表教員 加藤 仁)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>授業の目的は2つある。1つ目は、社会で必要な力に気づき、その運用法を知ることである。もう1つは、その社会で必要な力を身につけるために、大学でいかに学ぶかを自らが考え、行動することである。これらの目的に従って、授業では、実際の社会が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。具体的には、2つの企業の担当者から実際に企業が社会で直面している課題を受け取り、その課題を解決するためにチームで取り組む。そして、その成果について中間プレゼン・最終プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。</p>			<p>社会で必要な力に気づく。自分に足りない能力や知識、自分の興味、性格、能力の強みに気づく。社会に出るまでにつけなければならない能力や知識を残りの大学生活の中でどのように習得していくのかを考えることができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて理解する。					全教員
2	課題とは何か？：「課題」とは何かを理解し、「課題」に取り組むために必要なディスカッションの基本的な手法を学ぶ。					全教員
3	Missionを受け取る：企業Aの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
4	第1次提案に向けて：チーム活動。第1次提案の目的や心構え、準備について理解し、どのように議論を進めるべきかをチームで検討する。					全教員
5	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
6	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項を理解し、準備を整える。					全教員
7	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
8	課題解決に必要なスキルを知る：クリティカルシンキングの大まかな概要をつかむ。					全教員
9	Missionを受け取る：企業Bの担当者からMissionを受け取る。課題や目標となるゴールを正しく理解する。					全教員
10	第1次提案に向けて：チーム活動。企業担当者からどのようなアドバイスをもらえば議論が進むのかを整理する。					全教員
11	第1次提案：企業担当者の前でプレゼンを行う。企業担当者からのフィードバック、他のチームのプレゼンなどから議論を再構築する。					全教員
12	第2次提案に向けて：チーム活動。簡潔にわかりやすく伝えるプレゼンをするための注意事項をチェックし、準備を整える。					全教員
13	第2次提案：プレゼンを行い、企業担当者からフィードバックを受ける。チームで、自分たちの議論および活動をふりかえる。					全教員
14	全体のふりかえり：授業での経験をもとに、残りの大学生活をどのように過ごすのかをまとめる。					全教員
15	前期の初めに各自が設定した中期目標と長期目標がどの程度達成されたか、今後の大学生活と授業にどのように臨むかについての「自分宣言」を行う。					全教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講態度	30	積極的に授業およびグループワークに参加している。		提出物	50	期限内に提出している。課題に即した内容となっている(例えば、毎回提出するリアクシオンシートの場合は、振り返りが記され、規定字数を満たしている)。
発表	20	発表内容	発表態度	質疑への応答		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
課題解決のための資料探しや企業研究、社会調査やディスカッションなど、中間プレゼンおよび最終プレゼンの準備を進めてください。準備はほぼ授業時間外で進めることとなります。[120分]			プレゼンテーションや提出物などの課題について、次学期のキャリアデザインにおいてコメントします。			
受講生に望むこと	常に主体的に考え、責任を持って動くように心がけましょう。			教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN:なし	
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC110U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	福江 厚啓・松本 理沙 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する力を高めたい。教育系学科であるからこそ、まずは教師・保育者として求められる専門性にふれ、社会から求められる事柄が何であるのかを知る。この経験を通して自己課題を明確にし、自己の生き方を見つめてほしい。			「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。				
教授方法	講義、演習、体験学習						
履修条件	なし。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要の説明：到達目標、成績評価と基準、「キャリア体験学習」など。					全員	
2	キャリアデザインと職場理解：プレ実習を活用したキャリア考察について（夏季預かり保育体験等振り返り）					全員	
3	大学祭イベント・ブース運営実施					全員	
4	大学祭イベント・ブース運営実施					全員	
5	大学祭イベントについての振り返り					全員	
6	「キャリア体験学習」の説明と役割分担、連絡方法の確認、ワークショップ内容決定、予算計画等					全員	
7	「キャリア体験学習」の第1回事前学習（準備） 美術室等使用予定					全員	
8	「キャリア体験学習」の第2回事前学習（準備） 美術室等使用予定					全員	
9	「キャリア体験学習」の第3回事前学習（模擬実施と反省） 体育館使用予定					全員	
10	「キャリア体験学習」の第4回事前学習（最終準備と打合せ）					全員	
11	「キャリア体験学習」（公民館イベント）					全員	
12	「キャリア体験学習」（公民館イベント）					全員	
13	「キャリア体験学習」の事後学習とメンバー内報告会					全員	
14	「キャリア体験学習」の報告書・引継書（ポスター型）作成					全員	
15	最終レポートを持ち寄り、個々の学びについて協議する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業態度	40	講義内容についての理解ができている 自己への問題提起が身についている 新しい発見ができている	最終レポート	30	「これが私の進む道」 学びを踏まえ、今後の自己課題を明確に。 (体験学習の報告、発表の反省を含むこと)		
ミニレポート	30 (各15)	大学祭イベント・ブース運営のレポート 「キャリア体験学習」のレポート					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
専門的な職業能力に直結する「大学祭イベント・ブース運営」「キャリア体験学習」に取り組みます。その体験学習に際しては事前の入念な準備と事後の振り返りが大切であり、それに要する時間は合計6時間以上が目安です。単に時間を要する、ということよりも、チームとしての報告・連絡・相談が大切になります。			グループごとに事業計画を立て、役割分担、調査研究や準備を行い、記録することで自己フィードバックする。最終レポートは、評価が終わる次第返却する。				
受講生に望むこと	積極的に参加すること。 理論だけでなく、実際に行動すること。 グループにより、準備等のスケジュールは異なるので各自が手帳等を準備し、自己管理して下さい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	「大学祭ブース運営」を2コマに充てる。 「キャリア体験学習」は公民館イベント運営を以て2コマに充てる。 (代休講4回の日程等、詳細については開講時に説明する)			
実務経験を活かした授業の概要							
福江：市内小学校におけるイベント運営の場を設け、事業計画、予算立案、準備、運営、振り返り、引継という一連のプロセスを経験させることで、子どもにかかわる専門職に必要な資質・能力を磨く経験の場を提供している。							

授業科目名	HC110U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	加藤 仁・小林 正史 (代表教員 加藤 仁)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、全学共通科目のキャリア教育科目に位置づけられるものである。キャリアデザインでは、キャリアデザインで培われた気づきを拡張・深化させていく。そのために、MIP1の振り返りや批判的、論理的な思考力を高めるトレーニング、また、働き方や社会の動き、先達の話や聴く機会や仕事に就くにあたって考えるべきことなど様々な角度から自身の「キャリア」を考えるための時間とする。</p>			<p>グループワークや発表をとおして、自身の意見を的確に他者に伝えることができる。先達の話や社会の動き捉える活動から、現代社会の情勢などの知識を身につける。仕事につく際に必要とされるが、現在は不足している力について、学生時代にどのようにして身につけるかの具体的なプランが立てられる。</p>			
教授方法	教員による講義、ゲストスピーカーによる講演、グループワークおよび発表など多様な方法により演習を進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要の説明および前期の振り返りと自己評価の分析を行う。					全員
2	クリティカルシンキングの自己分析を行う。					全員
3	MIP1におけるプレゼンテーション修正版を考え、発表を行う。					全員
4	社会の情勢を把握し他者に伝える(1):新聞を用い社会の出来事について考察する。					全員
5	社会の情勢を把握し他者に伝える(2):新聞を用いたグループワークおよび発表を行う。					全員
6	会社の仕組み、仕事の仕組みについて考える。					全員
7	職業選択について(1):周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークを行う。					全員
8	職業選択について(2):周りの人の聞き取りを踏まえたグループワークの結果を発表する。					全員
9	グローバル企業で働くことについて学ぶ。					全員
10	グローバル企業で働く際の問題点と解決策について具体的に考える(MIP2に向けて)。					全員
11	就職活動とは:4年生と卒業生の話聞く。					全員
12	ワークライフバランスについて考える。					全員
13	労働者の権利について考える。					全員
14	自己を振り返る(自分史を作る自己分析)。					全員
15	企業の社長の話を聞き、パネルディスカッションを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度、および演習への参加態度		リアクションシート	40	毎回提出するリアクションシートが授業の内容に沿って具体的に記入されている。
課題・レポート	20	授業時に課された課題やレポートの内容		グループ発表	10	グループ発表が論理的に構成されており、わかりやすい話し方である。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
グループ・個人に課された課題・レポートの作成 [120分] 日頃から新聞等を読み、社会の事象等に関心を持つ。[60分]				グループ発表やレポート提出時に学生と教員がコメントする。		
受講生に望むこと	グループワークを中心とした授業なので、学生の活発な参加が求められる。社会学科のたのしみもくもくの学習とともに、社会の事象について関心を持つ姿勢が必要である。			教科書・テキスト	必要に応じて資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC200U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザインに引き続き、自己の人生を主体的に構想・設計・実現する力を高めたい。 具体的には「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動を全員参加で経験する。また、様々な事業から自己決定し3回の「運営スタッフ活動」を経験する。運営側として主催者や仲間、参加者等の想いに触れ、社会の一員として自分がどのように在るべきか、今後の自己課題を明確にする機会としたい。			「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 (または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力) 自己理解・自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を、各自の自己課題に基づき、活動を通じて総合的に高めることができる。			
教授方法	講義、演習、体験学習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：到達目標、授業の進め方、成績評価の方法等を知る。					
2	ブレ実習を活用したキャリア考察をおこない、自己課題を明らかにする。					
3	「運営スタッフ活動」（選択）予定の立案を行う。「加賀百万石ウォーク」の役割を確認する。					
4	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動（一斉）					
5	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動（一斉）					
6	「加賀百万石ウォーク」スタッフ活動についての振り返り					
7	「運営スタッフ活動」に向けての事前学習					
8	「運営スタッフ活動」（選択）					
9	「運営スタッフ活動」の振り返りとに向けての事前学習					
10	「運営スタッフ活動」（選択）					
11	「運営スタッフ活動」の振り返りとに向けての事前学習					
12	「運営スタッフ活動」（選択）					
13	「運営スタッフ活動」の振り返り。発表のきまりについて理解し、準備を行う。					
14	発表に向けて準備、打合せを進める。					
15	まとめ：「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」に関する発表。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
最終課題	40	「運営スタッフ活動を通して学んだこと～社会とのつながりの中で～」をテーマにしたレポートを作成することができるか(1600字)。		PDCAシート	30	学びや自己課題の分析が行われているか。学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができていくか。(10×3回)
主体的態度	20	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に運営スタッフ活動に参加できたか。		社会的態度	10	講義及びグループでの授業に積極的に取り組むことができていたか。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
自分で選択した「運営スタッフ活動」に関し、PDCAシートを用いて自己分析を行う。[60分] 本科目も含め、前期期間の予定を適切に管理する[30分]				課題は「最終課題」と「PDCAシート」を期末にまとめて提出することとする。評価ののちすみやかに返却する。		
受講生に望むこと	将来の社会参加を念頭に、一つひとつの活動に目当てをもって取り組んでほしい。 また、社会の一端を担うものとしての自覚をもち、適切な報告・連絡・相談の在り方を実践的に学んでほしい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	指定日に行う「加賀百万石ウォーク」を以て講義2コマ分に充てる。 また、各自が選択した「運営スタッフ活動」を以て講義3コマ分に充てる。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC200U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	小林 正史・俵 希貴・若山 将実 (代表教員 小林 正史)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>授業の前半は、企業と連携し、ICTを用いて授業を進める。企業が抱える課題を知り、チームで課題解決に取り組む。第一次提案と最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。少数のグループで課題に取り組む。コンペティション形式を部分的に取り入れる点が、1年時のICTと異なっている。</p> <p>授業の後半は、大学生対象ビジネスコンテスト「キャリアインカレ」(企業がテーマを出題し、学生はチームを組みテーマについてプレゼンテーションを行う。コンペティション方式で優勝を目指す)に参加することにより、グローバルな課題に取り組む。また、企画書の作成方法を身に付ける。</p>			<p>企業で働くために必要な知識・グローバルコミュニケーション力とはどのようなものかを認識できるようになる。</p> <p>グローバル企業とのコミュニケーションを通じて、実務に対する意識や必要とされる力と現在の自分の持つ意識や力のギャップに気づく。</p> <p>ICTを用いて多文化共生の実践的経験を学び、海外業務に必要な表現形式を習得する。</p> <p>コンペティション方式に対応したプレゼンテーションができるようになる。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーションと課題提示：授業の目的、流れ、方針と評価方法、チームに貢献するためのルールについて学ぶ。					全員	
2	課題提示：企業担当者から課題を受け取る。					全員	
3	課題理解確認：前回の課題提示を受けて、各グループが課題についてどのように理解しているかディスカッションを通じて確認する。					全員	
4	第一次提案に向けての準備：文化的背景の異なる相手に対して、簡潔にわかりやすく自分の意図を伝えるための注意事項を確認し、第一次提案に向けての準備を整える。					全員	
5	第一次提案：企業担当者に対して第一次提案を行う。企業担当者からのフィードバックや、他のチームのプレゼンテーションから自分たちのプレゼンテーションの改良すべき点に気づく。					全員	
6	最終提案に向けての再構築：第一次提案における企業担当者からのフィードバックを受けて、各グループで振り返りを行い、最終提案に向けて課題に対するアプローチを再構築する。					全員	
7	リハーサル：最終提案に向けてチームで準備を整える。					全員	
8	最終提案(その1)：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。					全員	
9	最終提案(その2)：ICT技術を用いて最終提案を行い、企業担当者からフィードバックを受ける。					全員	
10	最終提案の振り返り：チームで、自分たちの活動(文献調査、社会調査、議論など)を振り返る。					全員	
11	「キャリアインカレ」参加にあたって担当者から内容説明を受ける。					全員	
12	グループワーク：どの企業の課題に挑戦するのかをグループで決定する。					全員	
13	ビデオ視聴による分析：これまでのキャリアインカレで入賞したチームのプレゼンテーションのビデオを観て、どの点が評価されているのかを分析する。					全員	
14	課題解決力テスト：キャリアインカレ前の時点で自己診断を行い、事後テストとの比較材料とする					全員	
15	企業選択： グループごとにどの企業の課題に取り組むかを選択し、夏休みの行動計画を立てる。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
受講態度	30	授業に参加し、チームに貢献している	提出物	50	期限内に提出している 課題に即した内容となっている 指定された分量が書けている 指定された形式になっている ふりがえりができている		
プレゼンテーション	20	内容：課題に即した内容となっているか/指定された様式・ 時間を守っている 態度 質疑への応答					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
プレゼンテーションの準備を進める。準備はほぼ授業時間外で進めることになる。必要に応じて調査を行う場合も課外で進める。[90分]			プレゼンテーションに対して企業担当者および教員がコメントする。				
受講生に望むこと	チームワークをうまく進めていくために、一人一人が常に主体的に考え、動くように心がける。		教科書・テキスト	『PROJECT SUPPORT NOTEBOOK』Ver1 ベネッセコーポレーション 2014 ISBN：なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	詳細はオリエンテーション等で説明する。協力企業の都合により、回によっては開講曜日が変わる場合もある。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HC210U キャリアデザイン			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	高村 真希						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この科目は、全学共通科目のうち、学部の「キャリア教育科目」に位置付く。キャリアデザイン の学外での「運営スタッフ活動」に引き続き、キャリアデザイン では学内外での主体的活動を通して、さらに構想・設計・実現する力を高めたい。				「理想の自己実現」のためのキャリアプランニング能力 教師・保育者としての専門的な職業能力 (または、一般職としての社会参加を見据えた汎用的能力) 自己理解、自己管理能力 課題対応能力、対人対応能力 以上4点の資質・能力を活動を通じて総合的に高め、社会人基礎力(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)を身につけることができる。			
教授方法	講義・演習・体験学習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、到達目標、成績評価の方法等の説明						高村
2	時間をうまく使いこなすためのタイムマネジメント講座						外部講師
3	これからの大学生活をより充実させるための自分自身を知るための講座						外部講師
4	これからの実習やインターンシップにいかせるマナー講座						外部講師
5	実体験する講座：第1回事前学習						高村
6	実体験する講座：第2回事前学習						高村
7	体験学習（学外での体験）						高村
8	体験学習（学外での体験）						高村
9	実体験する講座：事後学習						高村
10	人と共に生きるとは：感謝の手紙から考える						高村
11	人と共に生きるとは：感謝の手紙から考える						高村
12	卒業生（4年次生）からの学び：卒業生と語る						高村
13	卒業生（4年次生）からの学び：卒業生の歩んできた道						高村
14	卒業生（4年次生）からの学び：卒業席との対話からの学び						高村
15	キャリアデザイン ～ を通しての学びを発表する						高村
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
最終課題	20	「主体的活動を通して学んだこと～社会人基礎力について～」をテーマにレポートを作成することができるか(2000字)。		各レポート	50	事前準備、事後の振り返りや自己管理、報告・連絡・相談を含めて、主体的に活動や授業に参加できたか。	
主体的態度	30	学びや自己課題の分析が行われているか。学びや自己課題を踏まえたPDCAサイクルができているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
なし				課題は期末にまとめて提出すること。評価ののちにすみやかに返却します。			
受講生に望むこと	前期科目「キャリアデザイン」での学びの成果を今後の活動に活かしてほしい。また前期に引き続いて社会の一端を担うものとしての自覚をもち続け、日頃から報告・連絡・相談をその場に応じて臨機応変にできるように期待する。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし			その他・特記事項	外部講師の都合により、日程の変更がある可能性があります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HC210U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	若山 将実・小林 正史 (代表教員 若山 将実)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
前半は、「キャリアデザイン」のキャリア・インカレプロジェクトを継続する。すなわち、企業から提示された課題について、社員の立場に立って企画を作り、プレゼンを行う。後半では、社会人基礎力（経産省が提唱する、仕事を行っていく上で必要な基礎的能力）を高めるためのワークを通して、社会へでるまでに各学生がどのような準備をすべきかを考える。			グループワークを通して、課題解決力を身につける。自分に足りない能力や知識、および、自分の強みを明確に認識する。社会に出るまでに身につける必要がある能力や知識を、これからの学生生活の中でどのように習得していくかを考えることができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業概要と前期の振り返り。					全教員	
2	キャリア・インカレ企画書案の提出。					全教員	
3	キャリア・インカレ企画書案の修正 : グループワーク					全教員	
4	キャリア・インカレ企画書案の修正 : グループワーク					全教員	
5	キャリア・インカレ企画書案の修正 : グループワーク					全教員	
6	キャリア・インカレ企画書の事務局への提出。					全教員	
7	キャリア・インカレ振り返り					全教員	
8	キャリア・インカレ振り返り					全教員	
9	社会人基礎力とは何か：社会人基礎力が重視されるようになった社会的背景とは。					全教員	
10	社会人基礎力の判定：社会人基礎力の判定テストを通して、自分の不足している力と強みを認識する。					全教員	
11	タイム・マネジメント： 計画性を持って行動する必要性を認識する。					全教員	
12	SPI 就職模擬テストの実施。					全教員	
13	キャリアパスの多様性について考える。					全教員	
14	大学の学びと就職後の仕事					全教員	
15	大学の学びと就職後の仕事					全教員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
受講態度	30	積極的にグループワークや授業に参加している。	キャリア・インカレ企画書	20	企画書内容がグループワークの成果を反映した内容になっている。		
その他提出物	50	リアクションシートなどのその他提出物が、期限内に提出されている、課題に即した内容、指定された分量や様式、振り返りができている。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
キャリア・インカレ企画書の作成は、授業時間内だけでは足りないので、授業外でも行う。[90分]			この授業の核となるキャリア・インカレ企画書について、担当教員との質疑応答、外部スタッフ（マイナビ）からのアドバイスを踏まえたグループ間の相互コメントの側面からフィードバックを行う。				
受講生に望むこと	グループワークにおいて、各学生が主体的に参加することを希望する。		教科書・テキスト	随時、資料を配布する。			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HC300U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この科目は、全学共通のうち学部のキャリア教育科目に位置づけられている。保育・教育、行政機関及び一般企業等への就職活動の取り組みにあたり、これまでの自分の学びを整理し、自分の特性を正確に把握することが求められる。そのためには、体験活動に対して自己課題をもって臨み、その成果を分析する必要がある。具体的には、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの意義や目的、手段、望まれる態度などを十分に把握し設定した上でこれらの活動に参加する。			これまで培ってきたP D C Aサイクルの学びを体験学習に生かすことができる。自分の将来計画に基づいた課題に応じて、自分の資質・能力を向上させることができる。ディスカッションを通して、やりがいのある仕事・よりよい働き方について考察することができる。就職活動に必要な書類作成の準備段階として、働くことを前提とした体験学習を行うことができる。			
教授方法	講義・演習・体験学習					
履修条件	特になし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	これまでの学びを整理し、今後の授業計画を理解する。					
2	就職活動に関する準備：自己分析の基本、就活スケジュールの立案、就活サイトへの登録					
3	体験学習・フィールドワーク等に関する理解：保育・教育施設における体験学習・フィールドワーク等、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの目的・意義					
4	体験学習・フィールドワーク等に関する理解：保育・教育施設における体験学習・フィールドワーク等、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段					
5	体験学習・フィールドワーク等に関する理解：保育・教育施設における・フィールドワーク等、地方自治体との連携事業や本学の地域貢献活動、インターンシップの参加方法と手段：事前打ち合わせと自己課題整理					
6	体験学習・フィールドワーク等の参加（1回目）					
7	体験学習・フィールドワーク等の参加（2回目）					
8	体験学習・フィールドワーク等の参加（3回目）					
9	体験学習・フィールドワーク等の参加（4回目）					
10	体験学習・フィールドワーク等の参加（5回目）					
11	体験学習・フィールドワーク等の参加（6回目）					
12	体験学習・フィールドワーク等の参加（7回目）					
13	体験学習・フィールドワーク等の振り返り（取り組み状況の確認）					
14	体験学習・フィールドワーク等の振り返り（自己課題を明確にする）					
15	授業のまとめ：体験学習・フィールドワーク等報告会					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	授業・活動に対して積極的な姿勢に臨んでいる。不明な点については適宜質問などができる。		体験学習等の参加状況	40	報告・連絡・相談が徹底されている。P D C Aサイクルが身についている。
最終レポート	20	今後の自己のキャリア形成にかかる内容となっている。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
就活サイトの確認 [30分] 体験学習・フィールドワーク等に関する事前研究 [60分] 体験学習・フィールドワーク等に関する事後研究 [60分] レポート作成 [60分]			レポートについては、評価後コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	体験学習・フィールドワーク等については、これまでのキャリアデザインで培ってきた知識や技術を生かすこと。欠席、遅刻、早退等について必ず担当教員に連絡すること。		教科書・テキスト	なし/なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	体験学習・フィールドワークを通じて「ソーシャルスキル」・「コミュニケーションスキル」の獲得を目的としている授業である。		
実務経験を活かした授業の概要						
就職活動への取り組みについて、採用側であった経験から、学生に求められている具体的な内容の理解を促進する。特に社会が求めている人材像を学ぶことのみならず、実際の社会貢献や社会参加のためのスキルや考え方を、現場目線で学ぶことを促す。						

授業科目名	HC300U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	勝谷 紀子・若山 将実 (代表教員 勝谷 紀子)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、「キャリアデザイン」(MIP1)、「キャリアデザイン」(MIP2)、「キャリアデザイン」(MIP2)で学んだことを活かして、就職活動に必要な実践力を養う。実践力を養う1つの方法として、インターンシップに参加する。そのために、説明会への参加、企業研究などの準備を行う。			就職活動の流れを把握する。 就職活動に必要な情報を収集することができるようになる。 インターンシップに参加し、働く自分を具体的にイメージできるようになる。			
教授方法	講義、演習					
履修条件	「キャリアデザイン」～「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業内容と評価基準について説明する。					全教員
2	就職活動とは何か：就職活動とインターンシップについて理解する。					全教員
3	インターンシップ参加に向けて～企業研究の方法～企業研究の方法について理解する。					全教員
4	ジョブカフェ石川学内説明会参加：就職活動に関する情報を収集する。					全教員
5	自分に合う企業の探し方～企業研究 インターンシップフェスと企業研究					全教員
6	自己分析はなぜ重要か：社会人基礎力の判定					全教員
7	県のインターンシップフェス参加					全教員
8	自分に合う企業の探し方～企業研究 合同企業説明会の活用、企業の見方					全教員
9	リクナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。					全教員
10	マイナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。					全教員
11	インターンシップイベント振り返り+企業研究					全教員
12	筆記試験対策講座・WEBテスト体験					全教員
13	筆記試験対策講座・WEBテスト体験					全教員
14	インターンシップ準備：企業訪問マナーと面接体験					全教員
15	インターンシップ参加：希望企業のインターンシップに参加する。					全教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業中のワークを達成できた、講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に参加している。		インターンシップへの参加	40	インターンシップに参加した。
提出物	30	課題に対して適切な内容になっている。定められた期間内に提出している。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
インターンシップに参加するための準備を授業外でも進めること。指示された課題を行うこと。〔60分〕			課題についてコメントする。			
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に、かつ積極的に取り組んでください。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	インターンシップ参加については各自実費となります。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC310U キャリアデザイン		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は、全学共通科目のうち学部のキャリア教育科目に位置付けられている。この授業はキャリア教育科目の集大成として、実際の就職活動の流れと並行し、より現実的な就活スキルについて実践的な学びを深める。具体的にはインターンシップ報告会の実施を通して、様々な職場で「働く」ということの実験を学ぶ。その上で改めて求人先に提出する履歴書・エントリーシート等の作成に取り組む。また面接やグループディスカッションの対策についても繰り返し実践し、企業担当者からの指導も受けながら、自信をもって就職活動に臨むことができるよう準備をする。			インターンシップ報告会において働くことの実験を理解している。履歴書・エントリーシート等の作成において、自分らしさを表現した自己PR欄を書くことができる。自信をもって面接やグループディスカッションに臨むことができる。就職説明会等の情報を幅広く収集し、広い視野をもって参加することができる。				
教授方法	講義・演習・ディスカッション						
履修条件	「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業の概要に関する説明、インターンシップ報告会に向けての準備をする。						
2	インターンシップ報告会を実施する。					学生支援課	
3	インターンシップで身につけてきたスキルをもとに「働く」ことの意義を考える。						
4	就職活動全体の流れと体験ワークを行う。					外部講師	
5	履歴書・エントリーシートの書き方の具体的なポイントについて深める。						
6	履歴書・エントリーシートの自己PR欄等の内容を深める。						
7	志望動機を書くための業界研究講座を行う。					外部講師	
8	作成した履歴書・エントリーシートについて見直し、改善を行う。						
9	ロールプレイを通して個別面接における基本的な心得を学ぶ。						
10	面談の備えと振り返りを面談予習復習シートを活用して行う。					学生支援課	
11	集団面接やグループディスカッションにおける基本的な心得を学ぶ。						
12	面接を乗り切るための講座：面接のQ&A等を行う。						
13	就職説明会の種類や開催時期、参加の方法等について学ぶ。					学生支援課	
14	挨拶、身だしなみ、電話対応、手紙やメールの内容等、ビジネスマナーについて改めて考える。						
15	今後の就職活動を意義あるものにするために、学びの成果を発表する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	授業に積極的に参加している。報告・連絡・相談ができています。	インターンシップ報告会	20	インターンシップ報告会への取り組みを適切にレポートにまとめている。		
履歴書の作成	20	より具体的に自分を表現した内容で、履歴書・エントリーシートが作成できている。	最終レポート	20	ビジネスマナーについての自分の考え面接に臨むにあたっての自分の考え就職活動に対する自分の決意等		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
インターンシップで身につけたスキルを発表原稿にまとめる。[90分] 自分の履歴書・エントリーシートの見直し改善を行い、追記しながら内容を具体的にしておく。[60分] 面接・ディスカッションの際、他者の発言の意図をくみ取ったり理論的な発言ができるように練習をしておく。[30分]			インターンシップの報告会を終えて、他者の学びから改めて自分の学びの振り返りを行う。 履歴書・エントリーシートの見直し改善を行う。 各種面接の繰り返しを通して自分に自信をもつ。				
受講生に望むこと	日々のニュースや新聞に触れ、情報を収集する癖をつけてほしい。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	外部講師の都合により、日程が変更になる場合がある。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	HC310U キャリアデザイン		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	勝谷 紀子・若山 将実 (代表教員 勝谷 紀子)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、「キャリアデザイン」に引き続いて行う内容となっている。「キャリアデザイン」で体験したインターンシップやそのための準備で経験したことをふまえて、社会で求められる力を認識するとともに、実際の就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			社会で求められる力を具体的に述べるができるようになる。就職活動に必要な知識やスキルを獲得する。			
教授方法	講義, 演習					
履修条件	「キャリアデザイン」～「キャリアデザイン」を履修済であることが望ましい。					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション・インターンシップ参加業界グループ分け					全教員
2	インターンシップ報告会に向けた業界研究					全教員
3	インターンシップ報告会の準備					全教員
4	インターンシップ報告と業界研究会					全教員
5	インターンシップ報告と業界研究会					全教員
6	自己分析と履歴書のたたき台の作成					全教員
7	リクナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。					全教員
8	マイナビインターンシップイベント参加：インターンシップについての情報を収集する。					全教員
9	履歴書作成：パソコンを使って作成する。					全教員
10	履歴書作成：パソコンを使って作成する。					全教員
11	面接講座：模擬面接を体験する。					全教員
12	作成した履歴書の添削。					全教員
13	学内キャリアガイダンスへの参加：企業や先輩の話から必要な情報を収集する。					全教員
14	合同企業説明会の歩き方					全教員
15	1年間の振り返りとこれからの行動計画：2月までにやっておくことの確認と、3月以降にやることのシミュレーションを行う。					全教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	授業中のワークの達成度 講義・演習(グループワーク含む)に対して積極的に参加している。	発表	40	発表内容 発表態度 質疑への応答	
提出物	30	課題に対して適切な内容になっている。 定められた期間内に提出している。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
発表準備を進めること。業界・企業・職種研究を進めること。[90分]			発表について各グループごとにコメントします。			
受講生に望むこと	就職活動に直接結びつく授業なので、真面目に、かつ積極的に取り組んでください。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義の目的は2つある。第1は、コンピュータを使える能力(コンピュータリテラシー)を高めることである。代表的なアプリケーションであるワープロ、表計算、電子メールの操作方法を習得する。第2は、情報を上手に扱うための基本的な知識や能力(情報リテラシー)を養うことである。このため、情報を選択・加工し、さらにわかりやすい形で表現できるようにすることを目指す。</p>			<p>学内の情報環境を知り、Windowsの基本操作を習得する。電子メールの送受信ができるようになる。情報倫理に関する基本的な知識を身につける。Excelの基本操作を習得し、データを加工し適切なグラフ作成ができるようになる。Wordの基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。</p>			
教授方法	演習形式					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。					
2	Windows8の基礎操作を習得する。情報倫理に関する知識を身につける。					
3	Excel基本操作：データ入力、オートフィル、数式入力、基本的な関数の操作方法を習得する。常用吏員に関する知識の習得状況の確認(ミニテスト)					
4	Excel関数：相対参照と絶対参照との違いを理解し、ランク付け関数の操作方法を習得する。					
5	Excel関数：条件分岐関数の操作方法を習得する。					
6	Excel関数：表引き関数の操作方法を習得する。					
7	Excel小テスト：以後のデータ加工に進むために、これまで学習した関数について小テストで習得の確認を行う。					
8	Excelデータ加工：データの加工・並べ替え方法を習得する。基本的なグラフの作成方法を習得する。					
9	Excelデータ加工：与えられたデータを加工し、適切なグラフ作成を行う。					
10	Excel課題：データベース機能の基礎を学ぶ。 Excel習得度確認試験					
11	Word文書作成：ビジネス文書の種類・形式を理解し、インデントとタブ、ページレイアウトなどビジネス文書作成に必要な操作方法を習得する。					
12	Word文書作成：レポートの構成・形式を理解し、Excelで作成した表・グラフの挿入などレポート作成に必要な操作方法を習得する。					
13	Word文書作成：図形・ワードアート・画像などを使ったちらしの作成方法を習得する。					
14	総合課題：与えられた課題に対し、Wordでレポートを作成する。					
15	総合課題：レポートを完成させ、提出する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
電子メール・情報倫理	10	授業で学んだ知識を習得状況を評価する。		Excel関数小テスト / 課題	35	授業で学んだ関数が正しく利用できるかを評価する。(30%) / 適切なデータの加工・グラフ作成ができるかを評価する。(5%)
総合課題	25	序論・本論・結論で構成されているか。わかりやすい文章で表現し、Wordで体裁を整えることができるかを評価する。		授業参加態度	30	提出物などにより授業への取組み姿勢を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>パソコンの操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 14回目の授業で、総合課題の説明を行う。15回目の授業を提出期限とする。授業時間内だけでは時間が不足するため、授業外の時間も利用してしっかり取り組むこと。上記について、合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出した翌週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなし、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応』第2版 noa出版 2017年出版 『2020年度版 情報倫理ハンドブック』noa出版 2020年出版	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC160U 情報機器演習A		開講学科	社会学科	必修・選択	必修
担当教員名	矢澤 励太					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。演習「A」ではコンピュータを使える能力（コンピュータリテラシー）を高めるために、代表的なアプリケーションである文書作成ソフト・表計算ソフトの操作方法を修得する。			このコースの履修後に学生は・・・ Word の基本操作を習得し、レポートを作成することができるようになる。 Excel の基本操作を習得し、目的に応じた関数を使用してデータを加工したり、適切なグラフ作成をしたりするスキルを身に付ける。 学びの中で互いに助け支えあい、演習において助けを求めたり、習熟度の高い者が必要な者をサポートしたりする姿勢を大切にできるようになる。			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション；習熟度に関する簡単なアンケートの実施。 Word：学術・ビジネス文書作成のための基本操作を身につける。					
2	Word：Wordによる表の作成の仕方を身につける。					
3	Word：図形、ワードアート、オンライン画像などの図形描画機能の使い方を身につける。					
4	Excel：基本操作を身につけ、書式を設定して見やすく編集できるようになる。					
5	Excel：「厳選」関数を使いこなす。合計・平均、構成比、最大値・最小値、順位付け、四捨五入・切り上げ・切り捨ての機能を使いこなせるようになる。					
6	Excel：「厳選」関数を使いこなす。VLOOKUP関数、IF関数、AND関数、OR関数を使いこなせるようになる。					
7	Excel：「厳選」関数を使いこなす。基本的なグラフの他、折れ線グラフ、レーダーチャート、積み上げ縦棒、複合グラフ（ABC分析）を作成できるようになる。					
8	小テスト準備演習					
9	小テスト：Excel					
10	Excel：並べ替え、オートフィルター、トップテン等の機能を用いてデータベースを目的に応じて活用できるようになる。					
11	Excel：ピボットテーブルを用いて目的に応じて視点を変えた集計を行えるようになる。					
12	小テスト準備演習					
13	小テスト：Excel					
14	Word & Excel 活用術：Excelで作成した表やグラフをWord文書に取り込めるようになる。 学期末総合課題準備演習					
15	学期末総合課題					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
意欲・態度	30	講義で学んだ技術等を理解し、使いこなす；課題に積極的に取り組み、提出物を提出している；互いに助け合っている。		小テスト	15	Excel 関数を効果的に利用できているかを小テストへの取り組みの成果で評価する。
小テスト	15	Excel 関数を効果的に利用できているかを小テストへの取り組みの成果で評価する。		総合課題	40	Word と Excel の学修を通じて得たスキルを用いて総合的に取り組む課題の成果によって評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
コンピュータ操作は慣れることが重要である。毎回の授業内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[60分]				授業における例題演習中に机間巡視し、個別にフィードバックを行う。		
受講生に望むこと	演習時は互いに教えあい、助けを必要とする仲間を覚えサポートしてほしい。			教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応』（ワークアカデミー、2013年）。<ISBN：なし>	
指定図書/参考書等	指定図書：なし/参考図書：なし			その他・特記事項	PCルームは飲食厳禁。授業中の私語や内職、スマホ操作といった基本的マナー違反は放置しておかない。繰り返される場合は厳しく減点する。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	富岡 和久					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で、自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション力が不可欠である。「情報機器演習A」に引き続き、代表的なアプリケーションであるPowerPointの基本的操作及び効果的スライド作成技術を習得する。さらに、Excelで作成したグラフを活用したプレゼンテーションの実施と相互評価により、自己のプレゼンテーション力を客観的に把握し向上させることを目的とする。この授業は、全学共通であるキャリア教育科目の1つである。</p>			<p>Excelで複合グラフが作成できる。 PowerPointの基本操作を習得する。 プレゼンテーションにおける効果的な資料について理解し、そのような資料を作成して発表できるようになる。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 効果的なプレゼンテーション作品の制作ができるようになる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	「情報機器演習A」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	プレゼンテーションとは：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。					
2	PowerPoint基本操作：簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。					
3	PowerPoint基本操作：練習問題を通して、基本操作の習熟を深める。					
4	PowerPoint基本操作：スライドマスターの作成方法やスライドのデザインの変更方法を習得する。					
5	スライドショーの実行方法や印刷の方法について学ぶ。					
6	2回分の授業を使って演習問題を通してPowerPointのスライド作成の取得状況を総合的に判断する。					
7	前回に引き続き、演習問題を通してPowerPointのスライド作成の取得状況を総合的に判断する。					
8	図形を組み合わせて、表現力の豊かな絵を描く技術を身につける。					
9	PowerPointプレゼンの内容と流れ：目的・聞き手・伝えたい内容とそれを伝えるためのストーリーを作る。さらにPowerPointプレゼン資料作成：ストーリーに合わせた効果的なスライドを作成する。					
10	PowerPoint発表原稿準備：ノート機能を利用して発表用の原稿を作成する。 PowerPointリハーサル：グループ内で発表することにより、PowerPointの操作と時間配分を確認し、人前での発表に慣れる。					
11	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから、良い例を学ぶ。他の受講者から評価されることによって、自分の改善点を発見する。					
12	前回までの他者アドバイスを参考に、最終スライドを完成させる。					
13	データ(文章資料及び表や図)を解析し、その内容についてプレゼンする準備をする。 テーマ、訴求点の絞り込み、構成を考える。					
14	自動切り替えによるスライドショーの実施を前提に、スライドを作成する。					
15	スライドショーの試験実行を行い、制限時間内でプレゼンが終了するように調整し、スライドを完成させる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
習得度の確認	10	練習問題や総合問題の完成度で評価する。		プレゼンテーション	35	伝えたい内容が明確で、分かりやすいストーリーか、スライドが分かりやすい表現で、効果的に使用されているか、はっきりと大きな声で、聴き手を見て、発表したか等を評価する。
自動プレゼンテーション作品	25	テーマに沿った作品であるか、資料の内容が適切に表現できているか、制限時間内でプレゼンが終了するか等を評価する。		授業参加態度	30	出席状況、授業への取り組み姿勢を評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業の進行状況と自己の習得度を常に確認して、スレがないように常に確認する。 例題、演習問題が授業時間中に完成しなかった場合は、必ず次回の授業までに完成させる。 パソコンの操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。 上記について合計30時間分の授業外学習として随時指示するのでそれにしたがうこと。</p>				<p>原則、課題を提出したよく週に返却。 また、課題提出回の授業で使用することもある。</p>		
受講生に望むこと	パソコンの基本的な操作スキルは大学での学び、社会生活に必要な不可欠なものである。本講義を通じて、パソコンを道具として使いこなす、さらに情報を使いこなす能力を高めてほしい。			教科書・テキスト	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2013対応(第2版)』noa出版 2017年	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	HC170U 情報機器演習B		開講学科	社会学科	必修・選択	必修	
担当教員名	矢澤 励太						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
この授業は、全学共通科目であるキャリア教育科目のひとつである。現代社会においては、職種・業種に関係なくあらゆる場面で自分の考えや思いを相手に伝えるプレゼンテーション能力が欠かせない。本コースにおいては、代表的なプレゼンテーションソフトであるMicrosoft PowerPointの基本操作を習得するとともに、より効果的なプレゼンテーション資料作成のための編集加工の基本操作を習得する。また情報を上手に扱うための基本的な知識や能力（情報リテラシー）を養う。			このコースの履修後に学生は・・・ 情報倫理に関する基本的な知識が身につく。 PowerPointの基本操作を習得する。 効果的なプレゼンテーションについて理解するとともに、そのような資料を作成し発表できるようになる。 どのようなプレゼンテーションが相手に伝わるのかを理解し、プレゼンテーション力を高める。 他者の発表のスキルから学び、それを正当に評価できる力がつき、自分の向上に役立てることができるようになる。				
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	イントロダクション；学内の情報環境を知る。さまざまな文字の入力方法と電子メールの送受信の正しい知識を身につける。簡単なアンケートを行う。情報倫理に関する基本的知識を身につける（前半）。						
2	情報倫理に関する基本的知識を身につける（後半）。[ステップ1]プレゼンテーションの基本理解：プレゼンテーションとは何かを知り、その必要性を理解する。						
3	[ステップ2：見やすいスライドを作る] PowerPointの基本操作 1) スライドのテーマ；2) スライドの挿入；3) ワードアートの挿入・編集 簡単なプレゼンスライドを作成し、基本操作を習得する。						
4	4) オンライン画像の挿入；5)：スライドレイアウトの変更；6) 表やグラフの貼り付け 簡単な自己紹介用資料を実際に作成し始めてみる。						
5	7) 表の作成；8) 図形の挿入・編集 自己紹介用資料を完成させる。						
6	PowerPoint自己紹介プレゼン PowerPointプレゼン資料作成：選んだテーマの下、効果的なスライドを作成し始める。						
7	PowerPointプレゼン資料作成：ストーリーにあわせた前回からの作業を継続し、効果的なスライドを作成する。 PowerPoint発表原稿準備：パワーポイントを用いた1人5～7分のプレゼンテーションを準備する。						
8	[ステップ3：魅力的に仕上げる] 1) 背景に画像を使用；2) テーマと箇条書きの変更；3) 図形の挿入；4) テンプレートとして保存；5) オリジナルテンプレートの利用、プレゼン準備。						
9	6) 表やグラフの貼り付け；7) 図形の挿入・編集；8) SmartArtグラフィックの挿入・編集；9) ヘッダーとフッター；10) 画面切り替え効果の設定；11) アニメーションの設定；プレゼン準備。						
10	1) スライドショーの実行の仕方；2) スライドの印刷の仕方 グループに分かれてプレゼンリハーサル。フィードバックを得る。						
11	練習問題 プレゼンの日程決め。前回のリハーサルで得たフィードバックを参考にしてプレゼンに改良を加える作業をする。						
12	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
13	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
14	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
15	PowerPointプレゼンの実施と相互評価：他の受講者のプレゼンから良いスキルを学ぶ。他の受講者から評価されることで、自分の改善点を発見する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
意欲・態度	20	以下の観点で評価する。講義で学んだ技術等を理解し、使いこなせる；毎時間の課題に積極的に取り組んでいる；サポートを必要とする仲間も覚え、互いに助け合っている。		クイズ	10	情報倫理に関して学びの内容を確認するクイズによって評価する。	
プレゼンテーション	40	1) 伝えたい内容が明確 2) スライドがわかりやすい表現で習得したスキルを効果的に利用している 3) はっきりと大きな声で、聴き手を見て発表する 4) 時間内で発表できる		提出物	30	自己紹介スライド；プレゼン資料；フィードバックシート の提出とその内容によって評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
パソコン操作は慣れることが重要である。授業で学んだ内容について、次回の授業までに操作が定着するように、練習問題や例題を再度行うこと。[60分]			授業の例題演習の間、机間巡視をし、その都度フィードバックを行う。				
受講生に望むこと	演習時は互いに教えあい、助けを必要とする仲間を覚えサポートしてほしい。また情報倫理に関わるニュースにも関心を持ってほしい。		教科書・テキスト	noa出版『実践ドリルで学ぶ Office活用術2013対応』（ワークアカデミー、2013年）<ISBN：なし>; noa出版『2020年度版 情報倫理ハンドブック』（ワークアカデミー、2020年）<ISBN：なし>			
指定図書/参考書等	指定図書：なし/参考図書：山中伸弥・伊藤穰一『プレゼン力～未来を変える伝える技術～』（講談社、2016年）。<ISBN：978-4062195638>		その他・特記事項	PCルームは飲食厳禁。授業中の私語や内職、スマホ操作といった基本的マナー違反は放置しておかない。繰り返される場合は厳しく減点する。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

子ども教育学科
(1～2年次)

授業科目名	EK100U 基礎ゼミ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	向出 圭吾・川真田 早苗・松本 理沙・高村 真希・武田 恵美 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1年次の基礎ゼミでは、大学での基本的な学びの姿勢、知的探究の方法の修得を目指す。具体的には、基礎ゼミにおいて、テキストを参考にしながら、ノートテイキング、レポート作成、文献の調べ方や文章の要約といったスタディスキルズを学び、大学での授業内容理解に必要な力を身につける。</p> <p>大学では「自ら学ぶ」という自主的、主体的姿勢が求められるので、ゼミでの学習を通して、大学生としての学びを主体的に進めていく積極的な姿勢を体感し修得していく。またゼミ内でのディスカッションを通して、コミュニケーション能力を磨くことも目指す。</p>			<p>大学での学び方について理解している。 図書館やインターネット等を利用した情報収集の方法を習得する。 ゼミの運営や参加方法を理解し、積極的に関わろうとする。 レポートの書き方を理解している。</p>			
教授方法	各ゼミごとの演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	(前半合同)ゼミの進め方や履修登録の確認を行う。(後半)ゼミごとに自己紹介を行い、係りを決める。					全員
2	(合同)図書館利用オリエンテーション：情報収集の仕方を具体的に学ぶ。(テキスト第5章に該当)					全員
3	ゼミごとに図書館で借りた絵本の紹介をする。					各担当教員
4	スタディ・スキルズとは？：自己の目標設定、大学での学びについて考える。(テキスト第1章)					各担当教員
5	ノートテイキングのスキル：ノートテイキングの方法について学び、理解する。(テキスト第2章)					各担当教員
6	リーディングの基本スキル：リーディングの基本スキルを学び、実際に文章を意識して読んでみる。(テキスト第3章)					各担当教員
7	より深いリーディングのために：要約するとは？要約作成の仕方を学ぶ。(テキスト第4章)					各担当教員
8	より深いリーディングのために：感想と意見との違いを理解し、自分の考えをまとめてみる。(テキスト第4章)					各担当教員
9	リーディングの実践：テキストをもとに要約文を書く。					各担当教員
10	リーディングの実践：要約文をもとに自分の考えを書く。					各担当教員
11	調べる・整理する：情報収集、文献調査、情報の整理の仕方について学び、理解する。(テキスト第6.7章)					各担当教員
12	アカデミック・ライティングの基本スキル：レポートと感想文の違い、レポート作成の基本を知る。(テキスト第8章)					各担当教員
13	各自見直し改善したレポートをゼミ内で発表					各担当教員
14	各自見直し改善したレポートをゼミ内で発表					各担当教員
15	(合同)後期の履修登録、履修モデルの選択等の説明を行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	意欲的に参加：50点、概ね参加：30点 無関心・意欲的でない：10点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		レポート	50	内容が、ゼミで指導された基本スキルを用いて書かれているかどうかを基準とする。
授業外における学習(事前・事後学習等)						
<p>大学での自主的・主体的学びを修得するため、各教員から提示される課題遂行の際は、積極的に図書館やインターネット等を利用し、情報収集とスタディ・スキルズに則ったまとめ方を目指す。[60分]</p> <p>授業の各回に示されているテキストの章を予め読んで、ゼミに臨むこと。[20分]</p> <p>各教員から紹介された文献等に関して、図書館で検索閲覧し、自分で内容を確認すること。[30分]</p>			<p>課題(試験やレポート等)に対するフィードバック</p> <p>質問は、授業中以外でもメールで受け付ける。メールアドレスは予め受講生に知らせておく。 毎回授業の初めに、前時の授業における振り返りを行い、質問や意見に対するコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>少人数のゼミ形式で行うため、ゼミの時間は遅刻せず、積極的に仲間の話を聞き、かつ自分の意見も述べるように努めてほしい。また、提示された課題に対しては、責任をもって期日までに仕上げ提出すること。ゼミ運営上妨げになるような行為は慎むこと。</p>			教科書・テキスト	<p>『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN:978-4-87424-789-1 『子どもにかかわる仕事』汐見稔幸編 岩波ジュニア新書 2011年 ISBN:978-4-00-500683-0</p>	
指定図書/参考書等	担当教員の指示に従うこと。/担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については、担当教員の指示に従うこと。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK110U 基礎ゼミ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・川真田 早苗・中野 聡・虫明 淑子・武田 恵美 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
基礎ゼミ では、基礎ゼミ で会得した主体的、対話的な学びの姿勢を土台に、より実践的に学習し、考える力やディスカッションの力を高め、プレゼンテーションによる表現能力の向上を図る。 具体的には、各ゼミ内で決めた自分の研究テーマに沿って各自が発表し合い、ディスカッションを行う中で、互いの学びを共有すると共に、より多面的な見方・考え方を身につける。また、自己の研究目的を明確化し、将来設計との関連性を意識しつつ、プロゼミの学びへと繋げていく。			ゼミ運営に積極的に協力し、話し合いによって深い学びを創り上げていこうとしている。 研究のための文献や資料を自分なりに収集することができるようになる。 プレゼンテーションによって自分の研究課題と内容、考察結果等を発表できるようにする。 大学で学ぶ姿勢を身につける。				
教授方法	演習						
履修条件	「基礎ゼミ」を履修した者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	前半(合同):成績等に関する指導、履修の確認 後半(各ゼミ):ゼミ代表・宗教委員の選出、自己紹介など					全員	
2	スケジュールをたてる・話題を絞り込む(テーマを決める)【テキスト8章】					各担当教員	
3	材料を集める・アウトラインを考える【テキスト8章】					各担当教員	
4	材料を整理する・構成を考える【テキスト8章】					各担当教員	
5	前半(合同):プレゼンテーションの方法について【テキスト11章】 後半(各ゼミ):各自研究計画の発表、質疑、検討					全員	
6	スライドを作成する。					各担当教員	
7	スライドを修正する。					各担当教員	
8	発表原稿を作成する。					各担当教員	
9	プレゼンテーションの練習をする。					各担当教員	
10	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(1):一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
11	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(2):一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
12	ゼミ内におけるプレゼンテーション発表(3):一人10分の持ち時間で質疑応答を含む。					各担当教員	
13	(合同):全体会において、ゼミ代表者のプレゼンテーション発表を行う。(各ゼミ1名)					全員	
14	前半(合同):2年次コース履修に関する説明(各コース代表教員) 後半(各ゼミ):レポート提出・活動の振り返り					全員	
15	前半(合同):2年次の履修登録について 後半(各ゼミ):作成したレポートをもとにゼミでの学びを話し合う。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	50	意欲的に参加・発言 50 点 概ね参加 30 点 無関心・意欲がない 10 点 を目安に、積極的な姿勢を評価する。		プレゼンテーション	30	内容はオリジナルなものか、参考文献の選定や引用は適切か。 時間内に収まる構成だったか。 他者に伝わるような話し方、内容だったか。	
最終レポート	20	発表者の内容を理解し、自分の言葉で要約できているか。 ゼミ内での学習をしっかりと振り返っているか。 今後の学習課題を自分なりに把握できているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各自プレゼンテーションのためのテーマを選定し研究計画を立て準備を進めていくので、授業外において積極的に図書館やインターネットなどを利用して、オリジナルな報告を目指す。そのためには日頃から「子ども」や「教育」への関心を持ってニュースなどに触れること。【各30分】 プレゼンテーションのためのパワーポイント作成や資料の準備など、発表期日までに余裕をもって取り組む。【120分】 学内の環境(ILCやLLCなど)を有効に活用し、効果的なプレゼンテーションができるように準備する。【60分】				その都度、ゼミ内で研究の進行状況把握し、他者の研究の進め方等も参考に自分の学びを深めていく。			
受講生に望むこと	主体的、対話的で深い学びを実現するために、情報の活用はもろろんのこと、オフィスアワーなどを利用して教員からアドバイスを受けるようにしてほしい。ゼミ中は、メンバーの報告や発言に対して積極的に応答し、議論の活性化に積極的に寄与することを望む。			教科書・テキスト	『知へのステップ』(第5版)学習技術研究会/編著 くらしお出版 2019年 ISBN:978-4-87424-789-1 (基礎ゼミ から引き続き使用)		
指定図書/参考書等	担当教員の指示に従うこと。/担当教員の指示に従うこと。			その他・特記事項	テキスト及び各回のゼミの進め方については担当教員の指示に従うこと。 合同で実施する回の授業内容は、日程によって前後する場合があります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EK200U プロゼミア		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	齊藤 英俊・川真田 早苗・中野 聡・福江 厚啓・松本 理沙 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
プロゼミアは、3年次より始まる専門ゼミの前段階として位置づけられている。基礎ゼミで培ったレポート作成やディスカッション能力等の技能を高め、より専門性を志向した展開を行っていく。			ゼミ運営に積極的に協力し、学びを深めていくことができる。専門ゼミで必要とされる、議論する力、分析する力、文献を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力を身につける。			
教授方法	各ゼミによる演習					
履修条件	「基礎ゼミ」を履修済の者または「基礎ゼミ」履修中の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	合同で授業概要、授業計画、成績評価方法、事前事後学習などの説明を行い、その後ゼミごとで自己紹介を行い、各ゼミの運営に関する説明と成績指導を行う。					全員
2	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
3	合同で論文作成のポイントを解説する。					全員
4	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
5	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
6	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
7	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
8	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
9	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
10	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
11	各ゼミにおいて演習を行う。					各担当教員
12	ゼミ内における発表：グループの前半の学生が発表を行う。					各担当教員
13	ゼミ内における発表：グループの後半の学生が発表を行う。					各担当教員
14	プロゼミア発表会：合同でグループの代表者が発表を行う。					全員
15	合同で2年次後期の履修登録を行い、その後各ゼミでまとめを行う。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	意欲的に参加30点、概ね参加15点、意欲的でない15点を基準とする。		レジュメの作成と発表	30	わかりやすくポイントをまとめたレジュメを作成しているか。 聞き手が理解しやすい発表となっているか。
レポート	40	要点をおさえて、概要と意見を分けた文になっているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など[90分] 各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートを準備すること。[60分]				テーマ設定やレポート作成についての質問には適宜対応する。		
受講生に望むこと	プロゼミでの学びが3年次からの専門ゼミへとつながっていくので、自ら学ぶ姿勢を持って参加すること。			教科書・テキスト	ゼミ担当教員の指示に従う。	
指定図書/参考書等	ゼミ担当教員の指示に従う。/ゼミ担当教員の指示に従う。			その他・特記事項	不明な点はゼミ担当教員に問い合わせること。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK210U プロゼミB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・虫明 淑子・松本 理沙・高村 真希 (代表教員 福江 厚啓)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
プロゼミAに引き続き、自己課題を明確に持って自分の興味関心のある分野を深めていくなかで、専門ゼミでのテーマを絞りこめるよう専門性を追求していく。			ゼミ運営に協力的にかかわることができる。 専門ゼミで必要とされる、課題を設定する力、討論する力、分析する力、文脈を読み解く力、自分なりの意見をまとめる力が身につく。			
教授方法	各ゼミごとによる演習					
履修条件	「プロゼミA」を履修した者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	前半：実習にかかわる成績についての指導（合同） 後半：ゼミ内での自己紹介 各ゼミ運営についての説明 成績指導					全員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。					各担当教員
12	ゼミ内における発表					各担当教員
13	ゼミ内における発表					各担当教員
14	プロゼミB発表会（合同）					全員
15	前半：3年次の履修登録、専門ゼミ・卒業研究についての説明（合同） 後半：各ゼミのまとめ					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	研究テーマに熱心に取り組んでいる。 ディスカッション等では、人の意見を聞きつつ、自分の意見をしっかりと述べるができる。	レポート	40	文章構成が適切か。 事実と自分の考えを区別して書いているか。 意見の根拠が明示されているか。 分かりやすい文章であるか。	
レジュメの作成と発表	30	分かりやすくポイントをまとめた資料を作成している。 時間内で聞き手に分かりやすく発表している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
学内外の講座・セミナーへの参加、フィールドワーク、ゼミ担当者が指定・推薦する文献の講読など。[60分] 各自選択した研究テーマについて積極的に研究を進め、オリジナルなレポートの準備をする。[60分]			テーマ設定やレポート作成等についての疑問は・質問の申し出にはいつでも対応する。			
受講生に望むこと	ゼミ内で各自の研究計画に関する情報交換を積極的に行い、視野を広めつつ自分が興味関心をもつ分野についての専門性を深めて、3年次から始まる専門ゼミに臨む。		教科書・テキスト	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		
指定図書/参考書等	各ゼミごとに教員の指示に従うこと。/各ゼミごとに教員の指示に従うこと。		その他・特記事項	ゼミ単位で指導を行うので、不明な点は自分の所属するゼミ教員に問い合わせること。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK120U 地域社会と子ども		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・中野 聡・虫明 淑子・幸 聖二郎・高村 真希 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
この科目は学科必修の科目であり、各免許資格取得に必要な学びを行うための入門科目である。学生は教育者・保育者としての実践力の基礎を身につけるために、地域の子どものかかわり(小学校参観、認定こども園を含む幼稚園参観・保育所参観又は中学校参観)を体験する。各体験の前には、子どもの発達とそれにかかわる今日的テーマでの概説を行い、学生は課題意識をもってそれぞれの参観に臨む。参観後はディスカッションを通して新たな気づきや課題を得る。こうした講義と体験・ディスカッションを通して、子どもの育ちに関連した地域の課題に触れ、専門科目の学びの方向性をつかむ。			講義と参観事前レポートを通して参観先の概要を把握し、ねらいをもって参観に臨むことができる。参観した内容を客観的に記録し、そこから見えてくるものを順序立てて記述することができる。参観での子どもの成長や子育て支援の現状等を文章にまとめ、グループ内で発表することができる。ディスカッションやその都度のレポート作成を通して、地域の小学校、認定こども園を含む幼稚園、保育所又は中学校の今日的課題を発見し、対処方法について自分なりに考えることができる。グループディスカッションを通してコミュニケーション能力を養い、他者の気づきから自分の学びを深めることができる。まとめたレポートを、他者にわかりやすく、自分の言葉で発表することができる。				
教授方法	講義・参観・グループディスカッションを併用して行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、学外体験活動時の諸注意、参観マナー等について理解する。					全員	
2	大学行事「Enjoyミッション」への参加：3年生及び幼稚園児、小学生とともに遊びコーナーを体験する。					全員	
3	児童期の子どもの理解：児童期の発達の特徴、小学校の学習課程を理解し、模擬授業を通して小学校教諭と児童との関わり方を考える。事前レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
4	学外体験活動 小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
5	学外体験活動 小学校参観：各自のねらいに沿って指定の小学校の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
6	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の小学校の特徴や気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					向出・幸 虫明・高村	
7	幼児期の子どもの理解：幼稚園や幼稚園教諭の役割、年齢ごとの発達や遊びの特性について理解する。事前レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
8	学外体験活動 認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
9	学外体験活動 認定こども園を含む幼稚園参観：各自のねらいに沿って指定の幼稚園の参観を行う。事後レポートを作成する。					向出・幸 虫明・高村	
10	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の幼稚園や幼児期の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					向出・幸 虫明・高村	
11	乳児期の子どもの理解：0歳から小学校入学までの子どもと保育所の果たす役割について理解する。事前レポートを作成する。又は学童期以降の子どもの理解：中学校の生徒理解と英語教育の現状について理解する。					全員	
12	学外体験活動 認定こども園を含む保育所参観又は中学校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学校(英語)の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
13	学外体験活動 認定こども園を含む保育所参観又は中学校参観：各自のねらいに沿って指定の保育所又は中学校(英語)の参観を行う。事後レポートを作成する。					全員	
14	グループディスカッション：各自作成したレポートをもとに、参観先の保育所や乳幼児期の特徴、気づき又は中学校の学童期以降の特徴、気づきについて話し合う。事後レポートに新たに学びを追記する。					全員	
15	全体レポート発表：代表者によるレポート発表を行い、質疑応答を交えて子どもに関わる学びを総合的に把握する。発表後に学んだことを最終レポートに追記して提出する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	50	事前の講義を踏まえ、ねらいをもって参観しているか。グループディスカッションに積極的に参加しているか。		各レポート及び発表	50	指定の様式で作成しているか。自分の気づき、考えを記述しているか。自分の言葉で発表できているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
大学行事「Enjoyミッション」の概要説明と当日の取り組みについて、3年生と合同で打ち合わせを行う。[60分] 各講義終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事前レポートを作成する。[60分×3又は4] 学外体験活動～終了後、それぞれ指定された期日までに必ず事後レポートを作成する。[60分×3又は4]			事前レポートをもとに、ねらいをもって参観に臨む。事後レポートをもとに、グループディスカッションで得られた学びを追記する。3つの参観を通して、全体レポートを作成しながら自分の学びを深める。				
受講生に望むこと	傍観的な態度ではなく、意欲的に学外体験活動に参加すること。表面的な観察や記録ではなく、その根拠となる自分の思いを常に考える姿勢をもつこと。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし/ 『小学校学習指導要領』文部科学省 東洋館出版社 2018年 ISBN: 9784491034607 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499		その他・特記事項	受け入れ側の事情で、参観の日程を変更する場合がある。参観は、通常の時間割に加えて2コマ連続して行うで注意すること。中学校参観は希望者のみの参加。参観は、教育・保育の妨げにならないように配慮し、マナーを守り、服装にも十分注意すること。			
実務経験を活かした授業の概要							
伊藤、中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で起きた問題をテーマにしてグループディスカッションを行っている。また、授業参観のための事前・事後指導を行っている。高村、保育所とはどのような施設であり、保育者は何を大切にされているのか。また、その場で乳幼児がどのように生活しているのかについて事前事後の検討会をしている。幸、小学校教諭としての経験をもとに、小学校参観を前に、小学生の発達段階について、具体的な事例を挙げて、説明したり、入門期の園児の模擬授業を行った。向出、幼稚園現場とのパイプ役となり、幼稚園現場での参観を行い、遊びや生活についてのグループディスカッションを行っている。虫明、幼稚園副園長として子どものよりよい育ちを求めて保育者や保護者と協働してカリキュラム、マネジメントを行った経験をもとに、幼稚園から小学校、中学校までその後の学校教育を指導して子どもにも育むべき力とは何か、幼小接続の重要性や特別支援の観点から、幼児教育がなぜ重要かを現場の実践課題を提示して考える。中野、小学校の経験を生かして、今日の課題を発見し対処方法として考えて、自分の言葉で語るようにしている。							

授業科目名	EK130U 教育学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、教育の理念、歴史、思想がテーマとなる。そのため、教育の理念にはどのようなものがあるか、教育の歴史や思想において教育の理念がどのように現れてきたか、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ変遷してきたのかなどについて順次、講義を進めていく。そして、それらの理解のうちに、現代の教育学の課題の1つとしての「チームワーク能力」を扱い、校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくかについて考える。</p>			<p>教育学の諸概念並びに教育の本質及び教育の目標を理解するとともに、教育を成り立たせている要素(子供・教員・家庭・学校など)とそれらの相互関係を理解している。 学校の登場以前から家族と社会によって子供の教育が行われてきた歴史と近代教育制度の成立と学校教育の展開を理解するとともに、現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 家庭や子供に関わる教育の思想、学校や学習に関わる教育の思想、代表的な教育家の思想を理解している。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育学の諸概念：「教育」の概念と子供観(教育の意味や歴史を概観するとともに子供観の類型を知る。)					
2	教育の本質と教育の目標：人間と教育(人間の本質と教育、人間の本能と教育について理解する。)					
3	教育を成り立たせる要素：発達と教育(ピアジェの認知発達段階論と脳の発達理論から考察する。)					
4	教育を成り立たせる要素：社会と人間(教育の場)(子供の発達に伴う教育の場としての家庭(学校(地域とそれらの関係について理解する。))					
5	教育を成り立たせる要素：社会と人間に関する思想・理論(教育と社会の関係についてルソーの考え方をはじめとした諸理論について知る。)					
6	教育の歴史：西洋における教育学の歴史(時代区分ごとに西洋における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。)					
7	教育の歴史：中国における教育学の歴史(古代文明の発祥地としての中国の教育史を概観し、日本に与えた影響について考える。)					
8	教育の歴史：日本における教育学の歴史(時代区分ごとに日本における教育史を概観して基礎的な知識を身に付ける。)					
9	教育の歴史：教育を受ける権利の思想(西洋と日本の近代における教育を受ける権利の思想及び現代の日本の教育の権利について理解する。)					
10	近代教育制度の成立と展開：教育の平等と無償性(西洋と日本における教育の平等と無償性について考える。)					
11	現代社会における教育の課題：教育条件の整備(教育条件の整備に関し戦後の教育改革及び教員の地位について理解する。)					
12	教育の理念：人間(個人)の尊厳(日本国憲法や教育基本法をもとに家庭や学校における子供の成長と教育について考える。)					
13	教育の思想：市民の育成と平和の創造(世界や日本の平和教育思想を概観するとともに、学校における平和教育の実践を知る。)					
14	教育の思想：代表的な教育家の思想(デュイ、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなどの思想を知る。)					
15	教育学の課題：チームワーク能力(校長のリーダーシップの下、どのように「チームとしての学校」を運営していくか考える。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	・講義内容を正しく理解している。 ・教育学について自分の考え方を持っている。		中間レポート	15	教育学の歴史について「西洋」「中国」「日本」から選択し、自分の考えを交えて書いている。
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育の理念や歴史などを理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各回の授業は章・節ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 教育の理念、歴史、思想など、教育学に関し、週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]				小テストを採点して返却する。 中間レポートの評価コメントを返す。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。		
受講生に望むこと	・どんな観点でもよいので、教育または教育学に興味・関心をもって授業に臨んでください。			教科書・テキスト	『教育学概論 第2版(教師教育テキストシリーズ)』三輪定宣著、学文社、2019年出版、ISBN978-4-7620-2878-6	
指定図書/参考書等	『保育所保育指針』、厚生労働省、2017告示、『幼稚園教育要領』、文部科学省、2017年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領』、文部科学省、2017年告示/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
・教育の原理や方法について、実際の小学校や中学校の授業の様子を取材し、写真やビデオを学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。 ・教育の評価について、学校現場から指導要録や通知表などのサンプルを提供してもらい、それをもとに理解したりディスカッションしたりしている。						

授業科目名	EK140U 教職論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	
担当教員名	幸 聖二郎・虫明 淑子 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教諭、小学校教諭及び中学校教諭免許取得に関わる教職に関する科目で、教師という仕事の概観をつかみ、自らの適性を問う。教職の意義及び教員の今日の役割、それを実現するための職務内容の実際を知り、教職に対する適性について考え、教師としての意識と自覚を形成する。子どもとしての体験から形成されている教職観、あるいはメディアを通じて形成されている一般的教職観がそれぞれの内にあるだろう。本授業では、それぞれのもつ教職観を、社会が求める今日の教職観へと変容させることが目指される。各回における学びを、大学における授業・保育参観(他科目でのものや実習につながる現場体験)と重ね合わせ、教師に求められる資質能力、社会性・人間性、指導力、職務内容、家庭や地域との連携の在り方、学校間連携によって一人一人の学びと育ちをつなぐこと等について考える。			幼・小・中の校種を超えて教職の意義と専門性について理解する。教員の職務と服務について理解する。教師をめぐる現状と課題について知る。教師に求められる資質能力について理解し、自らの進路として教職を選択することの可否を考える。				
教授方法	講義 ワーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教職とは何か：学生自らの幼・小・中の各学校体験からの考察・講義「教職と保育職の歴史的変遷」から教職・保育職が専門職である意味を理解する。					虫明	
2	幼児期の学びの特性と保育者の役割：園児と関わる基本姿勢と照らし合わせて保育における保育者の姿を見なおしてみよう。「見守る」「応答する」「共に考える」保育者の姿が「対話的な学び」の土台となる。					虫明	
3	計画的であることの意味：保育には幼児理解をふまえた保育者の意図・ねらいがある「保育者の役割」。「遊びが生まれる環境をつくる」遊んであげる「モデル」見本・手本 今日の課題として求められている「学びに向かう」姿のモデル					虫明	
4	保護者との連携：子育てを支援するという保育者・教師の役割。子育てを支援することがなぜ保育者の役割なのか？保育者は、なぜ子育てを支援できると考えられるのか？					虫明	
5	学びと育ちの接続を支える：幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の前文の比較から見えること 教科内容で考える遊びと学び 授業内ミニ試験					虫明	
6	これまでの人生における「学び」：これまでの幼・小・中・高校時代の「先生」との出会いや体験を通しての「学び」をふりかえる。プログラムデザイン曼陀羅図をもとに、グループで分かち合う。					幸	
7	私の目指す教師像：「憧れの先生像」(実際に出会った先生、文学作品の中の先生、ドラマの中の先生、著名人等)、子どもが求める教師像、保護者が求める教師像等をふまえ、「私が目指す教師像」を明確なものとしていく。					幸	
8	求められる教師像：各県が求める教師像「児童生徒に対する教育的愛情を有する人」「責任感と使命感を有する人」「豊かな教養と専門的知識を有する人」「広く豊かな体験を持ち、指導力・実践力を有する人」「向上心を持ち、明るさ、積極性に富む人」(石川県)等の具体的な教師の姿について考える。					幸	
9	教職に対する情熱と子どもに対する責任感：大村はま「教えるということ」から見えてくる「情熱」と「責任」について考える。					幸	
10	担任教師に求められる「学級経営力」：教師のリーダーシップ、子どものよさを引き出す「魔法のしつもん」、学校現場で使えるアドラー心理学等について考える。					幸	
11	教師としての使命：教師という仕事は、「子どもたちの心や人生に、大きな影響を与える」という、責任の大きい仕事であり、「教師にだけ与えられた固有の使命感」を持つことが重要だということについて考える。					幸	
12	「教育基本法」にみられる「豊かな人間性と創造性」：「豊かな人間性と創造性」とは、どういうことか、その具体的な姿について考える。					幸	
13	「教育基本法」にみられる「人格の完成」：教育の目的である「人格の完成」とはどういうことなのか、いかにして「人格の完成」を目指せばよいのか、教師として、どのようにして子どもたちに「人格の完成」に意識を向けさせるのか、その方法について考える。					幸	
14	「教育基本法」にみられる「研究と修養」：教師にとって「研究」とは何か。「修養」とは何か。具体的に何をどのようにすることなのか。なぜ、教師には、たゆまぬ「研究」と「修養」が必要なのか等について考える。					幸	
15	新たな時代に求められる「教師の資質」：「持続可能な社会」の担い手を育てる教師の姿について考える。心ある教師を志す人に求められる「ミッション」「パッション」「リスボンシビリティ」について考える。 授業内ミニ試験					幸	
成績評価方法及び基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
ミニレポート	40	授業における気付き・発見・学びや討議のまとめと考察(授業内ワークを含む。自分に対する省察を含む)	授業内試験	60	教職について理解するための基本的概念の理解・今日的テーマについての概要理解と考察		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
各授業回での理解に必要な用語・法令等についての事前調べや事後確認をミニレポートにまとめる。[30分～60分程度] 園行事や学校公開週間など、保育者・教師の姿を見ることが出来る機会を逃さない。 [適宜]			当日提出、あるいは授業外課題としてのミニレポートに記載される履修者の興味・関心・疑問を次回の授業に反映させる。				
受講生に望むこと	* 自身が取得を希望する資格・免許に対応する年齢の子どもだけでなく、乳児から青年までの幅広い年齢層の生活と環境について興味をもつこと。 * 夏休みや春休みの現場体験(幼稚園・放課後等児童クラブ 他)を経験していることが望ましい。		教科書・テキスト	『教師の資質』朝日新書 諸富祥彦 2014年 ISBN 978-4-02-273518-8			
指定図書/参考書等	なし/『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『小学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN: 978-4-491-03189-7 『中学校学習指導要領解説 総則編』文部科学省 きょうせい 2008年 ISBN: 978-4-324-90002-4 『教職の意義と職務』森 秀夫著 学芸図書株式会社 2012年 ISBN: 978-4-761-60339-7 『教師になるということ』池田 修著 学陽書房 2013年 ISBN: 978-4-313-65236-1		その他・特記事項	各回の授業回を幼児期(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)を中心に虫明、義務教育期を中心に幸が担当して講義し、適宜グループ討議する。授業外課題として現場訪問や子どもとの関わりが課せられることがある。			
実務経験を活かした授業の概要							
幸：小学校教諭としての経験をもとに、「求められる教師像」や「教職に対する情熱と子どもに対する責任感」「教師の資質」等について、小学校現場での具体的な事例を挙げながら説明し、ディスカッションを行っている。 虫明：幼稚園教諭及び副園長、また園や地域における子育て支援活動を行った経験をもとに、子どもの発達連続性を捉えて長期的視野に立って子どもの育ちを支える教職者とはいかにあるべきか、校種を超えた教員の役割について検討する。							

授業科目名	EK142U 保育者論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虫明 淑子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもを取り巻く環境や生活状況の変化に伴い保育者や園に求められる役割はますます多様化しているが、いかに時代が変わろうとも変わらない保育者としてのあり方、保育者としての使命がある。本授業ではそのような保育者としてのあり方や使命を念頭に置き、時代に即した保育者や園における新たな役割について様々な事例から検討しつつ、次世代社会を担う子どもやその家族の育ちをよりよい形で支えるための保育者の資質・能力や専門性等について学ぶ。			1. 保育者の役割と倫理について理解する。 2. 保育者の制度的な位置づけを理解する。 3. 保育者の専門性について考察し、理解する。 4. 保育者の連携・協働について理解する。 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。			
教授方法	講義・ワーク(個人・グループ)					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の概要とワーク「子どもの気持ちになってみよう」					
2	保育者とはなにか：保育士・幼稚園教諭の定義、資格・要件、役割・職務内容、専門性等について理解する。					
3	保育者としての心構え：保育者の服務・倫理及び保育者に求められる資質・能力と『育ての心』について知る。					
4	保育所・こども園の生活と保育者の役割：0・1・2歳児保育における1日の生活の流れと保育者の仕事を理解する。					
5	幼稚園の生活と保育者の役割：3・4・5歳児保育における1日の生活の流れと保育者の仕事を理解する。					
6	環境を通して行う教育：環境を通して行う教育の重要性とその実現のために保育者はいかに援助するべきかを考える。					
7	子どもの発達と子ども理解：発達の課題や子どもの思いに寄り添う保育者の重要性と役割について理解する。					
8	保育記録：日々の保育を省察する意義と計画・実践・評価・改善のサイクルの重要性について考える。					
9	特別な配慮を要する子どもへの支援：障害や発達の課題、家庭の問題等で配慮が必要な場合の支援計画について考える。					
10	家庭との連携と保護者に対する支援：日々のやりとり、懇談会や通信、連絡帳等を通して行う様々な支援とその内容を知る。					
11	地域や専門機関との連携と保幼小接続：地域で子どもを育てるの重要性と園や保育者に求められる役割について理解する。					
12	保育の場における職員間の連携と協働：子どもの最善の利益のために園全体で取り組むべき課題や実践例について考える。					
13	保育者の資質・専門性の向上とリーダーシップ：保育の質の向上を実現するための様々な組織的取り組みについて学ぶ。					
14	保育者としての研鑽：子どもとともに生活する保育者の使命と自分らしく生きることについて考える。					
15	まとめ 授業内試験					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	保育者としてふさわしい姿勢で積極的に参加し、グループワークにおいて協動的に取り組んでいるか。		ミニレポート	30	授業内容に関する理解度
授業内試験	30	保育者としての使命や専門性に関する理解度と考察				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前・事後ともに教科書や資料を予習・復習する。[30分] 授業内容に関連する文献にできるだけ多く触れる。[30分] の文献の中から好きな1冊を選択し、第13回までに読み終える。[60分] 毎回事後に授業内容に関するミニレポートを作成する。[60分]				授業内やミニレポートに記述された関心事項や質問や疑問等には随時対応し、次回以降の授業に反映する場合もある。		
受講生に望むこと	本授業では、保育者としてふさわしい姿勢を身に付けるために、授業参加態度に関わる評価の割合を高く設定します。多くの文献に親しむ等、学習に対する意欲的取り組みに期待します。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/授業内で適宜紹介する			その他・特記事項	保育士資格に関連する授業ですが、幼稚園教諭免許に関する内容も多く含まれているため、幼稚園教諭免許取得希望者の履修も歓迎します。	
実務経験を活かした授業の概要						
保育者の成長過程、特に、初任者研修担当者として新任保育者が保育者として育つ過程に寄り添った経験をもとに、保育者が抱えやすい葛藤課題を考慮に入れながら、専門職としての保育者の職務とはいかにあるべきか、そのために必要な保育者としての姿勢について考える。						

授業科目名	EK151U 特別支援教育論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	谷 昌代・村井 万寿夫・田中 早苗 (代表教員 谷 昌代)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教職を目指す学生は、大学生活を通して保育、教育の現場で多様な子どもたちと実践的に関わる。本科目では講義、グループディスカッションを含むワークによって自身の育ちの過程での体験・ボランティア等で体験したエピソード、ビデオ映像を含む事例に対して「なぜ?」と考えることを積み重ね、「見えにくい障害」や「障害ではない特別の支援のニーズ」について知ることで、「異なる者」を受け入れる寛容性を育みつつ、子どもの姿から学ぶとする志向性が個々の支援の方法を見出させるものであることを知る。保育者・教師が陥りがちな障害に対する誤解と不適切な関わり、マニュアル的な対応の危険性について知り、個々の場面での対応を導く「その人理解」には、乳幼児期から成人までの長いスパンでの俯瞰的な視座と園・学校といった集団生活の場と合わせて家族等での姿までを顧み総合的視座が重要であることを理解する。</p>			<p>通常学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒について知る。発達障害者支援法によって園が障害として支援の対象とするに至った発達障害をめぐるとの現状を知り、専門家のみならず全ての人が支援の担い手であることを理解している。発達障害児・者が乳幼児期から成人までの成長の過程で体験する困難、生き辛さを知る。合理的配慮の概念について理解し、自閉症スペクトラム障害・注意欠陥多動性障害・学習障害を中心に学校における具体的な配慮と支援について個別支援計画を考えることができる。特別な支援を必要とする児者と共に生活する親や家族、更に保育者・教師が陥りやすい心情や状況について知り、家族支援やピアサポートについて理解している。特別支援教育の制度の実際を知り、学校・家庭・地域の空間的な広がりの中で、幼小・小中・中高の接続によって時間を越えて理解をつなげ、自立に向けて育ちをつなぐことの重要性を理解している。障害だけでなく、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児・児童・生徒がいることを理解し、育ちと学びにおける困難や必要な支援について理解している。</p>			
教授方法	講義・個人ワーク・グループワーク					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	発達障害という見えにくい障害に起因する生き辛さについて感覚過敏の事例から考える。					谷
2	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの集団生活について家庭生活との違いから考え、園・学校と家庭との連携の意味を考える。					谷
3	発達障害をもつ子どもと教師のコミュニケーション事例の分析から個別支援計画について考える。					谷
4	学校における合理的配慮と支援の方法：就学時の引継ぎの事例から、支援における学校間接続について考える。					谷
5	特別支援教育の歴史と現行の支援制度への展開から、学習指導要領がとらえる障害に対する今日的な見方を理解する。					村井
6	母国語や貧困の問題等が育ちと学びにもたらす困難と二次障害について知り、特別の教育的ニーズに対する保育者・教師による支援について考える。					村井
7	注意欠陥多動性障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中
8	支援とは：「支援しているつもり」のことは当事者の学びを育む支援となっているだろうか？大人にとって「都合がいい」ことを目標にしていないだろうか？					田中
9	自閉症スペクトラム障害：コミュニケーションの障害とは何か？語用論について理解する。					田中
10	自閉症スペクトラム障害：興味の偏りと発達凸凹がもたらす困難について考える。					田中
11	学習障害：その生活と学習における困難を知り、クラスに及ぼす影響とその結果として当事者にもたらされる自己イメージの問題について考える。					田中
12	二次障害：過剰適応からのウツと不登校問題をを中心に考える。					田中
13	自閉症スペクトラム障害を中心に発達障害をもつ子どもの親や家族が陥りやすい心情・状況を理解し、家族支援とピアサポートについて考える。					田中
14	障害に対する気づきと受容：発達障害者支援法誕生までの経緯や診断をめぐるとの現状から、保育・教育現場における家族と当事者の障害受容の支援について考える。					田中
15	インクルーシブ教育は、障害を持つ子どもたちのための教育理念ではない。多様性が受け入れられ、異なるものが共にあることで生み出される豊かさを全ての子どもたちとその周りの人たちが享受する教育理念であることを理解する。					谷
成績評価方法及び基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	40	用語・基本概念の理解 事例・エピソードからの読み取り 配慮・支援についての理解		ミニレポート 及び授業 内ワーク	30	求められた課題に対して、資料を活用し調べられていること。 求められ課題に対して自分なりの考えを記していること。
最終課題レポート	30	授業を通して学んだことを総合的に理解していること。 適切な資料によって調べていること。背景や理由を考え、自分なりの理解につなげていること。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>毎回、授業外学習の課題が提示されるので、ミニレポートとして提出する。 内容は 障害、発達、言葉、コミュニケーションに関する用語、基本概念について調べる。 支援に関わる法律や制度について調べる。 配布資料から障害をめぐるとの諸問題について読み取り、自分なりの考えをまとめる。 [30分～60分程度]</p>				<p>ミニレポートと授業内ワークに記された関心・質問に次回以降の授業内容で対応する。</p>		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもつ子どもやその家族の個人情報を扱う授業となるので、授業で得た情報の取り扱いには十分に注意してください。 ・返却されたミニレポートは授業で得る理解を受けて適宜補充し、自身の理解の深まりを反映させてください。 		教科書・テキスト	適宜 配布資料		
指定図書/参考書等	なし/参考図書、文献等は授業内で適宜紹介		その他・特記事項	授業外課題であるミニレポートは定期試験の持ち込み資料となるため、欠席時であっても授業外課題には取り組み、提出することを勧める。返却後には内容の訂正、補充を行い、管理すること。定期試験後には再提出を求め、最終評価の対象となる。		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>谷：幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、保育の現場で関わってきた気になる子どもや発達障がい児の事例を紹介し当該児の見え方や感じ方、援助について考えていく。 村井：特別支援学校や特別支援学級の教員と交流し、特別な支援を必要とする児童生徒の視覚教材や情報機器の活用について研究している。</p>						

授業科目名	EK220U 発達心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態 講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)・准学校心理士・認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
人間がどのような発達過程をたどるかを理解することは、保育や教育に携わるうえで重要な視点である。本講義では、発達心理学の具体的な成果をもとに、乳幼児期から青年期を中心に、人間の心理的発達のしくみについて学ぶ。			発達心理学の諸理論に関する基礎知識を答えられる。 生涯における心身の発達について答えられる。 各年齢期において達成されるべき発達課題を答えられる。 発達心理学の知見を踏まえ、乳幼児期から青年期の子どもに対する基本的な関わりについて考察できる。			
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問なのか。発達心理学を学ぶ意義を理解する。					
2	「発達」を考える：「発達を決めるのは遺伝か環境か」、「年をとるのは衰退か成熟か」などの疑問をもとに、人の「発達」について考える。					
3	「発達」を考える：人の発達において、各発達段階で達成しておくことが望まれる「発達課題」について理解する。また、発達課題と教育との関連について考える。					
4	胎児期～乳児期：お腹のなかにいる赤ちゃんに意識はあるのだろうか。生後間もない赤ちゃんはただ泣いているだけだろうか。胎児や新生児の発達と有能さについて理解する。					
5	胎児期～乳児期：赤ちゃんはどのように外界と関わっているか。乳児期の情動、認知、言語の発達について考える。					
6	胎児期～乳児期：対人関係の基盤となるものは何か。情緒的な絆である「愛着(アタッチメント)」について考える。					
7	幼児期：「ぼく・わたし」はいつ成立するか。子どもの言語発達や自己概念の成立について考える。					
8	幼児期：なぜ子どもにとって「遊び」は重要なのか。「象徴機能」や社会性の発達を通して考える。					
9	幼児期：子どもはどのように「賢く」なっていくか。幼児期における認知発達について考える。					
10	児童期：子どもの対人関係はどう変わっていくか。友人関係の展開を中心に、学童期の子どもが抱えやすい問題について考える。					
11	児童期：物事の善し悪しや思いやりはどのように育つか。学童期の子ども「道徳性」や「向社会性」の発達について考える。					
12	青年期：「人は二度生まれる」の二度目の誕生とは。青年期における身体と心の変化、周囲との関係の変化について考える。					
13	青年期：「自分らしさ」とは何だろうか。青年期の重要な発達課題とされる「自我同一性(アイデンティティ)」について考える。					
14	成人期・老年期：家庭を持ち親になることの意味、老いや病がもたらすもの、死を目前にした人間について考える。					
15	「発達障害」の理解と対応：発達障害は親のしつけや本人の性格が原因ではない。では、発達障害とは何だろうか。発達障害など非定型発達の基礎的な知識や考え方について理解し、適切な関わりを考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)。		定期試験	70	発達心理学の諸理論、発達課題、子どもに対する適切な関わりなど、授業で取り上げる内容の知識が獲得されていることが評価基準となる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、発達心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。 [50分] 発達心理学の低位領域・関連領域である「乳幼児心理学」「児童心理学」「青年心理学」「発達障害」などの参考書を用いて、知識を深める。			毎回のミニ・レポートについては、次回の授業のときに内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が今後の自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的に受講することを望みます。			教科書・テキスト	『問いからはじめる発達心理学』 坂上裕子・山口智子・林 創・中間玲子 有斐閣 2014年 ISBN:978-4641150133	
指定図書/参考書等	なし/『保育の心理学』本郷一夫・飯島典子編 建帛社 2019年 ISBN:978-4767950914、『発達心理学で読み解く保育エピソード』若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2010年 ISBN:978-4779302510、『エピソードでつかむ生涯発達心理学』岡本祐子・深瀬裕子編 ミネルヴァ書房 2013年 ISBN:978-4623065318、『エピソードでつかむ児童心理学』伊藤亜矢子編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:978-4623058259			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例をもとに発達課題などのテーマと関連づけて紹介し、子どもへの関わり方について検討する時間を設けている。						

授業科目名	EK230U 教育心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一・小一・中一（英語）・高一（英語）・准学校心理士・認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
教育心理学における主要な領域（発達、学習、評価、集団・適応）について講義する。本講義では、教育活動について心理学の視点から理解を深め、効果的な学びを促すにはどうすればよいかについて考える。			子どもの心身の発達過程を答えられる。 心理的発達の特徴を踏まえた上で、学習過程で生じる心理的メカニズムについて答えられる。 主体的な学習を支える集団づくりと集団への適応に関して正しい知識を答えられる。 教育活動の評価の意義および役割を答えられる。			
教授方法	講義を中心にワークなども取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：教育心理学は、どのような学問なのか。教育心理学の主な領域である「発達」「学習」「評価」「集団・適応」の概要と、教育心理学の研究方法を理解する。					
2	発達と教育「発達における教育の役割」：ピアジェやヴィゴツキーの発達理論を通して発達における教育の役割を考える。					
3	学習「学習理論」：学びはどのようにして生じるか。条件づけ理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
4	学習「学習理論」：学びはどのようにして生じるか。学習に関する様々な理論を通して、学習が起こるメカニズムについて考える。					
5	学習「学習と教授理論」：どのような教え方が効果的だろうか。さまざまな教授理論を比較しながら各教授法の特徴を考える。					
6	学習「動機づけ」：やる気はどこから生じるか。動機づけに関する研究を通して、学ぶ意欲について考える。					
7	学習「記憶」：学びの基礎になる記憶の理論を学ぶ。記憶に関する研究成果を紹介し、学習においてどのように活用できるか考える。					
8	学習「学習指導と個人差」：すべての子どもに同じ教え方でよいだろうか。教授方法と個人差との関係を通して、学習指導について考える。					
9	評価「パーソナリティ」：パーソナリティ（性格）とは何だろうか。パーソナリティに関する様々な理論を学び、パーソナリティを理解することについて考える。					
10	評価「知能」：知能とは何だろうか、どのように測定できるだろうか。知能に関する様々な理論と測定方法を学び、「知能が高い（低い）」とはどのようなことが考えられる。					
11	評価「教育評価」：教育評価とは何か、誰が誰の何を評価するのだろうか。教育評価の意義を理解し、教育における評価の役割を考える。					
12	集団・適応「学級集団」：学級は単なる個人の集まりだろうか。集団心理や成員間の相互作用などを通して、学級集団について考える。					
13	集団・適応「不登校・いじめ」：不登校やいじめの問題を通して、学校や学級集団への適応を考える。					
14	集団・適応「発達障害・精神障害」：発達障害や精神障害を抱えた子どもの学校や学級集団への適応を考える。					
15	集団・適応「学校カウンセリング」：学校や家庭において、子どもの心の問題にどのように取り組んでいくことができるだろうか。学校現場での心理支援活動について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
各回のミニ・レポート	30	講義内容に対する感想や意見を記述すること（講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい）。		定期試験	70	教育心理学の主要な内容（発達、学習、評価、集団・適応）に関する基礎知識が獲得されていることが評価基準。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業の前にシラバスで各回のテーマを確認し、教科書の当該箇所を読んでおく。 [30分] 授業の後に講義内容を復習するとともに、教育心理学に関する参考書で知識を広げ、理解を深める。[50分]			毎回のレポートについては、次回の授業時に内容に関する振り返りを行います。 試験については、希望者に次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	授業の内容が自らの実践にどのように活かすことができるかを考え、主体的な受講態度を望みます。			教科書・テキスト	『理論と実践をつなぐ 教育心理学』杉本明子・西本絹子・布施光代編 みらい 2019年 ISBN: 978-4860154653	
指定図書/参考書等	なし/『教育心理学』大村彰道編 東京大学出版会 1996年 ISBN: 978-4130520720、『教育心理学』下山晴彦編 東京大学出版会 1998年 ISBN: 978-4130520744、『スタンダード教育心理学』服部環・外山美樹編 サイエンス社 2013年 ISBN: 978-4781913254、『教育・学校心理学』水野浩久・串崎真志編 ミネルヴァ書房 2019年 ISBN: 978-4623086078			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
スクールカウンセラーとして関わった児童、生徒を参考にした事例（いじめや不登校など）をもとに、子どもへの関わり方や解決策について検討する時間を設けている。						

授業科目名	EK240U 初歩文献講読			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目では子どもを中心に置く、子どもの行動を観察することは易しい。行動として見て取ることができるからである。しかし、頭の中で何を考えているか、つまり、思考を把握することは難しい。さらに、思考を伸ばすことはもっと難しい。そこで、『子どものものの考え方』の文献を購読し、子どものものの考え方を発達に従って理解するとともに、子どもへのかかわり方についてレポート内容をもとに学生自身が考えることを中心に授業を展開する。</p>				<p>子どもの考え方に興味・関心を持っている。文献を購読して「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」の観点から三色ボールペンで書き込むことができる。自己の割当ての箇所(節)についてレポートを作成し、全体の場でレポートすることができる。子どもの考え方について「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」の観点から全体での議論に参加することができる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	はじめに 子どもの思考を知ることはなぜ大切か(子どもの考え方に興味・関心をもつ。)						
2	思考とはどういうことか 思考の意味(思考の意味について知る/担当によるレポート/議論する。)						
3	思考とはどういうことか 思考の種類(思考の種類について知る/担当によるレポート/議論する。)						
4	思考とはどういうことか 思考のはかり方(思考のはかり方について知る/担当によるレポート/議論する。)						
5	子どもの思考はどのように発達するか レポート/議論する。) 発達するとはどういうことか(発達するとはどういうことかについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
6	子どもの思考はどのように発達するか 思考の発達のすじみち(思考の発達のすじみちについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
7	子どもの思考はどのように発達するか 論理的思考の生まれるまで(論理的思考の生まれるまでについて知る/担当によるレポート/議論する。)						
8	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「いくつ」「何番目」という思考(「いくつ」「何番目」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
9	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「どれほど」「どれだけ」という思考(「どれほど」「どれだけ」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
10	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「どんな大きさ」「どんな形」という思考(「どんな大きさ」「どんな形」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
11	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「いつ」「何歳」という思考(「いつ」「何歳」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
12	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「たまたま」「おそらく」という思考(「たまたま」「おそらく」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
13	子どもの思考の「わくぐみ」はどうつくられるか 「なぜ」「どうして」という思考(「なぜ」「どうして」という思考について知る/担当によるレポート/議論する。)						
14	子どもの科学的思考をどう育てるか 科学的思考の指導(科学的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
15	子どもの科学的思考をどう育てるか 社会科的思考の指導(社会科的思考の指導について知る/担当によるレポート/議論する。)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	30	自己に割当てられた箇所(節)のレポートを指定の項目に従って作成し、提出している。			文献への書き込み	20	事前学習において文献に3色ボールペンを使い分けて書き込みしている。
議論への参加	30	レポーターのレポートをもとにグループ討議に進んで参加(発言)している。			期末レポート	20	学習のまとめとして、自己の考えをいくつかの観点からレポートにまとめている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>各回の授業の範囲(節)を事前に読み、該当ページ(行)にメモをする。メモの際、3色ボールペンを用いて、感想を3つ(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」)に分けて書く。[60分] 振り返しシートに各授業後の感想を観点(「知ったこと」「驚いたこと」「これからの子どものかかわりに生かせること」「その他」)に分けて書く。[15分] 分けて書いたことをもとに各回の感想を文章にまとめる。[15分]</p>				<p>自己に割り当てられた箇所(節)のレポートに対しての評価コメントを返す。 各回の授業での議論への参加は「教師評価」(先生による評価)によって行い、各回の授業の終盤で評価結果を返す。</p>			
受講生に望むこと	子どもの考え方が少しずつ分かってくると、子どもとかわることがもっと楽しくなります。子どものことをもっと知りたいと思う気持ちを大事にして受講してください。			教科書・テキスト	『子どものものの考え方』、波多野完治・滝沢武久著、岩波新書490、1963年出版、ISBN4-00-412121-3 絶版になっているため授業担当者が受講生分をネット購入して頒布する。		
指定図書/参考書等	なし/『子どもの認識と感情』、波多野完治著、岩波新書939、1975年出版、ISBN:4004121221			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
「子どものものの考え方」について、現在の小学校で使っている教科書を学生に示しながら、科学的思考の発達の段階について考えさせている。							

授業科目名	EK160U 日本国憲法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	土屋 仁美					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
憲法が自分たちの生活にどのように関わっているのかについて、実際に裁判となった事案や社会で議論されている事柄などをもとに学習します。現代社会を生きるうえで基盤となる憲法学的な視点や考察力を身につけることを目的とします。			憲法の役割と機能を理解する。 憲法の基本的な知識や論点を理解する。 個人情報のデータ化、性的マイノリティ、子どもの貧困といった身近にある問題に対して、憲法学的な観点から考察する力を身につける。			
教授方法	レジュメ、資料等を配布し、パワーポイントを用いて講義形式で行います。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	憲法とは何か? : 憲法の基礎知識について学びます。(授業の進め方と成績評価の方法について説明した後に、法と道徳の違い、法律と憲法の違い、日本国憲法の特徴について理解する。)					
2	日本国憲法がめざすもの : 日本国憲法の基本原理について学びます。(日本国憲法の基本原理(基本的人権の尊重、国民主権、平和主義)とその関係性について理解する。)					
3	平和に生きる : 平和主義、国際貢献について学びます。(前文と第9条から、平和主義と国際貢献、自衛隊について理解する。)					
4	「個」性のために : 個人の尊重、憲法上の権利について学びます。(基本的人権総論として、人権の種類、享有主体、適用範囲について理解する。)					
5	データ化された個人情報 : プライバシーの権利について学びます。(個人情報のデータ化に伴う問題点について、プライバシーの権利から理解する。)					
6	自分のことは自分で決める : 自己決定権について学びます。(医療分野の患者の意思について、自己決定権の観点から理解する。)					
7	すぐそばにある差別 : 法の下での平等、不合理な差別について学びます。(性的マイノリティに関わる裁判例をもとに、法の下での平等について理解する。)					
8	なぜ差別は起きるのか? : 「無意識の差別」について考える。(第7回の授業内容に基づき、具体的な出来事を通して憲法学的な考察力を向上させる。)					
9	胸の内にあるもの : 思想・良心の自由について学びます。(日の丸・君が代の強制の問題について、思想・良心の自由の観点から理解する。)					
10	信じていてもいなくても : 信教の自由について学びます。(信教の自由、政教分離の原則について理解する。)					
11	インターネットで広がる表現空間 : 表現の自由について学びます。(表現の自由の意義、内容とその限界について理解する。)					
12	規制緩和の表と裏 : 職業選択の自由について学びます。(経済的自由に対する規制目的と審査基準について理解する。)					
13	どうする? 子どもの貧困 : 生存権について学びます。(社会権の原則的な権利である生存権について、子どもの貧困の観点から理解する。)					
14	教えること、いじめのこと : 教育を受ける権利について学びます。(教育を受ける権利の内容と「いじめ」について理解する。)					
15	基本的人権をまもるために : 権力分立と立法、行政、司法の役割について学びます。(権力分立の目的と現代的変容、立法、行政、司法の役割について学びます。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	25	授業内容の理解度について評価します。	期末試験	70	授業内容の基本的な知識や論点の理解度についての評価します。試験の詳細については、授業内で指示します。	
小レポート	5	基礎的な知識に基づいて、具体的な問題に対する考察力について評価します。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習として、教科書の該当箇所を事前に読んで、授業に臨むことが望まれます。[20分] 教科書の該当箇所は、第1回目の授業時で指示します。事後学習として、その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。[30分]			小テストの答え合わせは、講義中に行います。学習意欲の促進と理解度の向上を図ります。			
受講生に望むこと	日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。授業内容に関連する出来事については、授業内で積極的に取り上げます。自身の生活とのつながりを意識しましょう。		教科書・テキスト	『基本的人権の事件簿——憲法の世界へ』、第6版、棟居快行・松井茂記・赤坂正浩・笹田栄司・常本照樹・市川正人著、有斐閣、2019年、ISBN 978-4-641-28147-9		
指定図書/参考書等	なし / 『図録 日本国憲法』、斎藤一久・堀口悟郎編、弘文堂、2018年、ISBN 978-4-335-35761-9		その他・特記事項	授業の際には、第1回目の授業時に配布する日本国憲法の条文を持参してください。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK270U 異文化間コミュニケーション論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	高島 彬					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
異文化コミュニケーションには他者理解が必要である。自己の視点に依存することなく、他者の視点や考えを理解することで、もの見方と捉え方の多様性を知ることができる。他者の考え方を理解することは、自己の視野を広げることにつながる。この授業では、自己の「あたりまえ」に囚われることなく、異文化を持つ他者の視点を取り込むことで文化に対する考え方を再考することを目的とする。			<ul style="list-style-type: none"> ・異文化コミュニケーションを学ぶ意義・重要性を理解する。 ・ことばさまざまな側面を深く理解することにより、異文化と自文化の共通性と差異を再考する。 ・文化背景の異なる人々との共生を身近なものとして考えることができる。 			
教授方法	ディスカッション、ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：異文化コミュニケーションをいかに学ぶか					
2	ことばによるコミュニケーション：言語と文化の関係について基礎知識を身につける					
3	ことばによるコミュニケーション：ことばの含み、コミュニケーション・スタイルについて理解を深める					
4	ことばによるコミュニケーション：ポライテネスについての理解を深める					
5	ことばのないメッセージ：ノンバーバル・コミュニケーションについての理解を深める					
6	ことばのないメッセージ：身体動作、ジェスチャー、アイコンタクトについての理解を深める					
7	ことばのないメッセージ：アサーティブ・コミュニケーションについての理解を深める					
8	常識と固定観念：美德、価値観に関する知識を習得する					
9	常識と固定観念：ステレオタイプ、クリティカル・シンキングについての理解を深める					
10	常識と固定観念：差別について考えるための知識を身につける					
11	異文化受容：カルチャーショック、異文化受容における5つの段階についての知識を得る					
12	異文化受容：メタ認知、自己開示についての理解を深める					
13	異文化受容：国際化、グローバル化についてディスカッションを行うことで異文化理解についての理解を深める					
14	発表（プレゼンテーション）と総評					
15	発表（プレゼンテーション）と総評					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
課題レポート	50	1500字程度のレポートを課す。テーマ、書き方、✓切等は授業で指示する。	参加態度	10	ディスカッションへ積極的に参加し、テーマについて理解を深めようとしているかどうかを評価する。	
発表（プレゼン）	30	異文化コミュニケーションについて関心のあることをまとめて、発表してもらう。レジュメを用意すること。詳細は授業でお知らせする。	コメントシート	10	事前事後の学習および授業のコメントを提出してもらう。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事後に体験レポートなどを課す。[30～40分]			提出されたレポートは、次回以降の授業で返却をする。質問は授業中、授業の前後およびオフィスアワーに受け付ける。			
受講生に望むこと	さまざまなアクティビティやグループディスカッションの機会を設けるため、受講生には授業への積極的な参加を期待する。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・『異文化理解入門』原沢伊都夫（著） 研究社 2013年（ISBN: 978-4327377342） ・『異文化トレーニング』八代京子・町恵理子・小池浩子・吉田友子（著） 三修社 2009年（ISBN: 978-4-384-01243-9） 		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK280U 児童文学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
本講義は、明治期以降の日本における児童文学を、定義、諸分野、歴史的流れといった視点から概観する。また、作品を輪読したり、精読したりすることでそれらが持つ特性や魅力について考察し、日本児童文学史上における位置づけと意義を明らかにする。また、受講生同士が毎回のブックトークを通して児童文学をより身近に感じ親しむ。なお、授業の中で児童文学とキリスト教との関連についても触れる。				明治以降の児童文学の流れを理解し、分かりやすく説明ができる。児童文学作品に対する調査研究の方法を修得する。児童文学作品の持つ特徴や作品価値について、分かりやすく説明ができる。			
教授方法	講義およびブックトーク						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、児童文学の定義について理解する。						
2	「子ども観」をキーワードに、ヨーロッパにおける児童文学と日本の児童文学の歴史を概観する。						
3	「神話・伝説・民話」をキーワードに、伝承文芸の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
4	「偉人だけが偉いのか」を主題として、歴史物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
5	「行って帰る」構図を中心に、冒険物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
6	「小さい子を対象にした作品は短いほうがよいのか」という主張を中心に、幼年童話の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
7	「少年少女にとっての家族・学校」をキーワードに、少年少女小説の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
8	「動物は観るものなのか、飼うものなのか、食べるものなのか」を主題として、動物物語の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
9	「戦争児童文学はなぜ反戦児童文学ではないのか」を主題として、戦争児童文学の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
10	「絵本の発祥は西洋か、日本か」を主題として、絵本の歴史を理解し、代表的な作品を読み解く。						
11	「このファンタジーと向こうのファンタジー」を主題として、ファンタジーの特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
12	「わらべうた、唱歌、童謡はどう違うのか」を主題として、童謡の特徴を理解し、代表的な作品を読み解く。						
13	『君たちはどう生きるか』が漫画化された、アニメ化された』を主題として、漫画及びアニメーションの特徴を理解し、原作、漫画、アニメ作品を比較検討する。						
14	「大人に利用される児童文学」を主題として、児童文学や教科書が社会的問題に利用された事例や危険性について理解する。						
15	全体のまとめ						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	20	授業内容理解に努め、毎回指定された箇所及び作品を読んでいる。		ブックトーク	30	各自で設定したテーマに従って児童文学作品を複数冊紹介する。	
レポート	50	ブックトークで紹介した作品について、それぞれが持つ特徴や魅力についてレポートにまとめる。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
指定された箇所及び作品を読む。[30分] 担当回までにブックトークの準備を行う。[60分]				ブックトークについて、事後にコメントし、レポート作成へのアドバイスを行う。			
受講生に望むこと	子どものために書かれた作品は幅広く奥深い。作品は通読するだけでなく、自分なりに課題意識をもって読むこと。			教科書・テキスト	『アプローチ児童文学』関口安義編 翰林書房 2019年 ISBN: 978-4877372576		
指定図書/参考書等	なし / 『児童文学の教科書』川端有子 玉川大学出版部 2013年 ISBN: 978-4472404634 『児童文学論』リリアン・H・スミス 岩波現代文庫 2016年 ISBN: 978-4006022822			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EK290U 郷土の文学を楽しむ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
石川県は、金沢の三文豪をはじめ散文韻文ともに数多くの作家を輩出している。本講義では、小説やエッセイのみならず、短歌・俳句・川柳・自由詩なども紹介しながら「郷土の文学の楽しみ方」を提案する。ただ、担当教員が地元ゆかりの文学作品を紹介するだけでなく、受講生が金沢市内の文学館・博物館や文学碑を巡るフィールドワーク、朗読会への参加、調査研究や創作発表を通して体験的に郷土の文学を学び、より身近に感じる。			石川県ゆかりの作家や作品について理解し、わかりやすく説明することができる。 フィールドワークによって、テーマに沿って金沢市内の文学館や博物館を巡り、作品や作家をより身近に感じることができる。 自分の深めたい作品作家について研究し、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。			
教授方法	テキストとプリントを併用した講義、フィールドワーク、朗読会、研究発表会					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、成績評価方法などの説明を行った上で、受動的態度から能動的態度をもって文学に関わる楽しさについて考える。					
2	江戸期以前の文学：歌枕として親しまれて、さまざまな古典文学に登場する北陸の地について理解する。					
3	江戸期の文学：松尾芭蕉、加賀千代女、勸進帳などを取り上げ、近世文学に登場する北陸の地について理解する。					
4	金沢の三文豪：泉鏡花の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
5	金沢の三文豪：徳田秋声の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
6	金沢の三文豪：室生犀星の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
7	加賀の作家と作品：加賀出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
8	加賀の作家と作品：加賀出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
9	能登の作家と作品：能登出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
10	能登の作家と作品：能登出身ゆかりの詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
11	金沢の作家と作品：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
12	金沢の作家と作品：金沢出身ゆかりの作家の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
13	北陸学院の作家と作品：北陸学院ゆかりの作家詩人の生涯と作品の特徴について理解する。代表的作品を読み解く。					
14	詩の朗読会：自作の詩を持ち寄り、朗読会を開く。					
15	研究発表会：これまでの学びをさらに発展させ、各自が研究成果を発表する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	講義内容、感想や考察などをコメントペーパーにまとめる。		朗読会	30	自作の短編・詩の創作と朗読を行う。
研究発表会	40	研究した内容について、独自の手法で成果を報告する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回、指定された箇所を読み、内容を把握する。〔30分〕 各自、半日から一日をかけて金沢市内の文学館・博物館・文学碑を巡るフィールドワークを行う。〔180分～240分〕				毎回の冒頭に、前回提出されたコメントペーパーの内容を紹介しコメントする。		
受講生に望むこと	この機会に郷土の文学に触れてほしい。他学科生の履修も歓迎する。			教科書・テキスト	なし。適宜プリントを配布する。	
指定図書/参考書等	なし/『ミリアニア 石川の近代文学』金沢近代文芸研究会編 能登印刷出版 2001年 ISBN: 978-4890103898			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES201U 英語学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 言語を学ぶとはどういうことか、英語ということばの輪郭と背景を身近なところから考え、ことばのもつさまざまな側面のうち、ことばの変化、音、語彙・基本的な文構造についての基礎を学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語学についての基本的知識を身につける。 ・英語という言語の発音・発音とスペリングの関係・形態論・変化などについて基礎知識を身につける。			
教授方法	講義					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、 高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション:「英語学」を学ぶとはどういうことかを知る					
2	ことばの起源と語族について概観する					
3	人間のことばの特質と言語研究の概要を英語を中心に学ぶ					
4	さまざまな言語研究の方法を知り、分析的観点で英語を捉える					
5	英語の発音とスペリングの仕組み、記述方法、法則性を理解する					
6	英語の語彙の多様性について理解する					
7	標準英語の成立について知る					
8	英語のバリエーション、世界の英語について、現在の英語をめぐる状況とともに知る					
9	第二言語としての英語、外国語としての英語について知る					
10	ことばの変化、英語の歴史的変化を概観する					
11	ことばと音声の関係を理解する					
12	音の組み合わせとアクセントの仕組みや法則性を理解する					
13	単語ができる仕組みを理解する					
14	形態論と形態素、語形成の概念を知り、理解を深める					
15	英語の文の基本的な構造を理解する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。		定期試験	70	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。[50分] ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。[40分]			返却時に行う			
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。		教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する		
指定図書/参考書等	開講時に指示する		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES301U 英語学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の選択科目である。(子ども教育学科Cコースの学生にとっては必修科目である。) 「英語学概論」で学んだことを基礎に、ことばのもつさまざまな側面のうち、英語の文の構造、意味の捉え方、意味拡張、ことばと認知/社会/文化/コミュニケーションとの関係について言語使用の観点から学ぶ。			・英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な、さまざまな側面からの英語学的知見を身につける。 ・英語という言語の統語論・意味論・語用論・社会と言語の関係・文化と言語の関係を理解する。 ・講義の中で学んだことを踏まえて、日本の英語教育と今日の英語について概観し、今後の方向性や課題について考えることができる。			
教授方法	講義					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、「英語学概論」を履修済みが望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	英語の文の構造を理解する					
2	ことばの意味とはどのようなことかを理解する					
3	語と語の関係について学ぶ					
4	意味拡張とはどのようなことかを理解する					
5	ことばの意味に見られる主観性について理解する					
6	ことばの意味とコンテキストについて考える					
7	まとまりのある文章とはどのようなものか理解する					
8	文章中の情報構造を理解する					
9	ことばのやりとりにおけるルールがあることを理解し、使ってみる					
10	協調の原理と関連性理論について理解する					
11	コミュニケーションの民俗誌を概観する					
12	ことばと文化の関係を英語を例に考える					
13	ことばと社会の関係について、具体例を挙げながら考える					
14	ことばと国家の関係について、具体例を挙げながら考える					
15	日本の英語教育と今日の英語について理解し、課題意識をもつ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加度・理解度、毎回の課題	30	質問をする、言語資料を示す等、講義内容に対して積極的に取り組んでいるか。毎回課題とともに講義終了時に書いて提出するリフレクションの内容。		定期試験	70	講義内容の理解度
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・日常的に英語学習を行い、さまざまな英語の実例に触れておくこと。 ・テキストの該当部分を予習する。同様の実例を収集しておく。[50分] ・講義内容に照らし、日本語と対照してみる。また関連する英語学関係の書籍を読む。[40分]				返却時に行う		
受講生に望むこと	・日常的に英語に触れ(聞く・話す・読む・書く)、英語に親しむ。 ・日頃から英語・日本語を問わず「ことば」に関心を持つと良い。			教科書・テキスト	『はじめての英語学<改訂版>』 長谷川瑞穂編著 大井京子他著 2014年 研究社 ISBN: 978-4327401658 ・他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	開講時に指示する			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES210U 英語音声学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。 音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 日本語とは異なる英語のリズム、音体系について理解する。 英語の子音を中心に、調音点・調音法に留意しながら正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。 			
教授方法	講義と演習					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、小学校教諭一種免許状取得希望者、高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション: 「音声学」ではどのようなことを学ぶのかを知る					
2	英語のリズムと日本語のリズムを比較しながら理解する					
3	調音器官とは何かを知り、体験的に理解する					
4	調音点にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
5	調音法にはどのようなものがあるかを知り、体験的に理解する					
6	破裂音(1) 破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	破裂音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
8	摩擦音(1) 摩擦音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
9	摩擦音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
10	破裂音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
11	鼻音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
12	側音の仕組みを知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
13	接近音(1) 接近音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
14	接近音(2) 前回の理解を踏まえて、日英語対照の観点から注意すべき発音を体験的に学ぶ					
15	まとめ 英語の子音体系を調音との関係から振り返りまとめ、英語らしい発音で英文を読む					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく。[40分] ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする。[50分]				返却時に行う		
受講生に望むこと	・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。			教科書・テキスト	『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 他に必要教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES310U 英語音声学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)の「教科及び教科の指導法に関する科目」の内、「英語学」の必修科目である。英語音声学、に引き続き、音声言語としての英語の特徴を理解し、コミュニケーションに必要な英語音声の基礎を理論と実践で学ぶ。			<ul style="list-style-type: none"> ・英語音声学 に引き続き、英語コミュニケーション能力を育成する英語教員に必要な英語音声学についての基本的知識を身につける。 ・英語の母音を中心に、正しい発音のしかたを理解し発音できるようにする。 ・語強勢やイントネーションなど英語のプロソディについて基礎知識を身につける。 ・「英語音声学」、「英語音声学」で学んだことを踏まえて、平易な英文を英語らしい発音で読むことができる。 			
教授方法	講義と演習					
履修条件	中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)取得希望者、 小学校教諭一種免許状取得希望者、 高校英語までの基本的理解ができていること(英検準2級相当以上)が望ましい。「英語音声学」を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	「英語音声学」で学んだ子音、接近音の中で特に注意すべき発音を確認する					
2	英語の母音体系について概観する					
3	前母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
4	後母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
5	中母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
6	二重母音の仕組みと種類を知り、単音として及びコンテキストの中で発音する					
7	語強勢と句強勢について学び、ストレス・パタンに注意して発音する					
8	シラブルとは何かを学び、英語のシラブル構造を具体例の発音とともに理解する					
9	機能語と内容語の区別を知り、文強勢にどのような影響するかを発音練習を通じて理解する					
10	強形と弱形について学び、リズムに注意した発音練習を通じて理解する					
11	連結とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
12	脱落とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
13	同化とは何かを学び、実例を発音しながら仕組みを理解する					
14	イントネーションの仕組みと意味を学び、練習を通して理解を深める					
15	まとめ プロソディの重要性を確認し、英語らしい発音に留意して英文を読み、自己の発音についての課題を把握する					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	単元の理解度		音声実技	20	講義で学んだことが実際の英語発音として実現できているか
定期試験	60	講義内容の理解度				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト該当箇所を予習してくる。その課に出てくる語句で未知語があれば、辞書で調べ、意味を理解しておく[40分]。 ・付属CDで何度も練習し、モデル音声に近づける努力をする。その際、最後にはテキストを見ないで、聞いた音声をシャドウイングできるようにする[50分]。 				返却時に行う		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・平日頃から英語に接し(聞く・話す・読む・書く)、英語力の維持・向上に努める。 			教科書・テキスト	『Basic English Pronunciation for Japanese』 染谷正一 2000年 三修社 ISBN: 978-4-384-33308-4 他に必要な教材は適宜配布する	
指定図書/参考書等	なし/『A Course in Phonetics 6版』 Peter Ladefoged, Keith Johnson著. 2010年. センゲージ ISBN: 978-1428231276			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES220U 言語教育のための英文法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。</p>			<p>英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力を習得する。) 中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。現在形にはどのような種類があり、単純現在形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を用いることができるようになる。					
2	単純現在形と現在進行形の文構造の違いを理解し、「動作動詞」と「状態動詞」の区別ができるようになること。また、その区別を意識しながら、適切な場面や文脈で現在進行形の文を用いることができるようになる。					
3	単純現在形と現在進行形の意味的な違いを理解し、aspect(相)の概念を把握できるようになる。また、英語には「進行相」と「完了相」があることを説明する。					
4	単純現在形と現在進行形で用いられる動詞の違いを理解し、それぞれの場面に応じて単純現在形と現在進行形のいずれかを、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
5	過去形にはどのような種類があり、単純過去形とはどう違うのかを理解し、適切な場面や文脈で単純現在形の文を用いることができるようになる。規則動詞と不規則動詞を振り返り、単純過去形の疑問文や否定文を適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
6	動作動詞や状態動詞の概念を振り返り、単純過去形と過去進行形の違いを理解し、過去進行形を用いて適切な場面や文脈で用いることができるようになること。					
7	現在形における現在完了形の位置づけを理解し、時間的な意味の特徴を確認しながら、適切な場面や文脈で用いることができるようになること。ここでも aspect(相)の概念を振り返り、英語特有の表現方法を知る。					
8	現在完了形と過去形との違いを理解する。特に現在完了形は過去形ではないことを再確認し、「現在と何らかの関係」があることを理解する。just, already, yet などとともに、適切な場面や文脈で現在完了形を用いることができるようになる。					
9	現在完了形と過去形との違いを教科書の図を用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。また、「過去の時を指定する語句」と現在完了形が共起しないことを理解し、適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
10	現在完了形と現在完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で現在完了進行形を用いることができるようになる。					
11	現在完了進行形と単純現在完了形との違いを教科書のイラストを用いて、動作の完了や継続を意識しながら意味を理解できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、know, like, believe などの例外を理解する。					
12	現在完了形とHow long ~?の共起関係を理解し、過去形とWhen ~?の共起関係との違いを理解する。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
13	過去形と過去完了形の違いを理解し、特に後者の「基準点」の概念を把握できるようになる。また、時間的な意味の違いを時間軸の中で理解できるようになる。また、それぞれを適切な場面や文脈で用いることができるようになる。					
14	過去完了形と過去完了進行形との違いを教科書のイラストを用いて、時間的な意味の違いを把握できるように説明する。ここでも、「動作動詞」と「状態動詞」の違いを意識しながら、適切な場面や文脈で過去完了進行形を用いることができるようになる。					
15	全体のまとめを行い、教師という教える立場で文法の功罪をディスカッションし、後期「言語教育のための英文法」へのモチベーションを高める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] 予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[50分]</p>				<p>小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。</p>		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2016 ISBN-13: 978-4889969238	
指定図書/参考書等	なし / 『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2019 ISBN-13: 978-4304051784			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
<p>中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、文法用語を極力使用せずにわかりやすい説明を心掛けている。</p>						

授業科目名	ES320U 言語教育のための英文法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>文法とはコミュニケーションを取るために、当該言語使用者間で共有されている言語の規則である。授業では、ねらいとする文法項目を特定の場面で情報を正しく理解・発信するためにどのように用いるべきかを学び、その知識を言語教育にどう活かすかを考える。</p>			<p>英語科教員が英語指導で必要とされる文法事項を単なる知識ではなく自然な文脈の中で使用できるようになること。(具体的にはCEFR B1~B2(実用英語技能検定2級~1級)程度の力を習得する。) 中学生や高校生にとって理解しやすい文法の説明方法の基礎を習得する。</p>			
教授方法	受講者の中学・高校での学習歴を確認しながら未習得な項目に焦点を当て、できるだけ口頭作業を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: 授業の進め方、評価方法を説明し、英語教育における文法指導の功罪について説明し、望ましい文法指導のあり方をディスカッションする。英語で未来を表す表現にはどのような種類があり、現在進行形と単純現在形では、どのような未来を表すかを説明し、適切な場面や文脈で単純現在形や現在進行形の文を未来を表す表現として用いることができるようになる。					
2	現在進行形とbe going toを用いた未来表現の違いを理解し、is going to と was going to の違いを考える。その際、「確実に予想できる未来」の概念を把握できるようになる。また、その概念を意識しながら、適切な場面や文脈で be going to を用いることができるようになる。					
3	法助動詞will(1): 動詞によって表される状態や出来事に対する話し手・書き手の態度を示す働きがあることを理解し、will の他にどのような法助動詞があるか考える。また、will には提案、承諾、要請、約束、依頼などの状況で用いられることを理解し、状況を判断しながら、will を用いることができるようになる。					
4	法助動詞will(2): 法助動詞として未来を予測する働きがあることを理解する。will と I expect, I'm sure, I think, I guess, I wonder などの共起関係では、文全体に「丁寧さ」が加味されることを意識しながらwill を用いることができるようになる。					
5	will と be going to : この二つの未来表現の違いは話し手が何かを決心する時点の違いにあることを説明する。その説明を基に例文を黙読しながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill や be going to の違いが確認できるようになる。					
6	will be -ing と will have done : この二つの未来表現の違いは未来の一時点における動作の始まりや完結を表すことにあることを説明する。その説明を基に例文を見ながら意味の違いや話し手の心の様子を察してみる。また、長文の中でwill be -ing やwill have done の意味や場面の違いが確認できるようになる。					
7	時や条件を表す副詞節内の時制 : 時を表すwhen節内ではwill を用いないことを説明し、その理由を考えてみる。また、時を表す副詞節には、他にどのような例があるかを考えてみる。同様に条件節内でも同じことが起こることを確認する。以上のことを踏まえ、when, as soos, as, if などを英文に用いることができるようになる。					
8	法助動詞can : can の過去形のcould はその意味が必ずしも過去形にならないことを説明し、be able to や manage to との関係を理解する。また、could と「知覚や思考に関する動詞」共起関係及びcouldn't を用いた否定文の用法を理解し、それぞれを英文に用いることができるようになる。					
9	could do と could have done : ここではまず初めに、過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明する。後者の意味から、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを説明する。また、could do の過去はcould have done の形になることを理解する。					
10	必然性や推量を表すmust : must には過去形がないことを確認し、必然性や推量の意味を表す場合の過去は、must have done の形をとることを説明する。また、可能性の意味を表すcan't とcouldn't の違いを考えながら、それぞれを英文に用いることができるようになる。					
11	法助動詞may : may の過去形might の意味が過去形にならないことを説明する。ここでも 過去形には「時間的な過去」と「心理的な過去」の二つの用法があることを説明し、can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。					
12	may と might : 推量の意味を表すmay の過去は may have done, また might の過去はmight have done になることを説明する。また、may とmight には大きな意味的な違いがないことを理解する。					
13	shall とshould : shall と should の関係、should とought to の違いを説明する。その説明から、must, will, ought to, should, can, may, might, could の順で話し手の話の内容の可能性が低くなることを復習する。					
14	仮定法過去 : 過去形の二つの用法を振り返り、「時間的な過去」と「心理的な過去」の概念を把握できるようになる。また、仮定法過去では、現実には起こりえないことを想像するということを説明し、実際に仮定法過去の英文を用いることができるようになる。					
15	仮定法過去完了 : 仮定法過去を復習し、ここでは事実とは異なる「過去の出来事」に焦点を当てることを説明する。仮定法過去完了を用いた文構造や意味について、教科書の例文を通して確認し、実際に用いることができるようになる。					
成績評価方法及び基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	毎回の授業内容を理解できているか。		試験	50	基本的な英文法の知識を習得しているか。
授業参加状況	20	文法理解のためのアイデア提供やそれに対する意見・質問を発しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>毎回の授業内容に該当する、教科書の関連ページに目を通してから授業に臨んで下さい。[30分] 予習・家庭学習課題を指定し、その中から次回の小テストを出題しますので必ず準備すること。[50分]</p>				<p>小テストや試験の結果については、問題ごとにその出題の意図や定着度について授業中にコメントする。 小テストの前に質問タイムを設けるので積極的に質問すること。</p>		
受講生に望むこと	教科書の例文や、授業中に提示した例文は少なくとも5回は声に出して繰り返しましょう。 最後は、英文を見ないでボソボソとでもよいので言ってみましょう。			教科書・テキスト	『マーフィのケンブリッジ英文法(中級編)』 Raymond Murphy著 ケンブリッジ大学出版 2016 ISBN-13: 978-4889969238	
指定図書/参考書等	なし / 『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2018 ISBN-13: 978-4304051692、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂出版 2019 ISBN-13: 978-4304051784			その他・特記事項	前期「言語教育のための英文法」よりも進度が早くなるので計画的に予習を心がけること。	
実務経験を活かした授業の概要						
<p>中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき(特に文法)とその対応策を大学の授業に生かしている。また、学生自身の文法力をメタ認知させるよう心掛けている。</p>						

授業科目名	ES250U コミュニケーション・イングリッシュA			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）・高一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
世界の若者のインタビューを基にした教材を用いて、毎回1つのテーマを取り上げ、リスニング・リーディングで内容を理解し、インタラクティブ・アクティビティを通じて自分の考えをスピーキング、ライティングで表現する。また、絵やプレゼン・ソフトを活用し物語や説明文をわかりやすく導入・展開する技能を身に付ける。				様々なトピックについてリスニング、スピーキングを中心とした活動を通じて内容理解・得た情報・表現を用いて、簡潔に自分の考えを英語で話したり書いたりできるようにする。 聞き手を意識した話し方を身に付け、英語で自問自答したり、即興で説明したり、質問したりできるようにする。			
教授方法	リスニングコンプリヘンション・プレゼンテーション・ストーリーテリング						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション；授業の進め方・小テストの進め方 英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成の意味を理解し、自らのモチベーションを高める今後の学習計画を展望できる						
2	アメリカの大学生の「休暇」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方）						
3	ニュージーランドの大学生の「子供の時の経験」を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法）						
4	ブラジルの大学生の「余暇」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法）						
5	スコットランドの大学生の「食べ物や飲み物」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）						
6	オーストラリアの大学生の「旅行」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（桃太郎）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）						
7	北アイルランドの大学生の「教育」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かくや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）						
8	イタリアの大学生の「ファッション」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かくや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（話の切り出し方と展開方法、及び即興による話の続け方）						
9	日本の大学生の「海外生活」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かくや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション）						
10	ウェールズの大学生の「職業観」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かくや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション・質疑応答）						
11	アメリカの大学生の「健康」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できる日本の昔話（かくや姫）を聞き手を意識しながら、視覚教材を用いて説明できるようになる（即興による話の続け方、聞き手とのインタラクション・質疑応答）						
12	中国の大学生の「社会変化」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history について）						
13	イギリスの大学生の「学生生活」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby について）						
14	アメリカの大学生の「芸術」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby と personality について）						
15	サウジアラビアの大学生の「ショッピング」に関する考え方を英語で聞き理解し、理解したことに對して、4技能の統合的活動を通じて、英語で発信できるプレゼンソフトを用いて、英語の自己紹介ができるようになる（personal history と hobby と personality と future dream 及び質疑応答 について）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
ストーリーテリング	30	学習したトピックについて4技能を統合的に身に付けているか。			小テスト	40	各回のトピックスについて4技能を統合的に身に付けているか。
プレゼンテーション	30	4技能を統合的に活用してプレゼンテーションができるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各回の授業の復習〔30分〕 次時の小テストの準備〔20分〕				随時行う			
受講生に望むこと	積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすること。 また、そのための練習方法を身に付けること。			教科書・テキスト	『World Interviews: Improving Listening and Speaking Skills』 Miles Craven著 成美堂 2006 ISBN 978-4-7919-4587-0		
指定図書/参考書等	参考図書：『Presentations to Go』 Noboru Matsuoka, Hiroko Miyake, Takashi Tachino著 センゲージ ラーニング株式会社 2013年 ISBN: 978-4-86312-264-2			その他・特記事項	この授業では、人前で英語を話すことに慣れ、即興性を生かしたコミュニケーション力を養成する。		
実務経験を活かした授業の概要							
中学・高等学校の教員の経験をもとに、現場で実際に起きた生徒のつまずき（特に発表活動）とその対応策を大学の授業に生かしている。また、プレゼン用ソフトを用いた、発表活動を取り入れている。							

授業科目名	ES340U コミュニカティブ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「コミュニケーション・イングリッシュA」に続いて、中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者が英語教員として必要な高度な英語運用力を習得するための必修科目である。Bでは、毎回、身近で興味深いテーマについてリスニング・リーディングを通じて賛否両論を知り、様々な練習問題を通じて理解を深めた後、自分の考えをスピーキング・ライティングで表現する。基本、授業はすべて英語で行う。</p>			<p>・様々なテーマについての賛否をリスニング・リーディングを通じて内容理解できる。 ・得た情報・表現を用いて簡潔に自分の考えをスピーキング・ライティングにより発信できる。 ・得た情報・表現だけでなく、新たな情報を加えて、自分の主張に説得力を持たせて発信できる。</p>			
教授方法	演習					
履修条件	基本的には中学英語教員、小学校教員取得を目指す者、すべて英語で行う授業に見合う英語力を有する者「コミュニケーション・イングリッシュA」を履修した者(単位未修得可)が望ましい					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション・アイスブレイキング					
2	Unit 1: 大学生の住生活をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
3	Unit 2: 学生の勉強場所をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
4	Unit 3: 高校の制服をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信してみる					
5	Unit 4: 成人式をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
6	Unit 5: コンビニエンスストアをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
7	Unit 6: 元号をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
8	Unit 7: ポイントカードをテーマに4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
9	Unit 8: スマートフォンのタイプやマナーをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
10	Units 9-10: 旅行・海外研修をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
11	Units 11-12: 観光・異文化をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
12	Units 13-14: 季節行事をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
13	Units 15-16: 海外の慣習・お祭りをテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
14	最新科学技術をテーマに、4技能の統合的活動を通じて、理解し発信する					
15	これまでのテーマから1つを選びプレゼンテーション					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度	30	授業の中でテーマについての発言など貢献ができているか	英文エッセイ	20	学んだテーマについて正しい英語で論理的に組み立てたエッセイが書けているか	
プレゼンテーション	10	自分が設定したテーマについて、新しい情報や自分の考えを加えて英語プレゼンテーションができているか	テスト	40	授業で学んだ様々なテーマについて内容や表現を理解し、自分のことばとして使えるか	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>毎回授業で扱う課の英文を読み、すべてに解答を記入した上で授業に臨む。[45分] 毎回宿題の英文エッセイを仕上げ、次回授業開始時に提出する。[45分] スピーチやプレゼンテーションの回は、各自原稿、スライド、発音など準備をする。[60分]</p>			<p>毎回課題の英文エッセイについては、次回までに添削して返却。スピーチ、プレゼンについては、授業内で相互評価、自己評価とともに教員からコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	毎回、異なるテーマについて英文を読み、聞き、それを土台にしてスピーキング、ライティングで表現することを着実に積み重ねていこう。授業中は、細かい文法にこだわるより、自身の意見を英語で声に出すことが大事なので、そのためにも予習は十分に話す内容を用意しておくこと。		教科書・テキスト	Johnathan Lynch・倭文光太郎著 『Two Sides of Every Discussion 2』2020年 成美堂 ISBN: 9784791972104 その他ディスカッションを深めるために必要な資料は適宜配布する		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES260U 英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校及び高等学校教諭一種免許状(英語)を取得しようとする者にとって必修科目である。英語教育の目的と目標を明確にし、英語教師として必要な英語教育についての基礎知識を学ぶ科目である。また、これまで学習してきた「英語」について、教える立場から捉える第一歩であり、広く外国語を学ぶことの意義や日本の英語教育、英語教師の役割等について考える。(子ども教育学科Cコース、Bコース必修科目)</p>			<p>英語教育の目的、特に今日のグローバル化時代における英語教育の目的を理解する。 コミュニケーション能力の育成とはどのようなことかを理解する。 日本の外国語教育の歴史を学習指導要領の変遷を含めて振り返るとともに、学習指導要領のめざすものについて理解する。 英語教師に求められる資質・知識・技能について理解する。 主な英語教授法について実演も行いながら理解する。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、発表					
履修条件	中学校教諭一種免許状(英語)取得を目指す者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション 教育実習で必要とされる知識・技能・態度について知る					
2	自分の受けてきた英語教育をふりかえる(英語教育目的論と教師論の導入)					
3	国際化時代の英語の役割(目的について考える)					
4	国際化時代の英語の役割と世界の英語教育、DVD等メディア教材、電子黒板、インターネットを活用した指導					
5	コミュニケーション能力の育成について					
6	日本の英語教育をふりかえる(1) 外国語との接触から1980年代まで					
7	日本の英語教育をふりかえる(2) グローバル化とコミュニケーションの時代の英語教育					
8	学習指導要領(1):これまでの学習指導要領をたどる					
9	学習指導要領(2):現在の学習指導要領がめざすもの					
10	学習指導要領(3):英語教員に求められていることを考える					
11	主な英語教授法(1):文法訳読法等					
12	主な英語教授法(2):直接的口頭重視指導法					
13	主な英語教授法(3):コミュニカティブ教授法					
14	教授法・ICTを含む指導技術の変遷(LLからCALL、NBLTまで)と今後の展望をもとに今日求められている英語教師論について考える					
15	まとめ 今日求められている英語教育について					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況・ディスカッション	20	関連資料にあたるなど積極的に英語教育について知識を得た上で授業に積極的に取り組んでいるか		課題	30	講義内容に関連した課題を指示に従って仕上げているか
期末テスト	50	「英語教育法I」で学んだことが正しく理解し、自分のことばで表現できているか				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>次回授業内容について下調べをして関連資料にあたる[50分] 課題がある時には、関連図書にあたるなどして課題をまとめる。[40分] 中学英語教員に求められる英語運用力をつけるため毎日英語多読図書、リスニングなど英語学習を進める。[30分]</p>				<p>課題にはコメントを付して返却し、注目すべきものについては授業中にも全体ディスカッションの中で取り上げる。</p>		
受講生に望むこと	<p>中学英語教員を目指す学生は、絶えず自身の英語力を高める努力を続けること。 英語教育にとって何が重要かを絶えず考えたり、良い実践に触れる機会を作る。</p>			教科書・テキスト	<p>・高梨庸雄・高橋正夫著. 2012. 『新・英語教育学概論[改訂版]』. 東京: 金星堂. ISBN: 978-4764739475 ・『中学校学習指導要領解説 外国語編』. 2018. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051692</p>	
指定図書/参考書等	<p>なし/中学校英語教科書(図書館所蔵)。学習指導要領、その他については開講時に指示する。・『高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説 英語編』2019. 文部科学省. 開隆堂出版. ISBN: 978-4304051784</p>			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES265U 英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)・高一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
英語科教育法Iに引き続き、英語コミュニケーション能力の育成に必要な知識と技能を学ぶ。小テーマにより、15～20分程度の模擬授業を実践しながら指導法や指導技術を習得する。			英語科教育法 で学んだ知識をもとに、学習指導要領の目標とする英語指導に必要な知識と技能を身につける。 聞き手や学習者を意識した、理解しやすい英語の話し方や導入方法を身に付け、実践できる。 英語授業の指導手順を理解し、それぞれの段階でどのような指導法・指導技術があるかを考えられるようになる。			
教授方法	講義・演習・模擬授業・ディスカッション					
履修条件	中学校の英語教員免許取得希望者で英語科教育法 を履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法Iを踏まえ、各自に不足している英語教師としての資質をディスカッションを通して、客観的に把握することができる。					
2	一斉授業型の一般的な英語授業の指導手順を理解し、中学校と高等学校の違いを理解する。また、それぞれのタイプの指導の留意点を理解する。指導手順としての、warm-upの具体例を挙げ、留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
3	英語授業における「復習」の目的と具体例を理解する。また、特に「聞くこと・話すこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
4	英語授業における「復習」の「読むこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に取り入れることができる。					
5	英語授業における「復習」の「書くこと」の領域に関するもの」の具体例を挙げ、その目的や留意点を述べるができる。また、模擬授業に「書くこと」を取り入れるにはどのような配慮が必要かを考えてみる。					
6	一般的に、授業における「新教材の導入」には帰納法と演繹法の二種類があることを説明し、英語授業への具体的な応用例を説明する。日本の英語教育では、前者を優先してきたことを説明し、現在は後者も見直されている経緯に触れる。英語授業の帰納法と演繹法の具体例を挙げるができる。					
7	英語授業における「新教材の導入」には二種類あることを説明し、H.E. Palmer とC.C.Friesの導入法を紹介する。それぞれの目的や留意点を比較しながら、述べるができる。					
8	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業(1)を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師の話す英語のaccuracy が大切なことを理解する。					
9	英語の授業における「文法・文構造の導入」について、模擬授業(2)を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインタラクション が大切なことを理解する。					
10	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業(1)を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では生徒の話す英語のfluency が大切なことを理解できる。					
11	英語の授業における「題材の導入」について、模擬授業(2)を行う。この際、板書計画を綿密に立てることが授業成功への近道であることを説明する。また、特に英語授業では教師と生徒のインタラクション が大切なことを理解する。					
12	英語授業の指導手順をskill-getting とskill-using の観点から再検討してみる。また、英語の口頭練習としてのパタン・プラクティスの功罪を理解し、近年の外国語教育の有力な考え方を理解する。					
13	英語のテキスト用いた発展練習についてその具体例を説明し、それぞれの留意点を話し合う。また、発展練習としてのコミュニケーション活動には「タスク性」が必要であることを理解する。					
14	英語の授業におけるデジタル機器を用いた「文法・文構造の導入」及び「題材の導入」について考える。アナログ式の授業との違いや留意点を話し合い、学校現場への応用を考える。					
15	英語授業の指導手順を整理し、生徒の発達段階や学習レベルに応じて、どのような指導手順や指導法を用いるかを中学校と高等学校別に考え・整理し発表する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
毎回の小テスト	30	各単元の予習を前提に小テストを行うので、基本的な内容を理解しているか。		試験	50	各単元の基礎及び4技能の活動例を理解しているか。
授業参加状況	20	グループワークや模擬授業後のディスカッションに積極的に参加しているか。他の学生の模擬授業の際に学んだ知識を自分の模擬授業に活用しているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
中学校・高校の授業を積極的に参観すること。〔60分〕 (例)金沢大学附属中学校教育研究発表会(11月開催予定) 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会(11月開催予定)				返却時に行う		
受講生に望むこと	実際に授業を参観して、「授業を観る目を養う」こと。講習会や研究に参加して、積極的に意見を発すること。			教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』高梨庸雄他著 金星堂 2011 ISBN 978-4-7647-3947-5、	
指定図書/参考書等	なし/中学校英語教科書、『高等学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 ISBN:未定、『中学校学習指導要領解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 978-4-304-05169-2『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』文部科学省 開隆堂 2018 ISBN-13:978-4-304-05168-5			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
中学校教員の経験をもとに、中学校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。						

授業科目名	EL100U コミュニケーション・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	マシュー ボッシュ・エリック モーニン (代表教員 マシュー ボッシュ)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will learn everyday English communication through practicing short conversations.</p> <p>2. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where topics will be presented and studied in English.</p>			<p>The goals of this course are as follows:</p> <p>1. Memorize adaptable everyday conversations and other short passages in English.</p> <p>2. Improve in the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through class activities.</p> <p>3. Gain confidence in the use of English.</p>			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	none					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to course					
2	Everyday Conversation 1					
3	Everyday Conversation 2					
4	Everyday Conversation 3					
5	Everyday Conversation Review					
6	Presenting in English: mini-course A, part 1					
7	Presenting in English: mini-course A, part 2					
8	Presenting in English: mini-course A, part 3					
9	Everyday Conversation 4					
10	Everyday Conversation 5					
11	Everyday Conversation Review					
12	Presenting in English: mini-course B, part 1					
13	Presenting in English: mini-course B, part 2					
14	Presenting in English: mini-course B, part 3					
15	Everyday Conversation Review					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly Assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing.	Attendance and Effort	40	Class attendance and effort in classroom activities	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. Review material each week from previous class (50 minutes)</p> <p>2. Review material from previous lessons (30 minutes)</p>			Feedback will be given as needed following pair work assignments.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書/参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	none		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL110U プラクティカル・イングリッシュ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	マシユー ボッシュ					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will learn practical English communication through practicing short conversations.</p> <p>2. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where topics will be presented and studied in English.</p>			<p>The goals of this course are as follows:</p> <p>1. Memorize adaptable practical English conversations and other short passages in English.</p> <p>2. Improve in the four skills (listening, speaking, reading, and writing) through class activities.</p> <p>3. Gain confidence in the use of English.</p>			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	none					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to course					
2	Practical Conversation 1					
3	Practical Conversation 2					
4	Practical Conversation 3					
5	Practical Conversation Review					
6	Presenting in English: mini-course A, part 1					
7	Presenting in English: mini-course A, part 2					
8	Presenting in English: mini-course A, part 3					
9	Practical Conversation 4					
10	Practical Conversation 5					
11	Practical Conversation Review					
12	Presenting in English: mini-course B, part 1					
13	Presenting in English: mini-course B, part 2					
14	Presenting in English: mini-course B, part 3					
15	Practical Conversation Review					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing	Effort and Attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>1. Review material each week from previous class (50 minutes)</p> <p>2. Review material from previous lessons (30 minutes)</p>			Feedback will be given as needed following pair work assignments.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書/参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	This course builds on EL100U Communication English.		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL120U キッズ・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	木村 ゆかり・キャサリン シュリーヴズ (代表教員 木村 ゆかり)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーション力や英語力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。			<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に幼稚園や小学校の子どもたちに英語を使う場面を想定し、それに対応できる基本的語彙 (numbers, colors, body parts, things around us, the alphabet等々) を英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。 			
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション					
2	U1 The School Year Begins (新学期・園の人々・園舎)					
3	U2 Arrival (登園・家族)					
4	U3 Playtime in the Classroom (室内あそび・欠席の連絡)					
5	U4 In the Sandbox (外あそび・遊具)					
6	U5 In the Playground (園庭・けんか)					
7	U6 Lunchtime (昼食・献立表)					
8	U7 Changing Clothes and Story Time (着替え・おはなし)					
9	U8 Nap Time (トイレ・お昼寝)					
10	英語絵本の読み聞かせ練習					
11	英語絵本の読み聞かせクラス内発表					
12	英語絵本の読み聞かせ合同発表(前半・後半クラス)					
13	U9 Blowing Bubbles (生き物・身体の名詞)					
14	U10 A Sick Child (感情表現・緊急連絡)					
15	アクティビティ(歌、ゲーム、チャンツ、発音など)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。		小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。		期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] 復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN: 978-4384333992	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL125U キッズ・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	木村 ゆかり					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「キッズイングリッシュA」に引き続き、幼稚園や小学校での具体的な場面を想定した、ペアワーク、グループワークなどの多様な活動を通してコミュニケーション力なかに英語力の養成を図り、外国人の子供が入園・入学した場合に子供や保護者とのコミュニケーションが図れることを目指す。また会話力とともにCDを用いたリスニング能力の向上、幼稚園や小学校で特に必要性が高いと思われる表現・語彙の習得に努める。</p>			<p>・「キッズイングリッシュA」で学んだ子どもたちの基本的語彙(numbers, colors, body parts, things around us, animals, family, the alphabet等々)をさらに増やし、英語らしい発音で使える。 ・実際に英語で歌やゲームなどができる。 ・自分の選んだ一冊の絵本を、子どもたちとやりとりしながら英語で読み聞かせができる。</p>			
教授方法	講義と質疑応答形態を中心に行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	U11 Preparation for the Sports Day (行事の案内状・電話連絡)					
2	U12 The Sports Day (運動会・動作)					
3	U13 Going for a Walk (散歩(1)・地図)					
4	U14 Discovering Autumn (散歩(2)・交通)					
5	アクティビティ(歌、ゲーム、チャンツ、発音など)(1)					
6	U15 Drawing & Letter Writing (お絵かき・お手紙書き)					
7	U16 Lunchtime (雪の日・工作)					
8	U17 Leaving for Home (降園・お知らせ)					
9	U18 School Diary (連絡帳・乳児室)					
10	英語絵本の読み聞かせ練習					
11	英語絵本の読み聞かせクラス内発表					
12	U19 Bean-Throwing Day (家庭調査書・園行事(1))					
13	U20 With Thanks for a Wonderful School Year (園だより・園行事(2))					
14	映画鑑賞(外国の子育て事情について学ぶ)					
15	アクティビティ(歌、ゲーム、チャンツ、発音など)(2)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況など	20	ペアワークやグループワークなど、授業への積極的な参加を評価する。		小テスト	20	基本的語彙の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
課題	30	英語絵本のレポート、英文の連絡帳やお便りの作成、英語絵本読み聞かせ発表など、授業内で指定する。		期末テスト	30	授業の理解度をチェックする。範囲は授業内で指定する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
予習では、指定された単語や表現を事前に辞書で調べ、しっかりと頭に入れておくこと。[20分] 復習では、単語や例文の音読の練習をすること。[20分]				課題は翌週に返却し、フィードバックを行う。		
受講生に望むこと	ペアワークやグループワークなど、積極的に授業に参加すること。課題の提出期限を守ること。			教科書・テキスト	『新・保育の英語』森田 和子著 2010年 三修社 ISBN:978-4384333992 キッズ・イングリッシュAと同じ	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL130U シブ・ル・イング・リッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	中野 聡・高島 彬 (代表教員 中野 聡)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目では、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、平易な英語を使いながら英文法(ことばの仕組み)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>自分のこと、身近な話題について、平易な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 自分のこと、身近な話題について、平易な英語を用いて書いて発信することができる。 平易な英語を運用するのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: クラスルール・教員紹介・学生自己紹介・授業の進め方等					
2	Unit 1: はじめまして Warm-up、 pair work、 Reading、 文型					
3	Unit 1: はじめまして Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
4	Unit 2: レシピを見よう Warm-up、 pair work、 Reading、 自動詞と他動詞					
5	Unit 2: レシピを見よう Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
6	Unit 3: いつも何しているの? Warm-up、 pair work、 Reading、 現在形と頻度					
7	Unit 3: いつも何しているの? Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
8	Unit 4: 何を持って行きますか? Warm-up、 pair work、 Reading、 名詞と代名詞					
9	Unit 4: 何を持って行きますか? Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
10	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Warm-up、 pair work、 Reading、 前置詞					
11	Unit 5: あなたの理想の部屋は? Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
12	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Warm-up、 pair work、 Reading、 助動詞					
13	Unit 6: 目指そう! 健康生活 Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
14	Unit 7: 旅に出よう Warm-up、 pair work、 Reading、 不定詞と動名詞					
15	Unit 7: 旅に出よう Listening、 Assignment確認、 Wriring & Speaking、 小テスト					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか		小テスト	20	各Unitで学んだことを身につけているか
定期試験	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題((Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				小テスト返却時など、随時行う		
受講生に望むこと	オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。授業には辞書を持参すること。			教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
中野: 小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。						

授業科目名	EL135U シンプル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	中野 聡・高島 彬 (代表教員 中野 聡)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、「シンプル・イングリッシュA」に引き続き、これからの社会で子どもの保育・教育に関わる際に基本的な英語によるコミュニケーションが図れるようその基礎を養成する。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングと4技能統合型のさまざまな活動を行い、英語を使いながら英文法(ことばの仕組み)の基礎を固め、各ユニットのトピック・テーマについて自分の考え・意見を発信できることを目指す。</p>			<p>身近な話題について、明快な英語で相手に伝えたり、相手の話していることが理解できる。 自分のこと、身近な話題について、適切な英語を用いて書いて発信することができる。 英語でコミュニケーションを図るのに必要な英文法の基礎を身につける。</p>			
教授方法	演習(ペアワーク、グループワーク、role-play、発表、プロジェクト)					
履修条件	なし					
授業計画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション クラスルール・授業の進め方・課題等の確認 Unit 8: パーティを開こう! Warm-up、 pair work、 Reading、 現在分詞					
2	Unit 8: パーティを開こう! Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
3	Unit 9: 割れた窓? Warm-up、 pair work、 Reading、 過去分詞					
4	Unit 9: 割れた窓? Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
5	Unit 10: スポーツをしよう Warm-up、 pair work、 Reading、 現在完了形					
6	Unit 10: スポーツをしよう Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
7	Unit 11: フリマでお買い物 Warm-up、 pair work、 Reading、 形容詞と比較					
8	Unit 11: フリマでお買い物 Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
9	Unit 12: レポートの提出 Warm-up、 pair work、 Reading、 関係代名詞					
10	Unit 12: レポートの提出 Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
11	Unit 13: どこに住んでいるの? Warm-up、 pair work、 Reading、 「それは」と訳さないIt					
12	Unit 13: どこに住んでいるの? Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
13	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Warm-up、 pair work、 Reading、 仮定法					
14	Unit 14: 宝くじが当たったらなあ Listening、 Assignment確認、 Writing & Speaking、 小テスト					
15	Unit 15: Review Test、 これまで学んだトピックから一つを選びスピーチ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	20	毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に参加しているか。教員が指示する課題・タスクに積極的に取り組んでいるか		小テスト・Review Test	20	各Unitで学んだことを身につけているか
定期試験	50	学習した語彙や文法の定着度や内容把握・理解・運用力等がついているか。		スピーチ	10	選んだトピックについて聞き手に分かりやすい英語でスピーチできているか
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>授業は予習を前提に進められる。単語(発音・意味)や題材について下調べし、テキスト内容を確認し、練習問題(Assignmentを含む)の解答を書いて、授業に臨むこと[40分]。不明な点は授業中に質問すること。 授業後はもう一度内容を確認しながら音読するなど復習して、定着を図ること[20分]。</p>				小テスト返却時など、随時行う		
受講生に望むこと	<p>オリエンテーションで説明されるクラスルールを守ること。 課題提出(予習・復習等の課題がほぼ毎回出され期日を守って提出すること)等をきちんと守ること。 授業に集中し、積極的に参加すること。特にペアワークやグループワークではチームに貢献すべく積極的な態度で臨むこと。 授業には辞書を持参すること。</p>			教科書・テキスト	JACET教材開発研究会.2015年.『English Locomotion参加して学ぶ総合英語』.成美堂. ISBN: 9784791933839 シンプル・イングリッシュAと同じ	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
中野: 小中学校での経験を生かして4技能統合型の様々な活動を通して総合的なコミュニケーション能力を効果的に育成するための指導をしている。						

授業科目名	EL200U スピーチ&ドラマ		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	アンソニー ダガン					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業では、人前で英語を話せるようになるためのスキルを学ぶ。テキストのToday's Menu, Warm-Up, Presentation Skills, Language focus, Practice Activitiesのタスクをしながら、各Unitの終わりのProjectで少しずつ人前での発表に備えていき、第8回、第14回にはクラスの前での発表を行う。このように実際に使いながら確かな英語力を育てていく。			<ul style="list-style-type: none"> 人前で自分の考えや調べたことを英語でもはっきりと伝えようとする。 相手に伝えるための英語表現だけでなく、視線、ジェスチャーなどノンバーバルな要素にも気を配ることができる。 課題のスピーチやミニドラマなどを個人で、またクラスメートと協力して準備し、発表をする。 			
教授方法	演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラス・イントロダクション(概要、授業の進め方、クラスルール、自己紹介など)					
2	Unit 1: Getting Started ささまざまな活動の後、自己紹介をする					
3	Unit 2: Voice 活動を通して、聞き手に伝わりやすい声の出し方を学ぶ					
4	Unit 3: Gestures 活動を通して、ジェスチャーの効果的な使い方を学ぶ					
5	Unit 4: Q & A Skills 人前で話した後の質疑応答について学ぶ					
6	Unit 5: Visualsと並行して、有名なスピーチなどを視聴し、感想を述べ合う					
7	Unit 6: Rehearsalこれまで学んだことを振り返りながら、スピーチの練習をする					
8	Unit 7: On Stage スピーチと相互評価					
9	Extra Skill Unit 1: Group Brainstorming ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容について					
10	Extra Skill Unit 2: Group Outline, Phrases ミニドラマ発表に向けてグループ活動 流れ、表現など					
11	Extra Skill Unit 3: Group Script ミニドラマ発表に向けてグループ活動 内容の確定					
12	Extra Skill Unit 4: Group Practice ミニドラマ発表に向けてグループ活動 練習					
13	Extra Skill Unit 5: Group Rehearsal ミニドラマ発表に向けてグループ活動 リハーサル					
14	Group Mini-Drama グループ・ミニドラマ発表					
15	Group Mini-Drama グループ・ミニドラマ発表予備日、振り返り					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	30	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業に予習して臨んでいるか 授業のさまざまな活動に積極的に取り組んでいるか 		スピーチ	30	<ul style="list-style-type: none"> スピーチに向けての準備、練習に自主的に取り組んだか スピーチの内容・発表・相互評価
グループ・ミニドラマ	40	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力してミニドラマを準備、練習、発表したか ミニドラマの内容・発表・相互評価 				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> 次回授業に向けて予習、発言準備など[40分] スピーチに向けての準備、原稿、発音練習など[60分] グループでのミニドラマに向けての準備、原稿、練習など[70分] 				随時		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> 毎回、次回のための課題が出るので準備して授業の臨む。 恥ずかしがらずに、元気に取り組み、大きな声ではっきりと英語を話そう。 			教科書・テキスト	Tomoko Sugihashi, Mark Christianson & Kota Ohata. Effective Presentation Skills for Beginners. 2015年.朝日出版社. ISBN: 9784255155661 他に必要な教材は適宜配布	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	スピーチ、ミニドラマの形態や内容については教員の指示に従うこと。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL205U イクステンション・リーディング			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
英語コミュニケーション力をつけるには、平易な英語で書かれた文章や物語をたくさん読むことが推奨されている。この授業では、クラスでテキストを実際に直読直解をしながら速読・多読の仕方を身につける一方、各自がEasystarts(基本200語を知っていれば読める)からLevel 6(3000語)までの多読用図書から、自分の関心・英語力に応じて選んだ本を読み、感想などを添えて読書記録をつける。また、読んだ本の中から1冊を選び、その本について英語で紹介する。(子ども教育学科Cコース・Bコース必修科目)				意味を類推しながら直読直解(頭の中で日本語に訳すことなく、読んだ部分ごとに理解していく)を心がけるようになる。 多くの多読用図書から自分の関心や英語力に合わせて読む本を適切に選択できる。 読んだ本について、タイトル・レベル・ページ数・評価・感想を記録し、目標の累計ページ数を達成する。 読んだ本の中でもっとも気に入った本について、英語で紹介することができる。			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション(クラスルール、速読・多読について、本の選択の仕方、読書記録のつけ方、到達目標など)						
2	Unit 1: The Dog Walkerを用いて、pre-reading活動から内容予測して読む、Q&Aやリスニングで理解確認する						
3	Unit 2: Interview with a Paramedicを用いて、pre-reading活動から内容予測して読む、Q&Aやリスニングで理解確認する						
4	Unit 3:The Video Game Testerを用いて、pre-reading活動から内容予測して読む、Q&Aやリスニングで理解確認する						
5	Unit 4: The Trainee Chefを用いて、pre-reading活動から内容予測して読む、Q&Aやリスニングで理解確認する 多読記録確認						
6	Unit 5:Working on Oil Platform, Unit 6: The Hippopotamusを直読直解式に読み、理解する						
7	Unit 7: Amazing Travelers, Unit 8: The Animals of the Camargueを直読直解式に読み、理解する						
8	Unit 9: the Leafy Sea Dragon, Unit 10: Racing across Snow and Iceを直読直解式に読み、理解する						
9	Unit 11:Learning a Musical Instrument, Unit 12: Class Orchestraを直読直解式に読み、理解する						
10	Unit 13:Rock Schoolを直読直解式に読み、理解する 多読記録確認						
11	Unit 14: An Ancient Music Instrument, Unit 15: Music Therapyを直読直解式に読み、理解する						
12	Unit 16: Guatemala, Unit 17: The Moldivesを直読直解式に読み、理解する						
13	Unit 18: The Maori, Unit 19: Russiaを直読直解式に読み、理解する						
14	Unit 20: Monaco "The Book I Recommend"スピーチの準備						
15	"The Book I Recommend"スピーチ 多読記録最終提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況及び小テスト	50	(発表・タスク・小テスト等) 毎回の授業に予習して臨み、授業に積極的に取り組んでいるか 学習内容確認の小テスト			多読図書及び読書記録	40	各自選択した多読図書を読み進めたか 一冊ごとに読書記録を適切につけているか 目標累計語数を達成しているか
スピーチ	10	推薦する本についての内容紹介を、聞き手に伝わるように英語でスピーチできているか					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業内容の予習。[30分] 多読用図書を選び、読み、記録を付ける[40分] 推薦する本のスピーチに向けて、本の内容紹介、自分の感想などを適切な表現でスピーチ原稿の草案を作る。修正点を修正し、発表準備をする。[60分]				随時行う			
受講生に望むこと	適切なレベルの本を選んで、辞書なしで読むやり方での多読を心がける。(意味の確認などをした場合は、区切りまで寄り終わってから辞書で確認するとよい。) 図書館などの多読用図書を用いるので、丁寧に扱い、貸出・返却のルールを守ること。			教科書・テキスト	Gillian Flaherty, James Bean, 原田慎一 『Break Away 1最新速読演習-基礎編-』2017年.成美堂. ISBN: 978-4791960217 多読用図書は図書館、English Center所蔵		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	・授業でとりあげるテーマは変更する場合もある。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EL210U トパル・イグリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
近年ますます身近になってきた海外旅行。さらに日本を訪れる訪日外国人 数も益々増加している今日、あらゆる場面で想定される旅行英語や日本を 紹介する英語に触れる機会も多くなってきている。この授業の目的は、実 際の場面で想定して行われる観光分野における英語の基本的知識を学習 することにより旅の過程で遭遇する英語表現を身につけていく学習をす ることにある。具体的には、(1)旅行基礎英語、(2)英語圏はじめ世界の国々の文 化事情、(3)ケーススタディ(旅行業務の実際)について学習する。			観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。 聞き取りや理解力を強化し、英語での応答力を習得する。 観光地の英文記事の内容を理解できる力を習得する。 日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう体感していく。			
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレー・プレゼンテーション(一人・グループ)を取り入れる。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、日常生活の中で身近に感じる海外の国々、興味がある国々について話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。(異文化と英語の必要性を理解する。)					
2	Unit 1: At the airport 空港内で必要な語彙を学ぶ。航空機搭乗案内を聞き取る。E-ticket内容の英語表現を読む。(航空便搭乗手続きに必要な語彙を覚える。)					
3	Unit 2: On the plane 機内で使用する語彙や表現を学ぶ。機長のアナウンスを聞き取る。機内で上映される映画のプログラムを読む。(座席番号他機内で想定される英語表現を学ぶ。)					
4	Unit 3: Arrival 到着後入国審査に進み、預けた荷物を受け取り、到着ロビーへ進む一連の流れを英語で学ぶ。(入国審査手続きでの英語のやりとり、荷物の紛失、税関申告、到着ロビーに向かう流れを学ぶ。)					
5	Unit 4: Checking in at the hotel 宿泊ホテルチェックインでのフロントでのやりとり、宿泊設備の確認、朝食のスタイル・内容を理解する。(予約確認、宿泊条件など確認すべき事柄とそれらの英語表現を言えるようにする。)					
6	Unit 5: Getting information and sightseeing 観光地見学先の情報を得る。(観光情報を得るために自ら英語で聞きたいことを質問する練習を行う。気温で摂氏と華氏の換算方法を学ぶ。)					
7	Unit 6: Ordering fast food ファストフード店での注文方法や飲食物の語彙を学ぶ。(カタカナ英語を英語の音で発音する、メニュー内容と値段を聞き取る練習を行う。)					
8	Unit 7: Going to the theater 映画、コンサート、ミュージカル、オペラ、バレエなどエンタテインメントの表現を学ぶ。(国名、都市名を英語で書き、発音を練習する。)					
9	Unit 8: At the restaurant レストランの予約を入れる、注文をする表現を学ぶ。(レストランでのやりとりをロールプレー形式で行い、食事を注文する練習を行う。)					
10	Unit 9: Shopping ショッピングとセール案内を理解する。(いろいろな状況が想定されるなか、特に清算時に起こりうるおつりのまちがえにクレームする表現を学ぶ。)					
11	Unit 10: Lost and found 忘れ物と紛失物がでた場合、報告書と報告内容を記入することを学ぶ。(万一ハプニングに遭遇しても、どのような対応をすべきかシミュレーションを行う。)					
12	Unit 11: Using public transportation 旅先で公共交通機関を使用する際に必要な語彙を学ぶ。(駅、フェリー乗り場、路面電車、路線バスなどを利用して自分の足で歩く基本表現を学ぶ。)					
13	Unit 12: Renting a bike 自転車を借りる。契約内容の読み取りや申込み書記入方法を学ぶ。(交通ルール、マナー、日本と違う点を調べる。)					
14	Unit 13: Finding your way around 道を尋ねる、道に迷った場合の英語表現を学ぶ。(聞きたいことを的確に伝えられるか明確に英語で表現することを学ぶ。)					
15	Unit 14 Medical care & 15: Leaving for home 海外で病気になった時の英語表現、帰国の途につく。まとめ(簡単な医療英語や病状の言い方を学ぶ。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。		定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日掲示する。
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。		発表	20	英語の運用力がついているか評価する。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。[30分] 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。[30分] 付属CDを聞いて履修項目の復習をする。[10分]				小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。 課題は、提出後に授業内で口頭にてコメントする。 発表は、実施後次回内容に関するコメントを配布する。		
受講生に望むこと	身の回りに旅に関する知識や情報を得られる機会は多くある。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。 授業中の携帯電話、スマートフォンを辞書として使用禁止とする。 授業内での私語・携帯電話の使用・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。			教科書・テキスト	『Enjoy Your Trip! English you need abroad 旅英語の心得』 竹内 一範・中井 延美・菅原 千津著 南雲堂 2015年 ISBN:978-4-523-17783 B-783 511675	
指定図書/参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ベイツ ホッフアー著 三修社 2005年 ISBN-10:4384040717、『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10 4004307406、『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10:4388152005			その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級~2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題(英語)への手がかりとする。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL220U トバル・イグリップB			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本科目は、国内外の観光地について地理・交通・名物料理・旅行全般に関する観光英語の基礎を習得する。毎回1つの目的地を扱い、英語での聞き取り、読み取りを行う。旅行の過程で遭遇する事柄や英語表現を学ぶとともに、日本の観光地はじめ世界の国々の文化事情、旅行業務の実際について考察する。</p>				<p>観光分野で主に使用される英語の語彙を習得する。聞き取りや英文の理解力を強化し、英語での応答力を習得する。観光英語の基礎知識を学ぶ。日本語と英語二か国語がより迅速にinputとoutputなるよう体感していく。</p>			
教授方法	テキスト学習の上、ロールプレー・ペアワーク・プレゼンテーション（一人・グループ）を取り入れる。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	ガイダンス：授業の内容、進め方、成績評価について説明し、海外の国々、日本についても話し合いながら、旅と英語の関わりについて考える。（英語を通して日本文化への興味をもつ。）						
2	Unit 1 Japan Hokkaido 英日、日英、語彙のチェック、パンフレット内容を確認する。（key wordを聞き取るディクテーション練習を行う。）						
3	Unit 2 Japan Kyoto e-mailを敏速に読み内容を把握する。（寺・神社など日本文化事象に関する英語表現を学ぶ。）						
4	Unit 3 Japan Yufuin e-mailで返事を出す内容の表現を学ぶ。（実際に返事メールを英語で書いてみる練習をする。）						
5	Unit 4 Japan Okinawa レストランガイドを読み内容を把握する。（郷土料理を英語で紹介する練習をする。）						
6	Unit 5 Singapore ホームページの空港ガイド、チャンギ国際空港の英語案内を読む。（出入国カードを英語で記入する練習をする。）						
7	Unit 6 Bali, Indonesia ツアーパンフレットを読み、エコツーリズムについて学ぶ。（旅行会社の英語パンフレットの内容を理解できるようにする。）						
8	Unit 7 Sydney, Australia シドニー湾クルーズの広告内容の読み取りを行う。（南半球の地ならではの表現を知ると共にウォータースポーツの英語語彙を学ぶ。）						
9	Unit 8 Hawaii, the USA "Aloha State" ハワイの紹介文を聞き取る。（火山など自然に関する英単語を学ぶ。）						
10	Unit 9 London, the UK ロンドンの公共交通機関、簡単な紹介をディクテーション形式で聞き取る。（ロンドンならではの乗り物など、関連する英単語を学ぶ。簡単なレジユメの書き方を学ぶ。）						
11	Unit 10 France e-mail文（クレーム文）の内容を読み取る練習をする。（ツアー参加者からのクレームの具体的内容は何か、英文を明確に把握する。（英文内容を、詳細に読み取ることを学ぶ。）						
12	Unit 11 Museums in Europe 7か所の博物館・美術館を英文でたどってみる。（中でも有名な展示物を挙げ作品・作者を英語で紹介できるように練習する。）						
13	Unit 12 New York, the USA Broadwayのミュージカルレビューを読む練習をする。（大きな数の数字を言える書ける練習を行う。）						
14	Unit 13 Boston the USA スポーツに関する問い合わせのメールの表現を学ぶ。（丁寧なお願い表現を使うように、英文の中からそれらの表現を探し出し、実際に例文を作成してみる練習を行う。）						
15	Unit 14 Canada & Rio de Janeiro, Brazil ハンドブックとガイドブックを読み取る練習をする。まとめ。（受動態表現を用いた婉曲的な表現を学ぶ練習をする。）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	20	各履修単元の内容が理解できているか筆記試験を実施する。			定期試験	40	試験範囲、形式、評価基準等は後日掲示する。
授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢。			発表	20	英語の運用力がついているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>テキストの次週授業単元の学習内容に目を通しておくこと。指定された項目の単語を事前に調べておく。〔30分〕 英語科目の他メディア媒介を利用して世界情勢、観光情報など知識を得ておく。〔30分〕 履修項目の英単語。英語表現の見直しをする。〔10分〕</p>				<p>小テストは実施後回収、採点した上で次回授業時にコメント返却する。 課題は、提出後に授業内で口頭にてコメントする。 発表は、実施した後内容に関するフィードバックする。</p>			
受講生に望むこと	身の回りのあらゆるところに旅に関する知識や情報を得られる機会にあふれている。好奇心をもって国内外のことに目を向けるよう心掛ける。 授業中のスマートフォンの使用は指示以外は使用禁止とする。 授業内での私語・居眠りなどの受講態度が認められた場合には、厳重注意をする。			教科書・テキスト	『English for Tourism 101 一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ～』津田晶子・クリストファー・ヴァルヴォア・岩本弓子著 南雲堂 2014年 ISBN 978-523-17760 -9 B-760 511603		
指定図書/参考書等	なし/『異文化理解とコミュニケーション<1>ことばと文化』本名信行・秋山高二・竹下裕子・ベイツ ホッファー著 三修社 2005年 ISBN-10:4384040717.『異文化理解』青木保著 岩波新書 2001年 ISBN-10 4004307406.『旅行業プロの英語教本』岩瀬恒子・喜田慶文著 柴田書店 1989年 ISBN-10:4388152005			その他・特記事項	この授業は、観光英語検定試験3級～2級レベルの参考とする。総合旅行業務取扱管理者試験問題（英語）への手がかりとする。ボランティア通訳の入門編とする。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EL225U プレゼンテーション			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	本間 千重子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
この授業では、映像も用いて、今後アカデミック、ビジネスの両分野で必要とされるプレゼンテーションの基本を学ぶ。Part 1(Units 1 -4)で、プレゼンテーションの定義、構造、必要なスキル等を知り、Part 2(Units 5-9)で情報伝達型のプレゼンテーションを、Part 3(Units 10-14)ではそれを発展させた説得型・提案型のプレゼンテーションを学ぶ。学んだことを生かしながら実際にプレゼンテーションを行い、相互評価をすることで客観的視点も養う。				<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンテーションとその基本構造が理解できる。 テーマや目的によって効果的なパターンを選ぶことができる。 自分の考え、調べた内容などを英語で正確にかつ効果的に聴衆に伝えられるようになる。 プレゼンテーションと共に、スピーキング、ライティングの力を高めることができる。 			
教授方法	演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション、授業概要・ねらい・教材・進め方・クラスルールなど						
2	Unit 1: Presentation Structure Unit 2: Presentation Skills						
3	Unit 3: Preparing for Your Presentation Unit 4: How to Arrange a Presentation Setting						
4	Unit 5: Type 1--Listing 列挙型プレゼンテーション						
5	Unit 6: Type 2--Classification 分類型プレゼンテーション						
6	Unit 7: Type 3--Process プロセス型プレゼンテーション						
7	Unit 8: Type 4--Investigation 調査型プレゼンテーション						
8	Unit 9: Review Unit (1)報告型プレゼンテーション実施						
9	Unit 9: Review Unit (2)報告型プレゼンテーション実施予備日、振り返りまたはプレゼンテーション鑑賞						
10	Unit 10: Type 5--Persuasion 説得型プレゼンテーション						
11	Unit 11: type 6--Problem and Solution 問題解決型プレゼンテーション						
12	Unit 12: Type 7--Cause and Effect 原因・結果型プレゼンテーション						
13	Unit 13: Type 8--Comparison and Contrast 比較対照型プレゼンテーション						
14	Unit 14: Review Unit (1)説得・提案型プレゼンテーション実施						
15	Unit 14: Review Unit (2)説得・提案型プレゼンテーション実施予備日、振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業取組状況	40	毎回の授業に予習して臨んでいるか 授業中、積極的に取り組んでいるか			報告型プレゼンテーション	20	学んだことを生かして聴衆に分かりやすいプレゼンテーションができているか(準備・発表・内容)
説得提案型プレゼンテーション	30	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力し合って、まとまりのある発表ができているか 聴衆に効果的に説得提案ができているか(準備・発表・内容) 			相互評価	10	聞き手として他の人/グループの発表を項目に従って評価できているか
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> ・次回の授業範囲の予習[30分] ・プレゼンテーション実施に向けてのリサーチ、資料集め、英文スクリプト作成、ビジュアルエイド作成[90分] 				随時			
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション力は様々な場面で役立つので、この授業を通じて基本を学び、実際に作り、たくさん練習して、堂々と発表できるようにしてほしい。 ・授業で視聴するDVDやCDはスマホ等で無料ストリーミング再生が可能なので、積極的に利用して英語力向上に努めてほしい。 			教科書・テキスト	Akira Morita他. 『Winning Presentations: 8 Types of Successful Presentation』. 2018年. 成美堂. ISBN: 9784791934249		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE210U 理科			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領における理科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのような観察・実験を行うのか、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。</p>				<p>1) 小学校学習指導要領における理科の目標及び主な内容を理解する。 2) 理科の各領域、各学年の学習内容・観察・実験等についての指導上の留意点について理解する。 3) 理科の学習評価の考え方を理解する。 4) 理科の背景となる物理・科学・生物・地学等とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。</p>			
教授方法	講義と演習						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科を学ぶ意味について理解する。						
2	物質とエネルギー（１）「重さと質量」について理解する。						
3	物質とエネルギー（２）「てこと力、ふりこ運動」について理解する。						
4	物質とエネルギー（３）「電気回路」について理解する。						
5	物質とエネルギー（４）「熱の移動と熱膨張」について理解する。						
6	物質とエネルギー（５）「物質の構成と原子・分子」について理解する。						
7	物質とエネルギー（６）「物質の状態変化」について理解する。						
8	物質とエネルギー（７）「溶解・水溶液」について理解する。						
9	物質とエネルギー（８）「燃焼・酸化・還元・化学反応」について理解する。						
10	生命と地球（１）「生物の分類」について理解する。						
11	生命と地球（２）「植物のつくりとはたらき」について理解する。						
12	生命と地球（３）「動物の体のつくりとはたらき」について理解する。						
13	生命と地球（４）「地球と宇宙」について理解する。						
14	生命と地球（５）「地球とその変動」について理解する。						
15	生命と地球（６）「天気と気象」について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	各領域の内容について小テストを行い、その理解度を評価する。			レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
小テストに向けて、授業内容を復習する。[60分]				小テストやレポートの採点及び解説を行う。			
受講生に望むこと	小学校の理科学習を想起しながら、実際に観察をしたり、実験をしたりして、理科を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638		
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE200U 社会			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
自分が学習者として受けてきた社会科の授業を振り返ることに始まり、小学校社会科についての基礎的な知識と認識を身につける。「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成するとは、具体的にどのようなことかについて、知識と理解を深める。				小学校における社会科教育の目標と内容を理解している。子どもたちが教科内容を理解、習得する授業のあり方を自ら授業づくりやグループ協議に参加することを通し、理解している。社会科授業をつくっていく上で必要な事柄を自分の言葉でまとめることができる。			
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	社会科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、小学校社会科の内容と課題について理解する。						
3	社会系教科の成立と歴史的変遷について理解する。						
4	社会科と生活科・総合的な学習等との関連について理解する。						
5	社会科を取り巻く現代の諸課題について理解する。						
6	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年 「地域の生産や販売に携わっている人々」から						
7	小学校社会科の授業構成と展開例 3学年 「古くから続くくらし（道具・年中行事・先人）」から						
8	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年 「地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動」から						
9	小学校社会科の授業構成と展開例 4学年 「地域の人々の安全を守るための諸活動」から						
10	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年 「我が国の国土の様子と国民生活」から						
11	小学校社会科の授業構成と展開例 5学年 「我が国の食料生産・工業・情報産業などの様子と国民生活」から						
12	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年 「我が国の歴史上の主な事象」から						
13	小学校社会科の授業構成と展開例 6学年 「我が国の政治の働き、憲法の考え方、国際社会における役割」から						
14	社会科における子どもの内面理解のあり方について理解する。						
15	まとめ：「子どもが主体的に学ぶ社会科学学習の創造」について話し合う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート1(中間)	30	講義1～5までの授業から、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。		レポート2(最終)	30	講義全体を通し、社会科授業をつくっていく上で必要な事柄をまとめることができる。	
協議への参加	20	担当教員による模擬授業やグループディスカッションに積極的に参加している。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
現場における社会科の実践（研究授業、実践記録）から、積極的に学んでほしい。 【60分】				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	普段から社会の動向や時事問題、歴史等の社会事象に関心をもち、問題意識をもって学ぶ姿勢を大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ討議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。							

授業科目名	EE215U 家庭		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	金丸 洋子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
『小学校学習指導要領解説家庭編』をもとに、小学校家庭科の果たすべき役割や指導内容について学習する。指導内容に関する基礎的・基本的な知識の理解や技能を習得することを目的とする。家庭科は実践的態度を育てることも教科のねらいであり特徴である。本授業を通して、日常生活における自立や家庭・社会の一員としての自分自身の生活を振り返り、現状や課題について考える。			教科の目標や各領域の基礎的・基本的知識を理解する。調理や布を使った製作の基礎的・基本的技能を習得する。子どもの家庭生活についての現状と課題について理解する。自分自身の日常生活を振り返り、よりよい生活への実践的な態度を養う。			
教授方法	講義 演習 実習 ビデオ視聴					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業概要説明：授業内容の概略・進め方・成績評価方法等についての説明をする。「家庭科」「生きる」のマップ作りを通して関係について考える。（授業への見通しをもつ。密接な関係について理解を深める。）グループ活動					
2	子どもの家庭生活の実態：アンケート結果から実態を読み取り、その背景を考えグループでプレゼンをする。（子どもの家庭生活における現状と課題を理解する。）グループ活動					
3	家庭科の目標：家庭科の目標及び内容構成について理解を深める。男女同参画社会と家庭科について考える。					
4	A領域「家庭生活と家族」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
5	手作りおやつと団らん：実習を通して基礎的・基本的技能を習得すると共に、団らんの大切さや工夫する楽しさを体験的に理解する。自分と家庭・家族とのかかわりについて考える。グループ活動					
6	B領域「日常の食事と調理の基礎」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。					
7	栄養を考えた食事：調和のとれた食事について理解し1食分の献立をたてることのできる。自分自身の食生活を振り返ることが出来る。グループ活動					
8	調理実習：調理の基礎的知識や技能を習得する。調理実習指導の配慮事項について体験的に理解する。グループ活動					
9	C領域「快適な衣服と住まい」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について説明する。					
10	快適な衣服：衣服の着用と手入れについて実験や実習を通して基礎的知識・技能を習得する。日々の実践に活かす。					
11	快適な住まい方：快適な住まい方の基礎的知識・方法を考え、自分の生活を工夫する。（エネルギー問題や生活環境の見直しに関心をもつ。）					
12	生活に役立つ物の製作：各自、布を用いる製作物を考え製作計画立案し、製作の仕方の見通しをもつ。					
13	生活に役立つ物の製作：各自、製作物に応じた縫い方を考えて製作し、基礎的・基本的知識や技能を習得する。					
14	D領域「身近な消費生活と環境」：ねらいや指導内容・指導にあたっての留意点について理解する。環境について考える。					
15	家庭生活や地域での課題：各自これからの家庭や社会生活の課題を考え、プレゼンをする。自分自身の家庭生活を振り返り実践への心構えをもつ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習や製作物	30	・積極的、主体的に実習に参加しているか。 ・製作計画や提出期限を遵守しているか。 ・製作方法や仕上がりが良いか、工夫があるか。		定期試験 (筆記試験)	50	基礎的・基本的知識を理解しているか。自分の家庭生活を振り返っているか。
事後レポート	20	理解したことや課題についてまとめているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習 次時の課題についてテキストを読んだり調べたりする。製作や実習の準備をする。[30分] 事後学習 授業で学んだ事柄や考えをまとめレポートを提出する。製作計画に基づき課外で仕上げる。[30分]			事後レポートにはコメントをつけて返却する。製作物を評価し返却する。手直し再提出を求める場合がある。			
受講生に望むこと	家庭科は日々の生活の科目であり、「家庭科の基礎・基本」は「生活の基本」と言える。しかし、現代の消費生活主流の中で「衣・食・住」のほとんどが、他に依存するようになり、生活の基本がゆらいできている。家庭科の基礎基本を学び、できる・教える力をつけてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説家庭編』文部科学省 東洋館 2018年 ISBN 978-4-491-03466-9 『家庭科の基本』流田直監修 Gakken 2012年 ISBN978-4-05-405222-2/2037	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習費徴収 製作物材料費は個人負担	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EE311U 算数科指導法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。				1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	「算数」を履修した者または「算数」を履修中の者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数教育の意義、目標、内容について理解する。						
2	算数科の史的変遷について理解する。						
3	数と計算領域の目標、内容、課題について理解する。						
4	図形領域の目標、内容、課題について理解する。						
5	測定領域の目標、内容、課題について理解する。						
6	変化と関係領域の目標、内容、課題について理解する。						
7	データの活用領域の目標、内容、課題について理解する。						
8	問題解決の算数授業（7つの提案）について理解する。						
9	数学的な活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。						
10	算数科における基礎的指導法、教材研究、教材教具、ICT機器の活用について理解する。						
11	授業の構成、指導案立案、評価の仕方について理解する。						
12	グループによる模擬授業の実施と協議（自己の変容・態度の変容）						
13	グループによる模擬授業の実施と協議（試行力・個を生かす）						
14	グループによる模擬授業の実施と協議（深い理解・主体性）						
15	グループによる模擬授業の実施と協議（算数のよさや美しさ） 算数教育における今日的課題について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。		模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。	
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) 授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105		
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE316U 理科指導法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
理科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校理科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。				1)理科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基本的な事項を理解する。 2)理科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3)理科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。			
教授方法	講義と演習						
履修条件	「理科」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法を知る。理科教育の意義について理解する。						
2	理科の目標、指導内容とその概観、授業改善の視点について理解する。						
3	理科で何を学ばせるのかについて、4つの分野の内容から考える。						
4	授業の方法、授業の進め方、問題解決の授業、ICT機器の活用、学習評価・評定について理解する。						
5	授業づくりと学習指導案、授業の構成について理解する。						
6	実験と観察、基本的な実験器具の使い方、試薬の扱い方、理科室の整備と管理について理解する。						
7	理科指導法の研究（アクティブ・ラーニングの視点）						
8	理科指導法の研究（資質・能力の育成の視点）						
9	模擬授業の実施と協議（中学年の授業論）						
10	模擬授業の実施と協議（高学年の授業論）						
11	模擬授業の実施と協議（中学年の教材論）						
12	模擬授業の実施と協議（高学年の教材論）						
13	模擬授業の実施と協議（中学年の方法論）						
14	模擬授業の実施と協議（高学年の方法論）						
15	模擬授業の実施と協議（評価論） 理科教育における今日的課題について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。			模擬授業	40	丁寧に教材研究を行い、模擬授業を行うことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業で示す課題に取り組み、次回の授業の開始時に提出する。(60分) 授業の感想と振り返りを記入し、次回の授業の開始時に提出する。(20分)				毎回のレポートは、採点及びコメントを付けて返却する。			
受講生に望むこと	小学校の教員として、子供たちに理科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解してほしい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省2017 ISBN978-4491034638		
指定図書/参考書等	授業中に適宜資料を配布する			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE321U 生活科指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>戦前戦後の日本における生活科教育思想の系譜、小学校低学年における社会科・理科の廃止と生活科新設の経緯、授業づくりの諸課題等についての理解を深める。</p> <p>1、2年生の発達段階に応じた生活科の授業づくりや適切な支援を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>生活科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。</p> <p>生活科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など					
履修条件	「生活」1年次後期2単位の修得者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					
2	生活科新設の経緯と生活科教育思想の系譜について理解する。					
3	教材研究、指導計画立案について理解する。					
4	授業展開、評価について理解する。					
5	生活科授業づくりにおける「気付き」について理解する。					
6	生活科の目標と内容を理解する。					
7	生活科学習指導計画の作成について理解する。					
8	指導計画の作成、質問教室（生活科学習指導案 の提出）					
9	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）					
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）					
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価（1学年）					
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）					
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）					
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価（2学年）					
15	模擬授業全体を通じての全体ふりかえり、まとめ。生活科学習指導案（修正版）の提出					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫を行っている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
三小・山周の自然に興味を持ち、生物や暮らしについて学ぶ。[20分] 単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。[60分] 金沢市近郊の小学校、あるいは母校等の学習支援に積極的に参加する。[60分以上]			学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。			
受講生に望むこと	生活科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にしたい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645	
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。						

授業科目名	EE326U 図画工作指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	鷲山 靖					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1. カリキュラムにおける位置付け この科目は資格取得に必要な科目である。 この科目は「図画工作」に接続する科目である。 この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。</p> <p>2. 授業のねらい 図画工作科教育の理念と歴史を学び、図画工作を教える信念を持つ。 図画工作科の学習指導の基本的技術を習得する。</p> <p>3. 授業の進め方 テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 期末に基礎知識・技能に関する筆記試験を行う。</p>			<p>図画工作科の教育理念及びその歴史を理解している。 図画工作科授業の計画・実践に関する基本的な知識・技能を習得している。 図画工作科授業の評価に関する基本的な知識・技能を習得している。</p>			
教授方法	スライドによる講義の他、教科書検討・口頭発表・グループ学習による演習を行い、期末の筆記試験により基礎知識の理解を深める。					
履修条件	「図画工作」を履修した者または「図画工作」を履修中の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 基礎知識：図画工作科の教育理念とその歴史を理解する。					
2	基礎知識：図画工作科の授業時数・目標・内容・配慮事項について、学習指導要領と学校教育法施行規則を検討し理解する。					
3	基礎知識：図画工作科の表現・鑑賞指導の共通事項について、学習指導要領及び図画工作科教科書を検討し理解する。					
4	基礎知識：図画工作科が主に取り扱う材料・用具とその安全な使い方および表現技法について、図画工作科教科書を検討し理解する。					
5	基礎知識：児童の描画の発達過程について、図画工作科教科書及び関係資料を検討し理解する。					
6	基礎知識：図画工作科における題材の系統性や道徳・環境問題・人権尊重・国際理解・文化の伝承や文化遺産の尊重との関連について、図画工作科教科書を検討し理解する。					
7	基礎知識：図画工作科授業の成立要件と図画工作科題材の特性について理解する。					
8	授業構想・演習：図画工作科の年間指導計画の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
9	授業構想・演習：図画工作科の学習指導案の要点・立案方法について、演習を通じて理解・習得する。					
10	授業構想・演習：図画工作科における指導言とその要点を理解する。					
11	授業構想・演習：図画工作科における発問・説明の要点・方法について理解する。					
12	授業構想・演習：図画工作科における発問・説明の要点・方法について、発表（個人）・相互評価形式による演習を通じて理解・習得する。					
13	授業構想・演習：図画工作科における学習評価の理論と方法を理解する。					
14	授業構想・演習：図画工作科題材の評価規準の要点・作成方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
15	授業構想・演習：図画工作科題材の評価規準に基づく学習評価・評定の要点・方法について、演習（グループ）を通じて理解・習得する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	40	疑問点やよく理解できないことを質問している。 講義内容とともに自分の考えをノートしている。 ミニッツペーパーや小課題に取り組み、提出している。		定期試験	60	図画工作科教育の視野を広げ、その理論・授業方法を理解することができた。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業内容に対する自分の考えや意見、気付きをノートに書き留める。[10分] 教科書・テキストを読み直し、授業に関係なく各自読み進む。[30分]			課題（演習）の成果は、担当教員による評価（口頭）に加えて、受講者による相互評価（口頭）を行う。			
受講生に望むこと	スライド進行が早いと感じたら、その事を遠慮なく担当教員に伝えること。 考えたこと、思ったことなど気付きをどんどんノートしておくことを勧めます。		教科書・テキスト	『図画工作1・2上・5・6下』日本文教出版 1.2上 2015年 ISBN978-4-536-10022-9 1.2下 2015年 ISBN978-4-536-10023-6 3.4上 2015年 ISBN978-4-536-10024-3 3.4下 2015年 ISBN978-4-536-10025-0 5.6上 2015年 ISBN978-4-536-10026-7 5.6下 2015年 ISBN978-4-536-10027-4 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編』日本文教出版 2018年 ISBN9784536590112 『評価規準の作成 評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校 図画工作』教育出版 2011年 ISBN978-4-316-30037-5		
指定図書/参考書等	なし/授業時に随時紹介する		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EE331U 音楽科指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校学習指導要領「音楽科」の教科目標には、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することを旨とする」とある。第1学年から第6学年まで、それぞれの発達段階に応じた音楽科の学習指導を行うために必要な技能を身に付けることを目指し、実践的に学んでいく。</p>			<p>小学校音楽科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識及び技能を身に付ける。 音楽科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画の作成や模擬授業を通じて、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義、演習、模擬授業					
履修条件	「音楽」「器楽」「器楽」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					全員
2	小学校音楽科における教科の本質について理解する。					全員
3	教科の目標と各学年の目標と内容を理解する。					全員
4	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 歌唱：共通教材					全員
5	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 歌唱：歌唱教材（共通教材以外）					全員
6	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 器楽					全員
7	音楽科指導のあり方（教材研究、指導計画立案、授業展開、評価）を理解する。 A表現 音楽づくり B鑑賞					全員
8	A表現 歌唱における音楽科学習指導計画の作成について理解する。					全員
9	A表現 器楽における音楽科学習指導計画の作成について理解する。					全員
10	B鑑賞における音楽科学習指導計画の作成について理解する。音楽科学習指導計画案の提出					全員
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価（低学年）					全員
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価（中学年）					全員
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価（高学年）					全員
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価（高学年）					全員
15	全体の振り返り、まとめ、音楽科学習指導計画案の提出					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
コミュニケーションシート	20	提出状況と内容。（毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。）		模擬授業	20	模擬授業内容。
学習指導計画案	40	模擬授業実施のための学習指導計画作成において十分に教材研究をし、創意工夫して作成されているか。模擬授業や担当教員による助言を踏まえて、修正版学習指導計画案が作成されているか。		課題の取り組み	20	課題に対しての取り組みと内容。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
音楽の技能を高めるための課題を出すので積極的に取り組んで下さい。[30分] 講義内容に対して講義後に自身で振り返り、疑問点や不明点を調べて下さい。[30分] 学習指導計画案作成において、基本的な要件を漏れなく記載することができるように多くの学習指導計画に当たって下さい。[30分]			毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。			
受講生に望むこと	歌うことと、ピアノを演奏することを継続的に学習して下さい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社、2019年、ISBN978-4-87788-791-9 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / プリント		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EE336U 家庭科指導法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	荒井 紀子						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>家庭科は、子どもに、現在の暮らしを見つめさせ、さらに将来の生活をどうつくるかを考えさせ、生活力を身につけさせる教科である。ここで扱う「生活」は、自分や家族など人に関わる内容と、衣食住、消費、環境など暮らしの営みに関わる内容からなり、各内容は密接につながっている。本授業では、生活の様々な側面をとりあげながら、子どもの生活自立を促し、暮らしへの興味や関心を高めることのできる家庭科の授業について、理論と実践の両面から学んでいく。講義の前半では、主に、文献や視聴覚資料を用いて、家庭科の歴史やカリキュラムの内容、諸外国の家庭科などについて理論的な理解を深める。後半は、具体的な授業づくりの方法について、授業計画から授業の準備と実践、省察まで、グループ活動も取り入れながら体験的に学んでいく。</p>				<p>家庭科教育の歴史や教科の目標・内容についての基礎的理解を深める。児童の生活力を高める学習の構造やカリキュラムについて認識を深める。児童の意欲を引き出す学習方法を習得し授業づくりの力をつける。</p>			
教授方法	講義、視聴覚教材や文献にもとづくディスカッション、模擬授業などのグループ活動、これらを組み合わせて行う						
履修条件	「家庭」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション（学校教育で育みたい力と家庭科との関係について、受講生自身が学んできた家庭科の授業を振り返りながら考える）						
2	家庭科教育とは何か（小学校の家庭科教諭、名取弘文先生の授業実践を読み、生徒の自発性や意欲を引き出す家庭科の特性や可能性について考える）						
3	家庭科の歴史と男女共修（1947年誕生の家庭科の60年の歴史を概観し、時代背景との関係を考える。また家庭科の男女共修の実現の経緯とプロセスについて理解する）						
4	学習指導要領と家庭科の目標・内容（学習指導要領の変遷を理解するとともに、現行の学習指導要領の目標、内容について小・中・高校の段階ごとの特徴と相互の関連をみる）						
5	諸外国の家庭科（米国、ヨーロッパ、アジアの家庭科教育について、カリキュラムや学習内容・方法を各国の教科書や資料、写真をもとに検討する）						
6	家庭科教育の目指すもの（1）（三国清三氏の「ようこそ先輩」のVTRをもとに、地域の食材と自らの五感を生かした食の学習について検討する）						
7	家庭科教育の目指すもの（2）（「家族」の授業実践例をもとに、家庭科において、自分や家族をどのような視点から学んだらよいかについて考える）						
8	新しい家庭科カリキュラムの視点と構造（子どもの自発性や生活自立力を育む家庭科カリキュラムの構造について、テキストをもとに理解する）						
9	授業を読む（1）（テキストに掲載された被服や消費生活にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）						
10	授業を読む（2）（テキストに掲載された住居や家族にかかわる複数の授業を輪読し、その長所と改善点について検討する）						
11	家庭科模擬授業（1）授業計画を立てる（グループごとに授業テーマを確定し、授業の構想をたてる）						
12	家庭科模擬授業（2）細案を考える（取り組みたい授業テーマに沿って、数時間の単元を設定し、特に模擬授業を実施したい授業について細案をたてる）						
13	家庭科模擬授業（3）授業の準備（細案にかかわる資料や教材、教具を作成したり準備する）						
14	模擬授業（4）授業の実施（グループごとに授業を実施し、生徒役と教師役の両方を体験する）						
15	模擬授業（5）授業の省察（実際に授業をしてみてわかったことを話し合い、さらに良い授業にするにはどうしたらよいかを考える）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
模擬授業の授業案と実践	30	授業構想がしっかりとたてられているか、教材教具が適切に準備されているか、授業実践の子どもへの問いかけは適切か。			課題レポート	30	課題に求められていることを理解し、それを発展させているか、実習や調査を適切に行っているか、まとめ方や表現は適切か。
最終テスト	40	本講義で学んだことを理解しているか。それぞれの問いに対して、自分の言葉でしっかり考察できているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
8回の授業が終わった時点で、授業計画に必要な教材研究の一環として、食生活と衣生活に関わる実践的な問題解決の課題を出す。【2～3時間】				講義期間中に出した課題については、簡単なコメントをつけて返却するとともに、授業でもその中身をクラスで紹介し、学生の授業計画の作成等の参考となるよう配慮する。			
受講生に望むこと	受講前に教科書の「はじめに」「目次」「プロローグ」に目を通しておいて下さい。			教科書・テキスト	『考えるっておもしろい - 家庭科でつなぐ子どもの思考』教育図書株、2014年 北陸家庭科授業実践研究会 ISBN : 9784877303396		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EC200U 国語		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	中島 賢介・幸 聖二郎・金丸 洋子 (代表教員 中島 賢介)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
小学校学習指導要領の国語科の目標各項の理解や教育の内容の基礎的な理解を図るとともに、言語活動例の体験的な学びを通して小学校教諭および幼稚園教諭としてふさわしい言語感覚や国語力を高める。			日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようになること。 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 小学校学習指導要領国語を正しく理解し、教育や保育活動に活用することができる。			
教授方法	講義、言語活動、グループ活動、フィールドワーク					
履修条件	小学校教諭及び幼稚園教諭の教職課程登録者に限る					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明、進め方、課題等の説明を聞き、授業への見通しを持つ。					全員
2	学習指導要領改訂の要点及び国語科改訂の要点、国語科の目標について解説などを参考に理解する。					全員
3	「話すこと・聞くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
4	「話すこと・聞くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
5	「話すこと・聞くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
6	「書くこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
7	「書くこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
8	「書くこと」領域について (3) 言語活動例について、実際に体験することで理解を深める。					全員
9	「読むこと」領域について (1) 目標について解説などを参考に理解する。					全員
10	「読むこと」領域について (2) 指導事項について解説などを参考に理解する。					全員
11	「読むこと」領域について (3) 言語活動例について、図書館の持つ機能などを深く理解する。					全員
12	伝統的な言語文化について (1) 映像番組を基にして、伝統的な言語文化について理解を広げる。					全員
13	伝統的な言語文化について (2) 狂言を題材に、体験的な理解を深める。					全員
14	伝統的な言語文化について (3) 俳句や短歌を実際に創作することで理解を深める。					全員
15	伝統的な言語文化について (4) 創作した俳句や短歌を、句会・歌会を実施することで披露し互いに批評する機会を持つ。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	授業内容の基本的な理解や知識を習得しているかを評価する。筆記試験の詳細については授業内で指示する。		事前事後レポート	30	事前にこれから学ぶ事項を整理している。事後に学んで理解したこと、考えたことなどについて表現している。
言語運用能力・表現力	20	授業内容をもとに言語を運用し、体験的理解につなげている。言語感覚が鋭く豊かな表現をしている。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
事前学習として、『小学校学習指導要領解説国語編』の特定範囲を読み、レポート1枚にまとめる。[30分] 上記以外の事前・事後学習については、毎回の授業時に具体的に指示する。「マイことわざ集」「マイ歳時記」等の表現活動を伴う準備が主となる。[30分] 小学校国語教科書に紹介されている本の中から10冊を選びブックリストを作る。[120分]				事前課題については、提出前に評価のポイントをコメントする。課題に関する質問には随時回答する。		
受講生に望むこと	国語はすべての教科の基礎であり、確固たる土台があってこそ、それぞれの学習活動が展開できることを十分に認識して授業に臨んでほしい。また、学習した内容を小学校や幼稚園でどのように活用するかを考えながら授業に臨んでほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館出版社 2018 ISBN978-4491034621 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018 ISBN978-4577814475	
指定図書/参考書等	なし/『小学校新学習指導要領ポイント総整理 国語』吉田裕久、水戸部修治編 東洋館出版社 2017 ISBN978-4491033976			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
中島：小学校における勤務経験をもとに、小学校の国語科の授業で取り上げられている事柄について取り上げ、理解を深めている。 幸：小学校教諭としての経験をもとに、国語の指導内容について、実際に小学校現場でどのように取り扱い、子どもたちの理解につなげていくかについて議論し高めている。						

授業科目名	EC205U 算数		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
小学校学習指導要領における算数科の目標及び各領域、各学年の内容、系統性について理解するとともに、具体的な授業場面において、どのように指導するのか、どのように評価するのかについても考えていく。			1) 小学校学習指導要領における算数科の目標及び主な内容を理解する。 2) 算数科の各領域、各学年の学習内容と指導上の留意点について理解する。 3) 算数科の学習評価の考え方を理解する。 4) 算数科の背景となる数学とのつながりを理解し、教材研究に活用しようとする。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価の方法を知る。算数を学ぶ意味について理解する。					
2	数と計算領域(1)数の概念と表記、自然数などについて理解する。					
3	数と計算領域(2)数の把握、数の表記について理解する。					
4	数と計算領域(3)たし算、ひき算、かけ算、わり算について理解する。					
5	数と計算領域(4)小数、分数について理解する。					
6	数と計算領域(5)各学年における数の学びについて理解する。					
7	図形領域(1)基本的な平面図形、立体図形、垂直や平行の関係について理解する。					
8	図形領域(2)面積・体積とその公式について理解する。					
9	測定領域(1)量と測定について理解する。					
10	測定領域(2)量と測定の指導について理解する。					
11	変化と関係領域(1)異種の量の割合について理解する。					
12	変化と関係領域(2)関数の考えについて理解する。					
13	データの活用領域(1)統計と確率について理解する。					
14	文章題、問題解決について理解する。					
15	学習評価、数学的活動、数学的な見方・考え方、数学的リテラシーについて理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	各領域の内容について小テストを行い、その理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
小テストに向けて、授業内容を復習する。(60分)				小テストやレポートの採点及び終了後に解説を行う。		
受講生に望むこと	小学校の算数科の学習を想起しながら、実際に問題を解いてみたり、考え方を考えたりして、算数を好きになってもらいたい。			教科書・テキスト	「小学校学習指導要領解説 算数編」文部科学省2017 ISBN978-4536590105	
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC210U 生活			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
講義および体験的な活動を通し、生活科の特性・目標・内容等についての基礎的な理解と認識を身に付ける。 また、幼児教育から連なる環境を通した学び、子どもの文脈に沿った学びの重要性について理解を深め、豊かな生活科の授業づくりをするうえで必要な感覚と技能を養う。				幼児～初期学童期の子どもにとって、生活・環境が大きな学びの可能性をもっていることを理解している。 生活科の特性・目標・内容等について理解している。 体験と振り返りを通し、子どもが夢中になれる材や学習環境、支援の在り方について、実感をもって理解している。			
教授方法	講義・演習、グループ協議						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	生活科って何だろう？：「学びの履歴」の振り返りから、生活科の意義と特色について理解する。						
3	生活科における学びとは：子どもの文脈と遊び・暮らしについて理解する。						
4	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋見つけから広がる学びの可能性を考えよう。						
5	体験編「秋の野山へ出かけよう」：繰り返し活動することの意義を考えよう。						
6	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋の素材を使っておもちゃ作りをしよう。						
7	体験編「秋の野山へ出かけよう」：秋の素材を使ったおもちゃで交流しよう。						
8	生活科の実践から：スタートカリキュラムと幼保小連携の実践例						
9	生活科の実践から：学校生活に関する実践例						
10	生活科の実践から：地域生活に関する実践例						
11	生活科の実践から：飼育・栽培・いのちに関する実践例						
12	生活科の実践から：自分の成長に関する実践例						
13	体験編「自分物語を創ろう」：自分自身を見つめ、物語を作ろう。						
14	体験編「自分物語を創ろう」：互いの物語から学ぼう。						
15	まとめ：講義全体を振り返り、まとめをする。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
おもちゃ作り	20	秋の素材を利用して、創意工夫のあるおもちゃを作ることができる。			自分物語	30	自分の幼少期を振り返り、自分らしい表現を選択して簡潔に表すことができる。
レポート	30	講義の内容を理解し、簡潔にまとめることができる。			講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
家族から自分の幼少期の話を聞くなどして、これまでの人生を振り返る。[60分] 子どもの遊びやおもちゃ作り等について書籍等で学ぶ。[20分] 多様な絵本を読み、子どもの世界に対する理解を深める。[20分] 三小牛周辺の四季折々の動植物への興味関心を豊かにする。[20分]				対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。 おもちゃ、自分物語については、講義の中で学生同士の交流の中での相互評価も加味する。 レポートは、2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。			
受講生に望むこと	生活科は、子ども自身の思いや願いを大切に学習である。子ども文化を含め、身の回りの様々な事象に興味関心をもち、好奇心を豊かにしてほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 生活編』文部科学省、東洋館出版社、2018年、978-4491034645		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を紹介し、グループ協議等に利用。また、大学生版アレンジとして演習を行っている。							

授業科目名	EC215U 図画工作		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	鷲山 靖					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>1. カリキュラムにおける位置付け この科目は資格取得に必要な科目である。 この科目は「図画工作科教育法」に接続する科目である。 この科目は保育内容の表現に関する科目と関連がある。</p> <p>2. 授業のねらい 造形作品の制作に必要な基礎知識を習得する。 造形作品の制作に必要な基礎技能を習得する。</p> <p>3. 授業の進め方 テーマごとに講義・作品制作・評価・鑑賞・ノート作成を行う。 期末に基礎知識・技能に関する試験を行う。</p>			<p>基本的な画材・素材・工具の特性を理解している。 基本的な画材・素材・工具を用いた基礎的な造形技法を習熟している。 自分の感覚や活動を通して、造形要素を捉えることができる。 造形要素を基に、自分のイメージをもつことができる。 図画工作科における造形作品の評価規準・評価基準を理解している。</p>			
教授方法	講義後、作品制作・評価・鑑賞による演習を行い、期末の試験により基礎知識・技能を確認する。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の計画、到達目標、成績評価の方法、事前・事後学習を理解する。 えがいて遊ぶ活動_えがいて遊ぶ活動を通じて、描く楽しみ・面白さの原点を探る。					
2	つくって遊ぶ活動_つくって遊ぶ活動を通じて、つくる楽しみ・面白さの原点を探る。					
3	絵に表す活動A_オイルパステルの基本知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
4	絵に表す活動B_絵の具の基礎知識を学ぶとともにその基礎的技法を習得する。					
5	絵に表す活動C_発想の能力を育成する紙版フロッターージュの基礎的技法を習得する。					
6	絵に表す活動D-1_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
7	絵に表す活動D-2_発想の能力を育成する組合せ消しゴムはんこの基礎的技法を習得するとともに、制作作品の相互評価を楽しむ。					
8	絵・工作に表す活動A-1_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
9	絵・工作に表す活動A-2_発想の能力を育成する造形作品の制作を通じて、基礎的な造形技法を習得する。					
10	立体・工作に表す活動A-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
11	立体・工作に表す活動A-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
12	立体・工作に表す活動A-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。					
13	立体・工作に表す活動B-1_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル1作品制作					
14	立体・工作に表す活動B-2_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル2作品制作					
15	立体・工作に表す活動B-3_評価基準の明確な造形作品の題材特性を理解し、その作品の制作を行う。レベル3作品制作					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
受講姿勢	30	指定ノートへの講義記録、作品制作、スケッチ、クロッキー、お絵かきを行っている。 美術室の清掃・整備に取り組んでいる。 授業に集中している。		作品制作	30	課題作品を完成させ、指定ノートに作品もしくは作品画像を記録している。 課題作品は作品条件を満たしている。
期末試験	40	制作作品を事前に通知・説明する機能（性能）レベルによって試験を行い評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>毎回、授業開始前に指定ノートブックにスケッチ、クロッキー、お絵かきを描く。[10分] 指定ノートブックに授業内容の他、授業外の学習内容をノートし、自分専用の図画工作ノートブックを作成する。[30分]</p>				<p>作品条件にもとづく評価を作品制作中に行う。 期末試験時間の前半に作品の可否判定を行い、試験時間の後半において不合格者に対して試験合格者・担当教員が合格にむけた作品改良の支援・指導を行う。</p>		
受講生に望むこと	身の回りの物事を「造形要素を意識して」捉えてみましょう。 身の回りの全ての物事に必ずある「何らかの美しさ」を発見することを楽しみましょう。			教科書・テキスト	「トラベラーズノートリフィル無罪」ミドリ	
指定図書/参考書等	なし/授業時に随時紹介する			その他・特記事項	作品の材料費を別途、集金する場合があります。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC220U 音楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教諭や小学校教諭として必要な音楽科教育に関する基礎的知識や能力を養うために、歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、作曲、編曲の技法についても学ぶ。また、打楽器や旋律楽器を使った合奏や独唱・重唱・合唱などの様々な表現形態について理解を深め、豊かな感性を育む。			小学校学習指導要領における音楽科の目標及び内容を理解している。音楽科の指導内容について理解するとともに、その背景にある音楽とのつながりについても理解している。音楽活動を取り入れた指導計画の作成と内容の取扱いについて理解している。			
教授方法	実技指導					
履修条件	「音楽表現」「音楽表現」「器楽」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					全員
2	楽典：譜表と音名・拍子・リズム					全員
3	楽典：音符と休符・音程					全員
4	様々な歌唱方法：独唱					全員
5	様々な歌唱方法：重唱・合唱					全員
6	様々な歌唱方法：合唱					全員
7	楽典：音階・和音・楽式					全員
8	楽典：作曲・編曲					全員
9	日本の子どものうた					全員
10	世界の子どものうた					全員
11	楽器と音楽					全員
12	合奏					全員
13	鑑賞の意義と留意点、振り返り、まとめ					全員
14	和楽器：箏・三味線					特別講師
15	和楽器：和太鼓					特別講師
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		コミュニケーションシート	40	提出状況と内容。(毎回の授業ポイントを押さえずまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。)
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] 次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]				毎回のコミュニケーションシートは、次回の冒頭にコメントを付けて返却します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / プリント	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC228U 英語		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・中野 聡 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的英語運用力をCEFRを参考に各自が目標を立てながら、話し合いや問題練習を通して身に付ける。また、英語に関する背景的な知識の具体例を学習指導要領解説や現在、小・中学校で使用されている教科書から学びます。</p>			<p>英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）を実際の授業場面を意識しながら身に付ける。 第二言語習得に関する基本的な事柄を意識しながら、児童と楽しくコミュニケーション活動ができるようになる。 児童文学（絵本、子供向けの歌やチャンツや詩等）の役割を理解し、授業に活かすことができる。 異文化理解に関する基本的な事柄を理解し、授業に活かすことができる。</p>			
教授方法	英語の4技能に関する演習、ディスカッション、プレゼンテーション					
履修条件	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、いずれかの免許を取得予定の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：本授業の進め方と評価方法を説明する。小学校における英語教育の歴史を概観した後に、小学校英語教育への期待やその意義をディスカッションを通して考える。また、CEFRとは何かを理解する。					
2	CEFRと目標設定：CEFRの「聞くこと」のディスクリプタを参考にしながら、各自が今後の英語力の到達目標を設定する。また、そのための短期目標を具体的に考える。ストーリーテリング：音話を用いて、絵本などを読み聞かせる場面を意識しながら、児童と英語でコミュニケーション活動する指導技術を知り経験する。					
3	CEFRと目標設定：CEFRの「話すこと（やりとり）」のディスクリプタを参考にしながら、各自が今後の英語力の到達目標を設定する。また、そのための短期目標を具体的に考える。ストーリーテリング：音話を用いて、自問自答したり、質疑応答をしたりしながら、児童と英語でコミュニケーション活動する指導技術を知り経験する。					
4	CEFRと目標設定：CEFRの「話すこと（発表）」のディスクリプタを参考にしながら、各自が今後の英語力の到達目標を設定する。また、そのための短期目標を具体的に考える。ストーリーテリング：音話を用いて、絵や写真を用いたり、紙芝居形式で児童と英語でコミュニケーション活動する指導技術を知り経験する。					
5	CEFRと目標設定：CEFRの「読むこと」のディスクリプタを参考にしながら、各自が今後の英語力の到達目標を設定する。また、そのための短期目標を具体的に考える。自己紹介：ALTとのチームティーチングを意識しながら英語で自己紹介する英語力を身に付ける。					
6	CEFRと目標設定：CEFRの「書くこと」のディスクリプタを参考にしながら、各自が今後の英語力の到達目標を設定する。また、そのための短期目標を具体的に考える。自己紹介：プレゼンテーションソフトを用いて、日本文化や外国の文化、また両者の違いを紹介する英語力を身に付ける。					
7	ディスカッション：第二言語習得に関する基本的な事柄を説明し、年齢と習得の関係をグループディスカッションを通して考え、インプット仮説、アウトプット仮説、インタラクション仮説を知る。					
8	ディスカッション：児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）に関する基本的な事柄を説明し、グループディスカッションを通して歌や詩等の意義を考え、体を動かしながら歌やチャンツを活用できるようにする。					
9	異文化スタディ：異文化理解に関する基本的な事柄を説明し、小学校で使用している教科書を用いて、異文化理解のための教材（世界の人々、日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然等）を具体的に指摘し、それをどのように扱うべきかを考える。					
10	異文化スタディ：異文化理解に関する基本的な事柄を復習し、中学校で使用している教科書を用いて、異文化理解のための教材（世界の人々、日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然等）を具体的に指摘し、それをどのように扱うべきか、また、小学校との違いを考える。					
11	英語に関する基本的な事柄：音声指導の重要性を説明し、その留意点を考える。また、音声と文字の関係の指導（フォニックス）について知り、その活用方法を考える。					
12	英語に関する基本的な事柄：文字、単語、文の書き方や文構造の指導について説明し、その留意点を考える。また、語彙指導の実際に触れ、小学校現場での活用方法を考える。					
13	JTE-ALT Dialogue：ALTとのチームティーチングを想定し、ALTと英語で授業について話し合い、指導内容を説明し、教材を精選していく英語力（説明、質疑応答、意見交換等）を身に付ける。					
14	JTE-ALT Dialogue：ALTとのチームティーチングを想定し、ALTと英語で授業について話し合い、教材を精選しながら、児童の言語活動を充実させていく英語力（賛成、反対、提案、確認、要約、議論等）を身に付ける。					
15	振り返り：本授業の到達目標～について振り返る。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	40	英語の語彙、文構造、文法、正書法を身に付けているか。		パフォーマンステスト	30	英語の歌指導、ストーリーテリング、プレゼン等を聞き手を意識しながら発表できているか。
ディスカッション	30	第二言語習得や児童文学や異文化理解等の知識を土台にした議論ができているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回の小テストの準備を十分にすること。[30分] 英語で話すこと等のパフォーマンスの発表には練習が欠かせません。何とかできればよいのではなく自信をもってできるまで練習すること。[60分]				小テストについては、Impression Sheetを参考にして次時に行う。 パフォーマンステストについては、終了直後にコメントする。		
受講生に望むこと	人前で英語を話すことに慣れ、上手くなるには練習することだということとを体感してください。			教科書・テキスト	『Happy English for Childcare』土屋麻衣子著 金星堂 2015 ISBN:978-4764740082	
指定図書/参考書等	なし / 『小学校英語内容論入門』樋口忠彦他編著 研究社 2019 ISBN: 978-43274100995			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
伊藤：小学校における英語教育の経験を学生に話し、中学・高校との違いを気付かせ、学生自身の小学校で英語を教えるための資質向上に役立てている。 中野：小学校での経験を生かして授業場面の具体を紹介して小学校における外国語活動・英語科の授業をするために必要な教科に関する専門事項としての「英語力」「知識」を身に付けるための指導をしている。						

授業科目名	EC090U 器楽入門		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	自由
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育・教育現場では、「子どもたちと音楽活動をするために」、また「子どもたちの表現力の成長をサポートするために」身に付けておきたい多くの事柄がある。この科目は、旋律楽器（ピアノ）入門のための科目である。授業は、グループレッスンで行う。ピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントやピアノ作品を通して学ぶ。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。両手で弾けるようになる。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	ピアノ初心者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価方法を理解する。 ピアノを弾く前に					全員
2	リズムのトレーニング 音符と休符					全員
3	指のトレーニング：エチュード1～3					全員
4	指のトレーニング：エチュード4～5					全員
5	ピアノ作品：「かえるの合唱」					全員
6	ピアノ作品：「ちょうちょう」					全員
7	ピアノ作品：「ロンドン橋」					全員
8	ピアノ作品：「バイエル19番」					全員
9	ピアノ作品：「フレール・ジャック」					全員
10	ピアノ作品：「バイエル46番」					全員
11	音階：八長調・ト長調					全員
12	ピアノ作品：「みつばちのマーチ」					全員
13	ピアノ作品：「バイエル48番」					全員
14	ピアノ作品：「バイエル55番」					全員
15	発表 全体のまとめ					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	70	受講態度、課題に対する取り組みと内容。		発表	30	発表への取り組みと内容。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[90分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと				教科書・テキスト	プリント 『バイエル・ピアノ教則本（BEYER標準版）』ドレミ楽譜出版社 2017年 ISBN978-4285139907	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC110U 器楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育・教育現場で必要とされる音楽表現の中で、旋律楽器(ピアノ)を中心に演奏の基礎知識や技能を学ぶ。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンではピアノ演奏のための基礎知識を習得することをねらいとし、課題プリントを通して学ぶ。個人レッスンではピアノ演奏に関して個々の技能の向上を目指すことをねらいとし、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたをテキストとして学ぶ。様々な音楽に触れ、演奏のための豊かな表現力を養う。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、読譜することができる。様々な音楽に触れて、演奏のための表現力を豊かにすることができる。コードネームを見て伴奏つけをすることができる。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 音楽調査を行う。					多保田
2	演奏の基礎知識(1) 音名(楽譜の読み方について理解する。)					多保田
3	グループレッスン：演奏の基礎知識(2) 音階 (子どものための音楽で最も多く使用される長音階について理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
4	グループレッスン：コードネーム (C・Gを用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
5	グループレッスン：コードネーム (C・Gを用いた楽曲の伴奏方法を理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
6	グループレッスン：コードネーム (C・Gを用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
7	グループレッスン：コードネーム (C・Gを用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
8	発表					全員
9	グループレッスン：コードネーム (C・F・Gを用いた楽曲の伴奏パターンを理解する。) 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
10	グループレッスン：リズム曲「走る」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
11	グループレッスン：リズム曲「ジャンプ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
12	グループレッスン：リズム曲「スキップ」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
13	グループレッスン：リズム曲「スイング」の演奏方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
14	発表					全員
15	グループレッスン：伴奏のアレンジ方法 個人レッスン：各自に応じたピアノ作品 リズム曲 子どものうた					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表	30	発表への取り組みと内容。
発表	30	発表への取り組みと内容。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように毎日練習して下さい。 [30分] 個人レッスンでは、各自に応じたピアノ作品、リズム曲、子どものうたの弾き歌いを毎日練習して下さい。 [60分] 個人レッスンの履修曲数は、各自に応じたピアノ作品(グレード1-3曲・グレード2-3曲・グレード3-2曲)、リズム曲(5曲)、子どものうたの弾き歌い(7曲)をベースとするので、プランを立てて授業の準備をして下さい。</p>				<p>課題は、次回に個人指導します。</p>		
受講生に望むこと	<p>毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることや楽譜で分からない用語や記号は調べて下さい。</p>			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2019年 / バロックから現代までのピアノ作品 / プリント	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC245U 器楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美・加藤 雅子・種池 有美子・南部 順子・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>器楽 で身に付けた個々の技能をさらに高める授業である。保育現場や初等教育で用いられている教材等の実践を通して、範唱や範奏ができるような音楽的スキルを学ぶ。ピアノやキーボードを用いて、保育現場や小学校の授業で必要とされる弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。授業は、グループレッスンと個人レッスンを並行して行う。グループレッスンでは豊かな感性と表現力を養うことをねらいとした課題を通して学ぶ。個人レッスンではコース別(児童教育コース・幼児保育コース)に受講内容を分け、より適した楽曲を中心に学ぶ。</p>			<p>ピアノ演奏のための基礎知識を習得することによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。様々な音楽に触れることによって、演奏のための表現力を豊かにすることができる。コードネームを見て伴奏をつけることができる。児童教育コースでは、小学校音楽科の歌唱教材や子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。幼児保育コースでは、子どものうたの弾き歌いとリズム曲が演奏できるようにする。発表をする機会を持つことによって、演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	「器楽」の単位を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 演奏の基礎知識・・・音符・休符(楽譜の読み方について楽譜を通して理解する。)					多保田
2	曲想・奏法に関する用語・記号(楽曲の性格や表情を表示する用語や記号について楽譜を通して理解する。)					多保田
3	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 八長調入門(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
4	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 八長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
5	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 ト長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
6	グループレッスン：子どものうたのアレンジ方法 ヘ長調(コードネームを見て伴奏をつける方法を理解する。) 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
7	発表					全員
8	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の4拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
9	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の2拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
10	グループレッスン：拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法 ...4分の3拍子 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
11	グループレッスン：リズム楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
12	グループレッスン：旋律楽器とその種類 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
13	発表					全員
14	グループレッスン：身近な素材を用いた手作り楽器 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
15	グループレッスン：合奏編曲法 個人レッスン：各コースに応じた楽曲					各担当教員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表	30	発表への取り組みと内容。
発表	30	発表への取り組みと内容。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
グループレッスンでは、毎回の授業で出される課題を演奏できるように練習して下さい。[30分] 個人レッスンでは、各コースに応じた楽曲を練習して下さい。[60分] 各コースに応じて履修曲数が決まっているので、プランを立てて授業準備をして下さい。				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 単にピアノを練習するだけではなく、ピアノ作品をCDなどで聞いてみることで楽譜でわからない用語や記号は調べて下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2019年 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-623-7 / ハロックから現代までのピアノ作品 / プリント	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC251U 教育課程論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	虫明 淑子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
・教育課程とは何か、子どもを理解し、子どもの生活を重視した具体的な保育方法を考えることについて学ぶ。幼稚園・保育所・認定こども園における生活と学びについて理解する。長期・短期指導計画の意味を理解し、実際に保育計画を立案する。日本の幼児教育の歴史の変遷から今日の保育課程における課題を見出す。			・教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
教授方法	講義・ワーク(個人・グループ)					
履修条件	教育学概論・保育原理を履修済みで、幼稚園教育実習指導 を履修中であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育課程とは何か：幼稚園教育要領の性格、位置付け及び教育課程編成の目的を理解する。					
2	教育課程の変遷：要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を知る。					
3	教育課程の変遷：戦時下・戦後及び現行の教育要領に通底する教育課程の本質を捉える。					
4	教育課程の機能：子どもの育ちにつながる生活経験を考え、ねらいと内容を理解する。					
5	教育課程編成の基本原則：保育者一人一人の子ども理解が基盤であることを理解する。					
6	教育実践に即した編成：現代の子どもの実態から一日の生活を考える。					
7	教育実践に即した編成：長期的な視野から、幼児の実態を踏まえた指導計画を検討する。					
8	教育実践に即した編成：幼稚園・地域の実態を踏まえた教育課程を検討する。					
9	教育課程編成の方法：気づきから生まれる保育の展開、記録のあり方を学ぶ。					
10	教育課程編成の方法：子ども一人一人のねらいと計画を検討する。					
11	教育課程編成の方法：3年間で育てるという視野と子どもの生活の連続性を理解する。					
12	教育課程の課題：育ちを小学校につなげる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」					
13	教育課程の課題：保育思潮から世界の教育課程について学ぶ。					
14	カリキュラム・マネジメント：今日的課題を反映させた教育課程のマネジメントを考える。					
15	カリキュラム評価：保育者の気づきによる展開、カリキュラムの評価のあり方を理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
ミニレポート	30	適切な資料の活用 求められている課題内容を満たしている。		授業内ワーク	30	グループ内で自分の考えを積極的に他者に伝えながら協働的にワークを進めているか。
定期試験	40	教育課程について歴史の変遷をふまえて現行の幼稚園教育要領の捉え方を理解している。 教育課程に関わる用語を理解している。 保育場面を指導計画から読み取り、展開を予想する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回、事前に教科書や指定図書を手に取り、関連する内容の部分を読んでおく。授業内容によって事前にミニレポート作成を行う。[60分] 事前にミニレポートを課さない場合、事後にミニレポートの作成をする。[60分] 授業前(事前)に前回までの授業内容を復習して参加する。[15分]				ミニレポートは次回授業時に返却します。ミニレポート、授業内容に関して質問や疑問等がある場合には随時対応します。		
受講生に望むこと	意欲的な姿勢で授業に参加することを望みます。ミニレポートは丁寧に記述することを心がけてください。			教科書・テキスト	<small> *幼稚園教育要領解説。文部科学省フレール館。2018年。ISBN: 9784577814475 *幼稚園教育要領解説。文部科学省フレール館。2018年。ISBN: 9784577814499 *保育所保育指針解説。厚生労働省。フレール館。2018年。ISBN: 9784577814482 *幼稚園教育指導資料集第1集。指導計画の作成と保育の展開。文部科学省。フレール館。2013年。ISBN: 978-4577813308 </small>	
指定図書/参考書等	なし/授業内で適宜紹介する			その他・特記事項	小学校教員免許取得希望者の履修を歓迎する。	
実務経験を活かした授業の概要						
副園長としてカリキュラム・マネジメントを行ってきた経験をもとに、園の実態や子どもの姿に基づいた計画に即して実践し、その実践を適切に評価するサイクルが園の保育の改善にとって重要であることを伝え、グループワークとして実際の作成を行う。						

授業科目名	EC256U 保育内容総論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択
担当教員名	虫明 淑子				
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	1単位
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種		
授業の概要			授業の到達目標		
<p>幼稚園教育要領が示す「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」から設定された課題での模擬保育を少人数の保育者（役）で準備、実践し、他の学生は園児（役）で参加する。子ども（役）が主体的に動く遊びを模擬保育として体験することを通じて、幼児教育における指導方法とその計画の特性をつかみ、ねらいに沿って保育実践と子どもを評価し、次の計画につなげていくことに習熟する。振り返りによって、保育者と子どもの両方の目で遊びを見ることを重ね、また自分自身の心の動きと他児（役）の行動とその意図について知ることを通じて、遊びを通して学ぶという幼児期の学び方について理解を深め、遊びの瞬間瞬間において保育者の目と幼児の目の両方で状況を見、即座に保育者として次の展開をプランしなおす力を養う。</p>			<p>資質・能力の3つの柱、5領域、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目から、遊びにおける幼児の学びを予想することができる。 幼児の心が動くように、遊びの内容、遊びの始め方と終わり方、用いる素材や情報機器及び教材の活用方法、遊ぶ場所の選定を含めた環境構成等を工夫することができる。 遊びの過程で生まれる幼児の心の動きを予想し、それに対応して展開する指導計画を、環境図と時系列で考えることができる。 模擬保育の計画、準備、実践において保育者として求められる協働性を発揮できる。 模擬保育において幼児としての心の動きを感じながら遊び、振り返りにおける自分とは異なる遊び方や感じ方から気づきを得て、幼児の心情と言動について広く深く理解しつづ、各領域の保育内容についての理解を深める。 に基づいて、模擬保育後に保育者（役）学生が事前に作成した指導計画を各自で作り直すことができる。保育の連続性について理解し、長期の指導計画として立案できる。</p>		
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・教材製作・講義				
履修条件	保育内容科目 教育課程論、教育実習（幼）を履修している（履修中を含む。単位取得は問わない）ことを原則とする。				
授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
1	「領域」という見方に表される幼児期の学び方の特性と、「環境の構成を通じて総合的に」という幼児教育における指導方法について整理し、本授業における模擬保育の目的を確認する。				
2	模擬保育 「苦手」（運動、描画等）と感じている子どもが思わず動き、没頭していきような遊びに向けて、素材や情報機器及び教材の活用を工夫して指導計画を立案、実践する。				
3	模擬保育 「通常」とは異なる使い方身近な環境を遊び、子どもが自ら新しい遊びを思い付き始める契機となる遊びを素材や情報機器及び教材の活用を工夫して指導計画に立案し、実践する。				
4	模擬保育 身近な自然、あるいは自然物を生かして「なりきりごっこ遊び」が展開するように環境構成をプランし、実践する。				
5	模擬保育 保育者が制作する自分らしい教材を使って子どもたちが遊ぶ指導計画を立案し、実践する。				
6	模擬保育 モノについて探求する多様な関わりを通じて、子どもが自分とは異なる考えがあることに気づき、新しい考えを生み出す喜びを体験する遊びの指導計画を立案し、実践する。				
7	模擬保育 行事（例：発表会）につながる表現的遊びが情報機器及び教材の活用によって生まれる環境構成をプランし、実践する。				
8	～ の指導計画を活用し、子どもの心情、意欲に沿って連続して展開する1か月程度の指導計画を立案する。				
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
担当模擬保育の指導計画	20	予想される子どもの姿、ねらい・内容、発達にとってふさわしい経験等が考慮されているか。	各回の指導計画の補完	60	学習したことを振り返り、課題に対する改善が図られているか。
授業内ワーク	20	グループ内で積極的且つ協動的に取り組んでいるか。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
模擬保育は事前に指導計画を作成し、保育後、実践を振り返って修正する。[30分] 模擬保育の準備には長時間を要する。[120分程度・・・場合によってはそれ以上]			質問・疑問等には随時対応する。 提出されたレポートの内容は次回以降の授業に反映する。		
受講生に望むこと	本授業は期末試験レポートではなく、授業態度や課題物等を総合的に判断して評価します。毎回の授業、課題には積極的に取り組んでください。 動きやすい服装で参加してください。 身近にある物で教材として使用できそうなものがあれば収集しておきましょう。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499	
指定図書/参考書等	なし/授業内で適宜紹介する		その他・特記事項	やむなく欠席する場合は、授業内容に応じた課題に従ってレポートを提出すること。履修者の人数等の事情により、模擬保育の回数、時間、内容を変更することがある。	
実務経験を活かした授業の概要					
幼児教育現場における実践者としての様々な立場での経験をもとに、遊びを通しての総合的な指導とはなにか、子どもの発達にふさわしい保育とはなにか等、保育実践の根幹となる見方や考え方について、様々な事例を取り上げて行う。					

授業科目名	EC261U 保育内容・環境指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	向出 圭吾					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育の基本的な考え方、5領域について概要を把握し、子どもの育ちに必要な身近な環境とのかかわりを考えることで領域「環境」のねらい及び内容を理解する。事例検討を通して具体的な指導場面を想定した指導案を作成、模擬保育、体験等の過程を経て振り返り、改善を繰り返すことで、保育の構想を身に付けることを目指す。			幼児教育の基本的な考え方、5領域を理解している。子どもの育ちに必要な環境がどう影響しているかについて考察できる洞察力を習得している。個人、またはグループで指導計画を作成するための教材研究ができるようになる。グループディスカッションを通して、様々な事例をいろいろな観点から読み取る力、他者に伝える力、他者の気づきを自分にフィードバックさせる力が身についている。生きる力を基礎としての領域「環境」について自分なりの考えをもち、保育の構想を身に付けることができるようになる。			
教授方法	講義・演習・グループディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育の基本 : 幼稚園教育の基本的な考え方、環境を通しての教育について学ぶ。					
2	幼稚園教育の基本 : 5領域の概要について把握し、ねらいと内容の意味を考える。					
3	子どもの育ちと領域「環境」: 幼児期の発達観から、子どもと環境とのかかわりについて学び、ねらい及び内容を理解する。					
4	子どもにとって身近な環境とは : 子どもがかかわる身近な環境について話し合い、それが育ちにどのような影響を与えているか考える。					
5	子どもにとって身近な環境とは : 事例(ビデオを含む)を通して、身近な環境と子どもの育ちの因果関係を、様々な観点から考察する。					
6	子どもにとって身近な環境とは : 事例(ビデオを含む)を通して、身近な物や道具に興味をもってかかわり、考えたり、試したり工夫して遊ぶ意味を考える。					
7	自然に親しみ、植物や生き物に触れる。: 事例(ビデオを含む)を通して、命あるものとのかかわりにおける子どもの育ちを考える。					
8	身近な自然にかかわる実践 : 大学構内の自然を散策し、実際の身近な環境についてマップを作成する。					
9	身近な自然にかかわる実践 : マップから自然にかかわる遊びの指導案を作成する。					
10	身近な自然にかかわる実践 : 各自作成した指導計画についてディスカッションし、他者からの助言をもとに見直し改善を行う。					
11	文字・標識・数量・図形への関心: 事例(ビデオ、教材の活用を含む)を通して文字・標識・数量・図形への興味と認識について考える。					
12	身近な物にかかわる実践 : 様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味関心をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶための指導案を作成する。					
13	身近な物にかかわる実践 : 指導案をもとに模擬保育を行い、実践を振り返ることで指導案の見直しや改善する視点を身に付けると同時に評価の考え方を学ぶ。					
14	子どもと環境のかかわりを捉える視点: 子どもの育ちと環境とのかかわりを捉えるポイントを整理し、ディスカッションを通して領域「環境」のねらい及び内容と指導上の留意点の理解を深める。					
15	「生きる力の基礎を培う」という観点での領域「環境」: これまでの実践や事例の考察を踏まえて、それぞれが考える生きる力の基礎としての領域「環境」について小学校の教科「生活」とのつながりを考え、連続した保育の構想を考える。					
成績評価方法及び基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	20	各回のテーマに対して様々な観点から積極的に取り組んでいるか。		課題への取り組み	40	授業内に提示する課題に対して期限を守り提出し、内容が適切であるか。
筆記試験	40	この授業を通して領域「環境」に関して、どれだけ自分の学びになり、理解したか。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各回の授業の最後に、その授業での学習到達度を確認するため課題を提示するので、各自取り組むこと。[30分] 実践の授業では、指導計画をもとに、必要な素材を準備し、教材作りをする。 [90分] 各回のテーマに沿った教科書の該当箇所を事前に読んで、自分なりに理解しておく。 [30分]				この授業は前回の学習の上に成り立つ授業であるから、授業の初めに振り返りを行い、学びを自分にフィードバックさせる力を身につける。 指導計画を見直し、修正、改善するなど、学習が一過性に終わらないようにする。		
受講生に望むこと	自分がこれまでもっていた幼児期の遊びに対する概念を一度リセットして、一つの遊びの事象にも様々な見方、考え方があることを意識しながら授業に臨むこと。			教科書・テキスト	『新訂・事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 福元真由美編者代表 萌文書林 2018年 ISBN:978-4-89347-258-8	
指定図書/参考書等	なし / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、現場での遊びや生活のビデオを活用し、グループディスカッションを行う。自然とのかかわり、自然物を取り入れた遊びなど、実際の現場での実践を取り入れている。						

授業科目名	EC266U 保育内容・健康指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。幼児の健康な心身の発達、基本的な生活習慣、安全に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。			幼稚園教育要領 領域「健康」のねらいと内容について理解する。幼児の健康に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。			
教授方法	講義、グループディスカッション、個人によるワーク、外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ）					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	領域「健康」のねらいと内容、内容の取扱いについて理解する。					
2	子どもの身体の特徴と生理的機能の特徴について理解する。					
3	子どもの発達の概要とその援助について理解する。					
4	子どもの運動発達・体力とその援助について理解する。					
5	子どもの遊びとその援助について理解する。					
6	石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義					
7	基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
8	実際の子ども達の映像から子どもの姿をイメージし、具体的に想定した基本的な生活習慣に関する指導案を作成する。					
9	基本的な生活習慣に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の基本的な生活習慣の指導について考える。					
10	幼児の特性と事故について理解する。					
11	安全管理と安全教育について理解するとともに、幼稚園生活における危険な場面等についてのデジタル教材から、保育における安全管理と安全教育について考える。					
12	具体的な子どもの姿を想定し、教材やデジタル教材を用いた安全教育に関する指導案を作成する。					
13	安全教育に関する模擬保育。振り返りと評価を踏まえた学び合いから、幼児の安全教育について考える。					
14	保育現場における安全管理の実践について理解する。					
15	子どもの健康と幼小連携について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	20	基本的な内容を理解しているか。	レポート	20	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえ、自分なりの考えを述べているか。	
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢。	模擬授業	30	健康に関する基本的理解がされているか。 模擬授業に向けた丁寧な準備がされていたか。 正しい知識が子どもたちに伝えられているか。 具体的な子どもの姿を想定しているか。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
教科書を読み授業に備える[20分] 授業で配布した資料を読む[20分] 子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し理解を深める[60分]			小テスト及びレポートは理解度の把握に利用し、次週以降の授業の中で振り返りと確認を行う。			
受講生に望むこと	子ども達が様々な活動に自ら積極的に取り組み、楽しむためには健康であることが重要です。子ども達の健康に関する基本的な知識を学び、理解するとともに、「自分が子どもの前に立ったらどうするか」を常に考えながら受講してください。		教科書・テキスト	<small>『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN: 9784577814482 演習 保育内容健康 大人から子どもへつなぐ健康の視点、井狩芳子著、萌文書林、2018年、ISBN: 9784893472755</small>		
指定図書/参考書等	関連図書や関連記事は授業の中で随時提示またはプリントを配布する。		その他・特記事項	外部講師による講義1回（石川県健康福祉部少子化対策監室母子保健・食育グループ職員による講義）の実施回を変更する場合がある。実施日は事前に連絡する。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC271U 保育内容・言葉指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
乳幼児期は、言葉を獲得していく時期である。保育内容「言葉」の意義について発達や各領域とのつながりを考慮しながら学ぶ。さらに、保育者が子どもの言葉の育ちにどのように関わり、豊かな言葉を育てていくのかを実践を踏まえ、役割と援助について学ぶ。また、指導案を作成し、実践することを通して指導法を体得する。			1. 子どもの言葉の育ちに関心を持つ。 2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容について理解している。 3. 発達段階を踏まえ、領域「言葉」に関する指導案を作成し、実践できる。 4. 領域「言葉」における保育の動向を知り、保育者の役割を理解している。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明 言語機能と「言葉」のねらいについて理解する。					中島
2	幼児期（乳児期を含む）における言語獲得のメカニズムについて学ぶ。					中島
3	「言葉」の内容と指導上の留意点及び評価について学ぶ。					中島
4	言葉が与える影響：言葉の持つ力について考える。					高村
5	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉以前の言葉 0歳児の事例から考える。					高村
6	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉が始めたら 1歳児の事例から考える。					高村
7	言葉の獲得と保育者の関わり：2歳児の事例から考える。					高村
8	言葉の獲得と保育者の関わり：3歳児の事例から考える。					高村
9	言葉の獲得と保育者の関わり：4.5歳児・小学校の事例から考える。					高村
10	言葉の獲得と保育者の関わり：言葉の内にある子どもの思いを考える。現代的課題から小学校への接続を考える。					高村
11	文化財に関する実践的理解					高村
12	絵本の読み聞かせの指導案立案					高村
13	視聴覚教材を使用しての模擬保育を行う					高村
14	実演と反省（模擬授業から考える）					中島・高村
15	「言葉」の総合的理解（今までの振り返り）					中島・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業の参加態度	30	授業への取り組み態度	指導案の立案と実演・事後レポート	40	指導案の内容と提出状況・実演の様子・事後レポートの内容	
随時試験	30	授業内容を理解できているか。(2回実施)				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
毎回、授業後に復習を行う〔30分〕 「絵本の読み聞かせ」の指導案を立案する〔90分〕 「絵本の読み聞かせ」の実践から振り返りを行い、レポートにまとめる〔60分〕			提出されたレポートや応答シートを授業で反映する			
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での学生一人一人の言葉を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、本授業は演習科目であるため、積極的な態度で臨んで下さい。		教科書・テキスト	<small> *新訂 事例から学ぶ保育内容 領域 言葉 武蔵野監修 萌文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5 *幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 *幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814499 *保育所保育指針解説 厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482 </small>		
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
保育士としての経験をもとに、乳幼児の言葉の発達について、保育現場での事例を基に具体的に指導を行い、実際に視聴覚教材を使用しての模擬保育を行っている。						

授業科目名	EC276U 保育内容・人間関係指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	谷 昌代					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「領域 人間関係」は非認知能力として注目される内容が多く含まれ、幼稚園教育要領の「幼児期に育ってほしい姿」にも具体的な姿が多く示される領域である。本科目では、模擬保育でのロールプレイを通じて「領域：人間関係」に関わる子どもの心の動き保育者の心の動きを疑似体験し、「領域 人間関係」に関連するテーマと概念について理解を深め、保育者の協働を体験する。振り返りでは、同一場面において異なる多様な感覚や感情、思考が生まれていることに気づき、子どもの遊ぶ姿に学びを読み取る感覚を掴む。更に振り返りで深めた体験から子ども一人一人の姿を予想する力、指導を構想する力を養う。</p>			<p>幼児の興味、考え、行動、言葉を丁寧に見て、その意味を考え、指導計画につなげようとする。 模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる幼児の実際の生活体験を想像し、幼児の心の動きに沿った教材の活用法を工夫できる。 模擬保育とその振り返りを通して「領域 人間関係」に関わる指導の特性を理解し、具体的な保育場面を想定して指導計画を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点と姿勢を身に付けている。 乳幼児期の人との関わり、コミュニケーションの発達のポイントを理解している。 乳幼児をめぐる今日の環境が潜む危険性について理解している。</p>			
教授方法	模擬保育・ロールプレイ・討議・発表・講義					
履修条件	保育原理・特別支援教育論を履修済（単位の取得は問わない）であり、教育課程論・発達心理学を履修中（済）であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「領域 人間関係」の概説。教材準備と指導計画作成を含む模擬保育と授業外活動となる乳幼児の人間関係エピソード収集について、方法と目的を理解する。[模擬保育担当グループの決定]					
2	子どもになってノンバーバルで遊んでみることを通じて、自身の心の動きをとらえる。振り返りを通じて同じ場面での遊びにおいて多様な心の動きと行動が発生していることを知る。キーワード：「共に過ごす」					
3	子どもになってノンバーバルで2人で遊ぶ、3人で遊ぶ、多数で遊ぶと状況を変化させ、子どもの遊びにおける他者の存在について考える。キーワード：「友達」「自己発揮」					
4	模擬保育：「自分で」が起こる遊びを準備し実践する。自己主張・自我について考える。					
5	模擬保育：「やり遂げようとする気持ち」が起こる遊び。達成感・自信について考える。					
6	模擬保育：「伝えようとする気持ち」が起こる遊び。自己発揮・自己抑制について考える。					
7	模擬保育：「協力」が起こる遊び。協同・充実感について考える。					
8	模擬保育：「よいことや悪いことがあることに気付く」遊び。異なる視点について考える。					
9	模擬保育：「思いやり」が生まれる遊び。共感・心の理論について考える。					
10	模擬保育：「ルールをつくる」遊び。道徳性・規範意識について考える。					
11	模擬保育：「共同の」を感じる遊び。公共心について考える。					
12	グループワーク：社会生活における人々との多彩な出会いが地域の幅広い人々に対する「親しみ」をもつようになる活動を指導計画として立案する。乳幼児と地域とのつながりについて考える。					
13	グループワーク：異年齢との関わりが深まる活動を指導計画として立案する。「相手の気持ちを考える」「自分が役に立つ喜び」について考える。					
14	3歳未満児の人間関係のエピソードから、0歳から3歳までの人間関係の発達を知る。					
15	3歳以上児の人間関係のエピソードから、3歳から就学までの人間関係の発達を知る。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	40	「領域 人間関係」キーワードと関連する基礎的概念の理解・エピソードからの読み取り・遊びのプランの作成		模擬保育	20	遊びのプランの作成・遊びの工夫・独創的な教材・遊びの提示と展開
研究ノート	30	各授業における指導計画からの補充（記録）・テーマに関連する課題の探究・資料として活用しやすい整理の仕方		エピソード収集	10	エピソードの内容・エピソードの記述記載方法・収集した資料の整理の仕方
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> ・キーワードについて保育関連の事典、心理学の辞書で調べること・模擬保育の指導計画の実践後の記録と計画の補充・振り返りを中心に各授業回に設定される課題について[1時間程度]。 ・エピソードの収集[適宜] ・模擬保育のための準備（教材製作を含めて長時間を要す。グループでの取り組みとなるため、必要な時間設定も考えて取り組むこと） ・研究ノート製作[2～10時間程度] 				提出されたレポートの内容を次回（以降）の授業での講義に反映させる。		
受講生に望むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもになって遊べるスタイルで授業に参加すること。 ・教材の材料となるものを身近に見つけ収集しておくこと。 ・「子どもの目」に関心を持ち、生活で出会う子どもたちの動きや言葉、視線に関心を寄せること。 			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 	
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習（幼）の履修予定者は本科目の履修を前提として教育実習指導（幼）の授業が行われることを了承いただきたい。 ・研究ノート（授業レポート振り）と収集したエピソードは定期試験の持ち込み資料となる。欠席した場合もレポートをまとめて提出し、研究ノートに備えること。 ・履修者の人数によって模擬保育の回数と内容が変更されることがある。 	
実務経験を活かした授業の概要						
幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、模擬保育の振り返りの中で、子どもの姿の事例として紹介する。						

授業科目名	EC281U 保育内容・表現指導法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾・武田 恵美 (代表教員 田邊 圭子)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。身体表現、音楽表現、造形表現に関する理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。指導法においては情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することについても学ぶ。			幼稚園教育要領 領域「表現」のねらいと内容について理解する。幼児の表現に関する知識を習得し理解を深めるとともに、子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法や具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	身体表現について。領域「表現」との関連から理解する。					田邊
2	イメージと動きについて理解する。					田邊
3	身体表現と音について理解する。					田邊
4	身体表現活動の実際と指導案について理解する。					田邊
5	身体表現に関する模擬保育及び振り返りと評価を踏まえた学び合い。					田邊
6	音楽表現について。領域「表現」との関連から理解する。					多保田、武田
7	一緒に動くこと・歌うことの共有体験を通して得られることについて事例を通して考える。					多保田、武田
8	「表現」と保育の環境構成について理解する。					多保田、武田
9	表現を支える保育者の役割について。指導案の作成について理解する。					多保田、武田
10	音楽表現に関する模擬保育及び振り返りと評価を踏まえた学び合い。					多保田、武田
11	造形表現について。領域「表現」との関連から理解する。					向出
12	子どもの造形表現の理解について(1)実際に各自が造形活動を行う。(造形活動においては情報機器及び教材の活用を含む)					向出
13	子どもの造形表現の理解について(2)子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割について考える。(子どもの造形表現を促すための実物の提示に加え、デジタル教材などを活用についても考える)					向出
14	子どもの劇遊びと表現について。指導案の作成について。(指導案の作成においては劇遊びの様子をデジタルカメラやビデオカメラなどの情報機器を活用して記録し、幼児に見せるなどの保育の構想を含む)					向出
15	造形表現に関する模擬保育及び振り返りと評価を踏まえた学び合い					向出
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		課題・発表	50	課題や発表に取り組む姿勢と内容
レポート	20	・授業及び作品制作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) ・毎回授業のミニセッションへの取り組み(多保田) ・課題や作品に対するの自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に自身で振り返り、不明点を調べてくる[60分] 次回授業のための課題について準備する[60分]				・毎回課すミニセッションは次回コメントを付記し返却する(多保田) ・授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊、向出)		
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が各5コマ担当するオムニバス科目です。また、演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『子どもの音楽表現』、石井玲子、保育出版、2018年、ISBN978-4-936795-78-8	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、粘土、劇、しかけ絵本等の教材を用いてなど、実際の現場での実践を取り入れて表現を考える。						

授業科目名	EN150U 保育原理		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虫明 淑子						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>保育士資格の必修科目である。ただし、乳幼児期という人生の最初の時期についてその意味を知り、ふさわしい生活環境について考える授業であるので、教職者として子どもと関わる全ての学生に必要な人間理解に関わる科目となる。また、1年次での幼稚園での体験、2年次での教育実習（幼）に向かうための基礎的学習ともなる。</p> <p>保育については多くの人が「知っている」感覚に陥りやすい。しかし、その「知ってる」ことは、専門職を担う者が求められる保育の理解とは大きく隔たる。授業では、「遊び」をキーワードとして子どもの見方・感じ方を模擬体験しつつ、発達科学が明らかにしてきた乳幼児の主体的な在り様と「遊びが学び」である小学校以降とは異なる幼児期の学びの組み立て方について学ぶ。同時に、自園の子どもだけでなく地域の子育て家庭すべてを支援の対象とする保育所の機能、役割とその社会的背景について知り、認定こども園、幼保一元化、幼小接続、幼児教育・保育の無償化などの最近のトピックスから保育という営みの今日的意味を理解する。</p>			<p>「保育所保育指針」が示す保育所保育の目的を理解している。</p> <p>「環境を構成することによって」「生活や遊びを通して総合的に」という幼児期の学びの援助の方法を理解し、乳幼児期の指導計画の特性を知っている。</p> <p>乳幼児の学びを「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域で見ることの意味を理解している。</p> <p>保育をめぐる今日的課題とその背景にある子どもをめぐる生活環境の変化について理解している。</p>				
教授方法	講義・体験（遊び・製作・パフォーマンス）・個人ワーク・グループワーク・発表（展示を含む）						
履修条件	なし						
授業計画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：実際に遊んでみて自身の心の動きを知り、周りの人たちの動きを見て、「遊びを通じて学ぶ」という学び方について理解する。自身の体験がもたらす小学校以降の学び方イメージから離れる。						
2	「遊びを通じて学ぶ」「環境の構成によって指導する」という保育における指導のとらえ方を知る。						
3	保育の歴史と現状を概観し、保育所が「***園」という名称を用いることの意味を考える。「園」に込められた願いと、子ども観・保育観を理解する。						
4	保育所保育指針を概観する。養護と教育が一体として展開するという意味を考える。						
5	子どもの遊びの姿から、子どもが主体的であるために環境の構成と指導計画があることを理解する。						
6	幼児期の学びを支えるには、子どもの姿からその心の動きをとらえ、子どもに育ちつつあるものを読み取る力が求められることを知る。						
7	乳幼児の発達の姿について知り、「・・・できるようになる」ことが発達ではなく、「・・・できるようにさせる」ことが指導ではないことを理解する。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目から幼小接続について考える。						
8	子どものモノとかかわる力、人とかかわる力がどのように発揮され、発達の過程を開いていくのかを知る。発達の最近接領域というとらえ方を知る。						
9	言葉の獲得を例に、近年の乳幼児の生活、育ちの環境を見てみよう。子どもの学びを育む環境の豊かさについて再考する。						
10	「子育て支援」という保育所に求められる機能と、その背景を知る。						
11	親子や家族とは異なる、園生活における人間関係について考える。保育者の役割と子ども集団の役割について考える。						
12	遊びによって提供される5領域での学びについて知り、小学校以降の学び方との違いについて考える。						
13	遊びがもたらす自己肯定感：安心・安全・安定と遊びの関係について考える。例えば、砂遊び・水遊び・・・。						
14	遊具・おもちゃの意味：フレーベルの恩物から始まった積木から考える。						
15	「子どもの最善の利益」について考え、その追求には家庭との連携や地域との連携が必須であることを理解する。子育てを支援することの意味を再考する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期試験	60	保育に関わる用語・基本的概念の理解 体験における自らの行動と心情を振り返ることができる 乳幼児と保育をめぐる今日的社会的課題についての理解	ミニレポート	20	適切な資料をみつけないない自分らしい記載 疑問・課題を見出している		
製作課題	10	遊びに関する製作物における工夫・ていねいさ	授業内ワーク	10	自分と対話し、自分なりの考えが記載されている。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
用語や制度について調べる。ネット検索に頼らずに本の活用を習慣化する。 [30～60分程度] 子どもの遊び体験につながる実体験[長時間を要するので計画的に取り組む必要がある]			ミニレポートと授業内ワークで記された関心・質問に次回以降の授業で対応する。				
受講生に望むこと	授業中の突然の遊び、製作に対応できるよう、服装、靴、髪型など、その場で遊びに入れるスタイルで授業に参加すること。 保育者が常時携帯しているようなグッズを用意して参加すること。 子どもの遊ぶ姿や言葉に関心を持ちエピソードを記録することを習慣にすること。 保育に関連する日本・世界、そして地域のニュースに敏感でいて、その都度調べて、基本的知識の更新に努めること。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814482			
指定図書/参考書等	なし/授業内で適宜紹介する		その他・特記事項	教員免許状（幼稚園・小学校）取得希望者には履修を強く勧める。保育士資格だけでなく教育実習（幼稚園・小学校）に向かうために必要な幼児教育及び児童福祉の入門科目となる。 毎回のミニレポートの綴りが定期試験の持ち込み資料となるので、欠席の場合にもミニレポートを作成			
実務経験を活かした授業の概要							
幼稚園教諭及び副園長として日々、子どもや保育者とともに遊びや生活を進めた経験をもとに、子ども理解や実態、発達に即した計画、応答性、環境構成及び援助を行うこと等の保育の根本となる原理原則について、現場の様々な事例を取り上げて説明する。							

授業科目名	EN251U 子ども家庭福祉論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子ども家庭福祉の変遷、歴史、児童憲章、児童の権利宣言、子どもの権利条約などの基本理念を学ぶ。児童家庭の生活実態とそれを取り巻く社会情勢を理解する。また児童福祉法の理念を理解し、子どもにとって最善の利益とは何か、子どもの権利保障の体系、子ども家庭福祉制度、親権と子どもの権利擁護とは何かを学び、児童福祉施設の基本機能、子ども家庭福祉の現代的課題を明確にする。少子高齢社会における、社会環境・家族構造の大きな変化をふまえ、児童・家庭分野にかかわる社会問題を考察する目標。家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。			<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解している。 2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解している。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解している。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解している。 			
教授方法	講義を中心に展開するが、提示課題によるグループディスカッションも含む。					
履修条件	「社会福祉」を履修済であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭における子ども観を把握する。少子化の進行、子育て環境を巡る現状、家族の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化、子ども家庭福祉のニーズを理解する。					全員
2	子ども家庭福祉の原理について、子どもの特性と発達ニーズ、理念、権利保障、児童憲章・児童福祉法の理念、子どもの権利条約について学ぶ。子どもの権利の特徴である受動的権利と能動的権利の二面性、その確立の過程を理解する。					全員
3	児童福祉の発展の理解。日本の児童福祉の歴史、特に明治期の児童福祉の萌芽から「石井十次」、「留岡幸助」をはじめとした足跡、その思想理念を理解する。欧米の歴史については、イギリスの児童保護から始まる歩みから、アメリカの近代的児童福祉思想を理解する。					全員
4	児童家庭の権利保障および支援の核となる児童福祉六法（児童福祉法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法、母子保健法、母子並び父子及び寡婦福祉法、児童手当法）の概要を理解する。また関連法である、児童虐待防止法、DV 防止法、などもあわせて学ぶ。					全員
5	子ども家庭福祉の実施体制、行政機関と関連機関の機能を理解する。国及び地方自治体、児童福祉の各審議機関の機能、児童相談所、福祉事務所、保健センターの概要を学ぶ。児童福祉施設の種類とその運営内容など基本的機能を理解する。					全員
6	子ども家庭福祉の専門職を学ぶ。児童相談所・福祉事務所・家庭児童相談室などの関係機関に配置されている職員の資格と職務を理解する。また、児童福祉施設の専門職員と資格について、その具体的な専門的機能を理解する。					全員
7	母子保健を中心に学ぶ。母子保健の目的、歩み、乳幼児死亡率の傾向、健康診査・健診内容や保健指導・訪問指導などの具体的な制度を理解する。母子健康手帳、予防接種、自立支援医療、小児慢性特定疾患治療研究事業を理解する。育児支援についても理解する。					全員
8	障害・難病のある子どもと家族への支援を学ぶ。障害児及び家族の実情とニーズ、障害児の支援に関する制度、障害児教育、特別児童扶養手当・障害児福祉手当などの経済的支援、難病に子どもの支援に関する制度を学ぶ。					全員
9	児童健全育成を学ぶ。児童健全育成の目的と内容、健全育成施策の現状としての地域組織活動、児童厚生施設、放課後児童健全育成事業の現状と課題、児童手当制度の制度変更の内容などを中心に理解を深める。					全員
10	保育制度を学ぶ。保育制度の概要と保育の実施体制、保育制度の変遷、保育所の多機能化などを理解する。保育施策の現状について、認可保育所の運営・入所方法・保育内容を理解する。認可保育所の事業内容である、乳児保育・障害児保育・育児相談などを理解する。					全員
11	子ども子育て支援制度の内容を理解する。幼保連携型認定こども園を中心とする、認定こども園制度の具体的内容、認可外保育施設の種類と保育サービスを理解する。その他保育サービスとしての、家庭的保育事業（保育ママ）、ファミリーサポートセンター事業、幼稚園の預かり保育の実情を理解する。					全員
12	ひとり親家庭の福祉を学ぶ。ひとり親家庭の現代的様相、経済的支援策（児童扶養手当法・母子福祉資金など）、就業支援策、雇用対策、施設による支援としての母子生活支援施設の現状と課題、母子支援員や少年支援員の専門性を理解する。					全員
13	社会的養護を学ぶ。社会的養護を必要とする児童への具体的支援策を理解する。代表的施設サービスである、乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・児童心理治療施設の基本的機能、専門職の動きを理解する。					全員
14	非行児童・情緒障害児への支援を学ぶ。非行と情緒障害は不可分の関係があること、家族問題としての非行の動向と非行そのものの理解を深める。児童相談所のみならず、非行少年への対応の第一義機関である家庭裁判所の役割を理解する。					全員
15	児童虐待対策を学ぶ。児童虐待の定義、児童虐待の実態、子どもを虐待から保護する仕組み、子ども虐待の発見と通告、在宅支援と施設における保護などの実態を理解する。児童虐待対策の課題として、関係機関とのネットワーク、発生予防の具体的施策を理解する。					全員
成績評価方法及び基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	70	基本的知識を問う問題を中心とする。国の最新の制度政策も内容に含まれるが、その都度資料などを配付し講義されるので、内容などを正確に理解する。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている 自らの課題が設定されている。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
子どもや家庭に関する新聞記事及びニュース報道などを事前に読み込み、その要因・課題について自らの意見をまとめる。〔40分〕講義・演習などの学びから、子ども家庭福祉に関する社会資源について、自らの居住する地域の具体的な機関・施設などの実践内容・機能などについて調べる。〔40分〕			期末試験を講義最終回直前に実施し、最終回にて試験問題の解説などを行う。			
受講生に望むこと	子ども家庭福祉の基本となる内容が教授され、保育のみならず教育においても根幹をなす科目であるから、確実に専門用語などについては内容の理解に努めること。			教科書・テキスト	『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度（第7版）』社会福祉士養成講座編集委員会編 中央法規 2019年 ISBN 978-4-8058-5809-7	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	子ども教育学科の基本的科目の一つである。この科目履修が学びの最低要件である。	
実務経験を活かした授業の概要						
児童家庭福祉の政策決定過程を、市町の行政資料に基づき解説し、社会福祉審議会のあり方などを教授している。また石川県内の各市町の子ども政策にかかる福祉計画を学生が調査し、その内容について比較研究を行い学びを深めている。						

授業科目名	EN155U 社会福祉			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	岡田 文貴						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所に限らず、児童養護施設や児童相談所、あるいは障害児施設などの児童福祉施設など、保育士の勤務先は多様に存在します。また児童福祉制度は、社会福祉制度の1つとして位置づけられています。保育士は、障害福祉領域や公的扶助の領域との連携が必要となる可能性もあります。幅広い知識は、保育士としての仕事を質的に向上させます。この科目では、保育者に必要な社会福祉の基礎知識を学習します。</p>				<p>保育の知識が、保育所以外の児童福祉分野の仕事に役立てることができることを理解します。 子育ての悩みや深刻な事情などで、児童に対し必要な保護及び援助が確保されていない場合、社会福祉制度を活用することが有効であることを理解します。</p>			
教授方法	講義 グループ討論						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会福祉の理念と歴史の変遷：社会福祉とは何か、そしてそれがどのような理念で実践され、人々の生活や生命への介入を果たしているかを学びます。						
2	子ども家庭支援と社会福祉：家庭を支援していくことの重要性について学び、実際の仕事を通して子ども家庭支援について考えます。						
3	社会福祉の制度と法体系：日本の社会福祉法制度の体系を整理し、制度・法律の種類について基礎知識を身につけ、保育にかかわるうえで知っておくべき主要な社会福祉制度・法律のポイントを理解します。						
4	社会福祉行政と実施機関、社会福祉施設等：福祉事務所や児童相談所などの相談機関、社会福祉の財政、社会福祉施設など、行政機関がどのような制度を整備しているのかを理解します。						
5	社会福祉の専門職：社会福祉の資格の定義や役割・機能等を、根拠となる法律から理解します。そして、地域における多職種および地域住民との連携・協働の動向について理解します。						
6	社会保障制度及び関連制度の概要：誰を「対象」とし、どのような「分野」があり、いかなる「方法」で私たちの暮らしを守っているのか。そして「子育て世帯」がなぜ貧困に陥ってしまうのか、その背景を考えます。						
7	相談援助の理論：保育士が子どもの家族とかかわる際に用いる相談援助の理論について、その成り立ち 理論の発展過程 現場実践での留意点、そして人の行動や取り巻く環境の多様性について理解します。						
8	相談援助の意義と機能：専門的な意味での「相談援助」とは何か、その意義と機能から理解を深めます。						
9	相談援助の対象と家庭：子ども、保護者、地域といった対象に応じた関わり、相談援助の課程について段階を追って解説。援助者としての態度、そして援助者として意識していきたい視点について理解します。						
10	相談援助の方法と技術：相談援助の視点、人と環境との接点、環境や社会資源へのはたらきかけ、保育現場において保育者が相談援助の方法と技術を用いた支援を行うことの強みなどについて考えます。						
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ：利用者保護にかかわる制度に関して、その背景や法的根拠等を学ぶとともに、実際のしくみについて学びます。						
12	少子高齢化社会における子育て支援：少子化の現状を確認したうえで、これまでの少子化対策の展開と少子化対策における保育所の役割について学びます。						
13	共生社会の実現と障害者施策：障害のとらえ方と障害者の現状、共生社会の実現に向けた障害者施策、「インクルージョン」とそのなかで保育士に期待される役割について学びます。						
14	在宅福祉・地域福祉の推進：地域福祉という考え方やその実践方法を学ぶ、子ども、保護者や地域住民、隣接諸領域の専門職に対する保育士の関わり方を理解します。						
15	諸外国の社会福祉の動向：福祉国家としての先進諸国がどのような現状にあるのかを学びます。そのために、福祉国家とは何かについて理解します。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末試験	50	社会福祉の基礎的な用語や定義などが理解できているかを評価します。			授業参加態度	20	講義及びグループ討議での受講態度を評価します。
レポート	30	レポートの内容が、テキストの内容を理解した上で作成されているかどうかで評価します。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1回の授業で1つの講を終了する予定です。授業の前にテキストを読んでおきましょう。[10分] 授業の後、その日に理解できなかった用語は、社会福祉用語辞典等で理解しておきましょう。[10分]				レポートは15回の授業の中で5回提出です。1講～3講、4講～6講、7講～9講、10講～12講、13講～15講ごとにレポート提出です。テーマは授業の中で提示します。 期末試験は、毎回の授業で行うワークシートを中心に問題を作成します。			
受講生に望むこと	講義中は聴くことに集中し、グループ討議では積極的に発言してください。			教科書・テキスト	『新基本保育シリーズ 社会福祉』松原康雄 坏 洋一 金子 充 編集 中央法規 2019年 ISBN：978-4-8058-5784-7		
指定図書/参考書等	授業の中で提示します。			その他・特記事項	毎回の授業で、各章のまとめとしてワークシートを作成し取り組みます。		
実務経験を活かした授業の概要							
社会福祉事業における勤務経験を活かし、社会福祉従事者に必要な価値観・態度・知識・情報・技術などについて説明し、これらの知識は保育分野でも有効であることを伝えている。							

授業科目名	EN255U 社会的養護		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	側垣 二也					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
現代の家庭基盤の脆弱化によって、児童虐待の増加が象徴する多様で複雑な児童とその家族の問題を生み、社会の養育支援体制の構築、児童養護施設、乳児院、里親といった代替的養育支援などの社会的養護実践がますます重要となってきた。そこで本講義では、保育所や生活型児童施設で働く保育者に求められる知識として、今日の児童と家庭あるいは親子関係の問題などの様々な養護ニーズを理解し、その総合的支援概念である社会的養護の理念、体系、現状、方向性を学ぶ。			1 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解している。 2 社会的養護と児童家庭福祉について理解している。 3 社会的養護の制度と実施体系について理解している。 4 施設養護の実態を理解している。 5 社会的養護の課題と展望を理解している。			
教授方法	内容をより分かりやすく講義では、すく理解するため、P.P.など視聴覚教材を用い進める。課題を示しレポート作成提出を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育における社会的養護					
2	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の理念と概念					
3	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の歴史の変遷 欧米					
4	現代社会における社会的養護の意義 - 社会的養護の歴史の変遷 日本					
5	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童家庭福祉と社会的養護の関係性					
6	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童の権利と社会的養護					
7	社会的養護と児童家庭福祉 - 児童の権利と社会的養護					
8	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と法体系					
9	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と実施体系					
10	社会的養護の制度と実施体系 - 社会的養護の制度と実施体系					
11	社会的養護の実施体系 - 家庭養護と施設養護と施設で働く専門職					
12	施設養護の実態 ビデオ視聴とレポート					
13	施設養護の実態 養護系、非行系他					
14	小規模ケアと個別化・施設運営					
15	社会的養護の課題と展望					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	遅刻回数はどうか、熱心に授業に臨み、講義中での発言、回答が的確か。		課題についてのレポート提出	40	レポートを以下の要領で提出する。 ・指定の書式にしたがって作成する。 ・自分の考察を加えて記入している。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持ち、情報収集を行う。[60分]			ビデオ視聴についてのレポート提出後、次の授業で疑問、質問に対する解説を行う。			
受講生に望むこと	社会的養護は、社会における様々な児童と家庭の出来事と密接に関連しています。したがって、特にテレビや新聞のニュースあるいはインターネット情報に関心を示し、現代社会にある児童と家庭の問題、課題は何か、福祉ニーズは何かに関心や興味を普段から持つことを望みます。そのことにより、授業の理解度が進みます。また、施設実習に必要な知識と実践方法の学習ですから真剣に授業に臨んでください。		教科書・テキスト	最新 保育士養成講座 第5巻 社会的養護と障害児保育 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会 社会福祉法人全国社会福祉協議会 2019年 I S B N : 978-4-7935-1308-4		
指定図書/参考書等	なし / 『社会的養護シリーズ2 施設養護実践とその内容』 庄司順一・鈴木力・宮島清編 福村出版 2011 ISBN978-4-571-42511-0		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
児童養護施設における自身の勤務経験を踏まえつつ、現代社会にある児童と家庭の問題、課題について講義を行っている。						

授業科目名	EN260U 社会的養護内容			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
社会的養護について理解を深めることを主な内容とする。家庭に代わる養育の場としての「児童養護施設」、「乳児院」、「児童自立支援施設」、「児童心理治療施設」、「母子生活支援施設」における具体的な養護内容を理解する。こうした施設入所に至った要因としての児童虐待や家族問題の背景に焦点をあて、家族病理や社会病理の視点から、現代の社会的養護の課題を明確化するとともに、子どもの権利擁護という視点からその家族再統合(家庭復帰や家族関係の再構築)の方途などについて考察する。				社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に理解している。 施設養護及び他の社会的養護の実際について理解している。 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援方法、治療的支援方法、自立支援等の内容について具体的に理解している。 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法論と及び技術について理解している。 社会的養護を通して家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉、司法福祉などについて理解している。			
教授方法	ケースを読み込み、そのケースについて、提示課題によるグループディスカッションを中心とした演習とする。						
履修条件	「子ども家庭福祉論」及び「社会的養護」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	社会的養護の大枠を理解し、社会的養護関係施設にて暮らす子どもの心理的特徴を理解する。						全員
2	施設養護の特性及びその実際を学び、ホスピタリズム理論と現代の児童養護の課題を検証する。						全員
3	社会的養護のあゆみ、特に石井十次、留岡幸助の実践からその理念や具体的展開などを学ぶ。						全員
4	乳児院の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
5	児童養護施設の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
6	児童養護施設の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
7	児童自立支援施設の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
8	児童心理治療施設の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
9	母子生活支援施設の実践事例を通じて、その課題とあり方について学ぶ。						全員
10	児童養護施設の心理治療の実践場面を通じて社会的養護と心理治療の関係、その具体的実施などについて学ぶ。						全員
11	児童養護施設、乳児院の実践事例を通じて、施設保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用を学ぶ。						全員
12	児童養護施設の実践事例を通じて、リービングケア、アフターケアなど、児童の自立へのプロセスを学ぶ。						全員
13	里親家庭の実践事例を通じて、今日的課題を学び、施設養護との対比からその特徴、問題点を理解する。						全員
14	被措置児童等虐待(施設内虐待)の現状と発生要因を学び、その対応、予防を学ぶ。						全員
15	自立支援計画とアセスメントについて、その策定と運用の実際について学ぶ。						全員
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
期末レポート	70	児童養護施設、乳児院などの社会的養護の実践現場の課題を明確に記載し、その今後のあり方などを論述、理解している。			リアクションペーパー	30	毎回の演習内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
社会的養護にかかる児童福祉施設の種別・機能・養育内容について「子ども家庭福祉論」「社会的養護」で学んだ内容を整理しておくこと。[30分] 授業における演習内容からの学びについて、具体的な展開を考察する[40分]				期末レポートの講評、評価視点などについて、施設実習指導などを通じて総括を行う。			
受講生に望むこと	現代の家族問題から社会的養護の抱える問題を自ら発見する姿勢を期待したい。積極的なディスカッションへの参加と能動的な学びを求める。			教科書・テキスト	『児童養護施設児の日常とこころ』 森田喜治著 創元社 2013年 ISBN 978-4-422-11571-9		
指定図書/参考書等	なし/『児童養護施設と被虐待児』 森田喜治著 創元社 2009年 ISBN 4-422-11380-1			その他・特記事項	演習科目であり、積極的な発言など演習への前向きな姿勢が望まれる。		
実務経験を活かした授業の概要							
児童養護施設から提供いただいた事例を踏まえ、ケースメソッド方式により、小グループでのディスカッションから、社会的養護の本質、近未来のあり方などについて、議論を深めて学ぶ。							

授業科目名	EN266U 子どもの保健		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	津田 朗子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子ども個々の育ちを理解し、適切な環境を整え支援することは、保育専門職の重要な役割である。子どもの保健では、子どもの発達の特徴や現代社会における課題をふまえ、乳幼児期に多く見られる健康問題や子どもを取り巻く環境について考え、その健全な発達が保障されるよう、健康問題の予防・早期発見や子ども・家族への支援方法、他職種との連携・協働など、保育専門職としての適切な対応について学ぶ。			子どもの身体発育や生理機能の特徴を理解している。 子どもの疾病とその予防法、及び適切な対応について理解している。 子どもの精神保健とその課題等について理解している。 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解している。 保育現場における事故防止、安全対策・危機管理と、組織的対応について理解している。			
教授方法	講義					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：子どもを取り巻く環境の変化と子どもの育ちオリエンテーション、近年の子どもを取り巻く環境の変化をふまえ、子どもの発達保障における課題について考える					
2	発達の原則と特徴 アタッチメントとこころの発達					
3	身体の発育 運動機能の発達と評価					
4	生理機能の発達と保健(1) 脳、呼吸・循環・体温調節、生体リズムなど					
5	生理機能の発達と保健(2) 摂食・消化機能、排せつ、水分代謝、免疫など					
6	子どもの栄養と食習慣の確立(授乳・離乳)、歯と口の健康(むし歯)					
7	感染症とその予防、予防接種					
8	アレルギーのある子どもとその対応					
9	その他の子どもの病気(先天性疾患含む)					
10	子どもの病気と健康状態の観察(アセスメント)、体調不良時の対応					
11	小児救急					
12	発育・発達の把握と健診(発達診断とアセスメント)、保護者との情報共有と親支援(GW) 事故予防(災害も含む)					
13	子ども虐待とその予防：虐待の現状、虐待が子どもに与える影響、虐待予防と子育て支援					
14	障害のある子どもへの理解と対応					
15	まとめ：子どもの健やかな育ちを保障するために(多様な支援の展開と関連機関との連携・協働)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	期間内に3回実施。講義内容の理解を確認する。		課題レポート	20	基本的知識の理解のもとに、さらに自主的に資料を調べ、自分の考えを述べられる。
期末試験	50	講義内容の重要点を十分理解していること。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義終了時に、次回の講義内容に関連した資料または情報を提示するので、熟読し頭づくりをしておくこと[30分]。			小テストの結果は個別には返却しないが、理解度の把握に活用し、次回講義の中で全体にコメントすることによりフィードバックする。			
受講生に望むこと	真摯な態度で授業に臨むこと		教科書・テキスト	「子どもの保健 第1版」 遠藤郁夫編 株式会社学建書院 2019年 (ISBN: 978-4-7624-0889-2)		
指定図書/参考書等	『子どもって・・・ね』木村留美子著 エイデル研究所 ISBN4-87168-393-1/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EN275U 乳児保育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児保育の意義や目的、役割を理解し、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。低年齢児の発達、発達を踏まえた援助や関わりについて学ぶ。			乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解している。保育所・乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解している。3歳未満児の発達を踏まえた保育の内容と運営体制について考えることができる。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解している。			
教授方法	講義・ワーク（個人・グループ）					
履修条件	保育士資格取得希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	・オリエンテーション ・赤ちゃんの不思議：赤ちゃんの親になるということ ・乳児保育の意義・目的・役割：乳児保育の基本的な考え方について理解する。					
2	乳児保育の現状と課題：子育て家庭に対する支援、支援をめぐる社会的状況の課題点について学び、多様な保育、支援の場を知る。					
3	保育所等で行う乳児保育における個々の子どもに応じた援助や受容・応答的な関わりについて学ぶ。					
4	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり(1) ゼロ歳児と生後6ヶ月未満児：身体・運動的発達の特徴：生活リズム（睡眠・食事・排泄）をとらえる。「三つの視点」から述べられる「ねらい」より、この時期に育てたいことを考える。遊び・「特定の他者」の重要性を考える。[乳児人形を用いて関わり方を学ぶ]					
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり(2) ゼロ歳児（生後6ヶ月以上）から1歳3ヶ月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割とは。[乳児人形を用いて関わり方を学ぶ]					
6	3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育内容(1) 1歳児とは（1歳3ヶ月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。自我の育ち「イヤ」「シブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して。					
7	3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育内容(2) 2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。意欲の発達に注目して。言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲良し」について理解する。					
8	3歳未満児の保育に関わる配慮事項(1) 「健康」面について乳児保育の視点から理解する。					
9	3歳未満児保育に関わる配慮事項(2) 「安全」面について乳児保育の視点から理解する。様々な保育事故の事例から危険予想と対応を考える。[グループワーク]					
10	3歳未満児保育に関わる配慮事項(3) 乳児保育における「子ども主体」のとらえ方。3歳以上児の保育に移行する時期の保育について考える。					
11	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解する。適切な関わりを考える。担当制、職員間の連携について調べ、理解する。[グループワーク]					
12	遊びを通して発達する力：身体発達に合わせた視点・社会的発達に関する視点・精神的発達に関する視点から、発達と遊びによる学びのつながりについて考える。					
13	乳幼児の自然との対話：3歳未満児が自然の中で身体をどのように使い、何を感じ、何を学ぶのか。					
14	保育の記録と自己評価について：個別記録・デイリープログラムについて考える。					
15	まとめ 授業内試験					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	40	授業に対して積極的に参加し、グループワークに協働的に取り組む姿勢。		課題（ミニレポート）	30	課題提出状況と内容（自分で学習したことや授業内で学んだことを理解し、まとめられている）
臨時試験	30	乳児保育についての理解				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
・自分の出生に関する資料（母子手帳・保育所等の成長記録等）を見たり、乳幼児期について尋ねたりして自身の成長過程を知る。[60分] ・自分の保育所や幼稚園時代の連絡帳、記録を準備する。 ・乳児を対象とした歌遊び・ふれあい遊びについて考え、学んでおく。[120分]				前回授業についての質問や課題について振り返り、補足、助言を行う。		
受講生に望むこと	・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。 ・乳児人形等教材を用いた演習に心を動かしながら取り組んでほしい。			教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館（2018年）ISBN978-4-577-81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9	
指定図書/参考書等	なし/なし（必要な資料は随時印刷して配布、または紹介する）			その他・特記事項	保育士資格取得に関わる内容である。「子どもの保健」「保育者論」等の授業と関連づけながら学びを深めていきたい。	
実務経験を活かした授業の概要						
幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、乳児保育の意義や役割を実際に保育現場で起こってきた歴史的背景と照らし合わせて伝えていく。乳児の発達や生活の捉え方をビデオや保育事例を通して伝えている。						

授業科目名	EN280U 障がい児保育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	徳田 茂					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>障害の有無に関わりなくすべての人々が共生する、インクルーシブ社会の実現のためには、障害のある子とない子が共に活動し育ち合う、インクルーシブ保育がとても重要である。この授業では、新しい障害概念を理解したうえで、障害のある子の育ちの援助について、理論的側面と実践的側面から理解を深められるようにしたい。さらに、障害児の家族への援助、インクルーシブ保育の実践についても理解を深められるようにしたい。</p>			<p>障害者権利条約や改正障害者基本法、障害者差別解消法などをベースとして、新しい障害概念を理解する。障害のある子を一人の子どもとして捉えることの大切さを学び、その子とのよりよい関わり方について理解する。障害のある子の育ちの援助の実践について理解する。障害のある子の家族の心理とその援助について理解する。障害のある子とない子が共に育ち合う、インクルーシブ保育の重要性とその実際について理解する。</p>			
教授方法	講義とテーマごとの学生の発表、グループ討論と発表					
履修条件	保育士資格取得希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：調べて発表するテーマの分担をする。障害とは何か（1）自分と障害児の関わりについて振り返る。					
2	障害とは何か（2）：障害者権利条約や障害者基本法等をもとに、新しい障害概念を理解する。					
3	障害とは何か（3）：さまざまな障害について学ぶ。					
4	その子自身を理解することの大切さ：障害児をひとくりにせず、一人ひとりの子どもについて理解することの大切さを学び、一人の子をよく理解するための方法を学ぶ。					
5	障害児保育とコミュニケーション（1）：子どもの育ちの援助には、よりよいコミュニケーションが不可欠である。障害児との関わりにおいては非言語的コミュニケーションがとりわけ重要である。そのことを念頭にコミュニケーションについて学ぶ。					
6	障害児保育とコミュニケーション（2）：さまざまな障害のある子のコミュニケーションの特徴を理解する。					
7	見通しをもって実践する：子どもの育ちの援助における見通し・仮説－実践－検証の重要性と、その実際について学ぶ。					
8	障害児保育と遊び（1）：どの子にとっても遊びは育ちの源である。障害児の遊びと育ちについて、特に運動面に焦点をあてて学ぶ。遊びの中での援助の実践についても学ぶ。					
9	障害児保育と遊び（2）：障害児の遊びと育ちについて、手の動きや認知・社会性などの面に焦点をあてて学ぶ。保育者としての援助のあり方等についても学ぶ。					
10	生活習慣獲得の援助：障害児が生活習慣を獲得していくために必要な援助の実際について学ぶ。					
11	親の思いを聴き、共に生きる（1）：実際の例にふれながら障害児の親の心理について理解を深める。					
12	親の思いを聴き、共に生きる（2）：障害児の親への援助の実際と、親の心理の変容について学ぶ。					
13	インクルーシブ保育を目指して（1）：インクルージョンの理念を理解し、障害のある子とない子が共に育つ保育の重要性について学ぶ。					
14	インクルーシブ保育を目指して（2）：インクルーシブ保育の実際と、その課題について学ぶ。					
15	よりよい保育者となるために：障害のある子を含め、さまざまな子どもの育ちを援助する保育者として、ぜひ身につけていきたい資質などについて学ぶ。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
調べたテーマについての発表	20	テーマについて、的確な調べとわかりやすい発表ができたかどうかをみる。		テスト	80	各設問について正しく理解し、わかりやすくまとめられているかどうかをみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> それぞれ与えられたテーマについて調べる。[120分] （調べた内容を授業で発表する。） 事後学習としてその日のテーマについて振り返りを行う。[60分] 			<ul style="list-style-type: none"> 各時間ごとに疑問・質問を提出してもらい、次の時間の冒頭にそれぞれの質問に答える。 テーマについての発表後、発表内容について口頭で評価する。 グループディスカッションで出された疑問・質問に答える。 			
受講生に望むこと	近年、障害概念が大きく変わっています。新しい障害概念をよく理解して下さい。そのうえで、障害児を一人の大切な子どもとして受け止めるための基本的な人間観や保育観を身につけ、さらにその育ちの援助の実際について、できる限り深く学んで下さい。障害のある子とない子が共に育ち合うことを目指すインクルーシブ保育についても理解を深めて下さい。さらに、自分を見つめる姿勢を養って下さい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	指定図書：『共に生き、共に育つ』徳田茂（ミネルヴァ書房）2019年 ISBN：978-4-623-08775-4 『知行とともに』徳田茂（川島書店）1994年 ISBN：7610-0542-4 / 参考書：『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』堀智晴他（ミネルヴァ書房）2014年 ISBN：978-4-623-07057-2			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
障害のある子どもの育ちの援助についてより理解を深められるよう、障害児福祉施設における自身の勤務経験をもとに、事例を取り入れ、講義を行っている。						

授業科目名	EN160U 音楽表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちが発達段階に応じて音や音楽に親しみ関心を持つ環境を設定できるように、保育者として必要な基本的知識と技能を身に付ける。特に、子どもの生活や遊びと密接に関わる歌やリズム遊びを取り入れ、保育者自身が音や表現活動を楽しみ、保育現場で実践できるようにする。様々な楽器に触れて演奏する他に鑑賞を通して豊かな感性を養う。			楽譜を見て歌うことができる。 範唱を聴いて歌うことができる。 「表現する」とは何か、具体的に考えることができる。 乳幼児期の発達と音楽表現について理解する。 音楽と身体表現について実践を通して理解する。 課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。			
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループワークを行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田、武田
2	「表現」って何だろう？：表現するとは何か理解を深める。音楽コミュニケーション：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田、武田
3	「表現」って何だろう？：総合的な視点で表現活動を捉える意義について理解を深める。音楽コミュニケーション：「まねること・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田、武田
4	「表現」って何だろう？：保育における領域「表現」について理解を深める。音楽コミュニケーション：「一緒に動くこと・歌うこと」について実践を通して考える。読譜トレーニング：楽譜の読み方について習得する。					多保田、武田
5	歌うことを中心とした表現活動：生活・遊びの子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
6	歌うことを中心とした表現活動：季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
7	歌うことを中心とした表現活動：動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。課題発表					福田
8	歌うことを中心とした表現活動：遊びうたを通して、歌唱表現について考える。					多保田、武田
9	楽器を用いた表現活動：パンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、打楽器の特徴と奏法について考える。					多保田、武田
10	楽器を用いた表現活動：パンブードラムやリズム楽器を用いた合奏を通して、子どもと楽器について考える。					多保田、武田
11	子どもの発達と音楽表現：乳幼児期の発達の特性(0歳児・1歳児・2歳児)について理解を深める。 さあ はじめよう！：音を聴くことについて考える。					多保田、武田
12	子どもの発達と音楽表現：乳幼児期の表現の特性(3歳児・4歳児・5歳児)について理解を深める。 移動する動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田、武田
13	子どもの発達と音楽表現：聴く力の発達について理解を深める。 移動しない動き：音楽と身体の動きについて実践を通して考える。					多保田、武田
14	子どもの発達と音楽表現：歌唱表現の始まりについて理解を深める。 音楽と身体表現：音楽から生まれる身体の動きについてグループで話し合い、身体表現を考える。					多保田、武田
15	音楽と身体表現：課題の発表(課題の発表を通して、様々な身体表現方法について考える。)					多保田、武田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。(毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] 次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 試験については、次学期初めに採点し、返却します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2019年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』石井玲子編著 保育出版社 2018年 ISBN978-4-938795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EN165U 音楽表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美・福田 真紀 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「音楽表現」で学んだ内容を踏まえ、打楽器や旋律楽器などの演奏も取り入れた様々な表現技能を身に付ける。特に、体験したことを表現したいという子どもたちの思いを取り上げ、音楽表現を通して発表したり遊びに生かしたりできるように、音を通した様々な表現方法を学ぶ。</p>			<p>楽譜を見て歌うことができる。 範唱を聴いて歌うことができる。 歌うことや演奏のための様々な表現技術を身に付ける。 音楽からイメージしたことを身体表現することができる。 課題を発表する機会を持つことによって、歌うことや演奏のための準備について考えることができる。</p>			
教授方法	講義と実技の他にテーマに沿ってグループワークを行う。					
履修条件	「音楽表現」の単位を修得済の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション : 授業の進め方と成績評価の方法を理解する。 子どものうたの変遷 : 明治期に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田、武田
2	子どものうたの変遷 : 大正期から現代に作られた子どものうたを通して子どものうたについて理解を深める。					多保田、武田
3	生活や遊びの中での歌唱表現について考える。					多保田、武田
4	子どものうたの分類方法について考える。					多保田、武田
5	保育者としての表現力 : 歌声で表現することについて実践を通して考える。					多保田、武田
6	歌うことを中心とした表現活動 : 様々な生活・遊びの子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
7	歌うことを中心とした表現活動 : 季節・行事・自然の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。					福田
8	歌うことを中心とした表現活動 : 動物・植物等の子どもをうたを通して、歌唱表現について考える。 課題発表					福田
9	保育者としての表現力 : 歌声で表現することについて実践を通して考える。 様々な楽器と奏法について : 保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。「音のアンサンブル」 : 打楽器を用いてアンサンブルをつくる。					多保田、武田
10	保育者としての表現力 : 保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。 様々な楽器と奏法について : 保育で用いられる楽器の奏法を身に付ける。					多保田、武田
11	保育者としての表現力 : 保育の場におけるピアノの役割について実践を通して考える。子どものうたの選曲ポイントについて考える。					多保田、武田
12	保育者としての表現力 : 歌唱表現の進め方について考える。 音楽と身体表現 : リズミカルに反応する基礎的な身体・技能の育て方について考える。					多保田、武田
13	保育者としての表現力 : 歌唱表現の導入について考える。 音楽と身体表現 : 作品づくりのグループワークを通して身体表現について考える。					多保田、武田
14	保育者としての表現力 : 教材選択における留意点について考える 音楽と身体表現 : グループの作品発表と鑑賞を通して、様々な身体表現方法について考える。					多保田、武田
15	保育者としての表現力 : 子どもの動きに合わせた即興演奏の方法について考える。					多保田、武田
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		試験	40	各回の講義内容について理解しているか。試験形式等の詳細は授業内に提示する。
コミュニケーションシート	30	提出状況と内容。(毎回の授業ポイントを押さえまとめられているか。感想だけに終わらない自らの意見が述べられているか。自らの課題が設定されているか。)				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[60分] 次回授業のための課題について準備して下さい。[30分]				毎回のコミュニケーションシートは、次回冒頭にコメントを付けて返却します。 試験については、次学期初めに採点し返却します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。 個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んで下さい。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2017年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・津田正之編著 教育芸術社 2019年 ISBN978-4-87788-823-7 / 『RHYTHMS for CHILDREN』北陸学院大学編集 2019年 / 『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』石井玲子編著 保育出版社 2018年 ISBN978-4-936795-78-8 / プリント / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 / 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814482	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EN285U 児童文化			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
伝承の遊びとおはなしに親しみ、それらが子どもの様々な発達といかに関わっているかを考える。さらに、子どもに手渡す際の留意点を探る。また、課題としておはなしを覚えて語ることを経験する。				わらべ唄で遊ぶ体験を通して、それぞれのわらべ唄を覚えている。子どもの発達段階に応じてどのわらべ唄がふさわしいかを知っている。わらべ唄の音楽的特徴を理解している。昔話の特徴を理解している。子どもの発達に応じた、おはなしを選ぶことができるようになる。ストーリーテリングを体験することによって、お話を聞くことの楽しさを知る。ストーリーテリングを実際に経験している。(他の学生のおはなしを聞き、おはなしを覚える練習をする。)			
教授方法	実際に身体を動かしてわらべ唄を体験する。伝承のおはなしである昔話を、語り伝えられたと同じように、耳だけで聞く体験をする。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	わらべ唄とは何か：わらべ唄にはどのような特徴があるか考えたい。地域性、旋律やリズムの特徴について、口伝えであることが深く関わっていることを認識する。						
2	わらべ唄と子どもの成長との関わり：わらべ唄を楽しむ条件として、子どもの身体的・言語的・社会的発達が重要であることを知る。						
3	言語発達とわらべ唄：わらべ唄には、日本語の拍感・リズム感・発音また地域のイントネーションがそのまま入っており、母語の獲得時期にくりかえしうたってやることで子どもの言語発達にとって重要であると知る。						
4	運動機能・空間認知の発達とわらべ唄：新生児から学童期まで、子どもの運動発達を粗大運動と微細運動の面からとらえ、どのようなわらべ唄遊びを取り入れられるか考える。						
5	伝統行事の中でのわらべ唄：日本人が行ってきた祭り、年中行事の中で、特に子どもが関わってきた行事に注目し、その中で伝承されてきたわらべ唄を紹介する。						
6	音楽としてのわらべ唄：子どもの音楽的能力の発達とそれに沿った大人の働きかけについて考える。月齢に応じて育てていきたい能力(リズム感・聴感)を意識した課業を考える。						
7	わらべ唄を課業に取り入れるための留意点：わらべ唄遊びを楽しむには、仲間関係や運動発達が大きく関わることをふまえ、一人一人の子どもをよく観て子どもたちに沿った課業案を立てることが大切だと認識する。						
8	昔話とは何か(昔話の分類)：神話、民話、伝説、昔話といった用語を整理し、昔話を定義する。その上で、昔話には語りの特徴が見出されることを知る。						
9	昔話とは何か(昔話の語り口 1)：昔話の文芸学的研究に基づき、語りの特徴(一次元性、孤立性、平面性)について例をあげて解説する。						
10	昔話とは何か(昔話の語り口 2)：引き続き、昔話の語りの特徴(固定性、極端性、抽象的様式)について例をあげて解説する。						
11	昔話とは何か(昔話の残酷性)：なぜ、昔話は残酷だといわれているのか、伝承であるがゆえに残る刑罰と、語り口の面から考察する。						
12	昔話とは何か(昔話に込められたメッセージ)：昔話には民衆の間人観・世界観・人生観が込められている。特に子どもに向けて語られた昔話にみられる、主人公の成長する姿について読み解いていきたい。						
13	おはなしに道具を取り入れるための留意点：子どもたちは、自分でも作って遊べる人形や、大人が演じてみせてくれる人形、自分自身も演ずることのできる人形を通して、さらにおはなしの世界を深く体験できる。その際のいくつかの留意点を考える。						
14	即興のおはなしと大人のための練習：昔話の語りの特徴を復習し、子どもが好むおはなしのパターンと結末を整理して、目の前の子どもたちを主人公にしたおはなしを即興で作れるよう練習する。						
15	子どもにとっての文学とは：子どもたちがその発達に応じて求めるおはなしについて知る。また、おはなしを楽しむ中で様々な関係を追体験したり消化したりできることを知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
課題の発表	50	子どもと一緒に楽しみたい詩を、自分が設定した月齢に応じて選んで、発表できているか。おはなしをきちんと覚えて、語れているか。			授業参加態度	30	演習で、わらべ唄を積極的に覚えようと努めているか、他の学生の発表から学ぼうとしているかを重視する。また、授業内での質問に対しての発言も考慮する。
定期試験	20	授業内容についてどれだけ理解しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
ストーリーテリングの発表はグループで行うため、その分担や練習などを各グループで行ってまいります。[1ヶ月以上、各自覚えらるるまで]各自、子どもの月齢を設定した上で詩を選んで朗読してまいります。事前に詩集を読み、発表する詩を準備して、授業にのそんで下さい。[90分以上]				発表の際にコメントします。評価やコメント等に対する疑問・質問の申し出にはいつでも対応します。			
受講生に望むこと	演習形式の授業のため、積極的な参加と出席が望まれます。動きやすい服装で参加してください。			教科書・テキスト	『CD付きすぐ覚えらるる わらべ唄のあそび』木村はるみ著 成美堂出版 2012年 ISBN: 978-4-415-30564-6		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED100U 心理学概論A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	加藤 仁						
標準履修年次	1年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>心理学の基礎知識を学び、人間のもつ様々な心理的機能について理解することを目的に、「心理学の定義・歴史」から、「基礎心理学・応用心理学」までの全般的・基礎的な事項を概説する。講義を通じて科学としての心理学について学習し、客観的かつ実証可能な手法で人の心を解明するという心理学の考え方に触れることで、以降の学びにつなげていく。</p>			<p>1. 心理学の成り立ちについて学び、歴史の中での心理学および諸科学の発展についての知識を身につける。 2. 人の心の基本的な仕組みおよび働きについて学び、自分自身の体験や身の回りの出来事を心理学の基礎理論から理解できるようになる。</p>				
教授方法	講義形式で行う。自分自身の体験や身の回りの出来事について心理学の基礎理論に基づいて考える機会も作る。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理学とは？：心理学の成り立ち・歴史について学ぶ。						
2	目は心の一部である：知覚心理学について理解する。						
3	心は見えないが行動は見える：学習心理学について理解する。						
4	ヒトの心の特徴：進化心理学について理解する。						
5	心は脳のどこにあるのか：神経心理学について理解する。						
6	それぞれの人にそれぞれの心：個人差心理学について理解する。						
7	心は機械で置き換えられるのか：認知心理学について理解する。						
8	ヒトは白紙で生まれてくるのか：発達心理学について理解する。						
9	勉強は本当に必要なのか：教育心理学について理解する。						
10	感情はどのような役割を果たすか：感情心理学について理解する。						
11	いい人？悪い人？：社会心理学について理解する。						
12	なんだかイヤな気持ち：ストレスと心の病気について理解する。						
13	発達の偏りと多様性：発達障害について理解する。						
14	心の問題へのアプローチ：心理的アセスメントと心理学的支援について理解する。						
15	心理学の展開：心理学とその応用領域について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期試験	70	試験の範囲や出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	30	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>毎回、授業後に欠かさず復習する習慣をつける。また、次回に行う内容に関して、教科書に該当部分がある場合には目を通しておくこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>			<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。定期試験は次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	初めて学ぶ内容であること・非常に多岐にわたるテーマを扱うことから授業に参加するだけでは消化しきれない可能性があるため、教科書や配布資料も活用しながら知識の定着に努めてほしい。		教科書・テキスト	『ゼロからはじめる心理学・入門』金沢剛・市川寛子・作田由衣子（著）有斐閣、2015年、ISBN-13：978-4641150225 / 同時に、教員が作成した資料も配布する。			
指定図書/参考書等	なし / 『心理学 新版』無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治（著）有斐閣、2018年、ISBN-13：978-4641053861		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED105U 心理学概論B			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は、心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義では、心理学の基礎的な知識を身につけることを目的とする。「心理学」というと、カウンセリングや心理療法を思い浮かべる学生が多いと思われる。しかし、実際にはその他にもさまざまな分野がある。本講義では、学習、感情、動機づけ、感覚、認知、生理といった分野を中心にとりあげる予定である。本講義を通じて人の心の仕組みや働きについて興味を持ち、理解を深める。</p>				<p>心理学という学問のなりたちや性質を理解している。感覚・知覚、学習、認知といった基本的な心の仕組みやはたらきを理解している。講義で学んだことを自分自身の経験や日常生活の問題に当てはめて考えることができる。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	心理学概論Aを履修済が望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：心理学とはどのような学問かを知る						
2	学習心理学1：条件づけの基礎と応用について学ぶ						
3	学習心理学2：観察学習、社会的学習について学ぶ						
4	学習心理学3：学習理論の現場での応用を学ぶ						
5	動機づけ：動機づけ理論の基礎を学ぶ						
6	感情：感情の種類、感情の理論の基礎を学ぶ						
7	知覚心理学1：知覚・感覚の特徴と働きを学ぶ						
8	知覚心理学2：視覚の特徴と働きを学ぶ						
9	知覚心理学3：聴覚の特徴と働きを学ぶ						
10	認知心理学1：記憶の理論の基礎を学ぶ						
11	認知心理学2：問題解決と意思決定の基礎を学ぶ						
12	認知心理学3：判断や言語の仕組みと働きを学ぶ						
13	生理心理学1：記憶と脳の関わりについて学ぶ						
14	生理心理学2：言語と脳の関わりについて学ぶ						
15	総括：これまでのまとめとふりかえり						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験	70	講義内容の理解度により評価を行う。		講義への参加度	30	講義中の態度および振り返りの内容により評価を行う。	
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>				<p>提出された課題に対しては、代表的な意見を取り上げて講評する。</p>			
受講生に望むこと	みなさんの抱く「心理学」のイメージとは異なるトピックも多く出てくるかもしれませんが、この講義をきっかけに、心理学の各領域をさらに深く学んだり、みなさんの身の回りの出来事、普段の対人関係、そして自分自身のこころについてより深く考えたりできるようになればと思います。			教科書・テキスト	金城辰夫(監修)藤岡新治・山上精次(共編)2016 図説 現代心理学入門[四訂版] 培風館 ISBN:978-4563052447		
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED110U 臨床心理学概論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	1年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
臨床心理学は心理学の様々な知見を対人援助に用いることを目的とした、応用的な分野の一つである。その内容は多岐にわたるため、本講義では対象、査定方法、心理療法のモデル、心理療法の理論、心理療法の技法、心理師（心理士）が活躍する現場に焦点を当てて学習する。臨床心理学では人を理解することが重要であるため、技法や検査を体験することで自己や他者の特徴について理解を深める機会と、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて人とのコミュニケーションの取り方について考える機会を設ける。			1)臨床心理学の成り立ちを説明できるようになること。 2)臨床心理学の代表的な理論を説明できるようになること。 3)臨床心理学の対象を説明できるようになること。 4)心理アセスメントを説明できるようになること。 5)臨床心理学の技法を説明できるようになること。 6)公認心理師が活躍する現場を説明できるようになること。			
教授方法	講義、演習					
履修条件	公認心理師、認定心理士、社会福祉士または対人援助職を目指す者。教職課程登録者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	臨床心理学の定義と歴史：臨床心理学とは何か、その定義と歴史を理解する。					
2	学校臨床心理学（不登校、いじめ、発達）：学校について臨床心理学的観点から理解する。					
3	発達障害：臨床心理学の対象のひとつである発達障害について、どのような特徴があるかを理解する。					
4	統合失調症：臨床心理学の対象のひとつである統合失調症について、どのような特徴があるかを理解する。					
5	双極性障害、抑うつ障害、不安障害：臨床心理学の対象である双極性障害、抑うつ障害、不安障害について、どのような特徴があるかを理解する。					
6	異常と正常、治療モデルと成長モデル：臨床心理学では異常と正常をどのように考えるのか、また、対象の変化をどのようなモデルに沿って考えるのかを理解する。					
7	心理査定（面接法、観察法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、面接法と観察法に焦点を当てて理解する。					
8	心理査定（投影法）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも投影法に焦点を当てて理解する。					
9	心理査定（知能検査、作業検査、質問紙）：臨床心理学では対象の特徴をどのような方法で把握するのか、検査法の中でも知能検査、作業検査、質問紙に焦点を当てて理解する。					
10	心理面接（受理面接・終結、マイクロカウンセリング）：臨床心理学の面接はどのように行われるのか、面接の開始、面接の終了、面接の技法を理解する。					
11	精神分析の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである精神分析について、その歴史、精神分析理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。					
12	人間性心理学の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論の一つである人間性心理学について、その歴史、人間性心理学理論の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。					
13	行動療法・認知療法の理論と実践：臨床心理学における代表的な理論である行動療法・認知療法について、その歴史、行動療法・認知療法の基本的な考え方、そして人の精神の捉え方を理解する。					
14	遊戯療法、家族療法、森田療法、内観、臨床動作法、自律訓練法：臨床心理学において頻りに利用される様々な心理療法について理解する。					
15	心理師（心理士）が働く現場（医療、教育、福祉）：臨床心理学を対人援助に実際に利用している心理師（心理士）がどのような現場で活躍しているのかを理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の考えを記述すること。講義のメモではなく、内容から発展させた自分の考えを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
講義内容に関連する内容について、参考図書をはじめとする臨床心理学に関連する学術的な書籍や論文を読み、知識や理解を深める予習が求められる。[90分] 内容の理解や知識の定着のために復習を積極的に行うことが求められる。[30分] グループでプレゼンテーションを行う際には講義以外にも仲間と打ち合わせや発表の準備を行う必要性が生じる場合がある。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを配布する。		
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、相応の受講態度と結果が求められる。			教科書・テキスト	なし。 適宜資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/園田雅代・無藤清子（2011）『臨床心理学とは何だろうか：基本を学ぶ、考える』新曜社 ISBN:9784788512269、岩壁茂・福島哲夫・伊藤絵美（2013）『臨床心理学入門：多様なアプローチを越境する』有斐閣 ISBN：9784641220034			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED221U 心理学統計法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理統計を学ぶ体系に位置づけられる科目である。統計学は人の行動、心のはたらきだけではなく、社会のさまざまな現象を理解するための有益なツールである。近年は学問領域だけでなくビジネスなどの現場においても統計学の知識、分析手法の技術の修得の必要性は高まっている。本講義では、統計学の基本的な考え方と活用方法を身につけることを目指す。</p>			<p>統計に関する基礎的な知識、心理学で用いられる統計手法を理解して適切に使用できる。 統計に関する基礎的な知識を用いて数量データを集計し、正確に読み解くことができる。 データに対して適切な分析手法を選択して実施するスキルを身につけている。</p>			
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーションとデータの集計：度数分布表の作成、図による表現について解説する					
2	代表値：データの分布の特徴を中心傾向から表現する					
3	散布度：データの分布の特徴をデータの散らばりから表現する					
4	相関と相関係数：2つの変数が関連している度合いを表現する					
5	クロス集計表と連関係数：クロス集計表のつくりかた、2つの変数が関連している度合いを示すもう一つの指標を学ぶ					
6	母集団と標本：母集団と標本の関係、標本抽出について知り、統計的推測の基本を学ぶ					
7	さまざまな分布 1：正規分布をはじめとするさまざまな理論分布を学ぶ					
8	さまざまな分布 2：標本分布について学ぶ					
9	中間テスト					
10	推定・信頼区間：点推定と区間推定の方法を学ぶ					
11	統計的検定 1：統計的検定はどのような考え方にもとづいて行われているのかを学ぶ					
12	統計的検定 2：有意水準、両側検定と片側検定など、統計的仮説検定に関わる概念を学ぶ					
13	統計的検定 3：1つの平均値の検定を例に統計的仮説検定の手順とその実際を学ぶ					
14	カイ二乗検定 1：クロス集計などで得られた度数を分析する方法を身につける					
15	まとめと振り返り：これまでの復習とまとめ					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	講義の内容の理解度により評価を行う。		中間テスト	30	講義の内容の理解度により評価を行う。
講義への参加度	10	講義への取組姿勢や課題の提出状況から評価を行う。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。 [45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>中間テストは終了後に解説を行う。 授業中に行う演習課題は終了後に答え合わせとコメントをおこなう。</p>		
受講生に望むこと	統計学には難しく感じる内容もあるかもしれないが、こつこつと積み上げるように学んでいくことで少しずつ理解ができるようになる。そのために授業だけではなく、予習と復習が欠かせないので実践してほしい。			教科書・テキスト	『よくわかる心理統計』山田剛史・村井潤一郎 ミネルヴァ書房 2004年 ISBN 978-4-623-03999-9	
指定図書/参考書等	なし/関連する参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED231U 心理学実験		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁・松下 健 (代表教員 加藤 仁)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学研究を進める上で、必要とされる各種実験手法について、その基礎的知識獲得から実施までを、実習をとおして学びます。各実験後に実験レポートを作成してもらいます。			実験計画の方法に習熟している。 実験器具の取り扱いを習得している。 実験で得られたデータの分析方法に習熟している。 実験レポートを的確に書くことができる。			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を説明する。					全教員
2	ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）：錯視の実験実習を行う。					加藤
3	「ミューラー・リヤー錯視（長さの錯視）」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
4	P-Fスタディ：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					松下
5	「P-Fスタディ」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
6	触二点閾：皮膚感覚のありようを理解するための実験実習を行う。					加藤
7	「触二点閾」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
8	面接場面における面談者と来談者の言語行動：面接場面の観察から言語行動を分析する手法を学ぶ。					松下
9	「面接場面における面談者と来談者の言語行動」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
10	鏡映描写：鏡に映された図形を見ながら、その図形を描くという課題に取り組む。					加藤
11	「鏡映描写」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
12	SD法：SD法の実験の実習を行う。					松下
13	「SD法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					松下
14	パーソナル・スペース：パーソナル・スペースの心理的効果についての実験の実習を行う。					加藤
15	「パーソナル・スペース」 レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実験レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う（計7本）。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		授業参加態度	10	実験とデータ処理に取り組む姿勢等の参加態度をみる。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
多様な種目が用意されているので、種目ごとに自分でその分野のテキストや先行研究を当たり、知識を深める。[90分] 各実験とも、実験レポートを作成し、次回の授業の時に提出する。[90分] 添削されたレポートによって復習する。[30分]				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため、すべての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』 西口利文・松浦均（編） ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-77-950237-8	
指定図書/参考書等	なし/『実践心理データ解析 問題の発想・データ処理・論文の作成 改訂版』 田中敏 新曜社 2006年 ISBN 978-4-78-851012-8 その他種目ごとに適宜授業内に提示することがある。			その他・特記事項	なし。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED251U 心理学実験		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁・勝谷 紀子・齋藤 英俊 (代表教員 加藤 仁)					
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。「心理学実験実習」に引き続き、心理学研究を進めるうえで必要とされる実験手法と実験計画の方法を、実習を通して学ぶ。本実習は、基礎的なものからやや応用的なものまで多様な手法を含んだ実習内容となっている。実験の枠組みの理解とともに実験器具の取り扱いの習得も目指す。</p>			<p>実験計画の方法を理解する。 実験器具の取り扱いを習得する。 実験で得られたデータの分析方法を習得する。 実験レポートの書き方に習熟する。</p>			
教授方法	グループで各実験種目を実施する。その後、実験について解説を行い、データの分析、レポートの作成を行う。					
履修条件	心理学実験実習 の履修済みが望ましい(単位未修得可)。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方の説明を行う。心理学実験についての基礎的な知識を確認する。					全教員
2	一対比較法：一対比較法の実験の実習を行う。					加藤
3	「一対比較法」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
4	単語記憶の再生：単語の記憶と系列位置効果に関する実験の実習を行う。					勝谷
5	「単語記憶の再生」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
6	Y-G性格検査：投影法による心理の理解という観点から実習を行う。					齋藤
7	「Y-G性格検査」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齋藤
8	自己制御：自己制御の実験の実習を行うことで、実験操作の考え方について理解する。					加藤
9	「自己制御」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
10	顔面フィードバック：表情からの顔面フィードバックプロセスに関する実験の実習を行う。					勝谷
11	「顔面フィードバック」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、仮説の立て方、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					勝谷
12	社会的態度：社会的態度を測定するための手法を用いた実験の実習を行う。					齋藤
13	「社会的態度」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					齋藤
14	ストループ効果：ストループ効果のありようを理解するための実験の実習を行う。					加藤
15	「ストループ効果」レポート作成指導：当該種目に関わる概念の解説、分析の実施方法、レポートの書き方の指導を行う。					加藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業内レポート	90	各種目で提出されたレポートの内容により評価を行う(計7本)。レポートとして重要な点は授業内に提示する。		実習への参加度	10	実験を行うにあたって担当者の指示を理解し、着実に実行されているかをみる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>種目ごとにテキストや配布されたプリントをよく読み、実験内容の理解を深める。[45分] 各実験種目のレポートを作成する。[120分] 各種目で適用された分析方法を復習する。[30分] 返却されたレポートを見直し、修正する。[30分]</p>				各種目についてのレポートは、添削終了後返却し、コメントを行う。		
受講生に望むこと	評価はレポートにより行われるが、実験実習であるため全ての回に出席・参加することが原則となる。また、授業時以外に自分で調べ、レポートを書き進めることで実験レポートを書く力が身につくので、授業への積極的な参加態度が求められる。			教科書・テキスト	『心理学実験法・レポートの書き方』西口利文・松浦均(編)ナカニシヤ出版 2008年 ISBN 978-4-7795-0237-8	
指定図書/参考書等	なし/種目ごとに適宜授業内に提示する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED226U 心理学研究法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
心理学は「心」という目で見たり手にとったりすることができないものが研究の対象である。心に対して研究という視点からアプローチをするためには、科学的な方法をいかに適切に行うかという点が重要である。心理学の研究を行うためには、科学的な方法を行うためのさまざまな知識を身につけることが欠かせない。本講義では、心理学の代表的な研究方法のうち実験法と観察法を習得することを目指す。			心理学における実証的研究法、具体的には実験法と観察法を中心とした量的研究及び質的研究の基本的な知識を身につけることができる。 データを用いた実証的な思考方法を身につけ、適切に考えることができる。 研究における倫理についての知識を身につけることができる。			
教授方法	講義を中心に実習を取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：「心理学研究法」を学ぶ意義について考える					
2	科学と実証：実証するとはどういうことか、因果関係と相関関係の違いを学ぶ					
3	実験と観察：実験法と観察法のそれぞれの特徴や違いを概観する					
4	実験法（１）：実験法の基本的な考え方について学ぶ					
5	実験法（２）：原因をどう作り出すか、独立変数の操作について学ぶ					
6	実験法（３）：結果をどう取り出すか、従属変数の測定について学ぶ					
7	実験法（４）：原因を見誤らないように剰余変数をどう統制するかを学ぶ					
8	中間テスト					
9	実験法（５）：質問紙を使った実験、フィールド実験など様々な実験法について学ぶ					
10	観察法（１）：観察による心理学的研究を行う際の基本的な考えについて学ぶ					
11	観察法（２）：観察による心理学的研究を行う際の留意点について学ぶ					
12	心理学に特有の問題：研究を実施するにあたり配慮すべき問題（観察反応、倫理的問題）について学ぶ					
13	研究計画の立て方 研究計画を実際に立てる際の手法と留意点について学ぶ					
14	研究計画の実際（１）：具体的に研究計画を考える実践にとりくみ、これまでに学んだ内容を振り返る					
15	研究計画の実際（２）：具体的な研究計画をまとめる実践をおこない、これまでに学んだ内容を振り返る					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	40	レポートの内容は自分で立てた研究計画である。その内容が講義で学んだ内容をどれだけ活かしているかを評価基準とする	中間テスト	40	講義前半で学んだ内容の理解度	
講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
講義で学んだ内容をテキスト、資料、ノート等を使用して復習する。[45分] 次回に方部内容をテキストなどを使用して予習を行う。[30分] 心理学研究法についての参考文献や論文を読みながら、実際にはどのように研究が行われているかを学ぶ。[30分]			講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	自分が興味のある事柄について研究として調べるためには、研究法を正しく理解する必要があります。研究のためには何をしなければならないかを考えながら講義に臨むこと。		教科書・テキスト	『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版』高野陽太郎他 有斐閣 2017年 ISBN 978-4-641-22086-7		
指定図書/参考書等	なし/参考書は授業中に適宜紹介する。		その他・特記事項	心理統計学および心理学実験実習 を履修することで、本講義の内容がより深く理解できるようになる。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED246U 心理的アセスメント		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	松下 健						
標準履修年次	2年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
心理アセスメントの理論、方法、倫理について学ぶ。実際に心理検査（知能検査・質問紙法・投影法等）を体験しながら、実施方法、結果の分析、解釈などアセスメントの実施方法について学習し、得られた検査結果から具体的な支援計画を作成する方法までを修得する。アセスメントを通して的確に現状を把握する力を身につけ、支援計画を作成するスキルも高めていく機会とする。			1)心理的アセスメントの目的と倫理を説明できるようになること。 2)心理的アセスメントの観点と展開を説明できるようになること。 3)心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を説明できるようになること。 4)心理測定の信頼性と妥当性を説明できるようになること。 5)心理検査を実施、採点、解釈できるようになること。 6)心理アセスメントの適切な記録と報告をできるようになること。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指し、かつ統計法および心理学研究法に習熟した者に限る						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	心理アセスメントとは何か：心理アセスメントの目的、方法（面接、観察、検査）、倫理						
2	心理測定の基礎、データの尺度水準、分布、代表値、正規分布と確率、標準得点						
3	心理測定の信頼性と妥当性						
4	心理アセスメントと統計解析						
5	質問紙検査、STAIの理論と実施、解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
6	性格検査、TEGの理論と実施						
7	性格検査、TEGの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
8	描画法、投映法、バウムテストの理論と実施						
9	描画法、投映法、バウムテストの解釈と所見作成（適切な記録と報告）						
10	知能検査、WAIS-（言語性検査1回目）						
11	知能検査、WAIS-（言語性検査2回目）						
12	知能検査、WAIS-（動作性検査1回目）						
13	知能検査、WAIS-（動作性検査2回目）						
14	知能検査、WAIS-（結果の解釈と所見作成）						
15	総括、心理アセスメントの観点および展開						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
受講態度	30	講義中の演習や課題に従事すること、積極的に質問、発言すること、他者の発表や意見を聴くこと	課題と発表	30	出された課題を行うこと、小レポートを作成すること、必要に応じて発表すること		
期末レポート	40	レポートを書式通りに作成し、期日を守り提出すること					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
心理アセスメントの演習を行うために、心理検査の実施方法を予習して修得すること。[120分] 心理アセスメントの所見を宿題として作成すること。[120分]			期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。				
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、負担の大きい科目であることを理解し履修すること。		教科書・テキスト	『心理検査の実施の初歩 心理学基礎演習5』 願興寺 礼子・吉住隆弘（編）ナカニシヤ出版 2011年 ISBN-13:9784779503870			
指定図書/参考書等	なし/『心理テスト 理論と実践の架け橋』 ホーガン、T. P. (著) 繁樹算男・椎名久美子・石垣琢磨（共訳） 培風館 2010年 ISBN-13:978-4563052041		その他・特記事項	心理アセスメントの演習は他者とペアあるいはグループを作り実施する。予習を行わない場合は他者に迷惑をかけることになるので、大きな減点になる。			
実務経験を活かした授業の概要							
臨床心理士、スクールカウンセラーとしての経験をもとに、実践を想定して心理アセスメントの演習を行う							

授業科目名	ED256U 人格心理学(感情・人格心理学A)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
人間の心理や行動には個人差が存在する。そのような個人差が生まれるメカニズムに関連しているものの1つとして人格(=性格、パーソナリティ)があげられる。本講義では、心理学の知見を通して人格を捉えるための多様な観点を概観し、人間理解に向けた1つの基本的知識・視点を身につけることを目指す。			人格を理解するための諸理論(類型論、特性論等)を説明できる。 人格を測定する方法と、測定における問題点を答えられる。 人格の形成過程について説明できる。 人格心理学の科学的知見をもとに、人間のパーソナリティについて幅広い視野から考えることができる。			
教授方法	講義を中心に性格検査などワークを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：人格(性格、パーソナリティ)とは何か。人の内面の特徴とされるパーソナリティとはどのようなものか、人格の概念について概説する。					
2	類型論：人格をとらえる視点の一つである「類型論」をとりあげ、性格をタイプに分けることの利点と欠点について考える。					
3	精神分析的人格論：フロイトの精神分析的人格論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。					
4	精神分析的人格論：ユングのパーソナリティ論をとりあげ、人の内面構造に関する理論を学ぶ。					
5	特性論 その考え方：人格をとらえる視点の一つである「特性論」をとりあげ、人をいくつかの特性からとらえることの利点と欠点を考える。					
6	特性論 Big Five：パーソナリティは5つの主要な性格因子で構成されるとする「Big Five モデル」を学ぶ。					
7	状況論：状況要因や環境要因を重視した「状況論」について学び、人格における状況の影響について考える。					
8	相互作用論：人 状況論争を経て誕生した「相互作用論」をとりあげ、近年の性格研究の動向について学ぶ。					
9	物語論：物語論(ナラティブ)の視点から人格について考える。					
10	人格の測定と研究法：人格はどのように測定することができるか考える。方法論(質問紙法、投影法、観察法、面接法)を理解し、研究方法について学ぶ。					
11	人格の発達：人格の形成過程について、一度つくられた人格が変わることはあるか、また人格の成熟とは何かを通して考える。					
12	人格の発達：人格の形成過程に、遺伝や家庭をはじめとする環境がどの程度影響しているかを考える。					
13	人間関係と人格：「対人魅力」に関する研究成果をもとに、相手に好かれる性格とはどういったものかについて考える。					
14	文化と人格：東洋と西洋、日本と米国など、異なった文化環境は人格の形成にどういった影響を及ぼしうのかについて考える。					
15	人格の病理：人格における病理にはどのようなものがあるか、またそれらへの対応や治療について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
リアクション・ペーパー	20	講義内容に対する感想や意見を記述すること(講義内容の羅列ではなく、発展的な意見や疑問、考察などが記されていることが望ましい)		課題レポート	40	授業内容をもとに、課題テーマについて自らの意見や考察が行われているかどうか。
定期試験	40	「人格心理学」の基礎知識が獲得されている。「人格心理学」のテーマについて、実証的研究の知見を踏まえて論理的考察を加えられる。				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
授業の前にシラバスを読み、授業内容について参考書などで予習しておくこと。[30分] 授業の後に各回の講義内容について、関連図書などを用いて復習しておくこと。[40分] 普段自分が、自分の性格や他人の性格をどのようにとらえているのか意識して生活してみることに。 授業内で習った理論に基づいて、自分の性格や他人の性格を分析してみることに。			リアクション・ペーパーについては、授業内で振り返りの時間をもちます。 課題レポートや試験については、希望者に授業内や次学期に内容に関してコメントなど対応します。			
受講生に望むこと	性格は身近なものであり、講義内容と自分の性格など自分自身とを結びつけながら受講してほしい。		教科書・テキスト	適宜プリントを配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『改訂版』人格心理学への招待：自分を知り他者を理解するために。詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊 サイエンス社 2003年 ISBN:978-4781910444、『パーソナリティ心理学』榎本博明・安藤寿康・堀毛一也 有斐閣 ISBN:978-4641123779、『パーソナリティ心理学概論：性格理解への扉』鈴木公啓編 ナカニシヤ出版 2012年 ISBN:978-4779506383		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ET201U 教育実習指導 (幼)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育実習 にかかわる事前・事後の実習指導である。1年次に同一幼稚園で夏期預かり保育体験(8月)と通常保育体験(2・3月)を行い、実践的に学んできた子どもと保育者のかかわりをもとに、大学イベント等で子どもの遊びを準備、実践し、記録の書き方に習熟しながら、実習におけるスキマ遊びにつながる短時間の指導計画について理解する。1年次体験において知った半年間で見せる子どもの成長の姿から、また事前学習によって知った実習園の保育の特徴をふまえ、実習として臨む9月の幼児の園生活を想像し、実習生自身の個性を生かしたスキマ遊びを考え、環境図と時系列表記で立案して実習園との協議に臨む。原則1年次の体験園とは異なる園で9月と2月と幼稚園教育実習(各5日間)を行い、同じ園で次年度の6月に幼稚園教育実習(10日間)を行う実習の流れの意味を理解し、幼稚園教育実習と並行して体験する保育実習・小学校実習とその実習指導と重ね合わせ、現場で学ぶ力を養う。			幼稚園教育実習 の概要と9月と2月に分けて行うその意義を連続性において理解している。実習園の教育理念・方針を知り、その幼児教育としての特徴を把握できている。環境図を生かして記録することができる。子どもが自らしたくなるスキマ遊びを考え、実習園に合わせて準備することができる。スキマ遊びの指導計画を環境図と時系列表記で表すことができる。実習園と必要な連絡協議をすることができる。実習報告会の準備を通して実習における自身の体験を振り返り、次年度実習希望学生に伝えることができる。9月と2月の実習 を通して、実習 に繋ぐべき自身の課題を明らかにする。			
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演					
履修条件	幼稚園夏期預かり保育体験と2・3月の幼稚園体験に参加していること。保育原理・保育課程論及び保育内容の各科目を履修済あるいは履修中であることを原則とする。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼稚園教育実習 の概要について知る。幼稚園体験での記録をもとに気づきと疑問を出し合う中で、園による保育・園文化の多様性とその背景を理解する。					全員
2	子どもとの関わりについての体験的理解 : Enjoy!ミッション「遊びの広場」の実践に向け、子どもがしてみたいくなる遊びを探る。					全員
3	子どもとの関わりについての体験的理解 : 「遊びの広場」の指導計画(環境図・予想される子どもの姿・時系列・配慮事項)を作成する。					全員
4	Enjoy!ミッションでの実践を通して、子どもの姿を記録する際のポイントを理解する。					全員
5	Enjoy!ミッションでの記録を見直し補充すること等を通じて記録の書き方についての理解を深める。					全員
6	記録されたエピソードから学びの姿を読み取り、指導計画立案につなげることについて理解する。					全員
7	各園の教育理念・方針等の諸資料から自身の実習園の特徴を捉え、実習園の保育と子どもの姿を予想する。					全員
8	大学の様々な授業で体験してきた遊び、教材を活用してそれぞれでマッピングし、実習園での5日間で実践するいくつかのスキマ遊びのイメージをもつ。					全員
9	マッピングした遊びから、自分らしいスキマ遊びプランと、設定保育で実践できそうな短時間のプランを考える(お集まり・お話・ゲーム他)。					全員
10	自然物や不用品などの身近なものをを用いた遊びをプランする。遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員
11	自分らしく工夫して作成する教材を考え、その教材を用いる遊びの展開の過程を子どもの姿を中心に予想し、時系列と環境図で書いてみる。					全員
12	実習園と大学への提出物の内容と期限等を確認し、自身の実習の具体的な流れと今後の実習指導について理解する。					全員
13	オリジナル教材の提示と模擬実践。直前指導：幼稚園教育実習 で学ぶことと準備についての最終確認。					全員
14	幼稚園教育実習 の振り返り：実習ファイルの提出、自己評価。					全員
15	実習報告会(教材展示・実習ファイルの閲覧を含む)・幼稚園教育実習 に繋ぐべき自己課題の整理。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	グループ活動への積極的な参加 適切な連絡・報告		事前課題	50	記録・指導計画等の内容 その補充 教材製作・教材準備 その改善
事後課題	20	事後レポートの内容(自己課題を含む) 実習報告会の準備				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
・遊び(活動)のプラン、指導計画の作成、教材準備[90分] ・Enjoy!ミッションでの遊びのための準備[90分] ・教材の見直し、改善[60分] ・事後レポートの作成[60分] ・報告会準備[60分]				適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。		
受講生に望むこと	保育にふさわしいスタイル(服装・靴・アクセサリ・髪型等)で、保育者が身近に常備しているべきものを持って参加する。保育における「つくりなおい」の意味を理解し、厭わない。保育と実習園に対して興味をもち、情報を収集する。園には可能な限りボランティアとして出向き、実習協働につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499	
指定図書/参考書等	なし/適宜、紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
向出：幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、幼稚園での子どもの生活や遊びを、実際の遊びの模擬保育を通して行っている。 虫明：幼稚園にて養成校の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、1日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、保育者としての姿勢についても適宜伝える。						

授業科目名	ET206U 教育実習 (幼)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)						
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	実習
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
幼稚園教員免許取得のために教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則において定められている教育実習で、本学では幼稚園教育実習（2年次9月（5日間）と2月（5日間）分けて、そして幼稚園教育実習（10日間・90時間）は3年次6月（10日間・90時間）に行うことを原則として北陸3県の同一幼稚園で行う。 1年次の2回の幼稚園体験（各5日間）をふまえて幼稚園教育実習指導 があり、十分な事前指導を経て臨む実習となる。日々目標をもって園児と関わり、記録を通して観察と考察を重ねることによって幼児期と幼児教育についての理解を深める。あわせて自分自身について知り、教職者としての今日的な適性、資質・能力と照らし合わせて、これからの自身の課題を明確にする。			事前準備で、実習園の教育理念、方針及び具体的な保育の特徴を知って実習に臨む。子どもの動線を捉え、保育を俯瞰して環境図に記録することができる。 子どもと教師の関わりや、観察から得た気づきをその場に行きかたで思い浮かべられるように記録することができる。 事前に準備したスキマ遊び、教材を用いて実践することができる。 園の教師の動きを見て、その一員としての自身のあるべき動きを考え、臨機応変に行動することができる。 実習を通して、社会人として求められるモラルを意識し行動する。				
教授方法	実習を通じて、実習園の保育と教師から学ぶ。						
履修条件	幼稚園教育実習指導 を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
	前半後半それぞれの5日間の実習において、主に次の内容を行う。						
	実習園理解に基づいて、事前に準備した教材、遊びの計画によって子どもと関わる。						
	環境図を生かし、子どもの動きと子ども集団を俯瞰的に捉えて記録する。						
	園の生活の流れ、子どもの姿、教師のかかりを具体的に記録する。						
	実習園の教師との協議において、一日の保育の中で疑問に思ったことなどを率直に語り、対話を通じて子どもと幼児教育について理解を深める。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
実習園による評価	50	科目として用意する評価項目について実習園が評定したものを科目としての基準で数値化。	実習ファイル	50	日々の保育が適切に記録されているか。 自らの遊びの実践が記録されているか。 前半の実習を見直し改善し後半の実習で生かしているか。		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
・ 本科目が定める様式、あるいは実習園が定める様式での実習記録 [60分] ・ 遊びの計画と教材の改善 [60分]			幼稚園教育実習指導 の事後指導を通じて行う。必要に応じて個別面談を行う。				
受講生に望むこと	体調管理に責任をもつ。園内だけでなく実習期間の全生活において社会人としての振る舞いが求められることを自覚する。必要な連絡と報告を適切に行う。実習で知りえた情報の取り扱いに注意する。記録と指導計画の参考のために『幼稚園教育要領解説』を常に携帯する。翌日の実習に支障が出ないよう時間管理する。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN : 9784577814499			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	・2日間以内の欠席は実習園と相談して振替日を設ける。・実習園からの指導に対して努力が認められない場合、また社会人として不適切な振る舞いがあった場合には、実習を中断することがある。その事実が実習終了後に判明した場合、実習園による評価にその事実が記載されていなくても、本人との協議の上、実習の単位は不認定となることがある。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ET220U 保育実習指導 (施設)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な「保育実習 (施設)」による実習を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、施設現場に対する理解を深める。具体的には、保育士に求められる倫理観をはじめ、実習に臨む基本的姿勢、利用者及び入所児童の自立度、家庭問題などに対応する障がい者や子ども理解、実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育・養育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの支援のあり方などの省察を行う。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習 (選択) に臨む。</p>			<p>保育実習 (施設) の意義と目的を理解している。実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。実習施設 (施設) における利用者及び子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>			
教授方法	講義・演習、ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、事前訪問、実習報告会等					
履修条件	「社会福祉」・「保育原理」を修得済であること。幼児教育・保育コース以外の学生は履修できない。「児童家庭福祉論」、「社会的養護」、「保育実習 (施設)」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育実習の意義 授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。					
2	個人票を作成する。施設実習指導の学びの目的について、到達目標を達成するために必要な事項を理解する。					
3	実習施設 (社会的養護を必要とする児童のための福祉施設、障害のある子ども・成人のための福祉施設) の種別と概要について理解する。					
4	実習施設の職員構成や職種、役割や連携について学ぶ。福祉施設で勤務する保育士の資質について理解する。					
5	入所・利用している子ども・利用者の特徴や、日常生活、生活環境、人間関係 (対家族、対職員、対利用者) について理解する。					
6	実習に向けての心構えと基礎理解について、資料等からの学びの後グループ内でディスカッションを行う。					
7	配属予定の施設 (種別) について調べた資料に基づいてグループディスカッションを行い、実習先に関する理解を深める。					
8	これまで受講してきた授業 (児童家庭福祉論、社会福祉、社会的養護など) の内容を振り返り、実習との関連についてディスカッションする。					
9	実習ファイルおよび作成書類 (事前オリエンテーション記録、出勤簿、実習日誌、実習日誌ガイドライン、支援計画、自己評価表、実習のまとめ、誓約書など) を配付し、記入上の説明を行う。					
10	事前オリエンテーションに関する留意事項、オリエンテーション記録作成上の留意事項を学ぶ。					
11	実習計画および実習日誌の意義や作成方法について理解する。特に時系列記述とエピソード記述における留意点について理解する。					
12	実習先施設の養育支援方針、概要を理解する。実習日程・内容など日程を把握する。実習先保育所の保育方針、概要を理解する。実習日程・内容・ブレ実習の日程を把握する。					
13	直前指導：施設実習を行う際の留意事項について、グループごとで行う資料等の学びの後、要点などを確認する。実習中における学びについて理解する。これまで行ってきた実習生の事例をあげながら実習上の注意を促す。					
14	実習報告会準備：施設実習の振り返り・施設種別毎のグループでの話し合い、報告会の内容を作成する。					
15	実習報告会：施設実習で学んだことを発表し合い、学びを再確認するとともに、他の実習先での学びを共有する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準
施設理解	40	施設の基本的機能を理解している。施設保育士の職務や保育を理解している。実習報告会の内容が充実している。		課題提出	40	課題を期日までに提出する。課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。実習計画を作成することができる。実習記録の記載方法を正しく理解している
講義への取り組み姿勢	20	演習科目であり、無断欠席、遅刻、受講姿勢などに問題がある場合は減点対象となる。				
授業外における学習 (事前・事後学習等)				課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック		
事前訪問やホームページを活用して、実習先についての概要をまとめ、レポート作成する。〔50分〕 実習日誌のモデル案にしたがって日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れておく。〔50分〕 実習で求められる日常業務などを遂行できるように、日常の家事作業などを十分に体験しておく。〔50分〕 実習圏に限定せず、社会的養護関係施設における学習支援、障害者支援施設・就労支援施設などのボランティアに参加する。〔50分〕 実習報告会に向け、実習体験からの省察を行う〔240分〕				事後指導において、実習内容などの講評を行う。		
受講生に望むこと	施設保育士は社会的養護関係施設や障害者支援施設・就労支援施設の入所者・利用者の人権に直接かわる業務であることを十分に認識して授業に臨む。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。「児童家庭福祉論」「社会的養護内容」の授業と関連付けて理解するための復習を行う。			教科書・テキスト	『保育実習指導のミニマムスタンダードVer2』- 協働する保育士養成 -、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4	
指定図書 / 参考書等	なし / なし			その他・特記事項	委託費など実習費用約50,000円 (保育実習) が必要となる。詳細は、1回目の授業で説明する。無断欠席・遅刻・早退が多い・課題未提出等がある場合、実習を認めない。	
実務経験を活かした授業の概要						
資生堂社会福祉事業財団が主催する海外研修報告書などから、諸外国の指導関係の施設の比較研究や、OECD諸国とアジア、そして日本の障害者施設、児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、児童心理治療施設、障害児支援施設との比較研究を、施設現場からの経験やその実情などを学ぶ。						

授業科目名	ET225U 保育実習（施設）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊・松本 理沙（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	2年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>居住型および通所型の児童福祉施設（保育所を除く）もしくは障害者支援施設において、90時間（約11日間）の実習を行う。利用者として生活及び作業などをとむること、施設の社会的意義と支援内容、子ども・利用者の理解、保育士の職務や役割、職場内の他職種との連携の理解、施設内で取り組まれている保育や援助技術の理解と実践、保育士の子ども・利用者とのかかわり方、社会人としてのマナーと職業上の倫理を体験的に学ぶ。</p>			<p>実習施設について理解している。 養護の一日の流れを理解し、主体的に参加する。 子ども・利用者の観察やかかわりを通して、乳幼児の発達を理解している。 支援計画を理解している。 生活や支援の一部分を担当し、養護技術を習得している。 職員間の役割分担やチームワークについて理解している。 施設での生活を通して家庭・地域社会を理解している。 「子どもの最善の利益」についての配慮を学んでいる。 保育士としての職業倫理を理解している。 安全および疾病予防への配慮について理解している。</p>			
教授方法	配属施設において、宿泊もしくは通勤による「10日間以上」及び「90時間以上」の実習を行う。					
履修条件	「社会福祉」及び「保育原理」の単位を修得済みの者。「保育実習指導（施設）」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間（約11日間）の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1. 施設での一日の流れを理解する。					
	2. 施設の役割と機能について理解する。					
	3. 子ども・利用者を観察し、記録する。					
	4. 子ども・利用者の個々の状態に応じた適切な支援やかかわり方について考察し実践する。					
	5. 実習計画に基づき活動し、支援を行う。					
	6. 子ども・利用者の心身の状態に応じた行動に心がける。					
	7. 子ども・利用者の活動と生活の環境を理解する。					
	8. 子ども・利用者の健康管理、安全対策について理解する。					
	9. 支援計画（自立支援計画を含む）について理解する。					
	10. 実習計画に基づき省察し、自己評価を実施する。					
	11. 施設保育士の業務内容を体験的に理解する。					
	12. 職間の役割分担や他職種職員との連携について体験的に理解する。					
	13. 施設の年間計画や行事について理解する。					
	14. 施設保育士の役割と職業倫理について体験的に理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	50	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する		巡回時の担当教員の評価	30	実習巡回担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	20	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。〔30分〕 実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。〔50分〕</p>				施設実習指導の事後指導において個別に伝達する。		
受講生に望むこと	事前に施設での行事参加・体験学習（プレ実習）などを通して施設を体験的に理解する。			教科書・テキスト	『保育実習指導のミニマムスタンダードVer2』- 協働する保育士養成 -、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。その他・事前訪問及び実習にかかる交通費については原則自己負担となる。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

子ども教育学科
(3年次)

授業科目名	EK300U 専門ゼミ			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	伊藤 雄二・川真田 早苗・虹釜 和昭・田邊 圭子・多保田 治江・中島 賢介・宮浦 国江・中明 淑子・村井 万寿夫・永山 亮一・幸 聖二郎・福江 厚啓・向出 圭吾・齊藤 英 俊・高村 真希・各 昌代 (代表教員 伊藤 雄二)						
標準履修年次	3年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
基礎ゼミ・プロゼミで身につけた学習及び研究方法を土台として、各自が関心をもつ研究テーマをより深く考察するために、選択したゼミ担当教員のもとで、学習及び研究を進める。 具体的には、各ゼミで示されるゼミプランに従い、専門分野に関する文献購読、ディスカッションを中心に理解に努める。 その後、ゼミ担当教員のもとに、各自の研究テーマに沿って文献・資料調査、データの収集等を行い、ゼミレポート(8000字程度：該年度の1月下旬締切)の完成を目指す。				ゼミプランに従って専門分野に関する多くの文献に触れている。 各自が設定した研究テーマに沿って文献・資料検索、データ収集等を行うことができる。 ゼミレポートの作成を通して、研究テーマをより深く理解し、文章化することができる。 グループディスカッションを通して、教員や他のゼミ学生の考えも理解しながら自分の知見を広げる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	基礎ゼミ ・ 、プロゼミA・Bを履修し、単位を修得していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	(前半)ゼミ運営についての合同オリエンテーションを行う。 (後半)各ゼミ内での自己紹介、ゼミの進め方等ゼミプランの説明を行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
15	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
16	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導にしたがう。						各担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	各ゼミ内でレポートの発表を行う。				各担当教員
30	専門ゼミ（テーマ設定、研究内容等）での学びの総括を行う。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	ディスカッションへの積極的な参加をしているか。 文献等の調査を積極的に行っているか。 意欲的に研究テーマに取り組み学ぼうとしているか。	レポート	50	指定された文字数、書式等が守られているか。 内容（テーマ設定、論旨の根拠、意見等）が適切か。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
積極的に図書館等を利用するなど、専門分野に関する文献を多く読む。[60分] 詳細は各ゼミの担当教員の指導に従う。			ゼミごとに随時行う。		
受講生に望むこと	2年次後期に配布する「専門ゼミ」の登録と卒業研究についての資料を熟読すること。 研究テーマに主体的に取り組んでほしい。		教科書・テキスト	各ゼミの担当教員の指示に従う。	
指定図書/参考書等	各ゼミの担当教員の指示に従う。		その他・特記事項	不明な点は各ゼミの担当教員に問い合わせること。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	EK250U 教育史		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>教育の歴史を通して過去のような思想や出来事について知るとともに、現代の教育にどのように反映されているか考える。このことは未来の教育について考えることにもつながる。本科目はこのような視点で、先に西洋における教育史について学ぶ。次に日本における教育史について学ぶ。これによって、日本の教育はヨーロッパやアメリカの影響を受けながら現代に至っていることが分かる。</p>			<p>古代ギリシャから現代までの西洋の教育史について理解している。 江戸期から大正期までの日本の教育史について理解している。 現代の日本の教育について考え、未来の教育について自分なりに予想することができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状（英語）の取得を希望する者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション（授業内容を概観し評価方法について理解する。）/平成の次の時代（日本の教育はどこに向かっているかについて考える。）					
2	古代から近世の思想家（古代から近世にかけてのヨーロッパの教育思想家について知る。）					
3	近代国家の形成と教育学（ヨーロッパやアメリカにおける近代国家の形成と教育学における思想家について知る。）					
4	社会と教育（教育社会学の祖としてのデュルケムを中心に「社会と教育」について考える。）					
5	労働と教育（産業革命以降のヨーロッパや旧ソ連における「労働と教育」について知る。）					
6	精神科学的教育学の潮流（精神科学的教育学の潮流について知る。）					
7	現代における教育の思想（アメリカのブルーナーを中心に現代における教育の思想について知る。）					
8	日本の社会の成り立ちと人間形成（日本における近世社会の成り立ちと人間形成の思想について知る。）					
9	日本の近世の教育思想と教育家（日本における近世の教育思想と教育家たちについて知る。）					
10	明治期の教育思想（明治期の福沢諭吉の教育思想について知るとともに「学問のすゝめ」の意義について考える。）					
11	国民教育制度と国家主義（明治期の国民教育制度や教育における国家主義について考える。）					
12	大正新教育運動（大正期における「大正新教育」の思想や運動について知る。）					
13	新教育の実践家による実践（「大正新教育」における実践及びそれが現代への教育につながっていることを知る。）					
14	現代の教育（昭和から平成にかけての教育の思想（方針）について知る。）					
15	未来の教育（再び現在の教育について考え、未来（平成の次の時代）の教育について予想してレポートにまとめる。）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業態度	15	・積極的に授業に臨んでいる。 ・講義を集中して聞きワークシートに記入している。		小レポート	15	講義内容についての課題に対し、自分の考えを書いている。
期末レポート	20	日本の未来の教育について自分なりに予想して考えを書いている。		定期試験	50	・講義内容を正しく理解している。 ・教育の歴史について自分の考え方を持っている。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の“ミニッツコメント”にコメントする。[30分] 西洋や日本の教育の歴史に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]</p>				<p>小レポートや期末レポートを採点して返却する。 定期試験実施直後に「模範解答」を示すので自己採点する。</p>		
受講生に望むこと	過去の教育史が現在の教育につながっていることを意識して受講してください。			教科書・テキスト	『教育の歴史と思想』石村華代・軽部勝一郎編著、2013年、ミネルヴァ書房、2,500円＋税、ISBN978-4-623-06584-4	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
西洋教育史に見られる教育方法の不変なものについて小学校の教員と議論し、媒体は異なっても教え方には共通性があり、現代のメディアを活用する際のヒントにしている。						

授業科目名	EK310U 教育学文献講読A1		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
今年度は人の「学び」について取り上げる。前期は、認知科学の視点から「学び」について書かれた文献を読む。私たちが知識を身につけたり、学びを深めていくプロセスの中ではどのようなことが起きているのだろうか。文献を通して、私たちにとって身近な「学び」について考察していきたい。			レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。学びのプロセスについて理解している。人の学びについて、自分なりの意見を持てるようになる。			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	第1章「記憶と知識」の前半					
2	第1章「記憶と知識」の後半					
3	第2章「知識のシステムを創る」の前半					
4	第2章「知識のシステムを創る」の後半					
5	第3章「乗り越えなければいけない壁」の前半					
6	第3章「乗り越えなければいけない壁」の後半					
7	第4章「学びを極める」の前半					
8	第4章「学びを極める」の後半					
9	第5章「熟達による脳の変化」の前半					
10	第5章「熟達による脳の変化」の後半					
11	第6章「「生きた知識」を生む知識観」の前半					
12	第6章「「生きた知識を生む知識観」の後半					
13	第7章「超一流の達人になる」の前半					
14	第7章「超一流の達人になる」の後半					
15	終章「探究人を育てる」					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業への参加姿勢	30	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。	担当回の発表	30	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。	
最終レポート	40	文献の内容を踏まえて、人の学びについて自らの意見や考察をまとめられているかどうか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] 発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]			最終レポートについては、希望者には次学期に内容に関するコメント等を含めて返却を行います。			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。		教科書・テキスト	『学びとは何か』今井むつみ 岩波書店 2016年 ISBN:978-4004315964		
指定図書/参考書等	なし/『新・人が学ぶということ』今井むつみ・野島久雄・岡田浩之 北樹出版 2012年 ISBN:978-4779303210		その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK315U 教育学文献講読A2		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業では、80年前に書かれ、漫画化された作品が現在100万部を超える吉野源三郎『君たちはどう生きるか』を取り上げる。文献から自分で学ぼうとすること、子どもに寄り添い教えることの意味を検討する。また、文献に関連する教養教育論、社会認識形成論、作品・作家論、漫画化における功罪などを取り上げ、作品理解を深めることで文献の現代的意義について検討する。</p>			<p>文献の内容を的確に理解し、要約することができる。 文献の内容を踏まえた上で自己の主張・教育観を展開することができる。 文献の現代的意義について論じることができる。 文献研究の観点や手法について理解している。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成および発表）、ディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション 授業の概要・到達目標、流れ、評価方法について解説する。発表者と担当箇所を決定する。作者、作品、紹執筆当時の時代背景など解説する。					
2	「まえがき」の箇所を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品の概要を理解する。					
3	第一章「へんな体験」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「ものの見方」について理解する。					
4	第二章「勇ましき友」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「真実の経験」について理解する。					
5	第三章「ニュートンの林檎と粉ミルク」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間の結びつき」について理解する。					
6	第四章「貧しき友」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間であるからには」について理解する。					
7	第五章「ナポレオンと四人の少年」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「偉大な人間とはどんな人か」について理解する。					
8	第六章「雪の日の出来事」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことでコペル君の行動とその背景について理解する。					
9	第七章「石段の思い出」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「人間の悩みと、過ちと、偉大さについて」を理解する。					
10	第八章「凱旋」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで「凱旋してゆくような気持ち」について理解する。					
11	第九章「水仙の芽とガンダーラの仏像」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで文化についての理解を深める。					
12	第十章「春の朝」を輪読し、担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで自分の思いや考えを記述することの意義について理解する。					
13	教養教育論、社会認識形成論について担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品の根底にある思想について理解する。					
14	作品の関連本出版や漫画化における功罪について担当者の発表を聞き、ディスカッションを行うことで作品が読者に与える影響について理解する。					
15	総括的検討を行い、文献講読の意義について理解する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	事前に文献を読み、ディスカッションに参加し、積極的に発言しているかを評価する。		発表内容、態度	30	担当箇所についてのレジュメ作成と発表がディスカッションにつながる内容であったか、発表者としてふさわしい態度であったかを評価する。
レポート	40	文献を全体的に理解し、ディスカッションの内容を含めて主張しているかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>全員が担当箇所を読み込む。特に「おじさんのNOTE」については背景となる時代や思想などを調べ、ディスカッションに参加できるようにしておくこと。[60分] 発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。[90分]</p>				<p>発表や内容に関する質問に対しては適宜対応する。最終レポートについては次学期初めにコメントを配付する。</p>		
受講生に望むこと	単なる一読者としてではなく、自分自身と向き合う学生として講読することを望む。また、これまで自分の得てきた知識ややり残してきた課題等を整理しながら読み解くことを勧める。			教科書・テキスト	『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 岩波文庫 2012年 ISBN: 4 00 331581 2	
指定図書/参考書等	なし / 『君たちはどう生きるか』吉野源三郎 マガジンハウス 2017年 ISBN: 978-4-8387-2946-3 『漫画君たちはどう生きるか』吉野源三郎作 芳賀翔一絵 2017年 ISBN: 978-4838729470 『人間を信じる』吉野源三郎 岩波現代文庫 2011年 ISBN: 97840006032234			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EK325U 教育学文献講読B1			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>今年度は人の学びについて取り上げる。後期は、社会文化的アプローチの学習理論に関する文献を通して、人の学習（学び）の過程について考えてみたい。人が学んでいく上で、他者や集団の中で学ぶことにはどのような意味があるか。そのような問いについて、社会文化的アプローチの代表的なもの1つであるレイヴらの状況的学習論の観点から考えてみたい。</p>				<p>レジュメを作成し、文献の要点を整理し発表することができる。状況的学習論について理解している。人の学習過程について、自分なりの意見を持てるようになる。</p>			
教授方法	参加者による輪読、ディスカッション						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の流れ、評価方法について。						
2	第1章「正統的周辺参加」の前半						
3	第1章「正統的周辺参加」の後半						
4	第2章「実践、人、社会的世界」の前半						
5	第2章「実践、人、社会的世界」の後半						
6	第3章「産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者」						
7	第3章「産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者」						
8	第3章「産婆、仕立屋、操舵手、肉屋、アルコール依存者」						
9	第4章「実践共同体における正統的周辺参加」の前半						
10	第4章「実践共同体における正統的周辺参加」の後半						
11	第5章「結論、解説：認知という実践」の前半						
12	「解説：認知という実践」の後半						
13	状況的学習論に関する文献の検討						
14	状況的学習論に関する文献の検討						
15	状況的学習論に関する文献の検討						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加態度	40	出席状況やディスカッションでの発言等を評価する。			担当回の発表	30	レジュメの完成度、補足的に調べた内容、発表内容を評価する。
最終レポート	30	文献の内容を踏まえて、人の学習過程について自らの意見や考察をまとめられているかどうかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>事前に各回でとりあげる当該箇所を読んでおく。[30分] 発表に向けて、担当箇所を読んでレジュメを作成する。必要に応じて、参考書等により補足情報を調べる。[50分]</p>				<p>最終レポートについては、希望者に内容に関するコメントを配布します。</p>			
受講生に望むこと	受動的な態度での受講ではなく、積極的な授業参加を期待します。			教科書・テキスト	『状況に埋め込まれた学習』J.レイヴ・E.ウエンガー（佐伯胖訳）産業図書 1993年 ISBN:978-4782800843		
指定図書/参考書等	なし/『子どもは教室で何を学ぶのか』石黒広昭 東京大学出版会 2016年 ISBN:978-4130530880			その他・特記事項	受講者の人数や理解度に応じて、授業の内容や進め方を修正する場合があります。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EK330U 教育学文献講読B2		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中島 賢介					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本授業は、日本でようやく導入されるようになってきた「こども哲学」に関する文献を講読する。こども哲学は、1920年代のドイツを皮切りに1970年代にアメリカの哲学者リップマンによって飛躍したと考えられている。これまでの知識集積型の教育から、思考力・表現力・判断力にも力を入れようとしている日本国内の園や学校で導入されている。今回は、苫野一徳『はじめての哲学的思考』と河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てるレッスン』とを中心に哲学対話について考える。</p>			<p>文献の内容を的確に理解し、要約することができる。 文献の内容を踏まえた上で自己の主張・教育観を展開することができる。 文献の現代的意義について論じることができる。 文献研究の観点や手法について理解している。</p>			
教授方法	参加者による輪読（レジュメ作成及び発表）、ディスカッション					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：授業の概要・到達目標、授業の流れ、評価方法について解説する。発表者を決め、「まえがき」を講読する。					
2	『はじめての哲学的思考』第1講・第2講を読み内容を検討する。					
3	『はじめての哲学的思考』第3講・第4講を読み内容を検討する。					
4	『はじめての哲学的思考』第5講・第6項を読み内容を検討する。					
5	『はじめての哲学的思考』第7講・第8講を読み内容を検討する。					
6	『はじめての哲学的思考』第9講・第10講を読み内容を検討する。					
7	『はじめての哲学的思考』第11講・第12講を読み内容を検討する。					
8	『はじめての哲学的思考』第13講・第14講を読み内容を検討する。					
9	『はじめての哲学的思考』第15講・第16講を読み内容を検討する。					
10	『はじめての哲学的思考』最終講と『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』「はじめに」を読み内容を検討する。					
11	『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』Part 1の1～3を読み内容を検討する。					
12	『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』4～6を読み内容を検討する。					
13	『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』Part 2の1～4を読み内容を検討する。					
14	『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン』5～あとがきを読み内容を検討する。					
15	総括的検討、文献の現代的意義についてディスカッションする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	30	事前に文献を読み、紹介されている作品を読んできているか。		担当回の発表	40	担当箇所についてのレジュメの作成と発表がその後のディスカッションにつながる内容であったかを評価する。
レポート	30	文献を全体的に理解し、協議内容を含めて自己主張されているかを評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>全員が毎回指定されている講読箇所を読み、ディスカッションに参加できるよう、内容に関連する事項を予め調べてくる。〔60分〕 発表者はディスカッションができるようなレジュメを作成する。必要に応じて、参考書などにより補足説明を用意しておく。〔90分〕</p>				発表内容については、発表終了後にコメントする。		
受講生に望むこと	哲学対話に対して真摯に取り組んでもらいたい。			教科書・テキスト	苫野一徳『はじめての哲学的思考』ちくまプリマ 新書 2017年 ISBN-13: 978-4480689818 河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てるレッスン』河出書房新社 2018年 ISBN-13: 978-4309248691	
指定図書/参考書等	なし/永井均『子どものための哲学』講談社現代新書 1996年 ISBN-13: 978-4061493018 永井均『子どものための哲学対話』講談社文庫 2009年 ISBN-13: 978-4062764483 永井均『マンガは哲学する』岩波現代文庫 2009年 ISBN-13: 978-4006031831 苫野一徳『子どもの頃から哲学者』大和書房 2016年 ISBN-13: 978-4479392712 土屋陽介『僕らの世界を作りかえる哲学の授業』青春出版社 2019年 ISBN-13: 978-4413045742			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES230U 英米文学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	木梨 由利						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要			授業の到達目標				
英語を学び、英米人を真に理解することは、それぞれの国の歴史や書かれた文学作品について知ることで可能になる。従って、このクラスでは、英米の文学の流れを、作品が書かれた背景と共に時系列に見ていく。講義を聴くだけでなく、時として、学習者自身が作品そのものを読んだり、調べたりする課題が出される。また、理解度を確認するための小テストも毎回実施される。			中学校英語教員として知っておきたい文学全般について、イギリス、アメリカ、それぞれの国の文学の流れを概観し、主要な文学作品やその特徴の一端を、歴史的・社会的・文化的背景の中で理解する。原文の抜粋やその翻訳を読み、文学特有の表現を身につけることも目標である。				
教授方法	概ね講義によって進められるが、英文朗読や翻訳などの形で授業に参加することが求められることがあります。						
履修条件	英語教育に関わることを目指し、英語の学習に意欲的に取り組める学生であることを条件とする。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業に関するガイダンス イギリスという国のなりたち イギリスの黎明期の時代から、古英語の文学が現れる頃までについて学ぶ。						
2	古英語・中英語の文学の時代（11世紀頃～14世紀末）からルネサンス期の半ばまで 『ベオウルフ』や『カンタベリー物語』などを通して、中英語が近代英語に変化していく過程をも理解する。						
3	シェイクスピアの時代（16世紀～17世紀初頭）を中心に それ以前の演劇の発生過程や、シェイクスピアの同時代人の詩や演劇についても理解する。						
4	ジェイムズ王の時代からドライデンの時代へ（17世紀初期～後期） ミルトンなど、清教徒革命や王政復古など動乱の時代に生きた作家たちの人生にも着目したい。						
5	ポープの時代からジョンソンの時代へ（18世紀） 理性や秩序が重んじられた時代であるが、次第にロマン主義の萌芽も見いだされるようになることにも注目する。						
6	小説の始まりと発展（18世紀中期～19世紀初期）小説というジャンルの創始者であるリチャードソンたち4人の作家と女性作家の登場						
7	ロマン主義時代（18世紀末～19世紀中期）と、19世紀後期の詩と散文 ワーズワースの詩などを実際に読む。						
8	ヴィクトリア時代(1837-1901)の小説「小説の世紀」とも呼ばれる19世紀に活躍した、ディケンズ、ブロンテ姉妹、G・Eリオット、ハーディなどの作品について理解する。						
9	20世紀初頭の文学 コンラッド、ジョイス、ウルフなどに焦点を当てる。その後の作家については、流れとして若干触れる。						
10	アメリカ植民地時代の文学（17～18世紀） エドワーズやフランクリンなどを中心に、ピューリタニズムやヤンキーイズムなど、アメリカ文学の特性を理解する。						
11	独立から南北戦争の時代(18世紀後期～19世紀後期)まで アメリカ独自の文学が育ち始める時代の、主として散文を、その背景との関係において理解する。アーヴィング、クーバー、エマソンなど。						
12	アメリカ文学の開花期（19世紀中期）ともいうべき時期における詩や小説 ポー、ホーソン、ホイットマンなどについて、代表的な作品の一端に触れつつ、理解する。						
13	リアリズムの時代（19世紀後期～20世紀初頭） トウェインやジェイムズなどの文学について理解する。						
14	リアリズムの時代にのいて、自然主義の作家とされるクレイン、ドライサーなどの作品について学習する。						
15	第一次世界大戦以後の文学（1920年代と30年代） フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、フォークナーなどの文学の一端を知る。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
定期試験の結果	50	授業の内容を正確に理解しているか、また、理解したことを自分の言葉で表現できているか。		小テスト（毎回）	30	前回の授業で出てきた人名や作品名、文学用語などを、指示された言語で、正確にかけるか。	
授業中での貢献度	20	授業中に和訳などを求められた時、それに応えられるか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業では、テキストにある情報を取捨選択し、時には情報の追加もするので、事前にテキストや事前に配布する資料に目を通すことが必須である。[120分以上] また、毎週の小テストでは、前回の授業で話したことから出題するので、テストの準備も含め、学習したことを整理しておくことが必要である。[60分以上]				小テストは採点して、次回の授業で返却します。 定期試験の結果についても、次学期の初めにコメントができる機会を探します。			
受講生に望むこと	限られた時間の中で、それぞれの作品について深く語ることは不可能であるので、自分で作品を実際読んでみるなど、主体的、積極的に勉強に取り組んでいただきたい。そうすれば、理解度も楽しみも増すはずですよ。			教科書・テキスト	『イギリス文学史』 川崎寿彦著 成美堂 1991年 ISBN13:978-4791934034 『アメリカ文学史』 西田実著 成美堂 1991年 ISBN13:978-4791934003 随時プリントを配布します。		
指定図書/参考書等	なし / 『20世紀英語文学辞典』 上田和夫・渡辺利雄編著 研究社 2005年 ISBN-13:978-47674900663 『英語文学事典』 木下卓・高田賢一 他 編著 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN-13:978-4623041299 その他については授業で紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ES330U 英米文学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>英米の文学作品の原文を読む。第一の目的は、語彙力や文法の力を向上させること、第二は作品そのものを楽しむこと、第三は、作品の背景となっている英米の社会や文化、歴史などについての認識を深めることである。このようなプロセスを通して、中学校英語教員として必要な英語の総合的な力を養うとともに、人間や人間の心理に対する理解力を深める。</p>			<p>英米文学 で学んだ知識・理解を土台として、本講義では英語で書かれた文学作品の講読とディスカッションを通じて、英語力の向上と、文学の鑑賞眼を養うことを目指す。英検でいえば、2級から準1級程度の難度の英語が苦勞せずに読め、また、自分の「読み方」を、英語で紹介できるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	教員やクラスメートとのやりとりを中心とする演習形式です。					
履修条件	英米文学 を履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス 「文学の英語」について ジャーナリズムなどの英語と比較して					
2	イギリスの文学作品の講読 とりあえず、英文としての理解ができるように					
3	英語、または日本語の質疑応答によるプロットの確認					
4	著者とその時代についての考察					
5	作品読解 初読の時よりも行間を読めるように					
6	作品の構成や人物描写、その他の特徴についての考察とディスカッション					
7	作品の鑑賞 テーマについての考察					
8	個々人による「読み方」の発表					
9	アメリカの文学作品の講読 とりあえず、英文としての理解ができるように					
10	英語、または日本語の質疑応答によるプロットの確認					
11	著者とその時代についての考察					
12	作品読解 初読の時よりも行間を読めるように					
13	作品の構成や人物描写、その他の特徴についての考察とディスカッション					
14	作品の鑑賞 テーマについての考察					
15	個々人による「読み方」の発表					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験の結果	50	語彙習得や文法の理解ができているか。また、作品の理解の仕方に説得力があるか。		小テストの結果	20	英語の表現についての理解がなされているか。
提出物や発言の内容	30	例えば作家について調べるなどの課題に真剣に向き合っているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>授業は訳読中心ではないので、作品は事前に読んで、内容や問題点を整理しておくことが必要で、そのためには辞書を丹念に引くことが必須です。批評書などを講読することもあり、最低2時間の予習は必要。〔120分〕 作品中の表現を自分で使えるものにして、ディスカッションの後に問題点を整理するために、毎回1時間程度の復習も必要と考えていただきたい。〔60分〕</p>				<p>なるべくコメントを付して返却しますが、場合によっては、「模範答案」をご紹介するなどの形に代えることもあり得ます。どのような形にせよ、疑問や議論に対してはしっかりコメントをするようにします。</p>		
受講生に望むこと	必ずしも日常的でない英語表現に出会っても、辞書を引くことを厭わないこと。インターネットの記事などに安易に頼らず、然るべき文学事典や批評書を使うこと。理詰めだけでなく、フィクションを楽しめる柔軟な考え方を持てることが望ましい。			教科書・テキスト	プリント配布（優れた英文学の作品としての定評があり、かつ、子どもや青少年の心理などを扱っている短編を選択。一作品はK. Mansfieldの作品。その他詳細はクラスで発表する。）	
指定図書/参考書等	なし/『20世紀英米文学辞典』（研究社、2005）上田和夫・渡辺利雄編著 ISBN-13: :978-476790663 他はクラスで指示する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES240U 欧米の児童文学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	木梨 由利					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>小学校での外国語活動や英語教育を経て、中学校での本格的な英語を学び始める際にスムーズな導入になるように、中学校英語教員として知るべきこととして、児童文学における発生と発展の歴史を学ぶ。また、代表的な作品を、実際に英語または日本語で講読し、個々の作品について、歴史的・文化的背景を知り、また、作者の美人生とのかかわりの中で理解を深める。</p>			<p>児童文学の歴史や個々の作品について、単に知識として吸収するのみならず、実際に作品を読み、それに関する意見を発表できるようになる。文学を理解し、発表するという能動的な学びを通して、「子どもを読者対象とした狭義の児童文学」という概念を超えて、最終的には、児童文学とは何か、その特質は何なのかについて理解し、考えたことを表現できることが目標である。</p>			
教授方法	概ね講義の形をとるが、受講者同士での意見交換の場を設ける。知識の定着のため、小テストもほぼ毎回実施する。					
履修条件	教諭の資格取得を目指す学生であることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業に関するガイダンス 児童文学に関する導入					
2	児童観の変遷及び近代童話の成立について					
3	イギリスの児童文学(1) 『クリスマス・キャロル』、『不思議の国のアリス』、『宝島』など					
4	イギリスの児童文学(2) 『宝探しの子どもたち』、『たのしい川べ』、『風にのってきたメアリー・ポピンズ』など					
5	イギリスの児童文学(3) 『ツバメ号とアマゾン号』、『ホビットの冒険』、『ライオンと魔女』など					
6	イギリスの児童文学(4) 『グリーン・ノウの子どもたち』、『トムは真夜中の庭で』、『ハリーポッターと賢者の石』など					
7	アメリカの児童文学(1) 『アンクル・トムの小屋』、『若草物語』、『トム・ソーヤの冒険』など					
8	アメリカの児童文学(2) 『オズの魔法使い』、『秘密の花園』、『あしながおじさん』など					
9	アメリカの児童文学(3) 『大草原の小さな家』、『仔鹿物語』、『シャーロットのおくりもの』など					
10	アメリカの児童文学(4) 『影との戦い』、『テラピシアにかけた橋』、『クローディアの秘密』など					
11	英米以外の英米圏の児童文学(1) 『赤毛のアン』、『燃えるアッシュロード』、『めざめれば魔女』など					
12	英語圏以外のヨーロッパの文学(1) 『ハイジ』、『星の王子さま』、『長くつ下のピッピ』など					
13	英語圏以外のヨーロッパの文学(2) 『二人のロッチェ』、『あのころはフリードリヒがいた』、『はてしない物語』など					
14	受講者によるプレゼンテーション					
15	講義とプレゼンテーションのまとめ 「児童文学とは何か」					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
プレゼンテーション	30	発表とそのために作成したハンドアウトにいか説得力があるか		小テスト	20	知識が正確に定着しているか
レポート	30	作品をいかによく理解し、かつ、そのことを表現できているか		授業参加状況	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>テキストの内容を網羅的に話せるわけではないので、事前に配布するプリントを読んでおくことが必要です。【120分以上】また、講義で触れられたことを整理し、次回に行われる小テストの準備のため復習も必須です。【60分】作品そのものを読もうとすれば、さらに多くの時間を費やさねばならないことは覚悟しておいてください。</p>				<p>小テストは次回に返却します。また、プレゼンテーションについてのコメントは当日、または最終回にします。レポートについても、個々にコメントできるような機会を探します。</p>		
受講生に望むこと	子どもや子どもの本が好きであること。できるだけ多くの作品を読み、楽しみ、そのメッセージについても考えるように努めてほしい。なるべく英語で読めば、英語での表現力も身につきます。			教科書・テキスト	プリントを配布します。	
指定図書/参考書等	『たのしく読める英米児童文学』 本多英明・桂宥子・小峰和子編著 ミネルヴァ書房、2000年 ISBN-13:978-4623031566 「作品を読んで考える児童文学講座」シリーズ(全4巻) 中野節子・水井雅子・吉井紀子著 JULA出版局、2009-12年 第1巻のISBN-13: 978-4882842231 / なし その他はクラスで指示。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ES350U 英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、中学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目である。「英語科教育法」及び「英語科教育法」で学んだ理論や知識を踏まえ、教育実習に必要な指導力や実践力を身につけるために教材研究と模擬授業、相互評価、省察を行う。</p> <p>また、英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、日本の英語教育の歴史を概観する。</p>			<p>中学校の英語科教科書を用いて復習や新教材の導入の指導計画を板書計画とともに作成できること。</p> <p>他者の模擬授業等を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができること。</p> <p>英語で書かれた文献を読み、外国語教育の専門性を理解し、教育実習への新たな意欲を高めること。</p>			
教授方法	講義・発表・模擬授業・ディスカッション・省察					
履修条件	中学校教諭一種免許状（英語）取得を目指す者。英語科教育法 及び英語科教育法 を履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。英語科教育法 及び英語科教育法 で学んだことを振り返り、教育実習に向けて本授業で学ぶことを概観する。Harold E. Palmer の English Through Actions についての発表方法を理解する。					
2	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（1）：著者の外国語教育の考え方を理解し、壮大な教授計画の一部に触れる。また、当時の外国語教育の考え方や傾向を理解し、現在のものと比較することができる。					
3	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（2）：著者の外国語教育の専門性に関する考え方を理解し、専門家としての自覚を高める。また、英語教師が陥りやすい失敗例から今後目指すべき英語教師像をイメージ化することができる。					
4	Harold E. Palmer の 著書 English Through Actions について（3）：著者の「運用言語」に関する考え方を理解し、運用言語を習慣化するためお四段階を学ぶ。また、各段階を実際の授業の場面に当てはめ、その連続性と緻密さを実感できる。					
5	学習指導案：学習指導案の種類や歴史や具体的な作成方法を説明する。中学校用の英語科教科書を用いて実際に学習指導案を作成するためのノウハウを知る。					
6	中学校1年生用の教材を用いた模擬授業（1）：特に新出文法事項の導入を英語を用いて導入するように試みる。特に板書計画と模擬授業が相互補完的に機能するように準備ができるようになる。					
7	中学校2年生用の教材を用いた模擬授業（2）：特に新出文法事項の導入を英語を用いて導入するように試みる。特に展開練習を意識した導入ができるようになる。					
8	中学校3年生用の教材を用いた模擬授業（3）：特に新出文法事項の導入を英語を用いて導入するように試みる。特に教科書の題材の内容を意識した導入ができるようになる。					
9	中学校1年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（1）：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。					
10	中学校2年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（2）：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。					
11	中学校3年生用の教材を用いた50分間の模擬授業（3）：warm-up、復習、新出事項の導入、展開、発展、まとめのすべての指導手順を計画し、模擬授業を行う。また、他者の模擬授業を観察し、その良さや改善点を客観的に述べることができる。					
12	学習指導要領（1）：「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 外国語編」を用いて、今回の改訂について説明する。また、小学校に移行した音声・文字及び慣用表現を確認する。					
13	学習指導要領（2）：「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 外国語編」を用いて、今回の改訂について説明する。また、小学校に移行した文及び文構造・言語活動に関する事項を確認する。					
14	学習指導要領（3）：「中学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説 外国語編」を用いて、今回の改訂について説明する。また、小学校に移行した言語の働きに関する事項を確認する。					
15	全体のまとめ：授業の到達目標 ～ を達成できたかどうか自己評価してみる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小テスト	30	学習指導要領の概要を理解しているか。		模擬授業	40	実際の授業をイメージしながら模擬授業を計画・運営できるか。
授業参加状況	30	グループワークやディスカッションに積極的に参加し意見を述べているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>中学校・高等学校の英語授業を積極的に参観すること。〔60分〕</p> <p>（例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定）</p> <p>金沢大学附属高等学校教育研究発表会（11月開催予定）</p> <p>石川県英語教育協議会（IPELEC）（隔月、詳細は授業で説明する）</p>				模擬授業の感想などは次時にまとめて振り返る。		
受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること。			教科書・テキスト	『新・英語教育学概論[改訂版]』高梨庸雄・高橋正夫著 金星堂 2011年 ISBN:978-4764739475	
指定図書/参考書等	なし / 『English Through Actions』 H. E. Palmer 著 開拓社 1925年 ISBN:758900876 C3082 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編』文部科学省 開隆堂 2018年 ISBN:978-4304051692 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編（平成30年7月）平成30年告示。』文部科学省 開隆堂 2019年 ISBN:978-4304051784			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。 ・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。 						

授業科目名	ES355U 英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は中学校教諭一種免許状（英語）を取得しようとする者にとっての必修科目であり、英語科教育法で学んだ知識を基に、またプレ実習や教育実習の経験に基づき、さらなる指導技術の向上を目指す。また英語で書かれた英語教育関係の文献も扱う。</p>			<p>英語科教育法で学んだ理論や知識、及び、中学校で教育実習またはプレ実習を経験した者は、その際に課題に感じたことを振り返り、英語の指導力を習得する。 他者の授業を参観・視聴することにより授業を観る目を養い、ディスカッションを通して指導技術を習得する。</p>			
教授方法	講義、演習、模擬授業、ディスカッション					
履修条件	中学校教員免許（英語）を取得希望の者。英検2級を取得していて、英検準1級以上を取得しようとする者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業のねらいとクラスルールを知る					
2	プレ実習や教育実習で自分の課題と感じたことを発表し合い、どのような解決策があるかをディスカッションし、結果を共有し合う					
3	英語教育者論 英語教師養成の現状を知り、国の政策としての英語教育を展望する					
4	文法・語彙・音声の指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える					
5	異文化理解とコミュニケーションの指導法を知り、自分ならばどのように用いるかを考える					
6	4技能を伸ばす活動について学び、自分ならばどのように用いるかを考える					
7	評価と測定の実践 実際に評価をすることで測定することの意義と課題を学ぶ					
8	授業運営 さまざまな学習形態を学び、自分ならばどのように用いるかを考える					
9	授業運営 ALTとのチームティーチングのあり方を学ぶ					
10	模擬授業 中学1年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
11	模擬授業 中学2年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
12	模擬授業 中学3年生の言語材料を用いて指導案を作成し、実施する					
13	過去3回の模擬授業を基に相互評価し、特に苦手な活動を明確にし、次時のミニ模擬授業につなげる					
14	ミニ模擬授業 特に苦手と感じた活動を取り上げ、その活動を実践する					
15	まとめ プレ実習や教育実習後の授業を通して、自分の教師としての資質や課題を客観的にとらえ、今後どのような努力をしていくべきかを考える					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	30	実践的な指導案であるか、板書計画はあるか		模擬授業	30	授業の準備・練習を十分にしているか
ディスカッション	20	自分の指導技術ばかりでなく、授業全体を観る視点を養っているか		小テスト	20	英語の文献等を読む力がついているか
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>中学校・高等学校の授業を積極的に参観すること〔60分〕 （例）金沢大学附属中学校教育研究発表会（11月開催予定） 金沢大学附属高等学校高校教育研究協議会（11月開催予定）</p>				返却時に行う		
受講生に望むこと	英検準1級以上を受験すること			教科書・テキスト	中学校学習指導要領解説 外国語編」文部科学省 2018 ISBN: 9784304051692	
指定図書/参考書等	なし/中学校用英語検定教科書 （例）NEW HORIZON English Course 1~3 東京書籍 2016 ISBN 9784487122912			その他・特記事項	特になし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL310U 4-レベル・イングリッシュA		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシユー ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where various aspects of movies will be discussed in English.</p> <p>2. We will learn short dialogues from movies.</p>			<p>The goals of the course are as follows:</p> <p>1. Gain ability to communicate about movies of various genres as well as topics relating to aspects of the story.</p> <p>2. Acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films.</p> <p>3. Learn methods of studying English from films.</p>			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	A desire to learn English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Movie 1: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
2	Movie 1: presentation of setting and story (continued)					
3	Movie 1: scenes and script. Practice with dialogue.					
4	Movie 1: summary					
5	Introduction to Movie 2: Introduction of movie genre and presentation of setting and story					
6	Movie 2: setting and story (continued)					
7	Movie 2: scenes and script. Practice with dialogue.					
8	Movie 2: summary					
9	Introduction to Movie 3: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
10	Movie 3: setting and story (continued)					
11	Movie 3: scenes and script. Practice with dialogue.					
12	Movie 3: summary					
13	Movie 4: Introduction of genre and presentation of setting and story.					
14	Movie 4: scenes and script. Practice with dialogue.					
15	Movie 4: summary					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly Assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing.	Effort and Attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)			Feedback will be given as needed following pair work.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書/参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	none		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EL320U 4-レベル・イングリッシュB		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	マシュー ボッシュ					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>In this course:</p> <p>1. We will take a CLIL (Content and Language Integrated Learning) approach where various aspects of movies will be discussed in English.</p> <p>2. We will learn short dialogues from movies.</p> <p>3. We will build on what was learned in Movie English A.</p>			<p>The goals of the course are as follows:</p> <p>1. Building on what was learned in Movie English A, gain ability to communicate about movies of various genres as well as topics relating to aspects of the story.</p> <p>2. Acquire a wide range of English vocabulary and phrases directly from films.</p> <p>3. Learn methods of studying English from films.</p>			
教授方法	Pair work, individual assignments					
履修条件	A desire to learn English					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	Introduction to Movie 5: presentation of setting and story (guess the genre activity).					
2	Movie 5: presentation of setting and story (continued)					
3	Movie 5: scenes and script					
4	Movie 5: summary					
5	Introduction to Movie 6: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
6	Movie 6: setting and story (continued)					
7	Movie 6: scenes and scripts					
8	Movie 6: summary					
9	Introduction to Movie 7: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
10	Movie 7: setting and story (continued)					
11	Movie 7: scenes and script					
12	Movie 7: summary					
13	Movie 8: setting and story (guess the genre activity). Applying previously learned vocabulary and sentence structures.					
14	Movie 8: scenes and script					
15	Movie 8: summary					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
Weekly assignments	60	Weekly assignments for listening, speaking, reading, and writing	Effort and attendance	40	Effort in classroom activities and class attendance	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
1. Review material each week from previous class (50 minutes) 2. Review material from previous lessons (30 minutes)			Feedback will be given as needed following pair work.			
受講生に望むこと	Enjoyment of communicating in English		教科書・テキスト	none		
指定図書 / 参考書等	This will be made known in class		その他・特記事項	This course builds on EL310U Movie English A		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EE305U 国語科教育法（書写を含む）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「国語」で学んだことを基礎として、国語科教育の特質や現状、指導のための基礎的知識や技術を学ぶ。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域及び書写の指導事項や発達段階に応じた指導を行うための実践力を、講義やグループ討議、模擬授業などを通して学ぶ。</p>			<p>国語科教育の実践的指導にあたっての基礎的知識を理解している。発達段階や系統性を踏まえて国語科学習指導計画を立案できる。模擬授業を通して国語科の実践的な指導技術を習得している。子ども・指導者両者の立場から授業を評価できる。</p>			
教授方法	講義 演習 授業参観 グループ討論					
履修条件	「国語」を履修した者または「国語」を履修中の者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業概要、進め方、成績評価の方法					
2	学習指導要領における国語科の目標と内容					
3	「話すこと・聞くこと」に関する教材研究					
4	「話すこと・聞くこと」に関する指導法研究					
5	「読むこと」に関する教材研究					
6	「読むこと」に関する指導法研究					
7	「書くこと」に関する教材研究					
8	「書くこと」に関する指導法研究					
9	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての教材研究					
10	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」についての指導法研究					
11	「書写に関する事項」についての教材研究と指導法研究					
12	模擬授業の実施と協議（低学年の授業論）					
13	模擬授業の実施と協議（中学年の授業論）					
14	模擬授業の実施と協議（高学年の授業論）					
15	まとめ：国語科教育の現状と課題					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
学習指導案	40	十分な教材研究がなされている。単元の目標達成や本時の目標達成を明確にした学習指導案がつけられている。		模擬授業の実施	40	十分な事前準備がなされている。ねらい達成のための授業展開ができている。授業者・児童双方の立場を理解した行動や関わりがなされている。客観的な高め合う相互評価をしている。
課題	20	授業力における自分の課題を理解している。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
事前学習 教材研究や模擬授業の指導案を作成する。事後学習・授業で学んだことや各目の課題についてレポートを作成する。[30分]			・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回授業の初めに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。			
受講生に望むこと	「国語」で学んだ国語科の目標と内容を想起してほしい。模擬授業で授業力をつけるためにも、事前事後学習や教材研究にしっかり取り組んでもらいたい。子どもの立場に立って授業案を考え、指導を試みるのが大切である。自分の課題や目標をみつめて授業力向上に励んでほしい。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説国語編』文部科学省 東洋館 2018年 ISBN978-4-491-02371-7-C3037		
指定図書/参考書等	なし/『言語活動の充実に関する指導事例集』～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～【小学校版】文部科学省 教育出版 2011年 ISBN978-4-316-300290-0 小学校国語学習指導書1年～6年 光村図書出版株式会社 ISBN978-4-89528-850-7～978-4-89528-861-3		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
小学校教諭としての経験をもとに、国語科の授業において小学校現場で具体的にどのように指導しているかについて、実際に模擬授業を行い、明確な視点をもって検討会を行っている。						

授業科目名	EE300U 社会科教育法			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>学習指導要領「社会科」の教科目標には、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成する、とある。小学校3年生から6年生まで、それぞれの発達段階に応じた社会科の学習指導を行うために必要な技能を身につけることを目指し、実践的に学んでいく。</p>				<p>小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識および技能を身に付ける。 社会科の主な指導内容・方法を選択し、学習指導計画案の作成や模擬授業を通して、その特色や問題点などについて実践的に理解を深める。</p>			
教授方法	講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など						
履修条件	「社会」を履修していることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。						
2	小学校社会科における教科の本質について理解する。						
3	社会科指導のあり方（教材研究、指導計画立案）を理解する。						
4	社会科指導のあり方（授業展開、評価）を理解する。						
5	社会科授業の様々な方法論について理解する。						
6	3, 4 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
7	5, 6 学年における社会科教育の目標と内容を理解する。						
8	社会科授業3, 4 学年の指導計画の作成を理解する。						
9	社会科授業5, 6 学年の指導計画の作成を理解する。（社会科学習指導案 の提出）						
10	学生による模擬授業の実施と反省、評価 （3学年）						
11	学生による模擬授業の実施と反省、評価 （3,4学年）						
12	学生による模擬授業の実施と反省、評価 （4学年）						
13	学生による模擬授業の実施と反省、評価 （5学年）						
14	学生による模擬授業の実施と反省、評価 （6学年）						
15	全体ふりかえり、まとめ、社会科学習指導案 （修正版）の提出						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
学習指導計画案	25	模擬授業実施のための学習指導計画案を作成する。その際、十分に教材研究をし、創意工夫をおこなっている。		模擬授業	30	授業づくりに積極的に参加することができる。	
修正指導案・期末レポート	25	模擬授業や担当教員による助言を踏まえ、修正版指導案を提出する。また、授業づくりについての学びを簡潔にまとめることができる。		講義ごとの対話カード	20	毎回の講義の終わりに、疑問や意見、感想等を「対話カード」に書き、提出する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
単元計画・指導案の作成、模擬授業の準備のため、授業時間外に積極的に教材研究を行う。〔60分〕 金沢市近郊の小学校あるいは母校等において、学習支援に積極的に参加する。〔60分以上〕				学習指導計画案は、初回に提出されたものに担当教員が指導助言を行い、いったん返却する。模擬授業等を踏まえて修正を行ったものを期末に再提出するものとする。2週間程度を目安に、コメントをつけて返却する。 対話カードの内容は、次時の講義の冒頭で紹介したい。			
受講生に望むこと	社会科実践に興味をもって教材研究を進めたり、仲間とともに授業をつくったりすることを大切にほしい。			教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説社会編』文部科学省、日本文教出版、2018年、978-4536590099		
指定図書/参考書等	授業の中で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
小学校教諭の経験をもとに、小学校における実践を例示し、教材研究、指導案作成の手がかりとしている。							

授業科目名	EE340U 体育科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
学習指導要領に示された体育科教育の目標や内容を理解する。実践的指導のための基礎的知識と技能を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫することについても学ぶ。			小学校体育科における各運動領域の特性を理解し、体育授業に必要な技能と発達段階や系統性を踏まえた具体的な指導法や授業設計を身に付ける。				
教授方法	講義、教材研究、模擬授業、グループディスカッション、						
履修条件	「体育」を履修中もしくは履修済みであることが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	学校教育における体育の意義について理解する。						
2	「体づくり運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。(タブレット(スマートフォン)やデジタルカメラなどのICT 機器を活用して動き方を確認し、どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫する指導計画を含む)						
3	「体づくり運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
4	「器械運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。(ICT 機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技のできればえや次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む)						
5	「器械運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
6	「陸上運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。(走ったり跳んだりする運動の様子をICT機器を活用して確認し、動きのポイントと照らし合わせて自己の課題を見付ける指導計画を含む。)						
7	「陸上運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
8	「水泳」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導法について理解する。(ICT 機器を活用して、課題や解決のための動きのポイントを仲間と確認し、自己の課題に応じた練習の仕方を選ぶことの指導計画を含む)						
9	「ボール運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。(自己や仲間が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉絵図、ICT 機器を用いて他者に伝える指導計画を含む)						
10	「ボール運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
11	「表現運動」の特性と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。(タブレットやデジタルカメラなどのICT 機器を活用して自己の表現の様子を確認し、次の課題を確認するなど、自己の課題を見付ける指導計画を含む)						
12	「表現運動」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
13	「保健」の内容と学習指導要領の理解を踏まえた指導案を作成する。						
14	「保健」の模擬授業及び授業づくりと指導法について理解する。						
15	「運動の楽しさや喜びを味わえる体育授業と指導」について、話し合いを通して考えを深め、まとめる。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	30	授業への取り組み姿勢	模擬授業の発表内容	25	模擬授業に向けた丁寧な準備がされているか。 運動に関する正しい指導が行われたか。 運動が得意な児童だけでなく苦手な児童への配慮がなされたか		
指導案の内容	25	十分な教材研究がなされているか。 異なる能力の児童の姿を想定しているか。 安全への配慮が考えられているか	レポート試験	20	「体育」について自分の考えを論理的に述べる事ができているか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
ニュースや新聞で報じられている運動や健康に関する情報に接し、様々な角度から考える[60分] 授業中に配布した資料を読む[30分] 指導案及びレポートの作成[60分] 小学校低学年体育、文部科学省 You Tube 小学校中学年体育、文部科学省 You Tube 小学校高学年体育、文部科学省 You Tube			指導案はコメントを付記して返却する。 レポート・試験は授業の理解度の確認に用い、必要な場合は個人指導を行う。				
受講生に望むこと	「運動が得意だから体育が教えられる」、「運動が苦手だから体育は教えられない」と考えないでください。体育は単に運動技術を高めるためだけでなく、能力差のある子供達が一緒に運動することを通して学びあう科目です。体育の楽しさを教えるためには、運動に関する正しい知識と指導法に加え、授業内容の工夫が必要です。自分自身のこれまでの経験は大切ですが、それが全てとは考えないでください。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領解説 体育編』、文部科学省、2017年、ISBN:9784491034676 『すべての子どもが必ずできる 体育の基本』、高橋健夫他 著 学研教育みらい、2010年、ISBN:978-4-05-404531-6 その他授業中に適宜資料を配布する			
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	模擬授業の時間は運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EE237U 教育課程編成論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	川真田 早苗					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
社会的背景と明確な法的根拠に基づいた「教育課程」について理解を深めるために、学制以降の教育課程の歴史、学習指導要領の誕生から改訂の変遷、カリキュラム・マネジメントを踏まえた新しい学習指導要領の目指すところ、教育課程の編成の方法に関して留意すべき事項等について学んでいく。			1)初等・中等教育における教育課程の意義、学習指導要領の内容、役割、改訂の変遷等について理解する。 2)教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 3)カリキュラム・マネジメントの意義について理解する。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	小学校教員免許課程および中学校教員免許課程希望者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要、授業の進め方、成績評価の方法、教育課程とは何かについて					
2	学力問題と教育課程について					
3	近代日本の教育課程の歩み(1)明治時代～大正時代					
4	近代日本の教育課程の歩み(2)大正時代～戦時下国民学校					
5	現代日本の教育課程の歩み(1)軍国主義～民主主義					
6	現代日本の教育課程の歩み(2)系統性重視への転換					
7	現代日本の教育課程の歩み(3)教育の現代化					
8	現代日本の教育課程の歩み(4)人間性重視への転換					
9	教育課程再編の新しい動向					
10	教育課程の思想と構造					
11	教育課程の編成					
12	カリキュラム・マネジメント					
13	社会における教育課程					
14	今日的課題への挑戦					
15	諸外国の教育課程改革					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	50	「教育課程」について、キーワードを中心に記述形式で理解度を評価する。		レポート	40	授業感想及び課題内容に応じたレポートを書くことができたかを評価する。
授業参加態度	10	授業への取り組み姿勢を評価する。				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
次の授業で取り上げる内容についてテキストを読んで予習する。(60分)				レポートは、採点及び解説を行い返却する。		
受講生に望むこと	具体的な授業についての指導法ではなく、教育課程という大きな括りで、初等・中等教育について、俯瞰して見つめなおす機会としてほしい。			教科書・テキスト	「新しい時代の教育課程 第4版」田中耕治他 有斐閣 2018年 ISBN 978-4-641-22107-9	
指定図書/参考書等	なし。授業中に適宜資料を配布する。			その他・特記事項	なし。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EE227U 道徳教育指導論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
道徳教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育み、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて、時には悩み、葛藤しつつ、考えを深め、自らの生き方を育んでいくことが求められる。そこで、道徳の教育の本質、道徳教育の歴史、学校における道徳教育、道徳の時間の学習指導(道徳科)の順に講義を行い、終盤ではいくつかの実際の道徳授業をもとに自分なりの道徳授業について考える。			道徳教育の本質について、道徳教育の目指すものや道徳性の発達から理解している。道徳教育の歴史について、西洋と日本の道徳教育の違い、日本の戦前と戦後の道徳教育の違いをもとに理解している。学校における道徳教育について、指導体制、全体計画、年間指導計画、評価の面から構造的に理解している。道徳の時間の学習指導(道徳科)について、実際の授業記録(DVD)を視聴し、自分なりの考えや感想を持つことができる。道徳科におけるモラルジレンマ授業について、自分なりに考えることができる。			
教授方法	講義					
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の概要と評価方法について知る。)/道徳教育が目指すもの(道徳教育が目指すものについて考える。)					
2	道徳教育(道徳科)への期待(なぜ道徳教育(特別の教科 道徳)に期待が寄せられるのかについて考える。)					
3	道徳の諸科学(デュルケムとデュルケム教育思想について知る。)					
4	道徳性の発達(道徳性発達理論を知り、その課題と展望について考える。)					
5	市民育成としての道徳教育(理論を手がかりとした話合いの指導法について知る。)					
6	道徳教育の歴史(西洋における道徳的思想について知る。)					
7	道徳教育の歴史(日本における道徳教育の歴史について知る。)					
8	学校における道徳教育(道徳教育の目標、内容、評価について知る。)					
9	学校における道徳教育(道徳教育の指導体制、全体計画、年間指導計画について知る。)					
10	道徳の内容項目(映像資料をもとに「正直・誠実」の授業について考える。)					
11	道徳の内容項目(映像資料をもとに「生命尊重」の授業について考える。)					
12	道徳授業の方法(3つの類型があることを知り、モラルジレンマ授業について考える。)					
13	道徳授業の方法(教師が教え込む授業から児童生徒が学ぶ授業への転換について考える。)					
14	道徳授業の方法(モラルジレンマ授業について板書構成から考える。)					
15	定期試験に向けて/学習のまとめ:レポート作成(課題:「私がやってみたいモラルジレンマ授業」)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・道徳教育について自分の考え方を持っている。		レポート	15	モラルジレンマ授業について、自己の授業アイデアを持っている。
小テスト	10	・新たな基本的知識を記憶している。 ・道徳教育について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 小学校か中学校の道徳に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]				小テストを採点して返却する。 レポートの評価コメントを返す。 第15回授業時に定期試験対策について示す。		
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような道徳の授業があったか」の意識で受講してください。			教科書・テキスト	『教師教育講座第7巻 道徳教育指導論』,丸山恭司編著,共同出版,2014年出版,ISBN978-4-319-10676-9	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』,文部科学省,2017年告示,『中学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編』,文部科学省,2017年告示 小学校、中学校いずれかで可/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
実際の小学校や中学校の授業の様子を動画で取材し、それを学生に視聴させて、グループ討議したりレポート作成したりしている。						

授業科目名	EE232U 特別活動指導論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>学校生活の中で一番印象に残っている学習・活動として学生が挙げるものは特別活動(合宿、運動会、修学旅行など)がもっとも多い。つまり、教科の学習よりも児童生徒の思い出として深く残っているのである。このよつなことを背景に、本科目においては初めに特別活動の意義や役割について扱ったのち、特別活動の各内容(学級活動、学校行事など)を取り上げ学生の実験をもとにしながら各活動について考える場を持つ。次に特別活動と他の領域との関係について検討したのち、学級活動や児童会・生徒会活動の実践について考える。最後に自己が学級担任としたらどのような学級づくりを行うかについて考え、レポートを作成する。</p>			<p>特別活動の学習指導要領上での位置づけや目的について理解している。特別活動の歴史的経緯や今日的意義について理解するとともに、諸活動の内容について理解している。特別活動のもたらす教育上の効果や期待できる成果について、自己の経験や具体的な事例をもとに考えることができる。「学級づくりのアイデア」について、自分なりに考えることができる。</p>			
教授方法	講義					
履修条件	小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を目指す者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション(授業の概要と評価方法について知る。)/(特別活動の現代的意義について考える。)					
2	特別活動の歴史(戦前の特別活動について知る。)					
3	特別活動の歴史(戦後の特別活動について知る。)					
4	学級活動(学級とは何か、学級活動の今日的課題について考える。)					
5	児童会活動・生徒会活動(児童会活動・生徒会活動の意義及び指導について考える。)					
6	学校行事(学校行事の種類及び文化的行事としての学会や文化祭について考える。)					
7	学校行事(健康安全・体育的行事としての運動会や体育祭について考える。)					
8	学校行事(勤労生産・奉仕的活動としてのボランティア活動や奉仕体験について考える。)					
9	キャリア教育(キャリア教育の意義を知り実践例から方法論について考える。)					
10	部活動(中学校における部活動の位置づけや教育的意義及び課題について考える。)					
11	特別活動の実践(特別活動と総合的な学習の時間との連携について考える。)					
12	特別活動の実践(特別活動と特別支援教育との関係について考える。)					
13	特別活動と児童生徒の個性(特別活動でいかにして個性が形成されるか考える。)					
14	特別活動と学級経営(学級づくりについて学級日誌や学級通信をもとに考える。)					
15	定期試験に向けて/学習のまとめ:レポート作成(課題:「わたしの学級づくりのアイデア」)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	60	・講義内容を正しく理解している。 ・特別活動について自分の考え方を持っている。		レポート	15	「学級づくりのアイデア」の観点から、自己の考えを持っている。
小テスト	10	・新たな基本的知識を記憶している。 ・特別活動について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<p>各回の授業は章ごとに進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業ではワークシートを配付するので、授業後、ワークシート内の「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 特別活動の各活動に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]</p>				<p>小テストを採点して返却する。 レポートの評価コメントを返す。 第15回授業時に定期試験対策について示す。</p>		
受講生に望むこと	・自己の小学校時代、中学校時代に「どのような特別活動を体験したか」の意識で受講してください。			教科書・テキスト	『教師教育講座第8巻 特別活動論』、山田浩之編著、共同出版、2014年出版、ISBN978-4-319-10677-6	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省、2017年告示、『中学校学習指導要領解説特別活動編』、文部科学省、2017年告示/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
実際の小学校や中学校の特別活動について取材(写真、資料収集など)し、それを学生に提示して理解を促したり、グループ討議したりしている。						

授業科目名	EE242U 生徒・進路指導論(小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	幸 聖二郎・村井 万寿夫 (代表教員 幸 聖二郎)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>テキスト・配布プリントをもとに講義を進め、生徒指導・進路指導の基本的な考え方や考え方について学ぶ。小・中接続連携を意識して、教師と児童・生徒という二つの視点から理解するために、自己の成長過程を振り返って課題レポートをまとめ、問題点を把握する。毎回の授業では、テーマに即した具体的な問題を取り上げて講義を行い、「事前の私の主張」をもとに、全体あるいはグループによるディスカッションを行う。多様な視点・価値観に気づくことで生徒理解を深め、講義内容と合わせて、毎回事前・事後の「私の主張」ミニレポートを書くことで、理解の定着を図る。</p>			<p>「生きる力」に代表される生徒指導や進路指導の意義や目的を理解する。生徒指導や進路指導における生徒理解の方法や、関わる際の留意点について理解する。生徒指導は、すべての児童生徒が対象であることを理解する。教師としての視点、児童生徒の立場の二つに立って、自己の問題として考えることができる。生徒指導・進路指導いずれにおいても、地域や保護者、他機関との連携が不可欠であることを理解する。</p>			
教授方法	講義とグループディスカッション					
履修条件	児童教育コースに所属していること。受講までに、プレ実習(学習支援員)などで学校現場を体験していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス：生徒指導とは何か 生徒指導の基本(治療的生徒指導・予防的生徒指導・開発的生徒指導) 『生徒指導の手引き』から『生徒指導提要』へ					幸
2	生徒指導の三機能 自己有用感・自己効力感・自尊感情 児童・生徒理解の方法 ほめることと叱ること					幸
3	生徒指導と教師の姿 教師のリーダーシップ 教師の自己開示 教師のソーシャル・スキル					幸
4	生徒指導体制 生徒指導の校内組織 チームとしての学校					幸
5	子どもに自立を促す生徒指導の手法 コーチング・構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキル					幸
6	いじめ問題とその対応 いじめの定義・社会に影響を与えないいじめ事件・いじめの事後対応・いじめ防止策					幸
7	不登校問題とその対応 不登校に陥りやすい時期やきっかけ 不登校の子どもへの支援・不登校のケース会議					幸
8	生徒指導と学級経営 学級崩壊・子どもの姿勢・よい学級とは					幸
9	生徒指導と授業 学習環境・授業時間の保障・魅力的な授業					幸
10	進路指導とは：「生き方を問い続ける学び」の助成 学校教育における進路指導の意義と課題を把握する。					村井
11	進路指導の現状と課題 学校教育におけるキャリア教育とは何かを理解する。(小学校段階・中学校段階におけるキャリア教育を知る)					村井
12	進路指導の現状と課題 進路選択、職業的発達理論、児童期・青年前期における性格検査・進路適性検査使用に関する諸注意について理解する。					村井
13	進路指導の現状と課題 職業観の形成、中途退学・ニート問題、多様な雇用形態の概要について理解する。					村井
14	進路指導の現状と課題 価値観形成・生き甲斐形成、キャリア教育の計画と実践(職場体験活動が目指すもの)について、具体的に理解する。					村井
15	進路指導の充実：開発的生徒指導の一環としての進路指導 「総合的な学習の時間」の活用と進路指導、組織的な指導と個別的な指導について、教師の指導性の観点から理解する。					村井
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
受講態度・授業参加状況	10	グループディスカッション参加	ミニレポート	30	毎回の「私の主張」	
課題小論文	30	指示された書式・字数に従ってまとめている。自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。(詳細は授業内で説明)	課題小論文	30	指示された書式・字数に従ってまとめている。自分のテーマを設定し、それに沿って書いている。(詳細は授業内で説明)	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>教育問題に関する新聞報道などを注意して読んでおく。[20分] 授業で紹介した本をできるだけ読んでみる。[20分] 生徒指導から連想する事柄、自分が受けてきた生徒指導に関する小論文を作成する。(詳細は授業で説明する。)[30分] 進路指導から連想する事柄、自分が受けてきた進路指導について小論文を作成する。(詳細は授業で説明する。)[30分]</p>			<p>・質問は、授業中以外にも、メール等で受け付ける。メールアドレスは、受講者に知らせておく。 ・毎回の授業のはじめに、前時の授業における質問や意見に対するコメントをする。</p>			
受講生に望むこと	<p>学習支援員やボランティア活動などで、できるだけ小学生と触れ合う機会を持ち、教員がどのように児童とかわかっているかを観察するなど、学校現場を体験していること。 授業で学ぶ内容を意識しながら、学習支援員として参加することが望ましい。</p>		教科書・テキスト	『三訂版 入門生徒指導』 片山紀子著 学事出版 2018年3月 ISBN 978-4-7619-2400-3		
指定図書/参考書等	なし/『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 2011年 ISBN 978-4877302740 /『生徒指導資料第3集 規範意識をはぐくむ生徒指導体制』東洋館出版社 2012年 /『教師を目指す若たちへ』町田健一 キリスト教学校教育同盟 2004年 / その他、授業内で提示する。		その他・特記事項	授業では関連資料を配布するので、各自ファイルに保管しておく。		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>村井：中学生における不登校について中学校教員や保護者と連携しながら社会的自立のための支援を行っている。 幸：小学校教諭としての経験をもとに、積極的な生徒指導とはどういうことか、実際の小学校現場での事例を挙げながら、説明し、構成的グループエンカウンター等の実践を行っている。</p>						

授業科目名	EE220U 小学校英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・中野 聡 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
この講義は「小学校教諭一種免許状」の「または科目」にあたる科目である。新学習指導要領のもと、小学校では3,4年生は外国語活動、5,6年生は教科としての英語が行われる。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、小学校での外国語活動及び教科としての英語に必要な基礎知識を学び、小学校英語科教育法、の基盤を作る。実践的英語力育成のためにクラスルームイングリッシュを学ぶ。			新学習指導要領(2017年3月公示)の小学校外国語活動、教科としての英語についての正しい理解を持つ。 これからの小学校教諭に求められる英語指導力、外国語活動指導力はどのようなものか正しく理解し、理想形に近づくにはどのような知識・スキルが必要かを認識し、獲得に努めることができる。子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導することができる。 あらゆる場面で見られるこどもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要とされるCEFR B1 (STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600)程度を目指す。			
教授方法	講義・演習・およびディスカッション					
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者あること。英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	クラスオリエンテーション、「小学校英語科教育法I」のねらい					宮浦・中野
2	外国語教育の教科化の経緯と目的、理念 クラスルームイングリッシュ(1)					宮浦・中野
3	学習指導要領における外国語活動、教科としての英語について クラスルームイングリッシュ(2)					宮浦・中野
4	小・中・高の外国語教育における小学校の役割 クラスルームイングリッシュ(3)					宮浦・中野
5	諸外国の小学校外国語教育事情 クラスルームイングリッシュ(4)					宮浦・中野
6	学習指導要領改訂の基本的な考え方 クラスルームイングリッシュ(5)					宮浦・中野
7	国際理解教育の目標、外国語活動の目標、外国語科の目標と領域別目標 クラスルームイングリッシュ(6)					宮浦・中野
8	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(1)第一言語習得と第二言語習得 クラスルームイングリッシュ(7)					宮浦・中野
9	関連分野から見る外国語教育の意義と方向性(2)神経言語学、発達心理学の知見から小学校英語を考える クラスルームイングリッシュ(8)					宮浦・中野
10	コミュニケーション能力、国際理解教育、異文化間コミュニケーションを考える クラスルームイングリッシュ(9)					宮浦・中野
11	指導者の役割、資質と研修 クラスルームイングリッシュ(10)					宮浦・中野
12	小学校英語の教材の構成と内容について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(1)					宮浦・中野
13	指導目標、年間指導計画について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(2)					宮浦・中野
14	言語材料と4技能の指導について学ぶ 英語絵本の読み聞かせ実習(3)					宮浦・中野
15	授業の総まとめ					宮浦・中野
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加状況	20	小学校外国語活動、教科としての英語について関連資料にあたるなど積極的に理解に努めているか。		小テスト	20	語彙や文型が定着しているか。 使用する場面や機能を理解ができているか。 4技能で使用できるか。
英語実演等	20	英語絵本読み聞かせ、チャンツなどの実演で内容を理解した上で正しい英語で実演できているか		期末テスト	40	小学校外国語活動、教科としての英語についての基本を修得しているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
学生は必ず予習をして授業に臨むこと。特に発音については辞書・CD等で確認して定着させること。[30分] 小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。[45分] メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。[30分] 英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。[20分] 小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。学習支援は継続的に行うこと。[45分]				返却時に行う		
受講生に望むこと	教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。 「小学校英語は楽しければ良い」、「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 英語を取り巻く環境は急激に変化しているため新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 英語科目(アクティブイングリッシュを含む)を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。			教科書・テキスト	『新編小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 『Let's Try! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258703 『Let's Try! 2』文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4487258710) 『Let's Try! 1 指導編』文部科学省 2018年 (ISBN978-4-487-259700) 『Let's Try! 2 指導編』文部科学省 2018年 (ISBN: 978-4-487-259717) 適宜配布されるプリント	
指定図書/参考書等	なし/小学校英語に関する書籍一般			その他・特記事項	詳細なクラスルールは1時間目にハンドアウトを用いて説明をする。	
実務経験を活かした授業の概要						
中野: 小学校での指導経験を生かして絵本の読み聞かせを実演したり、クラスルームイングリッシュに馴染ませることで実践的コミュニケーション能力を身に付けるための指導している。						

授業科目名	EE345U 小学校英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
2013年に文部科学省は、2020年度より小学校での英語を3,4年生は外国語活動として、5,6年生は教科として導入することを発表した。このことは、小学校教諭は英語指導者の資質が求められるようになったことを意味する。この授業では、子ども英語（本講義では、「子ども」とは主に小学生を指す）指導に必要な英語力と具体的な指導法を実践的に学ぶ。また学外の実践場面に多く触れることで理解を深める。			子ども英語に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に暮らすルームイングリッシュを用いて指導することができる。 子ども英語は体験的に「学ぶ」ことが重要であることを踏まえた授業実践（指導案作成を含む）ができる。 英語の指導案を作成し、それを用いてALTと英語で授業の打合せができる。 あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 英語力が現在よりもひとつ上のレベルに到達することができる。最終的には小学校英語教師に必要とされるCEFR B1（STEP英検2級～準1級、TOEIC 550-600）程度を目指す。			
教授方法	講義・演習・実技（模擬授業・授業外活動）およびディスカッション					
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者で、小学校教育実習を履修済みであることが望ましい。英語力がSTEP英検2級相当以上である者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法を説明する。そのあとに「小学校英語科教育法」で学んだことを概観し、外国語活動の目的と目標を再確認する。小学校の英語教育について、一般の人々がどの程度興味を持っているかをディスカッションしながら考えてみる。					
2	教材研究の大切さを説明し、そのための今後の英語学習の展望を持たせる。英語を教える教師としての英語学・文学・英語の歴史等の位置づけを考え見る。指導手順としての warm-up の位置づけを説明し、その留意点を理解し、実際にその一部を実演し「児童が楽しく慣れ親しむ活動」を体験することができる。					
3	児童の興味・関心を惹きつける活動について考えながら、各指導法の授業での活用例を具体的に説明する。この説明を活かしながら、前回に引き続き、warm-up の一部を実演し、「児童の興味・関心を惹きつける」活動を体験することができる。					
4	英語授業における「指導方法・指導技術」にはどのようなものがあるのか、また歴史的にどのような変遷をたどったのかを説明する。教科書にあるそれぞれの指導法の特徴を列挙することができる。 英語による児童とのインタラクションについて説明し、この説明を活かした授業の一部を演じ、指名の効用や英語のoral work の大切を体験することができる。					
5	英語授業における「教材・教具」の種類や使用方法を説明し、効果的な使用には板書計画が必要なことを理解する。絵や実物を実際に用いて、授業の一部を実演し、板書計画との関係を実感することができる。					
6	「授業過程と学習指導案」についてディスカッションしながら、小学校における英語授業の指導手順を説明する。教科書の学習指導案例を参考にしながら、指導手順のそれぞれの役割を確認する。					
7	「授業過程と学習指導案」について振り返り、実際の学習指導案を見ながら、その構成と作り方を説明する。昨年度の教育実習の様子をビデオで視聴し、指導手順等を確認する。学習指導案にはいろいろな形式があり、その中から取捨選択しながら学習指導案を作成することができる。					
8	ALTとの授業の打合せを英語で行うことの意義と具体的な方法を説明する。また、ALTに実際に作成してもらったサンプル・ダイアログを用いて、実際に練習をしてみる。英語の授業の打ち合わせのための特殊な表現を理解し、実際に用いることができる。					
9	Let's Try!(1)用いて、小学校3年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
10	Let's Try!(2)用いて、小学校4年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
11	We Can!(1)用いて、小学校5年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
12	We Can!(1)用いて、小学校5年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
13	We Can!(2)用いて、小学校6年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
14	We Can!(2)用いて、小学校6年生を対象にした指導案を作成し模擬授業を行い、ディスカッションを通して指導手順や指導技術を身につける。					
15	授業の総まとめとして4年生での「小学校英語科教育法」への心構えを共有する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
模擬授業・指導案	40	指導案がねらいに沿った流れで作成されているか。授業運営が児童やねらいに適した活動をしているか。クラスルームイングリッシュを用いているか。教材・教具を適切に使用しているか。		英語小テスト	40	実際の授業をイメージしながら解答できるか。英語教育の専門用語を理解できているか。必要十分な分量で解答できるか。
ディスカッション	20	話し合いを通して、授業を観る目を養っているか。自から疑問を発したり、他者の疑問を共有しようとしているか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
学生は必ず予習や小テストの準備をして授業に臨むこと。[30分] 小学校現場での英語・外国語活動の授業をできるだけ多く参観すること。[2回以上] メディアや図書館等を利用し、知識を増やすこと。[120分] 英語力向上のため英語の授業の履修やメディアを利用し、検定等に挑戦したり英語を頻繁に使用したりすること。[30分]			小テストは返却時に行う。また、模擬授業のフィードバックは学生の評価シートを基にして次時に行う。			
受講生に望むこと	教師の責任の重さは「外国語活動」も他教科と同じである。他教科同様積極的に学習すること。「小学校英語は楽しければ良い」「母語同様自然に英語を身に付ける」という誤った思い込みを捨て正しい認識を持つこと。 英語を取り巻く環境は急激に変化しているため新聞・ニュースなど最新情報を常にチェックすること。 英語科目（アクティブイングリッシュを含む）を履修し、英語を通じた異文化交流の実験を持つこと。		教科書・テキスト		『新編 小学校英語教育入門』樋口忠彦(代表)編著 研究社 2013年 ISBN: 978-4-327-41098-8 『Let's Try! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258703、『Let's Try! 2』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258710、『We Can! 1』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258734、『We Can! 2』文部科学省 2018年 ISBN: 978-4487258741	
指定図書/参考書等	なし/『Hi, friends! 1』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258833 『Hi, friends! 2』文部科学省 2012年 ISBN: 978-4487258840 『Hi, friends! 1』指導編 文部科学省 2012年 ISBN: 978-4-487-25989-2 『Hi, friends! 2』指導編 文部科学省 2012年 ISBN: 978-4-487-25990-8		その他・特記事項		なし	
実務経験を活かした授業の概要						
教員の経験をもとに、小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。ロールプレイを導入している。						

授業科目名	EE362U 教育相談（小・中）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	松下 健					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
子どもたちを取り巻く諸問題についての実情を把握し、教育相談の目的や意義を学ぶ。また、教育相談における幼児・児童・生徒への関わり方を対象問題別に学ぶとともに、幼児・児童・生徒の理解及び支援のいくつかのアプローチを学び、教育相談について理解を深める。			1)教育現場で遭遇する問題を理解すること。 2)基本的な相談技術を理解すること。 3)多職種の連携・協働を理解すること。 4)科学研究の知識を修得すること。 5)科学研究の技術を修得すること。			
教授方法	演習、講義、ディスカッション。					
履修条件	教職課程登録者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育相談とは：教育相談の目的、意義、方法について考える					
2	子どもの貧困：貧困について理解を深める					
3	自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラム障害（ASD）の特徴について理解を深める					
4	限局性学習障害：限局性学習障害（LD）の特徴について理解を深める					
5	注意欠如多動性障害：注意欠如多動性障害（AD/HD）の特徴について理解を深める					
6	不登校：不登校について理解を深める					
7	いじめ：いじめについて理解を深める					
8	非行：非行について理解を深める					
9	虐待：虐待について理解を深める					
10	自殺：自殺について理解を深める					
11	統合失調症：統合失調症の特徴について理解を深める					
12	抑うつ障害：うつ病の特徴について理解を深める					
13	カウンセリング的態度：教育相談において求められるカウンセリングの知識と技術を理解する					
14	連携・協働：教育相談において求められる多職種の連携や協働について理解を深める					
15	統括。教育相談の目的、意義、方法について改めて考える					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
リアクションペーパー	30	講義内容について自分の意見や感想を記述すること。講義内容のメモではなく、内容から発展させた自分の考えなどを記述することが求められる。		講義の受講態度	30	グループディスカッションやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]				期末レポートについては、次学期初めに内容に関するコメントを掲示する。		
受講生に望むこと	各回の学びを通じ、教員として修得することが推奨される科学研究の知識と技術を身に付けることを目指す。毎回相当量の予習と講義における他者との協働が不可欠である。			教科書・テキスト	『絵本とともに学ぶ 発達と教育の心理学』、増田梨花（編著）、晃洋書房、2018年、ISBN:978-4-7710-2932-3	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	1回程度、他学科の教員などゲストスピーカーを招く可能性がある。 受講生の理解度に応じて進度を変更する可能性がある。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC225U 体育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	永山 亮一・田邊 圭子 (代表教員 永山 亮一)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
学習指導要領の目標には「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」とある。この授業では、将来保育者及び教員となる学生達がこれらのねらいや目標を踏まえ、実践につなげることが出来る内容を自ら習得し、実践的に学んでいくことをねらいとする。幼稚園あるいは小学校の体育を指導していくために、小学校の学習内容として構成されている運動領域を基に、基礎的な実技能力の習得に主眼を置き指導する。			学習指導要領(体育編)の内容を理解し、実技の実践及び指導ができるようになる。			
教授方法	実技					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	ガイダンス					永山
2	体づくり運動 「走・跳の運動遊び」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
3	体づくり運動 「走・跳の運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。					永山
4	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び」を実践し、指導法などを学習する。					永山
5	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び ～器械運動」を実践し、指導上の留意事項などを学習する。					永山
6	体づくり運動 「器械・器具を使つての運動遊び ～器械運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
7	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
8	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
9	体づくり運動 「ゲーム ボールをあつかう」を実践し、指導法などを学習する。					永山
10	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
11	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
12	体づくり運動 「ボール運動」を実践し、指導法などを学習する。					永山
13	水泳 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。(水泳実習における留意事項など理論を中心に。)					田邊・永山
14	水泳 各種泳法を実践し、指導法などを学習する。(各種泳法など実技を中心に。)					田邊・永山
15	まとめ これまで学習してきた内容を整理する。					田邊・永山
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	80	実技への受講態度を重視する。・実技に対して積極的に参加しているか ・他人へ体育実技を指導する上で何が大切なのかを学び取るうとする姿勢があるか		ミニレポート	20	・指定したフォーマットにて記載されているか ・指定した課題に対して的確に調べられているか
授業外における学習(事前・事後学習等)						
各講義を振り返り、実技内容と学習指導要領の内容をつなげる。〔30分〕 各講義を振り返り、できない実技に関しては自主練習を行う。〔30分〕 各自の実技実践能力を発達させるとともに、指導する立場となったときのシミュレーションを行い、指導力の向上につなげる。〔30分〕				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
受講生に望むこと	実技科目ですので、出席し実技に参加することが原則です。運動のできる服装で参加して下さい。主に体育館にて行いますので、内履きの運動靴を用意して下さい。なお、この科目は学習指導要領に則った実技の研修科目です。学ぶ姿勢、及び教える側としての意識を持って参加して下さい。			教科書・テキスト	なし	
指定図書/参考書等	『小学校学習指導要領解説 体育編』文部科学省 東洋館出版社 2008年 ISBN 978-4-491-02375-5 『学習指導要領の解説と展開 体育編』安彦忠彦監修 教育出版 2008年 ISBN 978-4-316-80217-6			その他・特記事項	運動に制限のかかる既往症、または運動に支障をきたす障害がある場合には、事前に担当者に申し出て下さい。(事故危険防止のためであり、個人情報の取扱には十分に注意いたします。)	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC230U 教育社会学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	竹中 祐二					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的・系統的な社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって社会化・教育が本質的なものである一方、制度としての教育は、時代や文化による影響を色濃く受けるものである。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。また、教育専門職・教育制度を取り巻く現代的背景として、主として日本の、必要に応じて諸外国との比較の中から、学校教育の制度ならびに運営・経営に関する基礎知識の習得も目指したいと考えている。</p>			<p>「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせる上で、文章によって解答することができる。 時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせる上で、文章によって解答することができる。 戦後日本の「教育」とはどのようなものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。 現代日本の「教育」とはどのようなものかという問いに対して、社会的な視点から、文章によって解答することができる。 教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。 現代社会学論の関わりから、今日の児童・子どもに関わる重要な問題に対して、学校・教育が果たし得る役割について、具体例を交えながら、文章によって説明することができる。</p>			
教授方法	講義（適宜アクティブラーニングを導入する場合がある。）					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	イントロダクション：社会学的に考えるということ、および教育を社会学的に捉え直すことについての基本的な視点を提供し、本科目で学ぶ内容と、その意義について整理する。					
2	近代教育制度の成立：近代化に伴う「子ども」の社会的立場をめぐる変遷を理解しつつ、制度としての教育が成立する過程について確認する。					
3	近代教育制度の成立：西洋における教育制度を概観し、市民として主体性を獲得すること、階層再生産のメカニズム、といった近代化の所産と教育のあり方について考察する。					
4	近代教育制度の成立：戦後日本における近代教育制度の成立過程と変遷を概観し、西洋における近代化過程との異同を捉えつつ、日本社会における特有の事情について考察する。					
5	社会における教育の意義：社会化との関わりの中から教育が持つ機能について社会学的に理解を深め、重要な他者／一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて検討する。					
6	社会における教育の意義：今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても検討する。					
7	社会における教育の意義：グローバル化をはじめとするマクロ社会の変動に伴う後期近代社会における制度としての教育のあり方について検討する。					
8	日本における教育環境の変遷：戦後始まった6・3・3・4制がもたらした日本における教育の普遍化を基に、教育環境の充実がもたらした社会の変化について考察する。					
9	日本における教育環境の変遷：教育機会の充実がもたらした高校ならびに大学への進学率上昇の背後に潜む受験戦争やメリトクラシーといった問題について考察する。					
10	日本における教育環境の変遷：少子化や個人化といったマクロ社会の変化がもたらした教育への影響として、主に個性化教育の功罪と現代の子どもが抱える諸問題について考察する。					
11	日本における教育環境の変遷：ジェンダー教育やマイノリティ教育といった、今日的な課題に対する教育の意義や実践例について考察する。					
12	学級経営における多機関連携：「チーム学校」論の概要と登場背景について学び、中でもスクールソーシャルワークに着目し、その理念・対象・方法論・実践例について学ぶ。					
13	学級経営における多機関連携：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「子どもの貧困」との関わりから方法論・実践例について学ぶ。					
14	学級経営における多機関連携：スクールソーシャルワーク実践を軸とした「チーム学校」の展開について、特に「不登校」や「いじめ」といった「学校」制度に特有な現象から方法論・実践例について学ぶ。					
15	総括：本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業への参加度	30	日常的な授業態度を評価しつつ、とりわけワークシートの活用に対する状況から評価する。		期末レポート	70	授業の到達目標に即して、この授業で学んだ内容を適切にかつ分かり易くまとめられているか評価する。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>各回の授業で学習した教育社会学の理論・概念・知識について復習し、日常的に新聞等を通して実際の社会との関わりを意識し、知識を応用して文章化することができるように練習する。[60分]</p> <p>各回の授業で学習した、また学習予定の内容について、日常的に新聞等を通して知識の獲得に努める。[45分]</p>			<p>各回の授業でコメントフォームを活用し、そこでの質問は次回に全体で共有する。 アクティブラーニングを実施した際に、自己評価シートの提出を求めることがある。また、必要に応じて個別にコメントを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>・この授業は主として講義形式を採り、多種多様な知識と情報の伝達に努める。したがって、どちらかと言えば双方向ではなく一方向的な学習となる。ただし、教育的な関わり、教育実践にあたっては、すなわち良い教育者になるにあたっては、一面的な価値観に固執するようなことがあってはならない。この授業における学びを通して、社会や制度との関わりから自らの価値観を相対化すると共に、その上で自らの主観や態度を大切にする姿勢を身に付けていただきたい。</p>			教科書・テキスト	なし（レジュメを配付する）	
指定図書／参考書等	<p><参考書> 『よくわかる教育社会学』 酒井朗・中村高康・多賀太 ミネルヴァ書房 2012年<ISBN:978-4623062935></p>			その他・特記事項	<p>・日常的な学習について、自分が何に困っているかを明確にした上で（なるべくアポイントをとった上で）担当教員へ質問することは歓迎する。</p>	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC237U 教育方法論(幼・小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
我が国において、知識・技能を教える授業から、自ら考え判断し表現する学習に変わってきている。この授業観を具体化するためには、教育の方法と技術について検討しなければならない。これが本科目で学ぶ意義となる。子どもが自ら考え判断し、表現する授業とはどういったものなのか、理論や実践例をもとに学んでいく。また、「楽しい授業」「わかる授業」のための方法論として情報機器(電子黒板やタブレット端末)の活用が注目されている。情報機器活用による学習例やその効果について検討するとともに、情報機器を活用する授業を自らで構想し、そのための教材を自作することを旨とする。			教育方法の歴史的概観を通して近年の授業観を理解している。 授業と学力について考察することができる。 視聴覚教育や放送教育について理解している。 授業における情報機器活用の方法や現状について理解している。 アプリケーションソフトを用いて教材を作成することができる。 教材紹介のためのワークショップ型の交流と相互評価を行うことができる。			
教授方法	講義					
履修条件	幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、中学校教諭一種免許状(英語)の取得を希望する者					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	教育方法の歴史的概観(近世と現代における教育方法について概観し、現代の教育方法について教授・学習の面から考察する。)					
2	現代における教育方法(デューイ、ブルーナーなどの教育方法論について概観する。)					
3	教育方法の基本原則(系統学習と問題解決学習を比較し、基本原則について考察する。)					
4	授業と学力(授業とは何か、学力とは何かについて捉え、情報機器利用の視点から考える。)					
5	授業と評価(教育課程や学習指導要領(教育要領)をもとに授業と評価について理解する。)					
6	授業理論と授業設計(授業理論の諸理論と授業設計(情報機器活用を含む)の手順を知る。)					
7	授業と視聴覚機器(視聴覚教育の発達と視聴覚メディアの教育活用について整理する。)					
8	情報機器の教育活用の方法(学校や幼稚園でのコンピュータを活用した教育の方法を調べる。)					
9	放送教育の授業への適用(放送教育の役割を捉え、NHKのWebサイトで教材を閲覧する。)					
10	教材・教具・教科書・教材研究(教材・教具とは何か、また、教科書(絵本を含む)とは何かについて考え、教材研究について理解する。)					
11	情報機器を活用した授業(デジタルコンテンツと授業の活用例について知る。)					
12	教材の構想と作成(授業で情報機器を活用する教材の構想を行い、学習指導案を作成する。)					
13	教材の作成(学習指導案に基づいて情報機器(コンピュータ:PowerPoint)を用いてフラッシュ型教材を作成する。)					
14	教材の完成とワークショップ交流(教材を完成させ、本時における活用の意図を伝えた上でコンピュータを活用して教材を紹介し合い、相互評価する。)					
15	学習のまとめ(これまで学んだことをもとに、教育方法について施設・設備、教育・情報機器、環境などの観点からまとめる。)					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
レポート	50	・各授業内容を理解するとともに、教育方法について自分なりの考え方を持っている。		教材作成	15	作成した学習指導案とフラッシュ型教材について、内容や出来具合について評価する。
小テスト	20	・新たな基本的知識を記憶している。 ・教育方法について理解している。		授業態度	15	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
各回の授業は基本的に教科書の章によって進めるので、次回の授業の範囲を事前に読んで授業に臨む。[30分] 各回の授業では学内ネットワークを介してワークシート(Word)を配付するので、授業後、「ミニッツコメント」にコメントする。[30分] 幼稚園や小学校の教育方法に関し週に一度パソコン室のパソコン、または自己のスマホでネット検索して調べる。[30分以上]				各回のレポートの視点についてフィードバックする。 小テストを採点して返却する。 フラッシュ型教材についての相互評価の結果をフィードバックする。		
受講生に望むこと	・幼稚園、小学校、中学校において「どのような教育の方法が採られているか」の意識で受講してください。			教科書・テキスト	『教育方法論 改訂版』、谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編著、一藝社、2015年出版、ISBN9784863590984	
指定図書/参考書等	幼稚園教育要領、文部科学省、2008年告示、『小学校学習指導要領』、文部科学省、2015年告示/『教育の情報化ビジョン』、文部科学省、2011年公表			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
実際の幼稚園、小学校、中学校の教育方法について取材(写真、動画、資料収集)し、それを学生に提示して各職種における教育方法の特徴について理解を促したり、レポート作成したりしている。						

授業科目名	EC240U 子どもと法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
子どもに関する教育・福祉などの各種法規・法令を理解し、その具体的な運用の課題、留意点、法律の読み方などを学ぶ。			子ども教育・福祉の理念の理解からはじめ、そこに存在する各種課題の気づきと、子どもを取り巻く環境についてその課題を明らかにする。				
教授方法	講義及び演習						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	児童福祉法の基本理念を学び、その精神や権利擁護のあり方を理解する。					全員	
2	児童福祉法に定められた各種制度政策にかかる具体的内容を学ぶ。					全員	
3	児童福祉にかかる児童福祉法施行令、児童福祉施設の設備運営に関する基準を学ぶ。					全員	
4	児童虐待防止法の内容を理解し、具体的運用に関する学びを深める。					全員	
5	子ども家庭福祉の関連法律及び児童福祉行政とその機関、市町村との関係を学ぶ。					全員	
6	児童虐待対応と法律の運用について学ぶ。					全員	
7	児童相談所、家庭裁判所等の機関における法律の運用について学ぶ。					全員	
8	「幼稚園教育要領」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。					全員	
9	「保育所保育指針」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。					全員	
10	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を読み解き、教育・保育の理解を深める。					全員	
11	教育法規とは：教育法規の基礎をなす日本国憲法と教育基本法の内容及び両者の関係について理解する。					全員	
12	学校に関する法規：学校教育に関する法規をもとに学校の種類と目的・目標、学校の設置・管理について理解するとともに、学級編成上の課題について知る。					全員	
13	著作権法と学校教育：著作権法について知るとともに学校教育における著作物の使用上の留意点について理解し、「複製利用」に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。					全員	
14	子どもに関する法規：学校教育上の就学義務の履行、懲戒・体罰、入学・卒業など学校教育上の権利義務について理解し、「懲戒・体罰」に関するいくつかの参考事例をもとに討論する。					全員	
15	学習のまとめ：「子どもと法」について学んだ内容について振り返り、子どもを取り巻く環境に関する課題や改善点等について自己の考えをまとめる。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
課題レポート	70	授業内容の把握とそれに対する自分の考えを的確に表現している。		リアクションペーパー	30	講義内容について自己の考え方が述べられている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）							
今日の教育・保育行政にかかる時事問題や課題などについて、常に関心をよせ講義に望むこと。〔30分〕				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
受講生に望むこと	子どもに関する法律の学びとは、条文内容を「探究的」に読み解くことである。法律条文などの背景にある、問題・課題を見いだし、その探求が専門科目群の学び深まりとなっていく。			教科書・テキスト	テキストを使用せず、配付資料や映像等を用いた講義となる。		
指定図書/参考書等	なし/平成29年告示3法令（「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」及び解説書）			その他・特記事項	一部演習形式を取り入れた講義となる。		
実務経験を活かした授業の概要							
子どもの育ちを支える法律について、教育・保育にかかる現場の実践経験からその具体的な運用及びその適用を学ぶ。特に子どもの権利擁護に関する理解と実践現場の在り方を、ケースメソッド方式により理解を深める。							

授業科目名	EC305U 教育実践研究A		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	幸 聖二郎・中野 聡・福江 厚啓・戸田 教一・金丸 洋子 (代表教員 幸 聖二郎)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>小学校の学級担任教師には学級の子どもたちをまとめ、学級成員が一丸となって目標に向けて取り組んでいくように導いていく力量、すなわち学級経営力を必要とする。学級が一つにまとまることにより学級生活が豊かになるとともに教科等の学習指導に好影響を及ぼす。そこで、どのように学級経営を行ったらよいか、小学校の教師経験をもつ教員がそれぞれの視点から授業を展開する。担任が変われば学級経営が変わると言われるように、担任によって学級経営は異なると言える。そのため、各回の授業は各教員と学級経営について考えることができる貴重な場となる。</p>			<p>学級経営とはなにかについて知る。 学級担任はどのようなことを願っているか、自己の小学校時代の経験をもとにしながらかえることができる。 学級経営が担任によって異なることを各教員の学級経営方針から理解している。 学級経営上の危機管理について事例をもとに考えることができる。 各回の授業内容をもとに、自分なりの『学級づくり』の案を作成することができる。</p>				
教授方法	講義						
履修条件	小学校一種免許状を取得予定で小学校教員を志望する者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション(授業内容を概観し評価方法について理解する。)/学級経営とは(学級経営の大切さを知る。)					幸	
2	学級の組織づくり(児童一人一人が生かされる組織について考える。)					戸田	
3	学級経営の基礎(「学び合う授業」と「学級づくり」について考える。)					金丸	
4	思いを出せる学級(子どもが安心して思いを出せる学級づくりについて考える。)					福江	
5	話を聞ける学級(子どもが互いに聞き合いのできる学級づくりについて考える。)					福江	
6	深く考える学級(子どもが物事を深く考える学級づくりについて考える。)					福江	
7	学級経営の危機管理1(子どもたちが言うことをきかないとき:通常のクラスでの子どもの課題について考える。)					中野	
8	学級経営の危機管理2(クラスでイジメが発生したとき:特別な場合の子どもの課題について考える。)					中野	
9	学級経営の危機管理3(モンスターペアレントに出会ったとき:保護者対応での課題について考える。)					中野	
10	私の学級経営(子どもとの出会いとふれあいについて考える。)					幸	
11	担任教師に求められる「学級経営力」(ルールとリレーションの大切さについて考える。)					幸	
12	認め合う学級(認め合い励まし合う学級づくりについて考える。)					幸	
13	高め合う学級(磨き合い高め合う学級づくりについて考える。)					幸	
14	笑顔あふれる学級(笑顔あふれる学級づくりについて考える。)					幸	
15	学習のまとめ(学習の振り返りと「私の『学級づくり』アイデア」についてレポートを作成する。)					幸	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	100	講義内容を理解し自分なりの考えを持っている。					
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
学校ボランティア等で小学校に行った際、配属学級の学級経営について観察、記録するようにする。			各教員から適宜レポートを課す。				
受講生に望むこと	各回の授業を受けながら「自分だったら」と考えることができるようにしてください。		教科書・テキスト	なし(各回適宜資料を配付する。)			
指定図書/参考書等	なし/『子どもの力を引き出す学級担任 クラスをきちんとまとめるコツ!』竇迫芳人著、2012年出版、ナツメ社、ISBN 978-4-8163-5184-6 『教師の資質』諸富祥彦著、2013年出版 朝日新書 ISBN 978-4-02-273518-8		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
<p>幸:小学校教諭としての経験をもとに、小学校現場で日常的に行われている教育活動について、具体的事例について取り上げ検討・協議し、理解を深めている。 中野:小中学校での経験を生かして模擬授業指導案の作成と実践を通して、教師として必要な資質・能力、学び続ける姿勢を身に付けるための指導をしている。 福江:小学校教諭の経験をもとに、小学校における「学級づくり」の好事例を紹介し、授業づくり、学級づくりのヒントにしている。</p>							

授業科目名	EC320U 保育内容・環境		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	向出 圭吾						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>「保育内容・環境」での学びと実習での体験を踏まえて、「領域・環境」の内容を深く考察する演習科目である。北陸学院第一幼稚園の保育現場を活用しながら、幼児が身近な環境にかかわることで何を見つけ、考え、それを取り入れようとしているのかを観察エピソード記録やつぶやきをもとにディスカッションを通して考える。そして自分なりの遊びの指導計画を立案し実践することを通して、幼児期の学び方と学ぶ内容について体験的に捉える。また、地域や文化の視点を取り入れた園外活動にも目を向けて保育の構想を考える。</p>			<p>実習でのエピソードを出し合い、「領域・環境」の視点からエピソードの内容を分析することができる。 北陸学院第一幼稚園での幼児の遊びから「領域・環境」の意味する内容を読み取る力を身につける。 「領域・環境」にかかわるねらいをもった指導計画を考え、模擬保育を通して見直し改善を行う力を身につける。 園外活動の意味を考え、保育計画を立案することができる。</p>				
教授方法	演習・グループディスカッション						
履修条件	「保育内容・環境」の単位を修得済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：本科目の目的と授業内容の解説。実習の体験からエピソードを持ち寄りディスカッションを通して内容を共有する。						
2	それぞれのエピソードを「領域・環境」の視点から考え、その内容を分析する。						
3	目標：第一幼稚園での遊びの観察（1）：保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出し、「領域・環境」の視点でディスカッションを行う。						
4	第一幼稚園での遊びの観察（2）：ディスカッションを踏まえてさらに保育現場にて幼児の遊びのエピソードやつぶやきを拾い出しディスカッションを行い、読みとる力を身につける。						
5	第一幼稚園での遊びの観察（3）：園庭の遊びに焦点をあてて「領域・環境」の内容にかかわる遊びのエピソードやつぶやきを拾い出して、ディスカッションを行う。						
6	第一幼稚園での遊びの観察（4）：「領域・環境」の内容にかかわる保育の場面を想定し、自分なりの遊びのプランをいくつか考えてみる。						
7	園外保育活動において、幼児が自分で考え、行動するような環境とは、どのようなものが考えられるか、ディスカッションを通して考える。						
8	園外活動の保育計画（1）：学外体験活動としての園外保育を行った場合の保育プランを考える。						
9	園外活動の保育計画（2）：各自が立案したプランをもとに地域の特性や文化を活かした内容を盛り込みディスカッションし検討する。						
10	園外活動の保育計画（3）：見直したプランをもとに各自が環境マップを作成する。						
11	幼児が興味や関心をもって遊びに夢中になることができる指導計画を考える。						
12	考えた指導計画をもとに模擬保育を行い、ディスカッションを通して見直し改善を行う。						
13	改善した指導計画をもとに模擬保育を行い、指導計画をより具体化していく。						
14	第一幼稚園で実践を行い、改めて「領域・環境」について理解を深める。						
15	目標：幼児にとっての「領域・環境」について、これまでの学びを振り返り「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（幼小接続）と絡めながら考える。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	ディスカッションで積極的に発言すること。遊びのエピソードやつぶやきを記録することができる。想像力を膨らませて指導計画を立案できる。	課題	40	与えられた各テーマに沿って自分なりに調べたり考えたりしたことが記述されているかを評価する。		
最終レポート	20	この授業を通して内容を理解し、遊びを読みとる力や作り出す力について、自分の学びをまとめることができるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>実習を含む身近な資料からのエピソードの収集[30分] エピソードの読み取りの見直し[30分] 園外保育を行う上で、その地域や文化を調査する。[30分] 遊びの準備[長時間] 学びの振り返り[90分]</p>			毎回のディスカッション内及び授業の開始時に前時の振り返りを必ず行う。				
受講生に望むこと	授業ごとに完結ではなく、前時の授業との繋がりをもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	なし			
指定図書/参考書等	なし / 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475		その他・特記事項	活動内容によって、2コマ連続や別日に行われることもあるので注意すること。			
実務経験を活かした授業の概要							
園外保育のあり方や現場での実践を、実際に第一幼稚園に出向いて、現場で行っている。							

授業科目名	EC325U 保育内容・健康		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
健康は子どもの生活の基盤である。未来ある子ども達が生涯にわたって心身ともに健康な生活を築くために私たちは何をすべきだろうか。この授業では、「保育内容・健康」での学びを踏まえ、幼児の健康な心身の発達や安全に関する理解を更に深めるとともに、保育活動として進めていくための方法を実践的に学ぶ。			乳幼児の心身の健康に関する園と家庭のあり方や連携について理解する。安全管理、安全教育について理解する。保育現場において、適切な指導・援助の出来る保育者を目指す。			
教授方法	講義、模擬授業、グループディスカッション					
履修条件	「保育内容・健康」の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	基本的な生活習慣の意味を考える					
2	基本的な生活習慣に関する指導1: 食事に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
3	基本的な生活習慣に関する指導2: 睡眠に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
4	基本的な生活習慣に関する指導3: 排せつに関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
5	基本的な生活習慣に関する指導4: 清潔に関する基本的な生活習慣とその指導について理解する。					
6	基本的な生活習慣に関する指導5: 衣服の着脱に関する基本的な生活習慣とその指導法について理解する。					
7	基本的な生活習慣に関する模擬授業1: 基本的な生活習慣に関する模擬授業を行う。					
8	基本的な生活習慣に関する模擬授業2: 模擬授業に関する気づきとディスカッションを通して指導法について考える。					
9	子どもの安全な生活1: 安全管理と安全教育の基本的なとらえ方について理解する。					
10	子どもの安全な生活2: 乳幼児の事故と原因について理解する。					
11	子どもの安全な生活3: 幼児の特性と事故対策について理解する。					
12	子どもの安全な生活4: 幼稚園、保育園の事故について理解する。					
13	子どもの安全な生活5: 保育環境の安全管理について理解する。					
14	子どもの安全な生活6: 安全教育と安全管理の進め方について理解する。					
15	振り返りとまとめ: 子どもの健康について、これまでの学びを振り返るとともに保育者として何が必要か考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
模擬保育	30	内容を理解しているか 子ども達にわかりやすく伝える工夫がされているか 子ども達が生活の中で実践できるような工夫がされているか		レポート	30	課題に対して独りよがりな思いに終始することなく、基本的な内容を踏まえて述べられているか。
小テスト	20	授業内容の理解度		授業参加態度	20	授業への取り組み姿勢
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
教科書を読み、授業に備える[20分] 授業で配布した資料を読む[20分] 子どもの健康に関するニュースや新聞記事に目を通し、考えを深める[60分]				小テストは次の回に採点及びコメントを付記して返却。 レポートは2週間以内に評価とコメントを付記して返却。		
受講生に望むこと	子ども達にとって健康であることは、様々な活動を積極的に取り組み、楽しむために必要なことです。受講生の皆さんには、子ども達が健康な日々を送るために何が必要か考えるとともに、現代社会が抱える様々な問題点に目を向ける姿勢を持っていただきたいと思います。実習で接した子どもたちの姿や場面を思い出しながら受講していただければ、授業内容の理解が深まると思います。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482 『演習保育内容・健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』、井狩芳子 著、萌文書林、2018年、ISBN978-4-89347-275-5	
指定図書/参考書等	関連資料及び関連図書は随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC330U 保育内容・言葉		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	高村 真希・中島 賢介 (代表教員 高村 真希)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
言葉の現代的な課題や具体的な実践内容を考慮しながら、総合的に子どもの言葉をとらえる力を培っていく。生活場面や遊びの実際を通して言葉の面白さや表現の多様性について学びを深める。また、子どもの言葉の発達について保育者の援助・保育教材の実演や環境構成等の視点から学んでいく。			1.言葉の現代的課題を理解し、今日必要とされる保育者の役割と援助を知る。 2.子どもの言葉を育む保育教材について理解し、保育への活用方法を考えることができる。 3.教材実演を通して子どもの言葉を引き出す表現・技術を身につける。			
教授方法	講義と演習					
履修条件	「保育内容・言葉」の履修済みが望ましい。(単位未修得可)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業の概要説明 言語指導における現代的課題について理解する。					中島
2	発達段階に応じた教材選びについて考える (0歳児～5歳児までの年齢ごとの教材選択)					高村
3	紙芝居・シアターの実演の実演方法について					高村
4	視聴覚教材が子どもに与える効果を探る					高村
5	発達段階に応じた教材選びについて (選択した教材と選択理由)					高村
6	幼児の思考能力の拡大と物語の成立過程について					中島
7	発達に応じた教材選びについて (指導案の立案)					高村
8	実体験から言葉に関するエピソードを挙げ、自身の経験を語る(語ることからの学び)					高村
9	保育教材の実演					高村
10	保育教材の実演を終えて(反省・評価について)					高村
11	感情や気持ちを表現することと保育者の関わりについて(実習を終え、考えること)					高村
12	一人一人のイメージや感覚を共有し、言葉で伝え合うこと					高村
13	ごっこ遊びや行事などから得られる役割認識と保育者の関わりについて考える。					高村
14	文字との出会い、文字を使うことの喜びと保育者の関わりについて考える。					高村
15	振り返りとまとめ:「子どもの言葉」について、これまでの学びを振り返るとともに保育者の役割を考える。					中島・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	30	授業に積極的に参加しているか。	指導案立案や実演	30	立案した指導案を基に模擬保育を行う。子どもの姿に理解しようとし、子どもの目線に合わせた保育活動の工夫が見られるか。	
レポート課題と試験	40	課題の内容・試験				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
実体験から言葉に関するエピソードを挙げ、レポートとしてまとめる「60分」「言葉」が育つことに関する遊びの場面の指導案を立案する「60分」			提出されたレポートや応答シートを授業で反映する			
受講生に望むこと	保育者を目指す一人として、授業内での一人一人の言葉という表現を大切に受け止める姿勢を持って受講して下さい。また、積極的な態度で臨んで下さい。		教科書・テキスト	<small> 『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2016年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482 『保育者のための言語表現の技術 子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践 第2版』古橋和夫編著 碩文書林 2016年 ISBN: 978-4893473493 『新訂 事明から学ぶ保育内容 領域 言葉』武藤隆監修 碩文書林 2018年 ISBN978-4-89347-259-5 </small>		
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて随時提示する		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
保育士としての経験をもとに、言葉の現代的課題や子どもの言葉を捉える力を、保育現場での事例を基にディスカッションし、今後保育者に求められる資質とは何かをグループで討議している。						

授業科目名	EC335U 保育内容・人間関係		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「領域 人間関係」の内容の理解を深める演習科目である。</p> <p>保育実践例（エピソード・クラス作り・連絡帳等より）を取り上げ、その中で子どもの心や他者との関係性の読み取りを中心に考察し、安心、安定した人間関係について考える。遊びやゲームを体験し、自己の心の動きや他者との感じ方の違いに気づき、幼児の仲間集団における人間関係の捉え方を学ぶ。遊びやゲームによる人間関係の発達支援や保育における個別支援の在り方を学ぶ。『森の幼稚園・こども園』や地域の子育て支援の場に参加し子どもの姿から子どもの思いを捉える。保護者の思いに触れ、支援の在り方を考える。</p>			<p>保育実践資料を通して、子ども達が「人間関係」を育んでいく過程で表す様々な姿を読み取り、どのように受け止めるか、行動の背景や意味を考えることができる。</p> <p>遊びやゲームを通して、自己や他者の行動・心を捉えることができる。</p> <p>「領域 人間関係」にかかわるねらいを持った指導計画を考え、そのための環境構成を考えることができる。</p> <p>子ども同士・保育者と子ども・保護者と子ども・地域と子ども等、保育実践における関係性のアセスメント及びプランニング、他機関との連携の持ち方を知る。</p>			
教授方法	保育資料を用いた事例検討・子育て支援等フィールドにて参加体験、事例検討・遊び、ゲームの立案、作成、体験・講義					
履修条件	「保育内容・人間関係」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	現代の人間関係に関する諸問題：履修者による実習を含む、実体験から人間関係にかかわるエピソードを紹介し、今後深めていきたい課題について考えていく。					
2	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「愛着形成」を中心に考える。					
3	乳児期の人との関わりの発達について：連絡ノートやエピソードから「共同注意」の獲得により乳児の生活がどのように変わるのか学ぶ。					
4	乳幼児のモノ・ヒト・環境との出会い、関わり方を捉える。[子育て支援参加体験]					
5	幼児期前期の人との関わりの発達について：3歳未満児のエピソードから「言葉で伝わること」と「言葉以外の方法で伝わること」について考え、相手を「理解する」ことについて深める。					
6	コミュニケーションについて：ノンバーバルでルールのある遊びを遊んでみる。自分の心と周りの人の思いを捉えることの難しさを知る。[体験]					
7	ノンバーバルでオモチャを使って遊んでみる。遊びによって他者についての見え方が異なることを知る。[体験]					
8	ノンバーバルでの遊びを通じて「一緒に遊ぶ」ことの意味を考える。					
9	幼児期後期の人との関わりの発達について：エピソードにより「集団参加」の観点から考える。					
10	幼児期の仲間関係の捉え方について：エピソードにより子どもの「関係性」を読み取る。					
11	環境や素材の変化は子ども達の人間関係に影響をもたらすのか考える。[森の自然体験活動等、参加体験]					
12	発達障害児の理解：彼らの物の見え方、感じ方、他者との関わり方について理解し、「安心して過ごす」ことについて考える。また、保護者・兄弟支援について園として、保育者としてできることを考える。					
13	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」(1) (生活・自由遊びを中心に)					
14	特別な配慮が必要な子どもを含んだクラスにおける「人間関係づくり」(2) (設定による活動を中心に)					
15	領域「人間関係」：地域社会・小学校とのつながりを考えて、支え合う関係、連携の在り方を探る。 [授業後半：試験]					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	30	授業内で行われる遊びやゲームに対して真剣に準備し取り組むこと。毎回、討議時間を設けるので、積極的に参加すること。		小テスト	30	様々な人間関係に関わる出来事の対応を基本事項、発達に基づいて考えることができる。
提出課題	40	提出状況 与えられたテーマに沿って学習が進められて、内容がまとめられていること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
<p>実習を含む資料や自身の体験から、人間関係にかかわるエピソードを収集しておくこと。[30分]</p> <p>「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」の「人間関係」項目について読み、用語の確認をしておくこと。[30分]</p> <p>遊びの準備 [長時間]</p>				<p>・授業内の討議の中でコメントする。</p>		
受講生に望むこと	<p>・ビデオや連絡帳、お便りなど自身の幼稚園、保育所時代の資料に触れ子どもの時に感じていたことや考えていたことを思い出しておいてほしい。</p> <p>・授業で遊びやゲームをするので動きやすい服装で参加してほしい。</p> <p>・学外へフィールドワークに出る際、学ぶ姿勢を考え行動してほしい。</p>			教科書・テキスト	<p>・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81245-7</p> <p>・『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2008年 ISBN978-4-577-81242-6</p> <p>・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2015年 ISBN978-4-577-81373-7</p>	
指定図書/参考書等	なし/なし(必要資料等、印刷して配布する)			その他・特記事項	<p>・個人情報を含む資料を用いるため、充分取り扱い、行動に注意すること。(学外での参加体験等含む)</p>	
実務経験を活かした授業の概要						
ヒトと関わりながら生きていることを幼少期からの学生自身のエピソードや実習記録を中心に捉え話し合う。						

授業科目名	EC340U 保育内容・表現		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	田邊 圭子・多保田 治江・向出 圭吾・武田 恵美 (代表教員 田邊 圭子)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一程				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>子どもの表現の多様性と、子どもの表現を総合的に捉える視点を学ぶ。講義に加え、具体的な実践事例を通して創造的な子どもの表現活動を体験し、豊かな感性や表現する力を養う。「表現」の学びを踏まえ、子どもの表現を支え育む創造性豊かな保育者としての役割と支援に関する学びを深めていく。</p>			<p>子どもの身体表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの音楽表現を総合的な表現活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの造形表現を総合的な保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。 子どもの表現を保育活動の中で総合的に捉える方法について実践を通して習得している。 表現を支える保育者の役割と支援について理解を深める。</p>				
教授方法	講義と演習						
履修条件	『保育内容・表現』の単位を修得済みであることが望ましい(単位未修得可)						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	授業オリエンテーション：今後の授業の流れ、受講方法など。 身体表現授業オリエンテーション：身体表現とは何か、領域「表現」との関連から理解する。					田邊	
2	動きのリズム：身体表現における動きのリズムについて理解する。					田邊	
3	動きと空間：身体表現における動きと空間の関係について理解する。					田邊	
4	身体表現作品づくり：身体表現作品づくりを通して、身体の動きと表現の関係について考える。					田邊	
5	身体表現作品発表と鑑賞：グループの作品を発表と鑑賞を通して、身体表現について考える。					田邊	
6	表現とは何か：音楽表現とは何かについて、領域「表現」との関連から理解する。					多保田、武田	
7	一緒に動くこと・歌うこと：共有体験を通して得られることは何かを事例を通して考える。					多保田、武田	
8	「表現」と保育の環境構成：表現を生む場をどう捉え、つくるかを考える。					多保田、武田	
9	表現を支える保育者の役割：「表現を支える」とは具体的にどのようなことなのかを事例を通して考える。					多保田、武田	
10	遊びを通しての総合的な指導：様々な表しと受け止めについて考える。					多保田、武田	
11	子どもの造形表現の理解(1)：実際に各自が造形活動を行う。					向出	
12	子どもの造形表現の理解(2)：子どもの造形作品と比較しながら子どもの造形表現を理解するとともに保育者の役割について考える。					向出	
13	子どもの劇遊び(1)：グループに分かれて影絵を使った劇遊びを考える。					向出	
14	子どもの劇遊び(2)：グループごとに影絵による創作劇を発表し、お互いを評価しあうことで子どもの表現について考える。					向出	
15	子どもの表現とは何か：保育現場での表現活動について理解を深める。					向出	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加状況	30	授業への取り組み姿勢		授業で出される課題や発表	50	取り組み姿勢と内容	
レポート割合	20	<ul style="list-style-type: none"> 作品創作の感想、身体表現に関するレポート(田邊) 毎回授業のディスカッションへの取り組み(多保田) 課題や作品に対する自分なりの気づき、学びに関するレポート(向出) 					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べてくる。[30分] 次回授業のための課題について準備する。[30分]				<ul style="list-style-type: none"> 毎回課す小レポートは次回コメントを付記し返却する(多保田) 授業最終日に課すレポートは2週間以内にコメントを付記し返却する(田邊、向出) 			
受講生に望むこと	この授業は3名の教員が5コマずつ担当するオムニバス科目です。演習科目で系統的に授業が展開します。積極的な授業参加を望みます。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』、文部科学省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814475 『保育所保育指針解説』、厚生労働省、フレーベル館、2018年、ISBN:9784577814482		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、影絵や切り絵等の教材を用いるなど、実際の現場での実践を取り入れて表現について考える。							

授業科目名	EN300U 児童家庭福祉論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	虹釜 和昭・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>児童家庭福祉の中における、愛着理論を中心に理解を深める。愛着とは人物が特定の他者との間(主に親子関係)に結び情緒的絆とされており、この概念を提示した人物として、ボウルヴィがあげられる。これは特に発達心理学においては重要な概念であり、児童の健全な発達を果たす上において不可欠な要素である。また「赤ちゃんの発達とアタッチメント」の重要性を鑑み、乳幼児のころにかかる「安全の基礎」と「非認知能力」と言われる「心の力」を育む土台について理解を深める。また、愛着理論をはじめとする、精神分析論(親子関係における)などにもふれ、乳児保育のあり方や社会的養護にかかると児童福祉施設に暮らす子どもの発達問題、特に環境要因にかかると発達障害についても理解を深める。</p>			<p>愛着理論のあゆみを理解している。 ボウルヴィの愛着理論を理解している(「アタッチメント」と「愛着」の違い)。 社会的養護と愛着理論の関係を学ぶ。なぜ、愛着理論を学ぶ必要があるのかを理解している。 精神疾患としての愛着と環境要因の愛着を理解する。 愛着対象を喪失した子どもの心理について理解している。 乳児の感情を調節する力の発達と脳科学の関係を理解している。</p>				
教授方法	配付資料を用いて演習的な要素を取り入れた講義となる。また、乳幼児の発達や愛着の形成理論などのプレゼンテーションも取り入れる。						
履修条件	「児童家庭福祉論」を履修済であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	アタッチメント研究のあゆみについて、フランス精神分析論からフロイトへの系譜を理解し、ホスピタリズム論争からボウルヴィの愛着理論の概要について学ぶ。					全員	
2	ボウルヴィのアタッチメント理論から、愛着行動システム、コントロールシステム理論、愛着行動の発達段階、愛着パターンの個人差など愛着形成と発達について理解を深める。					全員	
3	愛着研究の臨床発達の視点から、養育者自身の愛着外傷体験の未解決と混乱した養育行動の関係、愛着行動システムの崩壊のメカニズムなどについて学ぶ。					全員	
4	社会的養護と愛着理論を学ぶ。社会的養護の現状と課題、我が国におけるホスピタリズム研究、論争、乳児院におけるホスピタリズム理論、愛着理論の受入などについて理解を深める。					全員	
5	反応性愛着障害とアタッチメント障害の概念整理、精神疾患としての愛着と環境要因がもたらす愛着障害の比較、愛着研究の課題と臨床などについて学ぶ。					全員	
6	愛着とトラウマについて学ぶ。トラウマ耐性と生育環境、子どものトラウマの特性、子どものトラウマ反応、外傷性ストレス障害などについて理解を深める。					全員	
7	愛着対象を喪失した子どものころについて学ぶ。子どもの喪失体験が及ぼす心理的傷つき。愛着対象を喪失した子どもへの支援、快復過程などについて理解を深める。					全員	
8	発達障害と愛着の関係について学ぶ。発達障害と愛着障害の複雑な関係、児童虐待の高リスク要因としての愛着障害、アスペルガー症候群と反応性愛着障害、虐待による多動性行動障害などについて理解を深める。					全員	
9	発達障害としての児童虐待について学ぶ。被虐待児の臨床像、脳科学の視点からの虐待児童などについて理解を深める。					全員	
10	発達障害としての愛着障害への治療などについて学ぶ。安全の確保と衝動コントロール、愛着障害を修復するための精神療法などについて理解を深める。					全員	
11	乳幼児の「もの」を理解する力や認識などを学ぶ。					全員	
12	乳幼児の「ひと」を理解する力や社会的知覚などを学ぶ。					全員	
13	乳幼児の二項関係から三項関係の出現の過程を学ぶ。					全員	
14	乳幼児の感情の形成過程や運動と心の関係、「安全感の輪」が描く乳幼児の育ちを学ぶ。					全員	
15	反応性愛着障害についてまとめを行い、自らの愛着理論を確立する。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	70	愛着理論を正確に把握し、児童問題にとって不可欠の理論であることを述べる。愛着理論体系から、その構成要素を明確にしている。		リアクションペーパー	30	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている自らの課題が設定されている。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
基礎となる学問領域は子ども家庭福祉、社会福祉学であるが、保育実践に不可欠の心理学領域の講義内容も含まれているため、心理学関係科目の学びと関連づけることが求められる。[30分] 保育体験において講義内容からの子どもの心理などについて、子どもの姿から考察する[50分]			最終講義において、提出課題の講評とより実践的な愛着理論の展開にかかるとディスカッションから今後の課題を提示する。				
受講生に望むこと	乳幼児の愛着理論について、総合的に学ぶ。保育・子ども家庭福祉や教育を志す学生にとっては不可欠の理論、知識である。自らの力で愛着理論をまとめること。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、配付資料により講義・演習を行う。		
指定図書/参考書等	なし/『アタッチメント』、庄司 順一・久保田まり・奥山眞紀子著、明石書店、ISBN 978-4-75032-895-9			その他・特記事項	学習に対して望むことなどあれば、伝えてほしい。		
実務経験を活かした授業の概要							
児童養護施設や乳児院の愛着問題について、施設職員から提供を受けた事例を元に、ケースメソッドによるディスカッションからその本質を考察する。							

授業科目名	EN305U 相談援助技術		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	岡田 文貴					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育者の専門領域は年々、拡大しています。何より重要なことは、子どもたちを養育することですが、その子どもたちに変化が起きている。上手にコミュニケーションできない等の問題を抱える子どもの比率が増えています。また、子育ての悩みに加えて、深刻な事情を抱える保護者も増えてきました。このようなケースに効果的に関わるための手がかりを探ります。</p>			<p>保育者が活用できるソーシャルワークの5つの力である「コミュニケーション力」「アセスメント力」「問題解決力」「アウトリーチ」「自己肯定感」について学び、理解する。</p>			
教授方法	個個人ワークとグループワーク。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	序章：保育者とソーシャルワーカーと一緒に考えた。第1章：コミュニケーション力 ありのままを受け入れる。 よく聴き、共感する。 あらゆる人々と信頼関係を築く。					
2	第1章：コミュニケーション力 相手の対応に応じて、対応を変化させる。 I am OK, You are OK					
3	第1章：コミュニケーション力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 レポートの作成・提出。 適切な行動・習慣を増やす。					
4	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 人と環境を捉える。 ライフストーリーから自分と他者を深く理解する。					
5	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 ストレngthsを見だし活用する。					
6	第2章：アセスメント力 人と問題の本質を正確に見極める。 家族やチームをシステムとしてみる。 レポートの作成・提出。					
7	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 物事を肯定的に捉え直す。 適切な行動・習慣を増やす。					
8	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 ワンステップずつ解決する。 物語（ナラティブ）を使った解決。					
9	第3章：問題解決力 自信をもって人々を助け、人生に寄り添う。 危機や喪失を経験している人を支える。 教え、心を動かす原則とスーパービジョン。 レポート作成・提出。					
10	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 孤立する家族へアウトリーチ。					
11	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 地域の機関・施設・専門職との連携。					
12	第4章：アウトリーチ 手を差し伸べ、専門職や住民と連携する。 「子どもの声」を地域に取り戻す。 レポート作成・提出。					
13	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 愛着の絆を強めるスキンシップ。 自己イメージを高める輝くコトバ。					
14	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 仲間と協力する体験・自分だけの役割。					
15	第5章：自己肯定感 自分と他者の価値を尊ぶ。 グループでの目標と努力・達成感。 レポートの作成と提出。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	集中して個人ワークに取り組み、意欲的にグループワークに取り組んでいるかを評価する。	期末レポート	30	レポートの内容が、テーマに対して、丁寧でわかりやすい文章で作成されているかどうかで評価する。	
レポート	30	レポートの内容が、テキストの内容を理解した上で作成されているかどうかで評価する。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業の前にテキストを読んでおきましょう。 [10分] 授業の後にも、再度もう一度テキストを読みましょ [10分] レポートが課題となった場合は、次の授業時間に提出できるよう取り組んでください。</p>			<p>レポートは、各章が終わった時に授業内で作成するか課題とします。レポートのテーマは、授業内で提示します。 自分の経験等を踏まえてレポートを作成する場合も、テキストの内容・趣旨に沿って作成してください。 期末レポートは、15回目の授業開始時に提出です。テーマとレポート用紙は、授業の中で示します。</p>			
受講生に望むこと	授業でテキストは読みます。ただ、授業の前にテキストを読んでおく、よりテキストの内容の理解が深まります。日々の保育現場や地域での幼児に関する出来事を、テキストの内容に重ね合わせてください。		教科書・テキスト	『保育者だからできるソーシャルワーク』 川村隆彦・倉内恵里子 著 中央法規 2017年 ISBN : 978 - 4 - 8058 - 5480 - 8		
指定図書/参考書等	授業の中で提示します。		その他・特記事項	必要な場合は、補足の資料を提示します。		
実務経験を活かした授業の概要						
社会福祉士、精神保健福祉士としての知識も活かしながら、保育所での事例を集めたテキストに沿って、保育者が活用できるソーシャルワークについて話をしている。						

授業科目名	EN310U 子どもの保健			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	北川 節子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>保育所や児童福祉施設など子どもの生活を支援する場では、安全な環境と保健的な活動が養護や教育の基本となります。そのため子どもの身近にいる保育士は、保健・安全について確かな知識と技術をもって保育をする必要があります。ここでは「子どもの保健」の知識を基に、保育所や児童福祉施設における保健・安全の活動に関する具体的な対応の方法や管理について学んでいきます。</p>				<p>保育における保健活動の概要を理解し保健計画立案の基礎的能力を養う。 子どもの健康増進のための養護の技術を習得する。 子どもの疾病の適切な対応方法を習得する。 子どもへの健康・安全教育を考える。 保育における健康管理、安全管理について理解する。 災害予防と危機管理の方法を理解する。</p>			
教授方法	講義・演習						
履修条件	「子どもの保健」を履修済みまたは履修中であること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション 保健活動の計画と評価	保育保健の個別対応と集団対応の必要性と保健の概要を理解する。(課題授業)					北川
2	保健活動の計画と評価 回を変更	保健・安全計画の重要性と保育計画の関係を理解し、計画を考える。(課題授業)					北川
3	子どもの保健と環境 回を変更	養護と教育の一体性と生活リズムの重要性を理解する。(課題授業)					北川
4	子どもの保健と環境 回を変更	乳幼児期の排泄、清潔、衣服について理解する。(課題授業)					北川
5	事故防止と健康管理・安全管理 回を変更	保育現場における事故・災害発生時の危機管理の重要性と方法を理解する。(課題授業)					北川
6	事故防止と健康管理・安全管理 回を変更	保健活動の実施体制と子どもの救急時の対応を理解する。(課題授業)					北川
7	事故防止と健康管理・安全管理 回を変更	子どもへの応急処置の方法を理解する。(課題授業)					北川
8	子どもの健康・安全教育	子どもへの健康・安全教育の意義を理解し、指導案を考える。					北川
9	子どもの保健と環境 回を変更	乳児の抱き方、寝かせ方、おんぶの仕方、おむつ交換の方法を習得する。(演習)					北川他
10	子どもの保健と環境 回を変更	調乳・授乳の方法を習得する。(演習・講義)					北川他
11	子どもの疾病と対応 回を変更	手洗いとおう吐物処理方法を習得する。(演習)					北川他
12	子どもの疾病と対応 回を変更	身体の体温、脈拍、呼吸測定、身体各部の計測と包帯法の基礎を習得する。(演習)					北川他
13	子どもの健康・安全教育 回を変更	子どもへの健康・安全教育を共有し、効果的な方法を考える。					北川
14	事故防止と健康管理・安全管理 回を変更	乳幼児の心肺蘇生法と異物除去の方法を習得する。(演習)					日赤
15	子どもの保健と環境	乳児の沐浴、衣服の交換の方法を習得する。(演習)					北川他
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
課題レポート	20	「健康・安全教育」について実施。発達段階にあった方法か、既習内容を生かしているか、保育教材は工夫されているか。			課題レポート	40	9,10,11,12,14,15回の演習について記述。実施上の注意について理解しているか、実践の気づきが的確に書かれているか。
課題授業(新規)	40	7回の課題授業について、学習がなされており、発展的な問題も解答しているか。					
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
事前学習: 指定した範囲の教科書を読む。DVDを授業前に視聴する。演習レポートは演習後、復習を兼ねて記載し、知識・技術を身に付けるようにする。				「健康・安全教育」の課題レポートはコメントをつけて返却する。優秀な作品は発表の機会を作り、共有する。			
受講生に望むこと	・「子どもの保健」が履修済みであること。 ・演習は保育現場を想定して実施するので、服装、容姿を整えて参加すること。			教科書・テキスト	佐藤益子編「子どもの保健」ななみ書房 2017年2月 ISBN: 978-4-903355-63-4		
指定図書/参考書等	参考書等「園児の健康教育」「改訂版 親と子の健康教育」「すぐ使える健康教育」「保育のなかの事故」「新・保育のなかの保健」「保育現場のための乳幼児保健年間計画実例集」「やるべきことがすぐわかる 今日から役立つ保育園の保健のしごと」			その他・特記事項	前半7回は課題授業、後半8回は対面授業です。14回目の日赤指導員による幼児救急の演習は日程が変更することがあります。(新規)		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	EN315U 子どもの食と栄養		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	中村 喜代美・宮丸 慶子 (代表教員 中村 喜代美)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
小児期の生涯を通じた健康教育は栄養の基礎知識や生活習慣病予防の観点から食生活の特性・意義を習得する。その上で子どもの心身の健康・発達に関連が深い食生活を各段階に応じて学ぶ。また、児童福祉施設や特別な配慮を必要とする子どもの食や対応について保育所におけるアレルギー・対応ガイドラインや食事提供ガイドラインを踏まえて理解する。食育では食を営む力を育成することを目標に「楽しく食べる」ことを大前提にし、保育との一体性を目指したうえで、栄養的な側面も考える。			1. 健康な生活を基本とした食生活の意義や栄養に関する基本的知識を各段階に応じて理解している。 2. 児童福祉施設や特別な配慮を必要とする子どもの食は保育所における各ガイドラインを踏まえて発育・発達と食生活の関連について理解を深めている。 3. 食育では食を営む力を育成することを目標に食育のための環境を、地域社会や文化とのかわりの中で理解している。 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解している。			
教授方法	演習（講義、実習、演習を行う）					
履修条件	2年次までに開講された保育士に関する科目を履修済みであることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	子どもの健康と食生活の意義（食生活と健康のかかわり、子どもの心身の発育・発達と栄養とのかかわりなど、子どもの食生活についてさまざまな視点から現状を知り、課題を考える。）					宮丸
2	栄養に関する基本的知識（基本的な栄養の概念と栄養素の消化・吸収、栄養素の種類とその働きを理解する。）					宮丸
3	講義 調理・栄養の基本的知識を理解する。実習1 調乳（無菌操作法）、冷凍母乳の扱い方を理解する。実習2「授乳・離乳の支援ガイド」における生後5.6ヶ月頃の離乳食の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を理解する。					中村
4	栄養に関する基本的知識（日本人の食事摂取基準、献立作成・調理の基本を理解する。）					宮丸
5	子どもの発育・発達と食生活（乳児期の授乳・離乳の意義、幼児期、学童期の心身の発達と食生活の関わりを理解する。また、食生活の生涯発達への重要性を理解する。）					宮丸
6	実習3 離乳食7.8ヶ月頃、離乳食9～11ヶ月頃：「授乳・離乳の支援ガイド」における離乳食各期の調理形態・食事量の目安を把握し、適した調理法や食材の扱い方を学ぶ。この他、前回の実習を振り返る。					中村
7	食育の基本と内容（食育の意義を理解する。特に養護と教育の一体性を学ぶ。また食育の内容と計画及び評価について考える。）					宮丸
8	食育の基本と内容（食育のための環境づくり、諸機関との連携、職員間との連携を学び、食生活指導及び食を通じた保護者支援、地域支援を考える。）					宮丸
9	実習4 保育所給食（児童福祉施設）：日本人の食事摂取基準や保育所給食における給食栄養目標を学び、調理法、切り方、食事量を理解する。また、間食の目的・必要性、適した食物や量、与え方を理解する。また、食育研究発表会に向けてグループ討論を行う。この他、前回の実習を振り返る。					中村
10	家庭や児童福祉施設における食事と栄養（家庭における食事と栄養、児童福祉施設における食事と栄養を理解し、その関わりを考える。）					宮丸
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養（体調不良、疾患の子どもへの対応、障害のある子どもへの対応を理解する。食物アレルギーの基礎知識とその対応を学ぶ。）					宮丸
12	実習5 摂食障害児給食（障害者施設）：発達段階を考慮した調理形態を学び、最も適した食物の提供と介助を会得する。また、食育研究発表会に向けてグル・プ討論を行う。この他、前回の実習を振り返る。					中村
13	食育計画（1） 前回までのグル・プ討論での意見や目指す子供の姿を考慮し、食育研究発表会に向けて食育計画をまとめる。					中村
14	食育計画（2） 食育研究発表会に向けて媒体作り、劇の練習、また子供達とのやり取りなどを考える。					中村
15	食育研究発表 A・B、全員で研究発表会を行う。					中村、宮丸
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
単位認定試験	40	宮丸：授業内容をどれだけ理解しているか。		授業参加状況とレポート提出	10	宮丸：復習・予習の小レポートはポイントが押さえられているか。授業への取り組み姿勢。
授業参加状況とレポート提出	35	中村：講義ノート、実習レポート、栽培記録とレポート提出。（テ・マに沿ったものであるか。字数不足・書式違反の場合は0点とする。）調理実習の取り組み姿勢（態度・積極性）含む。		食カードと研究発表会の参加レポート提出	15	中村：研究発表会に向けて作った媒体・食育計画・レポートを提出。
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
宮丸 初回授業に「子どもの食と栄養授業の予定表」を配布するので、小レポートを利用して教科書の復習・予習をして授業に臨む。【40分】 中村 実習のレポートは、テ・マに沿って実習を行う事が出来たかを振り返り、成功については秘訣を、失敗については理由と次はどのようにするのか考えを書く。また盛り付けは写真を貼る。【60分・120分】 家庭では食事の準備（野菜を切る）、食事作り、後片付けを積極的に取り組む。週2回			宮丸（講義）：小レポートを利用して授業開始時には前回の復習を行い、次いで予習部分を取り入れながら授業を展開する。次回に返却する。 中村（実習）：プリント（ノート）に講義内容、実習時の振り返りを記載し実習後提出。当日4時頃までに教材室へ返却する。 ・実習のレポートは実習後木曜までに教材室へ提出。次回実習時に返却する。尚、レポートは提出期限を厳守し、返却後保管する。栽培記録・レポート提出は後			
受講生に望むこと	子どもの食と栄養は将来のある子どもが健やかな成長ができるように学ぶと同時に、保育の仕事に関するとても重要な学びである。まず、自分自身がそれにふさわしい生活管理、食事管理を実践することを希望する。 調理実習では朝食を取って出席し（遅刻厳禁）、グル・プの仲間と積極的に取り組む。			教科書・テキスト	宮丸：『子どもの食と栄養保育現場で活かせる食の基本』羊土社発行 2019年 ISBN978-4-7581-0907-9 中村：プリントによる実習	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	中村：開講前に調理実習費を払う。（調理実習費を払っていない者は実習に参加することは出来ない。）	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EN320U 家庭支援論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>子育てと家族・家庭に焦点をあて、子どもが育つ場所としての位置づけを理解する。そのうえで、家族・家庭の動向について、急速な少子高齢化による家族の危機的状況に対する支援方法を理解する。そうした社会環境の中、子育て意識の変化、子育ての困難、負担感、不安感をいかに家庭で支援する「子育て支援機能」が保育所の重要な機能であることを学ぶ。保育所の中心的機能の位置づけられた家庭支援の具体的な展開、保育所の社会的責任を確認し、子育て家庭支援の政策動向を学ぶ。また、特別なニーズを持つ家庭である「育てにくさや障害のある子ども」、「乳幼児虐待対応」、「ひとり親家庭」、「ステップファミリー」、「異文化家族」などへの具体的支援方法を理解する。地方自治体における子育て支援施策の実践例を理解する。</p>			<p>家庭の意義とその機能について理解している。 子育てと家庭を取り巻く社会的状況等について理解している。 子育てと家庭の支援体制について理解している。 子育てと家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解している。 保育ソーシャルワークの基礎を理解している。</p>			
教授方法	講義及び提示課題によるグループディスカッション					
履修条件	「児童家庭福祉論」を履修済であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	家族・家庭とは何か、家族・家庭の定義と社会制度としての家族・家庭、その意義などを理解する。					全員
2	現代家族・家庭と社会、家族・家庭の変容と社会的要因を考察し家族・家庭機能の変化を理解する。					全員
3	現代の家族・家庭関係（夫婦・親子・兄弟など）構造理解と、地域との関わりを考察する。					全員
4	地域における子育て支援の意義と活動を理解し、保育所の子育て支援実践例を学ぶ。					全員
5	子育て支援サービスの現状と課題を保育サービスや要保護児童の観点から学ぶ。					全員
6	子育てに対する相談支援活動を、ソーシャルワークの視点から考察する。					全員
7	子育てと家庭の福祉を図るための社会資源について、その具体的な機関、実践内容などを学ぶ。					全員
8	家族・家庭支援の意義と目的について、現代の子育て環境と子育て支援の必要性を学ぶ。					全員
9	次世代育成支援対策について、国及び地方自治体の取り組みを学ぶ。					全員
10	子育て支援サービスの展開などについて、諸外国の実践事例を学ぶ。					全員
11	保育・養護現場と関係機関の専門職とそのネットワークを理解する。					全員
12	子ども虐待の現状と早期発見など予防策を学ぶ。保育所における虐待を受けた子どもと親への支援事例から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。					全員
13	子ども虐待の現状と早期発見など予防策を学ぶ。保育所における虐待を受けた子どもと親への支援事例から、その対応と関係機関との連携を学ぶ。					全員
14	保育所・認定こども園における虐待対応とその具体的方策、留意すべきことなどについて理解する。					全員
15	子育て支援における「子どもの最善の利益の具体的な展開」とは何かについて考察する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	50	課題内容を正しく理解し、自らの考え方を理論的に表現できている。家族支援における基本的事項が記載され、今後のあり方などについて言及されている。	リアクションペーパー	50	毎回の講義内容が簡潔にまとめられている。感想だけに終わらない、自らの意見が述べられている。自らの課題が設定されている。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>保育所・認定こども園における保護者支援を中心に学ぶ学科目である。実習園及び地域の保育所・認定こども園で行われている、具体的な子育て支援サービスについて事前に調べる。〔50分〕 また、子ども・子育て支援法に規定されている「地域子ども・子育て支援事業」を調べ、その内容を講義内容と照合する。〔30分〕</p>			<p>期末レポートの講評、評価視点などについて、プリント配布による伝達を行う。</p>			
受講生に望むこと	自らが保育や教育現場において、家族支援を行うことを想定し、講義を受けていただきたい。		教科書・テキスト	『保育の専門性を生かした子育て支援』、亀崎美沙子著、わかば社、ISBN 978-4-907270-22-3		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	実習その他、フィールドワークにおいて、家庭支援と思われる内容についてまとめることが求められる。		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>子育て支援のあり方について、児童養護施設、保育所・認定こども園など各施設から提供いただいた基礎資料に基づき、シナリオ作成及びロールプレイから保護者の思いについて、共感的理解を深める学びを行なう。</p>						

授業科目名	EN275U 乳児保育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて関わり、保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。			乳児保育の意義、基本的視点について理解している。 乳児期の成長・発達の特徴を理解し、生活のあり方を考えることができる。 乳児保育における家庭支援を理解している。 乳児との実際の関わりを通して、乳児保育の実践計画を立てることができる。				
教授方法	講義・グループワーク						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	乳児保育の意義：乳児期の成長・発達において乳児保育・3歳未満児保育が果たす役割について理解する。						
2	ゼロ歳児とは（生後6ヶ月未満児）：身体・運動的発達の特徴・生活リズム（睡眠・食事・排泄）をとらえる。「三つの視点」から述べられる「ねらい」より、この時期に育てたいことを考える 遊び・「特定の他者」の重要性を考える。[乳児人形を用いて関わり方を学ぶ]						
3	ゼロ歳児（生後6ヶ月以上）から1歳3ヶ月未満児：発達と保育内容を考える。言葉の発達に注目して、やりとりの中で育つ言葉・この時期の大人の役割とは。[乳児人形を用いて関わり方を学ぶ]						
4	1歳児とは（1歳3ヶ月から2歳未満児）：生活リズム（睡眠・食事・排泄・着脱）をとらえる。 自我の育ち「イヤ」「ジブンデ」表現・他者との関係性・イメージする力の育ちに注目して。						
5	2歳児とは：生活リズム（食事・生活習慣の確立に向けて）をとらえる。意欲の発達に注目して。 言葉の発達「考えることの始まり」・遊びの豊かさ・他者関係「まねっこ」「仲よし」について理解する。						
6	乳児の養護に関わるねらいと内容について学ぶ。「赤ちゃん・サロン」の事例より						
7	3歳未満児の保育に関わる配慮事項（1）：「健康」面について乳児保育の視点から理解する。						
8	3歳未満児保育に関わる配慮事項（2）：「安全」面について乳児保育の視点から理解する。 様々な保育事故の事例から危険予想と対応を考える。[グループワーク]						
9	乳児保育における保育士等の関わりについて：子どもの行為の意味を理解する。適切な関わりを考える。担当制、職員間の連携について調べ、理解する。[グループワーク]						
10	乳児保育の環境について：人格の基礎を育てる乳児期の環境・安全な生活環境について理解する。						
11	遊びを通して発達する力：身体発達に合わせた視点・社会的発達に関する視点・精神的発達に関する視点から、発達と遊びによる学びのつながりについて考える。						
12	保育の記録と自己評価について：個別記録・デイリープログラムについて考える。						
13	子育て家庭への支援について学ぶ。（保育所・幼稚園・認定こども園・地域・大学における実際より）						
14	乳児保育の計画と実践を学ぶ。実践に向けての準備を行う。（環境・生活の流れ・玩具・絵本・歌）						
15	乳児保育の実践計画を立て、シミュレーションを行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	40	乳児人形等で実践演習への取り組み態度を含む授業態度		課題	30	課題提出状況と内容	
臨時試験	30	乳児保育についての理解（演習・筆記による）					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
・乳児の発達を知り、保育を計画し、子どもの発達に応じた教材を考え作成する。[120分] ・歌遊び・ふれあい遊び等を考え、実践の場ですぐに行えるよう準備し、レポートリを増やしておく。[120分]				前回授業を振り返り、実演及び保育場面演習の練習の成果、発表に対して助言を行う。			
受講生に望むこと	・乳児人形等教材を用いた実践や実際の子育て支援の場での学び等、真剣に取り組むことを期待する。 ・乳児人形を用いた演習ができるようなスタイルで参加してほしい。 ・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉えて学んでほしい。			教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館（2018年）ISBN978 4 577 81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9		
指定図書/参考書等	なし/なし（必要な資料等は随時印刷して配布、または紹介する。）			その他・特記事項	・「保育実習指導」「子どもの保健」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて学びを深める。本授業は理論と実践を相互に学ぶものである。欠席した場合は必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出すること。 ・演習内容によって、教室変更があるため注意すること。		
実務経験を活かした授業の概要							
幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、乳児の生活や育ち、遊びなどの捉え方を保育事例を基に学ぶ。また、実際に乳児と触れる機会を通して、学生自身が乳児のことを学び感じる。							

授業科目名	EN325U 乳児保育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
乳児期は人間形成の基礎ができる重要な時期である。この時期に乳児の個人差に応じて保育できるよう、低年齢児の保育の概念と意義を学び、成長や発達の特徴を理解する。また、乳児保育が担う社会的意味及び保育現場における乳児保育の課題について討議し考察する。			乳児期の発達理解に基づいた保育の実践計画及び記録を考えることができる。 乳児保育における子どもの生活と遊びを理解している。 乳児期の子育て支援について、今日的課題を考えることができる。 実践を通して、乳児保育の今後の展望を見出すことができる。				
教授方法	講義・グループワーク						
履修条件	乳児保育 を履修（単位修得）済みが望ましい。保育実習 を履修する学生は、履修しておくことが望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	子ども理解に基づいた保育について、保育実習（保育所）の保育記録から考える。赤ちゃん学について（1）赤ちゃんの共感性とは。						
2	保育所での一日の生活をプランする。「心地よく」を中心に考え、生活場面を実践する。赤ちゃん学について（2）赤ちゃんの能力とは。						
3	乳児保育と保健衛生および安全について理解する。〔乳児人形を用いた実践〕乳幼児の安全・保健に関する事故、事件の分析から現代の課題について考える。						
4	乳児期の食事について理解する。介助の方法を実践を通して学ぶ。子どもの発達を捉え、援助における大切な視点を考える。						
5	乳児保育実践を活かした子育て支援を学ぶ。〔大学における実践「赤ちゃん・サロン」より〕乳幼児がモノ・ヒト・空間にどのように出会うのか観察し、学びを考える。						
6	乳児と遊び（1）：『手作りおもちゃ課題研究』発表を行う。保育場面を設定し実践的に学び合う。						
7	乳児と遊び（2）：『手作りおもちゃ課題研究』発表を行う。具体的に個々の関わり（ねらい・設定・扱い方・乳幼児の学び）を考えシミュレーションする。						
8	乳児保育の計画を実践する（1）：「歌遊び」「模倣遊び」「やりとり遊び」「ふれあい遊び」の実践から学ぶ。						
9	乳児保育の計画を実践する（2）：具体的に保育形態や保育場面等を提示した上で、シミュレーションする。						
10	乳児保育の計画を実践する（3）：保育者の様々な配慮に着目し、表情や口調および動作や振る舞い方を捉える。なぜそれらの配慮が必要なのかも考える。						
11	乳児保育における保育者の配慮（物的環境・人的環境等）とその必要性を理解する。子ども理解の視点から考える。						
12	乳児保育の計画を改善する。養護と教育の視点を捉える。						
13	実際の保育記録から自己評価を行う。自己の課題を見出す。						
14	保護者とのパートナーシップと職員間の連携について考える。乳児期の子どもを持つ保護者の事例を基に。						
15	乳児保育における現代の課題点を考え、今後の展望を見出す。保育所・認定こども園等における保育現場の事例より。乳児の最善の利益を考えての関わりについて。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	40	授業への取り組み姿勢	課題	30	課題提出状況と内容		
臨時試験	30	乳児保育についての理解（演習・筆記による）					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
・本学の子育て支援活動「赤ちゃん・サロン」に参加し（10月～1月）、保育計画を実践する。〔事前準備90分・サロン実践90分〕 ・手作りおもちゃ課題研究を行う。〔第6回授業までに製作・早めに取りかかる〕 ・乳児保育における遊びを準備する。			保育場面実践（ふれあい遊び・歌遊び・環境設定等）に対する助言。				
受講生に望むこと	・子育て支援の場において、子どもたちの姿に心を動かしながら演習に真剣に取り組むことを期待する。 ・保育者を目指す学生として、乳児期を保育の原点として捉え、学んでほしい。		教科書・テキスト	・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館 ISBN978 4 577 81448-2 ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府 文部科学省 厚生労働省 ISBN978-4-577-81449-9			
指定図書/参考書等	なし/なし（必要な資料等は随時印刷して配布、または紹介する）		その他・特記事項	・「保育所実習指導」の授業と関連づけて行う。欠席した場合は、必ず欠席回の授業内容を自己学習し提出する。 ・演習内容によって教室変更があるため注意すること。			
実務経験を活かした授業の概要							
幼稚園教諭・保育教諭の経験をもとに、乳児に関わる事故や子育て支援についての課題など、社会的な支援の在り方も踏まえ、実際の現場の取り組みと併せてグループワークに取り組み知る機会とする。							

授業科目名	EN290U 身体表現			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	田邊 圭子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>子どもの発達と運動機能や身体表現に関する内容を理解したうえで、運動遊びや身体表現活動の実践に必要な基礎的技能を身につける。また、体を動かす経験を通して健康・安全について理解し、子どもと共に楽しく明るい健康な生活を営むための内容と方法について学ぶ。</p>				<p>自ら積極的に身体を動かすことができるようになる。子どものための身体運動または身体表現を理解する。からだの動きや表現を創り出すことができるようになる。</p>			
教授方法	演習						
履修条件	保育士資格取得希望者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	授業概要説明：授業の進め方、成績評価の方法について説明。保育士科目「身体表現」について考える。						
2	基本的なステップ：ウォーキング、ジャンプ、スキップ、ツーステップ、ギャロップ等、基本的なステップを正しくできるようにする。						
3	体操：ラジオ体操第1を通して、動きとリズムについて学ぶとともに、身体の様々な部位を大きく動かせるようにする。						
4	子どものためのフォークダンス：決まった動きを皆で繰り返し踊るフォークダンスの特性とダンスの楽しさについて理解する。						
5	子どものためのダンス1：子どものためにつくられたダンスを通して、皆と一緒に踊ることの楽しさを体験する。						
6	子どものためのダンス2：子どものためにつくられたダンスを通して、音楽とダンスの関係について考える。						
7	子どものためのダンス3：子どものためにつくられたダンスを通して、子どもの自由な身体表現について考える。						
8	子どものためのダンス4：子どものためのダンスをグループでつくる。						
9	子どものためのダンス5：グループで作った作品の発表と鑑賞を通して、子どものためのダンスについて考える。						
10	指導法：1～9回の授業で経験した内容を通して、指導者に必要な身体の動きについて考えとともに、指導法と留意点について考える。						
11	ボールを用いた運動遊び：ボールを用いた運動遊びを経験し、ボール遊びの特性を理解する。						
12	縄跳びを用いた運動遊び：縄跳びを用いた運動遊びを経験し、縄跳び遊びの特性を理解する。						
13	身近な材料を用いた運動遊び：新聞紙等身近な材料を用いた遊びを経験し、素材の特性を生かした運動づくりを理解する。						
14	マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊び：マット、跳び箱、平均台を用いた運動遊びを経験し、マット、跳び箱と平均台遊びの特性を理解する。						
15	運動遊びにおける安全管理：様々な運動を、安全に楽しむための留意点と安全管理について理解する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加態度	50	授業への取り組み姿勢		実技試験	30	課題を理解しているか 課題に対して一生懸命取り組んでいるか 課題に対する個人の技能・完成度	
レポート	20	授業内容と経験を踏まえるとともに、子どもの姿を想像しながら自分の考えを述べているか。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>子どもの運動に関する情報に興味を持つ ニュースや新聞で報じられている、子どもの運動に関する情報に接する〔60分〕 子ども達の明るく元気な姿や活動を導くために何が必要か考えてみる〔60分〕</p>				レポートはコメントを付記して返却する。			
受講生に望むこと	子ども達が明るく元気に伸び伸びと遊ぶために、自分はいかにあるべきか、何をすべきなのかを考えながら受講していただきたい。			教科書・テキスト	授業中に適宜資料を配布する		
指定図書/参考書等	授業を進める中で随時提示またはプリント配布する。			その他・特記事項	運動できる服装に着替え、体育館履きに履き替えて受講すること。		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED210U 絵本論		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	山下 のぞみ						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
様々な絵本を取り上げ、その特徴を探る。また、その絵本を、いつ、どのような子どもたちに手渡せばよいかを考えたい。さらに、絵本論を読み解き、絵本を評価する視点を学ぶ。			絵本を読んでもらう体験を通し、絵本とは読んでもらうものとの認識を得る。 絵本の絵を読むとはどういうことか体験する。 月齢や発達段階に応じてどのような絵本がふさわしいかを知る。 子どもの興味と絵本の関わりを知る。 現在の絵本の多様性を知る。				
教授方法	講義とグループディスカッション、さらにグループによる発表も行う。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	絵本とは：本としての絵本そのものだけでなく、保育者としての視点で、子どもの絵本体験を深めるための絵本とは？という面から、絵本を選んで解説する。						
2	ファーストブックとしての絵本：子どもとのやりとりの道具の一つとしての絵本のあり方について考える。						
3	翻訳絵本：「岩波の子どもの本」シリーズにみられるような、日本で物語絵本が作成される際に参考にされた、世界の古典的絵本について紹介する。						
4	昔話絵本：エウゲーニー・M・ラチョフ、フェリクス・ホフマン、マーシャ・ブラウンの作品について解説する。						
5	昔話絵本：赤羽末吉、田島征彦、佐藤忠良の作品について解説する。						
6	科学絵本：「かがくのとも」シリーズを検討する。						
7	詩・ことばあそびの絵本：谷川俊太郎、まどみちおの作品について解説する。						
8	イラストレーターによる絵本：レオ・レオニ、エリック・カール、イエラ・マリの作品について解説する。						
9	写真絵本：『ふゆめがっしょうだん』、『はるにれ』、『イエベはぼうしがだいすき』、『こいぬがうまれるよ』、『みず』を解説する。						
10	絵本論から学ぶ モーリス・センダック：『かいじゅうたちのいるところ』の作者センダックによる絵本論を読み解く。						
11	絵本論から学ぶに考察する。 松岡享子：『昔話絵本を考える』を参考に、昔話を絵本にすることについてグリム童話「七羽のガラス」を例						
12	絵本論から学ぶ 松居直：絵本の編集者による絵本論を読み解く。						
13	絵本の絵を読むとは：林明子の作品を取り上げ、絵本の絵を読むとはどういうことか、子どもの視点で体験してみる。						
14	読み聞かせに向く絵本とは：遠目にも絵が見やすいか否かだけでなく、集団で読むことで楽しみの幅が広がる絵本体験について考察する。						
15	読者の広がり絵本の可能性：今、絵本は作者の表現法の一つとしてみなされ、読者を子どもだけに限定しないものも多数見受けられる。そのような絵本を取り上げ、考察する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
レポート	40	授業で取り上げた絵本の、適応年齢、どのような子どもたちに読んであげたいかなどの視点を入れた絵本リストを作成して提出してもらいます。		グループ発表	40	グループごとに、昔話絵本を4～5冊選び、伝承されてきた昔話との違いや、絵の違いについて検討し発表してもらいます。グループごとにレポートも提出してもらいます。	
授業参加態度	20	授業の中で読み聞かせをしてもらいます。授業への取り組み、他の学生の読み聞かせを聞く姿勢や評価してもらった感想も提出してもらいます。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
グループごとの発表では、図書館で絵本を選び、レポートを作成してもらいます。（発表の準備）[1～2週間かけて取り組む] 授業中に取り上げた絵本のリストを作成してもらいます。[授業終了までに絵本論などを読んで作成する]			発表の際にコメントします。 絵本リストについては、次学期初めまでに、コメントを付けて返却します。				
受講生に望むこと	講義中に紹介した絵本を図書館で借りるなど、手に取ってじっくりと読んでみるようにして下さい。			教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED306U 社会・集団・家族心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本講義は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる。社会心理学は、人間の社会的行動を状況との関わりの中で理解しようとする学問である。本科目では、社会心理学の中でも対人関係、家族を含めた集団、文化に関連するトピックを中心に取り上げる。それぞれのトピックの学習を通じて、人間がいかに社会的な存在であるのかを理解することをめざしていく。</p>			<p>対人関係、集団における人の意識及び行動についての心の過程を理解できる。 人の態度及び行動との関わりを理解できる。 家族、集団、文化が個人に及ぼす影響を理解できる。 日常生活での社会問題に対して、社会心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	社会心理学とは何か：社会心理学の考え方、研究アプローチとは何かを学ぶ						
2	自己：自分についてどのように評価するか、自分の気持ち・欲求をどうコントロールするかを学ぶ						
3	対人行動：なぜ人を助けるのか、なぜ人を傷つけるのか、援助行動や攻撃行動のしくみを学ぶ						
4	対人関係：親密な関係はどのようにつくられるのかを学ぶ						
5	対人認知：対人認知のプロセスやその影響について学ぶ						
6	偏見とステレオタイプ：集団に対してどうとらえるのか、偏見や差別をもつ心を学ぶ						
7	感情とコミュニケーション：感情がどのように生まれてコミュニケーションに影響するのかを学ぶ						
8	態度変容と説得：人はどのように説得をされて態度を変えるのかを学ぶ						
9	中間テスト						
10	個人と集団：集団から個人が受ける影響や集団での意思決定についてを学ぶ						
11	マインド・コントロール：マインド・コントロールと洗脳、マインド・コントロールによる影響について学ぶ						
12	健康と幸福：ストレス、ストレスマネジメント、幸福感、健康とパーソナリティの関係について学ぶ						
13	文化と心：文化と心はどのように関係しあっているのかを学ぶ						
14	インターネット：インターネットを利用することによる影響、インターネットのよりよい活用方法を学ぶ						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
定期試験	50	講義内容の理解度	講義への参加度	10	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度		
発表	20	発表内容の完成度	中間テスト	20	講義内容の理解度		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。【45分】 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。【30分】</p>			<p>講義内におこなう課題については、次回授業の冒頭に講評やフィードバックを行う。</p>				
受講生に望むこと	<p>本科目の対象となるのは比較的なじみやすいトピックである。講義内容を深く理解するには、自分自身の経験や日常生活での様々な問題に主体的に適用していく姿勢が求められる。</p>		教科書・テキスト	『人間関係の社会心理学』松田幸弘（編著）見洋書房 2018年 ISBN 9784771030619			
指定図書/参考書等	なし/『よくわかる社会心理学』山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED311U 産業・組織心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は心理学、特に社会心理学領域を学ぶ体系に位置づけられる科目である。社会心理学の中の応用的な領域である産業心理学、組織心理学に関するトピックをとりあげる。インターンシップ、就職活動、キャリア形成、職場の対人関係、転職、ストレスマネジメントなど産業心理学や組織心理学に関連するさまざまな問題に対して理解を深める。</p>			<p>産業心理学、組織心理学に関する基礎知識を身につけることができる。職場における問題、キャリア形成に関する問題を心理学の立場から理解できる。組織における人の行動を心理学的に理解できる。</p>				
教授方法	講義を中心に実習も取り入れながら進める。						
履修条件	特になし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション・組織、集団とは：組織、集団、集合など基本的な概念について学ぶ						
2	リーダーシップ：良いリーダーとはどんなリーダーだろうか？リーダーシップ理論、リーダーとフォロアーの関係について学ぶ						
3	集団心理：集団になると一人の時とはどのように行動が異なるのだろうか？						
4	モチベーションとリーダーシップ：組織の中ではどのようにやる気が作られるだろうか？						
5	モチベーションの形成：職場におけるモチベーションをいかにつくるかを学ぶ						
6	説得の心理：説得をうまくおこなうにはどうすればよいだろうか？						
7	消費者の心理：消費者はどのようにして行動を決めたり、変えたりするのだろうか？						
8	小テスト1と前半の内容の振り返り						
9	印象形成：人の印象はどのようにつくられるか						
10	援助行動と攻撃行動：人をたすける心、傷つける心について考える						
11	キャリア形成：自分の適性を考える、キャリア形成、キャリア教育などを学ぶ						
12	ストレスと心の不調：ストレスが発生するまでのしくみとさまざまな心の疾患について知る						
13	ストレスとストレスマネジメント：職場、職業に関するストレスとストレス対処の仕方を学ぶ						
14	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表を行い、相互評価する						
15	小テスト2と後半の内容の振り返り						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	40	講義内容の理解度		発表	40	発表内容の完成度	
講義へ参加度	20	講義内での取り組みや課題の提出状況から評価を行う。					
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での議論に備える。[45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。[30分]</p>			<p>授業内の課題については、次回の冒頭にフィードバックと解説を行う。</p>				
受講生に望むこと	本科目の内容は職場での心理、組織における人間の行動、キャリア形成など実際の内容となっている。職場で起こる一般的な問題だけではなく、学生自身のキャリアについても考える機会としてほしい。		教科書・テキスト	『入門！産業社会心理学』 杉山 崇（編著）北樹出版 2015年 ISBN: 978-4779304552			
指定図書/参考書等	なし / 『よくわかる社会心理学』 山田一成他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4812-0 『よくわかる産業・組織心理学』 山口裕幸他 ミネルヴァ書房 2007年 ISBN 978-4-6230-4871-7		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED316U 知覚・認知心理学			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	勝谷 紀子						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。本講義は、心理学の中でも知覚心理学および認知心理学という分野に焦点を当て、基本的な内容について学ぶことをねらいとしている。知覚心理学および認知心理学は、わたしたちが自分や環境に関する情報をどのように知覚し処理しているのかを探る心理学の一分野である。心理学概論Aや心理学概論Bにくらべると発展的な内容も含めて授業を進める予定である。知覚心理学および認知心理学が日常生活でのさまざまな問題と関わりを持っていることを学ぶ。</p>				<p>知覚心理学、認知心理学がどのような学問領域であるのかを理解している。感覚・知覚のメカニズムとその障害について理解している。記憶、思考、問題解決、意思決定といった認知心理学における重要な概念やその障害について理解している。日常生活で直面する問題に対して、知覚心理学や認知心理学の概念や理論を援用して自分なりに要因や解決策を考えることができるようになる。</p>			
教授方法	講義を中心に、実際に体験できる課題も取り入れながら進める。						
履修条件	なし						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	知覚・認知心理学とは：知覚心理学および認知心理学という領域がどのように成立し、どのようなことを目指した学問分野であるかを学ぶ						
2	知覚のはたらき：感覚と知覚の特徴とはたらきについて基本的な事項を学ぶ						
3	視覚：視覚の基本的なはたらき、運動知覚、奥行き知覚、幾何学的錯視などについて学ぶ						
4	聴覚：聴覚の基本的なはたらき、音源定位、知覚的補完、周波数分析などについて学ぶ						
5	知覚における障害：視覚障害、聴覚障害など知覚における障害を学ぶ						
6	記憶：人の記憶の特徴と種類について、短期記憶と長期記憶の働きなどを学ぶ						
7	日常認知：目撃証言や偽りの記憶など日常生活における認知の問題を学ぶ						
8	小テスト1						
9	概念：概念とは何か、概念が形成されるまでのプロセスを学ぶ						
10	思考：推論の特徴、確率判断の特徴やその影響について学ぶ						
11	言語：会話のなりたちや、会話の理解、文章の読み書きに関わるプロセスなどを学ぶ						
12	注意：注意の特徴や種類、注意のはたらきや基本的なしくみについて学ぶ						
13	潜在認知：気がつかないうちに行動や認知が変わるなど潜在認知のはたらきを学ぶ						
14	小テスト2						
15	学生の発表：授業で取り上げたトピックに関する発表をおこない、相互評価する						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準	
小テスト	50	講義内容の理解度		講義への参加度	20	授業中に実施する課題、授業で提出を求めるリアクションペーパー、授業態度	
発表	30	発表内容の完成度					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>教科書・参考書の各回の授業内容に該当する範囲を読み、授業での課題に備える。[45分] 事後学習においては、講義で説明された理論や概念について授業でノートしたことを整理し、関連文献を読むなどして、理解の深化に努める。 [30分]</p>				<p>講義内におこなう課題については、次回の冒頭にコメントを付けてフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	知覚心理学および認知心理学は、私たちの心の仕組みのコアな部分を対象とする研究領域である。普段の生活ではあまり意識しない部分のトピックが多いといえる。認知心理学で扱っているトピックが普段の生活での体験とどのように繋がりをしているのかを考えながら授業に取り組んでほしい。			教科書・テキスト	『基礎から学ぶ認知心理学 人間の認識の不思議』服部 雅史・小島治幸・北神慎司（著）有斐閣 2015年 ISBN 978-4641150270		
指定図書/参考書等	なし/『認知心理学』箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋 有斐閣 2010年 ISBN 978-4-6410-5374-8 その他、参考書は授業内で適宜紹介する。			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED321U 感情心理学(感情・人格心理学B)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・勝谷 紀子 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本講義は心理学を学ぶ体系に位置づけられる科目である。感情とは日常から私たちの生活を彩るものであり、誰もが経験するものである。その一方で、それがどのようなものであるのかということはなかなかとらえ難いものである。心理学という科学の視点からそれがいかに捉えられるか。また、感情には疾患と診断される部分もあり、その機序と支援の方法を含め、「感情」について全体的に理解することを目指す。</p>			<p>感情に関する理論及び感情喚起の機序について説明できる。 感情が行動に及ぼす影響について説明できる。 幸福感や対人不安などの個別の感情についてどのような研究があり、どのようなメカニズムで経験されるかを理解できる。 感情の病理について理解し、どのような支援を行うことができるかを考えられる。</p>			
教授方法	講義を中心にワークなどを取り入れながら進める。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	感情とは何か 感情とはどのように捉えられるか 必要・不必要の関連を含め感情についての考えを紹介する。					勝谷
2	感情の理論 心理学において提案された感情についての理論を概観する。					勝谷
3	認知と感情の関わり 心の仕組みとして認知と感情は別個のものではないということを解説する。					勝谷
4	他者との関わりにおける感情の理解：対人不安・孤独感がどのように理解されているか解説する。					勝谷
5	ポジティブな感情 幸福感とその関連要因についての研究を紹介する。					勝谷
6	ポジティブな感情 ポジティブ感情の機能に関する理論と研究を紹介する。					勝谷
7	ポジティブな感情 ユーモア、感謝などその他のポジティブ感情の研究を紹介する。					勝谷
8	感情の生物学的基盤 感情が生じる神経生理学的な機序について紹介する。					勝谷
9	感情の発達 感情について発達の観点から考える。					齊藤
10	精神疾患に関連する感情 不安：不安感情が行動に与える影響や不安に関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
11	精神疾患に関連する感情 抑うつ：抑うつ感情が行動に与える影響や抑うつに関連する精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
12	精神疾患に関連する感情 恐怖：恐怖感情が行動に与える影響や恐怖感情と精神疾患について理解を深め、支援の方法を考える。					齊藤
13	感情の病理への心理的アプローチ 精神分析的な心理療法：精神分析の視点から感情の病理のメカニズムや心理的支援について考える。					齊藤
14	感情の病理への心理的アプローチ 認知行動療法、ストレスマネジメントの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤
15	感情の病理への心理的アプローチ フォーカシング、エモーション・フォーカスト・セラピーなどの近年の感情の病理への心理的アプローチの視点から感情の病理のメカニズムやその理論について理解を深める。					齊藤
成績評価方法及び基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
定期試験	70	講義の理解がどの程度できているかで評価を行う。		講義への参加度	30	講義への参加態度と振り返りの内容から評価を行う。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
講義の際に配布される資料や紹介された文献を読んで、予習復習を行う。[45分] 講義で学んだ内容を自分自身や他者の作品(小説、映画、漫画など)にあてはめて具体的に理解する。[30分]			各回での振り返り・リアクションシートの内容について、次回の冒頭にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	「授業の概要」でも述べたように、日常経験するものでありながら、科学的・理論的に理解しようとするとそこには困難が多いのが「感情」である。自分自身をのみの視点だけでなく、広い視野でとらえられるように励んでもらいたい。			教科書・テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。	
指定図書/参考書等	なし/講義中に適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED336U 障害者・障害児心理学		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
現代の様々な障害について、その原因・頻度・治療・リハビリテーションに関わる基本的知識や利用できる社会資源について概観し、障害および障害児/者に対する理解を深める。また、障害児/者が社会の中でよりよく生きることを支援する姿勢を身につけるために、ペア・グループワークやロールプレイ等のアクティブラーニングを通じた体験的学習を行う。			1. 身体障害、知的障害および精神障害など障害に関する知識を身につけ、障害児/者への理解を深める。 2. 障害児/者を取り巻く心理社会的課題と支援について学習し、適切な支援の心構えを身につける。			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションやビデオ視聴を行う。					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション/障害とは?: 国際社会における障害概念の捉えられ方とその変遷について理解する。					
2	障害と心理学: 障害と心理学との関連について、障害に対するイメージや人々の意識の傾向を理解する。					
3	身体障害: 視覚・聴覚・言語・内部障害や肢体不自由などの身体障害について理解する。					
4	知的障害: 知的障害の定義と判定基準、アセスメントの方法について理解する。					
5	精神障害: 不安症関連の障害、うつ病関連の障害、精神病的障害など主要な精神障害について理解する。					
6	行動・情緒障害: 発達プロセスでみられる行動障害、情緒障害について概観し、その支援について理解する。					
7	発達障害(1): 自閉症スペクトラム障害: 発達障害の概念、診断基準の変遷を概観し、自閉症スペクトラム障害の基本的な概念と支援について理解する。					
8	発達障害(2) 注意欠如・多動性障害、局限性学習障害: 注意欠如・多動性障害、局限性学習障害の基本的な概念と支援について理解する。					
9	障害児の支援(1): 応用行動分析: 応用行動分析の概念および基本的な考え方や障害児への支援について理解する。					
10	障害児の支援(2): ペアレントトレーニング: 応用行動分析の考え方に基づいた、障害児の保護者への支援方法について理解する。					
11	障害受容のプロセス/障害の理解: 障害受容過程における反応とそれに応じた心理学的支援について理解する。					
12	保健・医療における課題と支援: 認知行動療法などの治療法と心理的アセスメントについて理解する。					
13	福祉・教育における課題と支援: 障害者福祉施設、特別支援教育や通級指導など幼稚園・学校における支援について理解する。					
14	保護者や家族の理解と支援: 障害児/者の保護者および家族への支援のあり方について理解する。					
15	コミュニティ支援/障害児・者支援のこれから: 障害児/者を取り巻く環境へのアプローチとこれからの支援について考える。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
毎回取り扱うテーマについて、自身の日常的な経験を振り返り、障害について自分なりの考えをもっておくこと。また、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]			振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。			
受講生に望むこと	本授業では、障害に関する基本的な知識だけでなくその支援の視点を身につけることを目的としている。障害を取り巻く問題について積極的に考え、自分なりの考えをもつ姿勢を求める。		教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/『障害者心理学』太田信夫(監修)北大路書房, 2017年, ISBN-13: 978-4762829840		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED326U 心理学的支援法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	加藤 仁					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「代表的な心理療法の基礎知識」のみならず、「コミュニケーションの技法」、「訪問・地域支援」、「プライバシーへの配慮」、「支援者への支援」、「心の健康教育」等の心理学的支援にまつわる様々なトピックについて、事例に基づくディスカッションやロールプレイ等を交えながら体験的に学習する。第15回では全体を振り返り、個別の支援だけが心理学的支援ではなく包括的な視点に立って適切なアプローチを想定するための考え方についても学習する。</p>			<p>様々な心理学的支援の技法に触れることで学派にとらわれない心理学的支援法の理解を深めること、体験的な学習を通じて心理学的支援の在り方を自ら考え、クライアントやクライアントを支える周囲の人々にとってより適切な支援の方法を考えられるようになることを目標とする。</p>			
教授方法	講義形式で行う。必要に応じてペアワーク・グループディスカッションを通じた体験的な学習、ビデオ視聴も行う					
履修条件	なし					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	心理学的支援とは？：心理学的支援の概念とあり方について概観し、全体像を理解する。					
2	カウンセリング：カウンセリングの基本的な概念、カウンセリングマインド、カウンセリングのプロセス、カウンセリングに伴う問題について理解する。					
3	コミュニケーションの技法：良好な人間関係を築き信頼関係を醸成するための関わりを学ぶ。					
4	精神分析的な心理療法：精神分析の基礎的な考え方および治療同盟・転移/逆転移・治療抵抗など心理療法の重要な概念について理解する。					
5	行動療法・行動分析：行動療法の成り立ちと理論、現代の行動療法的アプローチについて理解する。					
6	認知療法・認知行動療法：認知療法の考え方、認知行動療法の現在について理解する。					
7	パーソンセンタードアプローチ：様々な人間性心理学的アプローチの技法とその考え方について理解する。					
8	集団精神療法：集団精神療法をはじめとしたグループアプローチの技法とその考え方について理解する。					
9	家族療法：システムズアプローチの考え方と治療プロセスについて理解する。					
10	芸術療法・遊戯療法：芸術を利用した表現技法やプレイセラピーについて体験を通じて理解する。					
11	訪問による支援や地域支援：コミュニティアプローチ、アウトリーチの考え方について理解する。					
12	関係者への支援：援助者への援助の方法とコンサルテーションの在り方について理解する。					
13	心の健康教育：ストレスマネジメントや予防教育について、その実践例の体験を通じて理解する。					
14	プライバシーへの配慮：心理学的支援に伴うプライバシーの問題と倫理的配慮のあり方について理解する。					
15	心理学的支援の包括的視点：様々な支援法を概観し、問題に対してエビデンスに基づく包括的な視点をもってアプローチすることの重要性について振り返る。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
期末レポート	60	期末レポートのテーマや出題形式、配点等については振り返りシート、授業内で周知する。	振り返りシート	40	毎回の授業後に記入する、授業への取り組みの振り返りおよびコメントを評価する。	
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
<p>授業内でペアワーク・グループワーク等を実施した場合には、各種心理学的支援に関して自らがどのように感じたか、あるいはどのような場合に効用が発揮されるかを振り返って考えながら授業に臨むこと。その他、配布資料や参考書、授業で紹介する文献を用いて予習・復習を自発的に行うこと。[30分程度]</p>			<p>振り返りシートを通じてあがった意見や質問を取り上げ、授業時に全体に向けてフィードバックする。期末レポートは次学期はじめに内容に関するコメントを全体にするとともに、希望者に対して個別にフィードバックを行う。</p>			
受講生に望むこと	<p>実際にカウンセリングや心理療法で用いる技法を学ぶ実践的な授業であるため、ペアワークやグループワークがある場合は積極的に参加するとともに、授業内での質問や発言を求める。</p>		教科書・テキスト	教科書は特に定めず、教員が作成した資料を配布する。		
指定図書/参考書等	<p>なし/『心理療法ハンドブック』乾吉佑・氏原寛・亀口憲治他（編）創元社、2005年、ISBN-13：978-4422113265</p>		その他・特記事項	授業中にWebサイトを利用して意見聴取・全体へのフィードバックを行います。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ED327U 学校心理学 (教育・学校心理学)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	上農 肇						
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士				
授業の概要			授業の到達目標				
教育現場における諸問題についてその実情を学び、問題状況の解決を援助する「心理教育的援助サービス」の実践を支える学校心理学の理論と方法について理解する。教育現場における種々の心理社会的課題とその支援の実際について理解する。			1)教育現場において生じる問題とその背景を説明できること。 2)教育現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できること。				
教授方法	講義、演習						
履修条件	公認心理師または認定心理士を目指す者が望ましい						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション (教育・学校心理学を概観し、実際の教育現場での様々な課題について知る)						
2	教育現場での心理教育的援助サービスの実践とそのための援助者 (ヘルパー) を理解する。						
3	子どもをめぐる課題 (不登校) の実情とその支援について理解する。						
4	子どもをめぐる課題 (いじめ) の実情とその支援について理解する。						
5	子どもをめぐる課題 (発達障害) の実情とその支援について理解する。						
6	子どもをめぐる課題 (ネット・ゲーム依存) の実情とその支援について理解する。						
7	子どもをめぐる課題 (精神疾患・非行・その他) の実情とその支援について理解する。						
8	教師・学校をめぐる課題 (教師のバーンアウト・危機介入・その他) の実情とその支援について理解する。						
9	家庭・地域をめぐる課題 (児童虐待・貧困・その他) の実情とその支援について理解する。						
10	心理教育的援助サービスの方法 (アセスメント) について理解する。						
11	心理教育的援助サービスの方法 (カウンセリング) について理解する。						
12	心理教育的援助サービスの方法 (コンサルテーション・コーディネーション) について理解する。						
13	学校心理学を支える心理学的基盤 (発達心理学、教育心理学、臨床心理学等) について理解する。						
14	学校心理学を支える学校教育の基盤 (学校組織と教育制度、教育関連法規等) について理解する。						
15	まとめ (教育現場での諸問題について概観し、専門的ヘルパーとして教育現場にかかわる場合の義務と役割について考える)						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
コミュニケーションシート	30	講義内容に基づきより発展的な自分の考えなどを記述すること。		講義の受講態度	30	授業中のエクササイズやワークへの取り組み方を評価する。	
期末レポート	40	第15回講義時までにテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。					
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
与えられたテーマについて予習し、レジュメを作成すること。[90分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[90分]			ふり返りシート、コミュニケーションシートは次回の冒頭にコメントをつけて返却する。				
受講生に望むこと	公認心理師および認定心理士に関連する科目である。国家資格を目指す者に照準を合わせるため、講義内容を理解するための相応の受講態度を求める。		教科書・テキスト	学校心理学ハンドブック [第2版] 「チーム学校の充実をめざして」 日本学校心理学会編 教育出版 2016年 ISBN978-4-316-80312-8			
指定図書 / 参考書等	なし / 生徒指導提要 文部科学省 教育図書 2010 ISBN978-4-87730-274-0		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
なし							

授業科目名	ED331U 心理演習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	齊藤 英俊・松下 健 (代表教員 齊藤 英俊)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	認定心理士・公認心理師			
授業の概要			授業の到達目標			
心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理について学習する。これまでに学習した心理学の講義内容を基にさらに理解を深め、演習を通じて技術を修得する。			1)心理面接の流れ、構造、理論、技法、アセスメント、法的義務、倫理を説明できること。 2)心理面接に必要な技術を修得すること。			
教授方法	演習、講義					
履修条件	心理学教員が合議の上、履修を認めた者に限る。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	授業オリエンテーション：心理職における心理面接の役割					松下・齊藤
2	心理面接の特徴（治療構造など他の面接との共通点や相違点）					齊藤・松下
3	心理面接の開始（初回面接、受理面接）と終了（終結、中断など）					松下・齊藤
4	多職種連携および地域連携					松下・齊藤
5	基本的な傾聴スキル					齊藤・松下
6	心理面接の基礎（マイクロカウンセリング）					齊藤・松下
7	精神分析的な心理療法における心理面接					齊藤・松下
8	精神分析的な心理療法の心理面接のプロセス					齊藤・松下
9	クライアント中心療法の心理面接					齊藤・松下
10	フォーカシング指向心理療法の心理面接					齊藤・松下
11	行動療法の心理面接					松下・齊藤
12	認知行動療法における心理面接					松下・齊藤
13	認知行動療法の心理面接のプロセス					松下・齊藤
14	その他の心理療法（風景構成法）の心理面接					松下・齊藤
15	まとめ：心理面接の効果と課題					松下・齊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
小レポート	30	講義において小レポートを課す。講義内容を踏まえ、自己の意見を論理的に記述すること。		講義参加態度	30	グループワークやプレゼンテーションなど、講義における様々な活動に他者と協調しながら積極的に参加すること。
期末レポート	40	第15回講義時にテーマを指定したレポート課題が出される。期日までにレポートを作成し、提出すること。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
与えられたテーマについて予習すること。[60分] 各回で学んだ知識が定着するよう復習すること。[60分] 学んだ内容を修得するよう練習すること。[60分]				小レポートは返却時にフィードバックする。期末レポートについては、次学期始めに適宜フィードバックする。		
受講生に望むこと	公認心理師を目指す上で心理実習と同等の重要性を持つ科目である。努力の量ではなく結果を求められることを理解したうえで履修すること。			教科書・テキスト	講義開始時に適当なテキストが出版されている場合は、テキストを指定する可能性がある。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	履修者数に制限のある科目である。心理学教員が合議の上、履修を認めた者のみ受講できる。学業成績と生活態度が優れ、かつ適性のある者のみ履修が認められる。	
実務経験を活かした授業の概要						
齊藤：心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して心理面接における面接技法を説明している。 松下：臨床心理士、スクールカウンセラーとしての経験をもとに、実践を想定して面接の演習を行う						

授業科目名	ET300U 幼稚園教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教育実習 にかかわる事前・事後の実習指導で、幼稚園教育実習 を履修後、ガイダンスとプレ実習に参加して本科目を履修する。プレ実習では実習園の保育の流れを確認するとともに、自らが用意した遊びのプランと自ら製作した教材で園児と関わることを通じて実習園の環境と遊びの特徴、さらに園児の状況を理解する。その理解を前提に、本科目では、「Enjoy!ミッション」での子どもとの関わりを経て、保育内容の自科等での学びを総合的に活用して指導計画を作成する。実習園との協議を含めて指導計画を練り、教材をつくりなす準備の取り組みを通して、園における自身の動きを具体的にイメージする。実習開始前に、実習園より提示された課題を含め、予定される全ての活動について、環境図・時系列表記・教材研究(写真を含む)からなる指導計画に書くことによって実践内容を視覚化し、立案した全指導計画を俯瞰し、それぞれの活動についてねらい(予想される幼児の学びの内容)を明確にして実習に臨む。実習後は自己評価と実習報告会を通じて自らの現場での姿を振り返り、保育者としての自己課題を明らかにする。			事前指導 実習園の保育の流れと園児の状況をふまえて対象年齢児の発達にふさわしい遊び(活動)を考えることができる。実習開始以前の実習園との事前協議のために、自らのプランについてわかりやすく説明できるよう資料を工夫することができる。遊びのプランを練り直し充実させることができる。連続した指導計画の意味を理解し指導計画に展開することができる。幼稚園教育実習の保育内容を理解し、指導計画にねらいを設定することができる。教材研究によって、幼児の心が動く教材を工夫、製作することができる。 事後指導 自らの実践を自己評価し、保育者としての自己課題を明確にすることができる。自らのプランや計画、実践を他者にわかりやすく伝えるために工夫することができる。			
教授方法	グループワーク・グループ協議・発表・実演(展示を含む)					
履修条件	幼稚園教育実習 を単位修得済みで、ガイダンス・プレ実習に参加していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	プレ実習及びこども図書館での実践を振り返る。					全員
2	グループワーク:「教材研究した」と言える自分らしい教材(素材を含む)を選定し、複数の遊びで活用する指導計画立案に向けて、教材研究と必要量確保の見直しを立てる。					全員
3	グループワーク:実習園の園環境と子ども集団をイメージして、自身のオリジナル教材からさらに工夫した視聴覚教材を整える。その教材を用いた遊びのプランを5領域で考える。					全員
4	「Enjoy!ミッション」において、1年生を指導しながら、子どもたちと一緒に2年生の「遊びの広場」に参加し、得られた気づきを教材や指導計画の作成の見直しにつなげる。					全員
5	個々の指導計画の活動のねらいを明確にし、そのねらいは園のクラスの目標や個人の目標と齟齬をきたさないかを検討する。					全員
6	実習園との協議を経て、実践できる遊びを確定し、連続した指導計画の充実を図る。					全員
7	それぞれの指導計画について、ねらいと照らし合わせて指導計画の内容、展開を見直し、充実を図る。					全員
8	用意した指導計画全体を俯瞰し、内容の偏りがあれば、補完する計画を立案する。実践時期の予定表を作成し、実習に必要な事柄をチェックし、足りないことを補う計画を立てる。					全員
9	直前指導で、事後レポート課題と実習評価について理解し、本実習の自己目標と自己課題を再構成する。					全員
10	実習期間の土曜日:自らの実習記録からの読み取りを通じて、次週の実習計画を見直し、必要な準備を確認する。					全員
11	グループで行う実習報告会に向けて、実習記録と事後レポートに基づく実習の振り返りを行う。					全員
12	実習報告会準備を通じて、実践を通じての気づきをグループメンバーで共有し、自らの振り返りを深める。					全員
13	実習報告会(教材展示・実習ファイルの閲覧を含む):次年度の実習履修者から新カリキュラムになることを踏まえて、彼らが意欲をもって実習 に臨むことができるよう工夫した報告会を行う。					全員
14	実習報告会の振り返りとともに、これまでの保育者に向かう自らの学びを振り返る。					全員
15	履修カルテを用いて、保育実習や小学校実習など、今後それぞれが向かうものに対する自己課題を明確にし、さらに、卒業までの自らの学びを計画する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
指導計画	30	15日間の実習にふさわしい量と内容の計画か。ねらいをもって、連続した展開で立案されているか。実習園の幼児の生活に合った指導計画か。		教材準備	30	遊びの展開と応答性をイメージした教材か。工夫していないに作られているか。材料や道具を考慮しているか。実習園の幼児の生活に合った教材か。
授業参加態度	30	グループワークに積極的に参加し集団的に学んだか。		事後課題	10	報告会準備と事後提出物に、実習後の振り返りで得た自己課題が反映されているか。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
<ul style="list-style-type: none"> 遊び(活動)のプラン、指導計画の作成[90分] 教材研究をふまえた教材製作[90分] 教材の見直し、改善[60分] 実習園訪問と実習協議[60分] 報告会準備[60分] 				適宜授業内でコメントする。必要に応じて個別に面談の時間を設ける。		
受講生に望むこと	保育できるスタイルで、保育者が身近に常備すべきものを持って参加する。保育における「つくりなおい」の意味を理解し、厭わない。保育と実習園に対して常に興味をもち、園には可能な限りボランティアとして出向き実習協議につなげる。			教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499	
指定図書/参考書等	なし/適宜紹介する。			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
向出:幼稚園教諭としての勤務経験をもち、遊びの指導計画の立案に重点を置き、実践、見直し、改善のPDCAサイクルがしっかりとできるように、現場でのやり方を取り入れている。 虫明:幼稚園にて養育教諭の学生を受け入れ実習指導を行った経験から、園の実態、環境、指導の重点、1日の生活等の理解、担当学年の発達段階に即した適切な指導計画の立案、それに基づく保育実践、記録による省察、改善の流れが捉えられるようにする。また、保育者としての姿勢についても適宜伝える。 谷:実習と同じ園に実習 として行くことで子どもの成長や遊びの変化、繋がりなどを考えられる。実習記録振り返りや報告などを通して自分の強み弱みを理解できるよう指導している。						

授業科目名	ET305U 幼稚園教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・虫明 淑子 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	3単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
幼稚園教員免許取得のために教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則において定められている教育実習で、本学ではとに分けて行い、幼稚園教育実習(5日間)と幼稚園教育実習(15日間・90時間)は原則として北陸3県の同一幼稚園で行う。実習やプレ実習等で得た実習園の保育に対する理解の上に、連続した遊びのプランと指導計画を作成し、実践に用いる自分らしい教材を用意する。事前訪問を含む担当幼稚園教諭との実習協議を通じて遊びのプランと指導計画の見直しとつくりなおしを行い、必要な素材等の準備とあわせて、園児と応答的に関わる自身の姿のイメージを持って毎日の実践に臨む。さらに、実践における幼児の姿に応じてその場で指導計画、教材を工夫する臨機応変な対応に習熟し、実践後の振り返りによって次の実践の計画を充実させることに習熟する。実践を通じて必要な保育技能を向上させるとともに、実践を通じて幼稚園教育への関心を深め、現場における保育者としての研究課題を見出す。			実習園の保育について理解を深めて実習を準備する。実習前に用意した指導計画・教材を、実習中に観察、実践、協議によってつくりなおす。実習園の教師の一員として、教職員の動きから状況を読み取り、自身で判断し、適宜、教職員に確認、報告して行動する。個々の幼児に対し、自分なりの理解に基づいて意図的に関わる。個々の幼児と関わりつつ常に他児の様子にも注意を向け必要に応じて対応できる。設定保育では、教材の提示や言葉かけによって集団に向けて働きかけ、同時に個々の幼児の様子をとらえ視線や行動によって働きかけることができる。保護者や地域との連携等、園で展開されている多様な取り組みに関心を持つ。			
教授方法	実習を通じて、実習園の保育と教師から学ぶ。また本学教員による巡回指導や、実習期間に設ける実習指導での討議を受けての自己省察を通じて学ぶ。					
履修条件	幼稚園教育実習指導 を履修し、本学の定める実習履修条件を満たしていること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	実習園に応じた自分らしい遊びのプランに基づいて指導計画と教材を準備し、計画的な実習をする。					
	幼児の姿に応じて、指導計画を立案しなおし、教材をつくりかえる。また、新たに立案、製作する。					
	今までに学んできた知識と技能を総合して幼児と関わり、記録し、次の指導計画と実践に反映させる。					
	実習園の教師の姿に学び、自らの保育技能の向上を図る。					
	ていねいに実習記録を書き、担当者と実直に実習協議することを通して、幼児一人一人と子ども集団に対する理解を深める。					
	環境図など異なる書式での記録によって、集団に働きかけながら個々の幼児を見ること、個々の子どもと関わりながら集団全体に目を配ることに習熟する。					
	幼稚園現場での生活を通じて、社会人としての自分、保育者としての自分について洞察する。					
	子どもに直接には関係しないように見える教師の仕事や保護者の活動等、現場にいるからこそ触れられる学びの機会を見逃さず、貪欲に学ぶ。					
	実習園の行事や取組み、園に出入りする人たちに関心を寄せ、実習園を通じて幼稚園の今日的役割について理解を深める。					
	自己評価を通じて、保育者としての自身の課題を明確にする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
実習園による評価	70	科目として用意する評価項目について実習園が評定したものを科目としての基準で数値化。	実習ファイル	30	日々の記録に自らの実践につながる気づきがあるか。事後レポートが具体的なエピソードからの考察となっているか。内容に欠落がなく適切に綴られているか。	
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な記録と実習園より返却後の補完[90分] 連続性のある実践のために随時実習計画を見直すこと[60分] 指導計画の補完と教材のつくりなおし[60分] 事後レポートの作成[90分] 			幼稚園教育実習指導 の事後指導を通じて行う。必要に応じて個別面談を行う。			
受講生に望むこと	体調管理に責任をもつ。必要な連絡と報告を実習園、担当教諭、大学の実習担当者、場合によっては大学事務所に対して、速やかに、かつ適切に行うこと。実習で知れた情報の取り扱いに注意すること。記録と指導計画の参考のために『幼稚園教育要領解説』を常に携帯すること。実習時間外の課題は、翌日の実習に支障がないよう時間管理を工夫すること。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499		
指定図書/参考書等	なし/必要に応じて提示する。		その他・特記事項	・3日間以内の欠席については実習園と相談して振替日を設ける。・幼稚園教師として認められない振舞いがあった場合、また実習園からの指導に対して改善の努力が認められない場合には日程途中で実習中止とすることがある。その事実が実習終了後に判明した場合、実習園による評価にその事実が記載されていない場合、本人との協議の上、実習の単位は不認定となる可能性がある。		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ET310U 小学校教育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・村井 万寿夫・幸 聖二郎 (代表教員 福江 厚啓)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	小一種				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本科目は、小学校教諭一種免許状取得にあたって必須の科目である。教育実習を履修するにあたり、必要な知識・技術のみならず、教師としてあるべき態度についても実践的に学ぶ。</p>			<p>実習の意義を理解し準備や見通しをもち実習校との円滑な関係づくりの知識・理解を深める。 小学校について理解を深める。 実習中における子どもや先生、学級とのかかわり方や配慮すべきことを理解する。 観察実習・参加実習・授業実習について理解し、学習指導案を立案できる。 実習計画や実習日誌の書き方を習得する。 実習での学びの整理と反省・自己評価ができる。 実習報告会を計画・運営・実施できる。</p>				
教授方法	講義、グループ討議、フィールドワーク						
履修条件	各教科の教育法の履修が望ましい。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	教育実習とは何か。その意義と教育実習生に求められる姿勢・態度について理解する。					全員	
2	実習までの流れをもとに文部科学省・教育委員会・学校の役割とその関係について理解する。					全員	
3	小学校における外国語活動と英語教育のあり方について理解を深める。					全員	
4	低、中、高学年 それぞれの発達段階の違いについて理解する。					全員	
5	幼・保・小の連携の必要性について理解する。					全員	
6	小学校における特別支援教育について理解する。					全員	
7	小学校現場の一日の流れを理解する。					全員	
8	実習中、教師として子どもや教職員、保護者の方々とどのように接したらよいか、また、留意すべきことについて理解する。					全員	
9	学級の児童とのかかわり方で配慮すべきことを理解する。					全員	
10	実習日誌の書き方、授業記録の取り方を実例を通して理解する。					全員	
11	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(1)					全員	
12	観察実習・参加実習・授業実習の目的を理解し、観点や方法について十分な計画を立てることができる。(2)					全員	
13	実習校への連絡の取り方や事前オリエンテーションの内容について理解する。					全員	
14	実習での学びの整理と反省・自己評価が適切にでき共有できる。(グループ討議)手紙のマナーをもとに礼状を書くことができる。					全員	
15	実習報告会を主体的に計画し実習での学びを伝え合うことができる。履修カルテを記入に自己課題を明確にする。					全員	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業態度	50	教育実習に臨む者として相応しい態度で、真剣に学習に取り組んでいたか。	レポート/リフレクションカード等	50	毎授業ごとの内容を正確に把握し理解していたか。		
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック				
<ul style="list-style-type: none"> 各学校での公開授業に参加する。 実習校で学校支援ボランティアに継続的に参加する。 日程の変更や事前打ち合わせの日程は後日連絡する。 			各授業で出されたレポート等への応答は次の授業で行う。また、適宜質問は受け付ける。				
受講生に望むこと	実習校での躓きをなくすため、積極的にプレ実習に参加すること。		教科書・テキスト	『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 小学校教育実習 指定図書/参考書等と兼ねる。			
指定図書/参考書等	講義内で適宜紹介する。		その他・特記事項	実施回については、調整の上変更することがある。第14回・15回は教育実習終了後、日程調整の上行う。			
実務経験を活かした授業の概要							
<p>村井：実際の児童や教師の「一日」を取材し、写真や資料等を学生に提示し、グループ討議したり全体発表したりしている。</p> <p>幸：小学校教諭としての経験をもとに、教育実習 に向けて、小学校現場の日常を振り返り、教育実習生として何が出来るか、何をすべきか、何を学ぶのかについてディスカッションを行っている。</p> <p>福江：小学校教諭としての経験をもとに、小学校における実践(保幼小連携、特別支援等)を紹介し、グループ討議等に利用。</p> <p>・授業記録の取り方や研究協議会の持ち方など、現場における授業研究で即戦力となる技術を伝達している。</p>							

授業科目名	ET315U 小学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	福江 厚啓・川真田 早苗・村井 万寿夫・幸 聖二郎（代表教員 福江 厚啓）					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	4単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本実習は、金沢市内または金沢市近郊の公立小学校及び北陸学院小学校、または実習生の母校において実施するものとする。 学校現場におけるあらゆる教育活動を経験し、教師としての自覚と責任、その喜びを実感し、経験を通して実践的理解を深めることとする。</p>			<p>子どもや他の教師との積極的なコミュニケーションをとることができる。 各教科の教材研究や研究授業を通して教師としての基本的な技能とその心構えを身につける。 日々の記録を適切に記録することができる。 教師としての仕事の魅力や職責に気付く。</p>			
教授方法	実習 参観 研究授業 教材研究 個別指導					
履修条件	小学校教育実習指導 を履修していること					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	配属校の学校長より学校の概要の説明を受け、教育実習期間中の指導計画等を理解する。					
	各学級に入り、授業を参観して学級の実態を知ると同時に、子どもたちや指導教諭との意思疎通を図る。					
	授業を参観し、子どもの実態を知るとともに、休み時間を共有して子どもとの信頼関係を築く。					
	授業を参観し、指導教諭の授業の進め方を学ぶ。また、各教科の学習状況を把握する。					
	授業実習の準備をする。12～15回程度の授業実習を行い、指導教諭の指導を受ける。					
	研究授業の学習指導計画案を作成し、指導教諭の指導を受ける。（本時における目標を明確に、板書計画も準備する）					
	研究授業を実施する。					
	研究授業反省会を通して、担当教諭、管理職その他の教員等から指導を受ける。					
	学校行事の補助を通して学校全体の動きを理解し、それを踏まえて動くことの大切さを知る。					
	学級会活動の計画を立て、子どもの主体的な活動を生み出す工夫をする。					
	クラブ活動や委員会活動を参観し、その運営の方法を知る。					
	他学年（特別支援学級等）の授業も参観し、それぞれの学年、学級に応じた指導のあることを知る。					
	教育実習日誌を整理し、授業の記録、指導された内容を基に自分の課題に気付く。					
	学級運営、生徒指導についてなど実習期間中の疑問点を整理し、指導教諭から指導を受ける。					
	実習期間を振り返り、配属学級への感謝の気持ちを学級お別れ会等で表す準備をする。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
コミュニケーション能力	30	子どもたちや教職員と適切なコミュニケーションがとれていたか。	研究授業	40	教科・領域の本質に基づいた教材研究が充分になされ子どもの把握と指導が適切であったか。	
教育実習日誌	30	日々の記録と考察、次時への留意点等が適切に記述されていたか。				
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
各実習校指導教諭等の指導・指示に従う。			実習での反省や改善のための指導は、実習指導 における事後指導において行う。実習中担当教員の巡回により、適宜指導する。			
受講生に望むこと	小学校教育実習は、実習生だけでなく、配属校においても決して小さな物事ではない。小学校教師を目指す熱意を十分に高め、例え実習生であっても、子どもにとっては一人の教師であること、現場教職員にとっては北陸学院大学の代表として受け止められることを自覚し、実習に臨むようにしてほしい。		教科書・テキスト	なし		
指定図書/参考書等	なし / 『小学校学習指導要領』文部科学省、東洋館出版社、2018 ISBN 978-4491034607 『小学校教育実習ガイド』石橋裕子他、萌文書林2019 ISBN 978-4-89347-352-3 小学校教育実習指導 ・教科書と兼		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ET360U 中学校教育実習指導			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	中一種（英語）				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>本授業は、中学校教育実習のための事前及び事後指導である。1年次における中学校の英語授業参観や2年次におけるプレ実習（中学校免許取得を第1志望としている者のみ）の経験、及び英語科教育法～で学んだ理論や指導技術を統合し、現場で生かす実践力を身につける。また、現場での経験を省察しさらなる教師としての資質を向上させる。</p>				<p>教育実習の第1日目から最終日までをシミュレーションしながらイメージ化することができるようになる。 一時間の英語の授業を運営するための準備と工夫が手際よくできるようになる。 4技能別の指導技術を駆使しながら、英語を用いて英語を教えることができるようになる。 ④自分の授業のみならず、他者のものを観て、客観的に評価しながら授業を向上させることができるようになる。 ⑤教師としての、自分の資質を客観的に考察し、さらに一段上の資質を造り出す努力ができるようになる。</p>			
教授方法	講義、ディスカッション、模擬授業、						
履修条件	中学校（英語）の教育実習 を履修する者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション・心構え 本授業の到達目標を理解し、教育実習への心構えを新たにし、その責任と現在の自分がなすべき準備を理解する。自分が教壇に立つことをイメージすることができる。						
2	教育実習の意義と目的 4週間の教育実習期間をシミュレーションしながら、英語科教科教育法～で学んだことを統合し、教育実習の目的と意義をディスカッションを通して共有する。						
3	教育実習における「観察1」 生徒の登校から下校までの行動を観察することにより、学校全体の生徒指導や学級経営の一端を知ることができることを理解する。						
4	教育実習における「観察2」 学校全体の行事や活動に目を向けることにより、学校が生徒に何を求めているかを知ることができる、ということを理解する。						
5	教育実習における「観察3」 学級担任の学級経営や生徒指導が教科指導等に与える影響を知る。また、中学校における校務分掌の種類やそれぞれの役割を理解する。						
6	教育実習における観察と参加と実践 学校全体の教育活動で教育実習生が観察・参加・実践できる活動を説明し、実際に自分がかかわることが可能な活動を具体的に考えてみる。						
7	授業実践 授業の準備、授業実践、評価と反省の具体的方法を説明し、それぞれを確実に行うためのチェックリストを作成する。またこのチェック表を基に模擬的に授業の準備を行い、チェックリスト作成の留意点を考える。						
8	研究授業 研究授業の意義と目的を考え、同時に、授業研究や授業分析の方法を知る。また、英語の学習指導案を作成し、学習指導案と実際の授業とのギャップを考え、それをどのように補填するかを考える。						
9	教育現場が教育実習生に求める資質を考え、ディスカッションを通して、教師としての自らの課題を理解する。特に英語の教師として、必要な資質をコア・カリキュラム（文部科学省）を通して考えてみる。						
10	英語科の教育実習生に求められる英語力を考え、ディスカッションを通して、英語教師としての自らの課題を知る。特に、英語学、文学、第2言語習得論等の必要性を理解する。						
11	模擬授業1 学級活動や学年集会を意識しながら、いじめに対する指導の実際を模擬体験する。生徒指導上の問題（服装・盗難等）解決を意識しながら、生徒への具体的指導を模擬体験する。ディスカッションにより、各自の意識改革をする。						
12	模擬授業2 学級活動や学年集会を意識しながら、不登校や保健室登校の指導の実際を模擬体験する。ディスカッションにより、各自の意識改革をする。						
13	模擬授業3 英語による英語の授業を、oral introduction を核にしながら実践してみる。ディスカッションにより、英語による授業とはどのようなものかを各自で再検討する。						
14	まとめ 本授業を通して学んだことを基に、中学校教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。また、英語教師に求められる資質とは何かを各自が発表する。						
15	中学校教育実習の報告会 中学校における教育実習の振り返り、及び来年度、教育実習予定者へのアドバイスと諸注意を行う。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
ディスカッション	40	ディスカッションに積極的に参加したか			模擬授業	40	模擬授業の準備と与えられた課題への考え方
毎回の振り返りシート	20	授業内のポイントを把握しているか					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
市内の中学校のホームページを見て学校現場の様子をシミュレーションしてみる。 [30分]				返却時に行う。			
受講生に望むこと	教育実習では、生徒の前でどういう話し、どういう反応を求めるのか真摯に考えてほしい。文部科学省のホームページでもよいので「中学校の学指重要領」を一読してほしい。			教科書・テキスト	教科書等は使用せず、授業で資料を配布する。		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校・高校の現場で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。 ・中学校・高校の現場で実際に起きた問題をテーマにグループディスカッションを行っている。 							

授業科目名	ET365U 中学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、指導技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者 学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持てるようになる。 英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。					
	生徒を指導するに必要な専門的技術や能力を身につける。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。					
	中学校において指導する教科(英語)の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。					
	英語授業に関して：なるべく多くの英語を用いて授業を運営してみること。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みること。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか	
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。			教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。			
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。		教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 外国語編」 文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692		
指定図書/参考書等	なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ET370U 中学校教育実習		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	伊藤 雄二・宮浦 国江 (代表教員 伊藤 雄二)					
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>中学校教育実習指導で受けた事前指導に従って、北陸学院中学・高等学校または各自の出身中学校等での2週間の教育実習を行う。教育の現場での実地体験を通して、教師として必要な知識、教育技術、態度、心構えなどを習得し、教師としてのさらなる資質向上に努める。</p>			<p>コミュニケーション能力を身につける。対：生徒、教師、保護者学校という組織内の校務を知り、自分の役割に責任を持つことができるようになる。 英語教師としての適性を知り、自分に足りない資質を見極めることができる。</p>			
教授方法	9月に2週間、教育実習校の担当者から指導を受ける。大学の担当者からの実習巡回指導を受ける。					
履修条件	中学校教育実習指導を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	各実習校のプログラムに従って、以下の点について意識を持ちながら教育実習を行う。					
	各実習校の指導計画を理解する。わからないことは積極的に質問する。					
	学校教育実践の場において、教育の実態を知ること。大学の講義との違いを省察する。					
	大学で学んだ教科・教職に関する科目の理論・知識・技術を実習を通して実践・展開する。十分に機能しないことを記録する。					
	生徒を指導するのに必要な専門的技術や能力を身につける。生徒指導や教科指導について何を身に着けたかを記録する。					
	授業参観、学級活動、放課後の特別活動を通して、生徒理解に努め教育者としての自覚と資質を高める。生徒理解のためには、ほかにどのような機会があるかを考える。					
	中学校において指導する教科(英語)の他に、その他の教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、学級活動及び学校行事、教育相談、進路指導などの学校教育全般にわたって体験し、理解を深める。					
	英語授業に関して：文法・語彙・音声の指導を実践する。うまく実践できなかったことを再度、試みる。					
	英語授業に関して：英語を用いて授業を運営してみる。十分に運営できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：聞くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：話すことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：読むことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：書くことに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：教科書の題材を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。					
	英語の授業に関して：英語の文法を英語で導入することに重点を置いた指導を試みる。十分に指導できない原因を真剣に考え、再度、試みる。最終日には、英語教師としての自分の資質を客観的に評価してみる。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準	
実習校での評価	50	実習評価表の各項目	教育実習日誌	40	日々の実践の記録が必要十分に記録されているか	
巡回指導担当者の評価	10	提出物や巡回時の取り組み姿勢等				
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
実習校の担当教員の指導・助言に従うこと。			教育実習日誌を毎日、指導教員に提出し、指導・助言を受けること。			
受講生に望むこと	実習生であっても、ひとたび生徒の前に立てば、彼らはあなたを「教師」とみなします。自覚を持って教育実習に臨んでほしい。		教科書・テキスト	「中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 外国語編」文部科学省 開隆堂 2018 ISBN 9784304051692		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	ET230U 保育実習指導 (保育所)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択	
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)						
標準履修年次	3年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業では、保育士資格を得るために必要な保育実習 (保育所実習2単位)を行うための事前指導と事後指導からなっている。事前指導では、保育実習の意義と目的、保育現場に対する理解を深める。具体的には保育士に求められる倫理綱領をはじめ、実習に臨む基本姿勢、年齢・発達段階に応じた子ども理解・実習日誌の記入方法や指導計画の書き方、保育に必要な知識・技能の確認等、実習に向けた準備を行う。事後実習では、実習で体験したことの意味付けと自己評価を行い、これまでの保育観を省察する。それに基づいて自己課題を明確にし、次のステップである保育実習 または保育実習 に臨む。</p>			<p>保育実習の意義と目的を理解している。実習の内容を理解し、自らの課題を明確にすることができる。実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解している。実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解している。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。</p>				
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表						
履修条件	幼児教育・保育コース所属の学生以外は履修できない。「保育実習 (保育所)」を履修中、「保育実習 (施設)」を履修済の者。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	オリエンテーション：受講マナー・保育実習の意義 (1) 保育所実習の意義と目的・保育実習の概要・保育士の責務について理解する。プレ実習 (富樫子ども広場・実習先保育所) とプレ実習記録作成について理解する。					谷・高村	
2	保育実習の意義 (2)：授業概要の説明を行い、保育士の仕事を振り返り、保育士科目における施設実習指導の果たす役割について理解する。個人票を作成する。					谷・高村	
3	実習の内容 (1)：年齢別の発達・保育所の一日の流れを理解する。幼稚園と保育所の違いを理解する。					谷・高村	
4	実習の内容 (2)：年齢別保育と異年齢保育・統合保育、インクルーシブ保育を理解する。実習先保育所のレポートを作成する。					谷・高村	
5	保育実習生として (1)：保育園園長の講話「保育所の機能・保育士に必要な資質・実習性に望むこと」を聴き、準備に活用する。(日程・テーマは変更する可能性がある)					谷・高村	
6	保育実習生として (2)：保育所保育指針について、保育所における子どもの人権と最善の利益について考える。また、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構えを学ぶ。[グループワーク]					谷・高村	
7	実習における記録 (1)：実習日誌の使い分け・記入上の注意・観察・記録・評価についての確認。実際に記録を作成し、「個と集団」の観点から幼稚園実習との違い・共通点を考える。					谷・高村	
8	実習における記録 (2)：エピソード記録・記述の特徴と違いについて。実際に2種類の記録を作成する。					谷・高村	
9	事前訪問 (1)：実習先保育所の保育方針・概要を理解する。(子どもの姿を観察してくる) 実習日程・内容・プレ実習の日程を把握する。					谷・高村	
10	事前訪問 (2)：実習先保育所での実習内容を確認し、オリエンテーション記録を書いて提出する。					谷・高村	
11	プレ実習 (1)：実習先保育所の環境・保育の流れを把握する。担当年齢に即した手遊び・絵本・視聴覚教材・手作り教材を準備し、実践する。					谷・高村	
12	プレ実習 (2)：実習先保育所の担当クラスと子どもたちの様子を把握する。発達・年齢に対応した関わりを考える。保育士の関わりから学ぶ。					谷・高村	
13	指導計画の立案と記録：実習先の保育形態・年齢に合わせた指導計画を作成する。また、個別な関わりを中心とした部分実習の指導計画を作成し、実演・実践してみる。[グループワーク]					谷・高村	
14	保育所実習直前指導：実習中の諸注意確認。指導計画の修正・実演。[グループワーク]					谷・高村	
15	保育所実習事後学習：アンケート記入・実習を通しての自己の学びを振り返る。(自己評価・履修カルテ記入) 各園による多様な保育の形態や多様な子どもの姿を理解する。[グループワーク]					谷・高村	
成績評価方法と基準							
評価項目	割合 (%)	評価基準		評価項目	割合 (%)	評価基準	
授業参加態度	50	実習の目的を明確に理解している。主体的に討議に参加している。保育士の職務や保育を理解しようとしている。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出している。課題内容を理解し、工夫して取り組んでいる。実習日誌の書き方を理解している。指導計画を作成することができる。	
授業外における学習 (事前・事後学習等)			課題 (試験やレポート等) に対するフィードバック				
<p>プレ実習に積極的に参加し、様々な子どもの姿を事前に見て理解する。具体的な参加方法は授業で説明する。(実習先保育所・子ども広場) [240分×8]</p> <p>事前訪問やホームページを活用して、実習先について概要をまとめ、レポートを提出する。[120分]</p> <p>実習日誌のモデル案に従って日誌を書いてみる作業を通し、実習日誌の作成に慣れさせる。[60分]</p> <p>実習で求められる教材を実演できるように、作成・練習しておく。(手遊び・絵本・視聴覚教材(手作り教材)・季節に合った歌やゲーム・活動・製作など) [90分]</p> <p>実習園に限らず、子育て支援・障害者支援などのボランティアに参加する。[240分]</p>			個別指導及び授業内での振り返りを行う。				
受講生に望むこと	「幼稚園教育実習」「幼稚園教育実習指導」も同時に履修することが望ましい。保育士が子どもの成長・安全にかかわる仕事であることを十分に認識して授業に臨むこと。事前にテキストを熟読し、演習課題に取り組むことが望ましい。「社会的養護内容」「乳児保育」「子どもの食と栄養」の授業と関連づけて理解するように努めること。			教科書・テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482 必要に応じてプリントを配布する。 		
指定図書/参考書等	なし/なし (必要に応じて授業内で紹介することもある)			その他・特記事項	<ul style="list-style-type: none"> 委託費など実習にかかる費用についての詳細は1回目の授業で説明する。 無断欠席・遅刻・早退が多い・課題が提出されない場合は、実習を認めない。 		
実務経験を活かした授業の概要							
<p>谷：実習対象年齢による発達、環境の違いなど、学生自身が幼稚園と比較し捉え、関わり方や教材作りに活きるようグループワークを中心に行う。</p> <p>高村：保育所実習へ向けて、乳幼児の発達や保育所の日常を振り返り、保育所とはどのような施設であるのか、保育者に求められる力をグループで討議している。</p>							

授業科目名	ET320U 保育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	谷 昌代・高村 真希 (代表教員 谷 昌代)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>保育実習指導 で学んだ知識及び保育実習 で体得した学びを土台として保育実習 を行うための、事前指導・事後指導の授業である。</p> <p>事前指導では、保育実習 を通して得た学びと自己課題を明確にし、保育実習 では保育士の専門性についても理解を深める。保育実習 と同じ保育所で実習を行うことで、子どもの発達・成長を具体的に把握し、適切な保育・援助を行えるように十分な準備をする。</p> <p>事後指導では、学びの共有となる実習報告会を行った後、実習園からの評価や授業での振り返りをもとに、履修カルテへの記入を行う。</p>			<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。保育や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を身につけている。</p> <p>保育の観察・記録・自己評価などを踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学んでいる。</p> <p>保育士の専門性と職業倫理について理解している。</p> <p>実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしている。</p> <p>実習日誌の記入や指導計画の作成を適切に行うことができる。</p>			
教授方法	講義・演習・ディスカッション・発表					
履修条件	「保育実習 (保育所)」「保育実習指導」の単位を修得の者。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	保育実習 (保育所)における自己課題を整理し、実習 に向けて準備を行う。					谷・高村
2	子どもの最善の利益を考慮した保育について具体的に理解する。					谷・高村
3	子ども保育と保護者支援について : 多様な保護者支援のあり方を知る。保護者支援についてレポートを作成する。					谷・高村
4	子どもの保育と保護者支援について : 実習園での状況とレポート作成の視点を話し合う。保護者の求める支援と現実に行っている支援について考え、今後の保護者支援における課題を考える。[グループワーク]					谷・高村
5	保育実習日誌について : 時系列・エピソード記録・エピソード記述の視点、書き方を理解して作成し、提出する。子どもに寄り添い感じ取る、子どもの姿から背景・文脈などを読み取ることにについて考える。					谷・高村
6	保育実習日誌について : 保育所保育指針を参考にし、発達の観点をとらえ、ねらいを明らかにして指導計画を作成する。添削後の日誌を修正する。					谷・高村
7	実習先保育所の事前訪問: プレ実習の日程を確認する。子どもの姿を観察し、教材や各計画の準備に入る。					谷・高村
8	保育所事前訪問記録作成・実習課題の準備を行う。子どもに寄り添い深く読み取ることにについて考える。					谷・高村
9	保育士の専門性と職業倫理について考える。現職保育士の講話を聴き、学びのレポートを作成する。					谷・高村
10	保育実習 の指導計画を振り返り、保育実習 の部分実習や一日実習に向け指導計画についての理解を深める。指導計画案を作成し、提出する。今までの実習を振り返り、自己課題(苦手だった活動・保育技術等)を見直し、実践してくるよう計画に入れる。					谷・高村
11	作成した指導計画を基にグループディスカッションを行い、必要に応じて修正する。また、個々の子どもに応じた関わりあい・関わりについて考える。[グループワーク]					谷・高村
12	実習事後学習: 実習終了アンケートの作成・実習記録・レポートを基に自己の実習を振り返る。[グループワーク]					谷・高村
13	実習事後学習: 保育の観察・記録・自己評価に基づく保育の改善について考える。報告会の準備をする。[グループワーク]					谷・高村
14	実習報告会に参加し、他の学生と学びを共有する。レポートを作成する。					谷・高村
15	保育士としての自己課題を明確にする。(実習評価の伝達と履修カルテの記入)					谷・高村
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	実習の目的を理解している。主体的に討議に参加している。表現技術を身につけ実践しようとしている。保育士の職務や専門性について理解している。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出する。課題内容を理解し教材や指導計画を工夫して作成している。実習日誌の書き方を理解し、目的に応じて書き分けることができる。保育の現場に適した指導計画を作成することができる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>保育実習 で課題となった保育技術を磨くよう、家庭において練習や復習を行う。[240分]</p> <p>実習先でのプレ実習に参加し、記録を書く。回数や期間は授業内で指示する。[240分]</p> <p>子どもの年齢に応じた歌や手遊び、製作、手作り教材による活動など、事前に準備しておくこと。[早めにとりかかり準備する]</p> <p>指導計画案を作成する。[240分]</p> <p>授業内で出された実習日誌の作成課題をする。[240分]</p>			指導計画の実演紹介等、に対する助言指導。			
受講生に望むこと	<p>「保育所実習」で気づいた自己課題を意識して、授業に参加すること。</p> <p>保育士に求められる技能や知識、資源を自ら高める努力をすること。</p> <p>「保育内容・健康」「保育内容・人間関係」「保育内容・環境」「保育内容・言葉」「保育内容・表現」「児童家庭福祉論」「家庭支援論」「乳児保育」「社会的養護内容」の授業に関連づけて、理解するよう努めること。</p> <p>子どもの育ち、遊びによる学びが乳児から幼児期、学童期と繋がりを持っていることを意識して子どもの姿をとらえてほしい。</p>		教科書・テキスト	<p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482</p> <p>・授業でプリントを配布するので、各自A4判のファイルに保管すること。</p>		
指定図書/参考書等	なし/なし(授業内で紹介することもある)		その他・特記事項	無断欠席・遅刻・早退が多い・課題未提出・授業態度により、実習を認めない。		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>谷: 自分たちの実習ファイルを振り返り、エピソードからの学びを語り合う。最終実習では子どもの姿を読み取る、感じ取ることに重点をおき、エピソード記述の捉え方、意味を知り、保育現場の記録の在り方を学ぶ。</p> <p>高村: 保育所実習 へ向けて、保育現場の現代的課題を再整理し、指導案を立てる中で実践からの学びをグループで討議し、意識を高めている。</p>						

授業科目名	ET330U 保育実習指導		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齊藤 英俊・松本 理沙 (代表教員 虹釜 和昭)					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「保育実習（施設）」を基礎におき、施設理解を深めるために、自らの課題を考察する。作成した実習テーマ、実習計画、ねらい、課題について指導を受け、また実習に入ってから指導者より受けるスーパービジョンの性格、内容などを理解する。実習終了後の事後学習により、評価できる点、反省点などを整理することにより、専門職としてのあり方を考察する。</p>			<p>1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学んでいる。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培っている。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解している。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確化できる。</p>			
教授方法	演習形式により、児童福祉施設の実際について、教員よりの講義、ワークシート作成、各機関におけるフィールドワーク、グループディスカッションなどにより課題を明らかにする。					
履修条件	「保育実習（施設）」を履修済であること。原則、児童福祉施設・障害者支援施設への就職を指向する学生であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	本学で学ぶ児童福祉関連の各科目と実習の関係を理解する。ボランティアと実習の違い、体験学習と実習の違い、配属実習を行う意味を理解する。					
2	施設や利用者（家族を含む）の、地域や社会との関係理解を深め、施設の機能としての地域社会への働きかけ、地域貢献のあり方を理解する。					
3	子ども・利用者の入所経路（特に、児童相談所・福祉事務所の果たしている役割など）や入所理由など社会的背景を学び、その中で施設の果たしている役割、機能を理解する。					
4	関係機関の役割、施設との関係について深く考察し、関係機関資料の収集方法や課題などを理解する。					
5	子ども・利用者のケーススタディ（ケースの背景を理解し、子ども・利用者の課題に対する支援法及び援助技術の検討）を行う。これをもとにして、子ども・利用者の支援のあり方を学ぶ。					
6	保育士が実践するソーシャルワークについて学ぶ。施設を利用している子ども・利用者の抱える問題にかかわる家庭的、社会的状況を知り、ソーシャルワーク援助技術についての理解やソーシャルワーカーとの連携を理解する。					
7	児童福祉の専門職資格を学び、保育士資格の意義目的などを理解する。実習前に修得すべき内容を整理し、他の児童福祉分野、他職種との連携を理解する。					
8	実習に臨むに際しての学習計画、実習計画を策定し、それに伴う必要事項を理解する。実習前の事前学習として利用者に関する二一ス、機能を明確にする。					
9	公文書としての実習記録の意味、まとめ方を考察する。逐次記録の作成方法、事実記録（要約）文と感想文及び考察文の書き分け。					
10	事前訪問を行い、施設構造、機能、サービス内容、利用者の特徴、活動状況などを正確に理解し、事前訪問記録を作成する。					
11	事前訪問で学んだことの報告を行なう。他の学生が訪問した施設の現状を学び、再度疑問点、課題などを整理する。					
12	保育士・支援員の支援について、その必要性と支援内容を対比して実習で何をどのように学ぼうとしているのかなどの課題確認を行う。					
13	ディスカッションを行う。実習内容の疑問、ジレンマ、評価できた点などを相互に、自由に語り、聴いて内容を共有する。そこから学ぶべき点、自らの実習と対比させて実習について自己評価を行う。					
14	多様な実習体験内容を事後学習により、経験知として積み上げる意義や方法を理解する。実習において未解決であった課題を共有し、事後学習の取り組みの中で解決方法を探究する。					
15	事後報告会に参加し、自らの実習と対比させて考察する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
講義参加姿勢	50	実習の目的を明確に理解している。主体的に討議に参加している。保育士の職務や保育を理解しようとしている。実習報告会に積極的に参加している。		課題提出	50	課題を期日までに提出する。課題内容を理解して、工夫して取り組んでいる。実習記録の書き方を理解している。指導計画を適切に作成することができる。
授業外における学習（事前・事後学習等）						
原則、「保育実習（施設）」での実習施設とは異なった種別の施設で実習する。そのため、実習施設などにて体験学習としてのボランティア等の活動などから、実習テーマを明確にすること。施設実習先は社会的養護関係施設、障害者支援施設・就労支援施設など多岐にわたるため、各自の実習施設の実習の目的・機能についてまとめる。〔240分〕 施設実習は「生活を通しての治療」という性格が強く、実習生の日常生活や姿勢・態度など、自らの姿が実習そのものに大きく影響することを考察する。〔60分〕 実習報告会に向けて、各施設が有する課題及び問題解決の方法を考察する。〔120分〕				事後指導において、実習内容などの講評を行う。		
受講生に望むこと	実習施設は多岐にわたっているため、保育実習（施設）での内容が経験知として積み上げられない場合がある。保育実習（施設）はより専門性が求められるハードな実習であり、自分の実習配属先施設の情報、テーマに関する先行研究、文献、他のメディアなどを通して収集する努力が求められる。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、講義時に「実習ハンドブック」などの資料配付を行う。	
指定図書/参考書等	なし/『保育実習指導のミニマムスタンダードVer 2』-協働する保育士養成-、全国保育士養成協議会編、中央法規、ISBN978-4-8058-5686-4			その他・特記事項	委託費など実習費用約15,000円が必要となる。詳細は初回講義時に説明する。無断欠席・遅刻や課題未提出がある場合、実習を認めない。	
実務経験を活かした授業の概要						
「保育実習（施設）」の成果を踏まえ、記録及び実習施設提供資料を用いて、その課題、構造的な問題、人材確保、勤務年数などの課題を明確にし、児童相談所における最前線職員からのヒアリング、実習施設以外の種別施設訪問及びヒアリングを通して学びを深めている。						

授業科目名	ET335U 保育実習（施設）		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭・齋藤 英俊・松本 理沙（代表教員 虹釜 和昭）					
標準履修年次	3年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士			
授業の概要			授業の到達目標			
実習期間として設定した12月上旬から中旬に、10日間（90時間）の宿泊による「施設実習」を行う。実習施設は大学より実習を依頼した原則北陸三県における児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて実習する。			児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設の養護を実際実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。			
教授方法	児童福祉施設（保育所以外）、その他社会福祉施設にて原則「宿泊実習」を行うとともに実習指導担当職員、および担当教員による巡回指導を受ける。					
履修条件	「保育実習（施設）」を修得済であること、及び「保育実習指導」を履修中であること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
	90時間(約11日間)の実習において、次の1～14の内容を行う。					
	1 施設種別の理解、提供されているサービス内容を把握し、職員の役割、業務内容と専門性を理解する。					
	2.実習施設にて実践されている保育・養護などの支援体制、技術を理解する。					
	3. 実習施設の地域における位置づけや地域との関係を理解する。					
	4.生活場面における指導のあり方、子どもとの関係性を理解する。					
	5.入所児童及び家族と職員のコミュニケーションについて理解する。					
	6.実習施設の日中活動から、その意義などを理解する。					
	7.自立支援計画の概要、記入などについて職員の方より指導を受ける。					
	8.養護(養育)実践におけるPDCAサイクルの具体的展開を理解する。					
	9.行事及び活動などの計画を考察し、自らプランを立ててみる。					
	10.実習記録の記載について、事実経過の描写・解釈の書き分け及び解釈理由を考察する。					
	11.実習前の自らの施設観と実習後半の違いを考察する。					
	12.実習のふり返りを行い、基幹的職員、実習指導担当者による反省会から自らの問題点などを考察する。					
	13.実習担当者のスーパービジョンの内容を考察し、自己評価を行う。					
	14.実習を通じて学んだことより、児童福祉施設等のありかた、将来像を考察する。実習報告会に参加・発表する。					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
実習先の評価	50	実習施設作成の「実習評価表」における項目ごとに評価する。		巡回担当教員評価	30	巡回時の担当教員によりヒアリング等面談内容について評価する。
提出物	20	「事前訪問記録」、「実習記録」、「実習のまとめ」、「終了レポート」等の内容評価。				
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
実習の目標を理解した上で実習に臨むこと。〔30分〕 実習反省会などの機会を用い、担当職員との報告・連絡・相談を徹底すること。教員による実習巡回時のアドバイスなどを踏まえた内容を実習記録に反映する。〔50分〕				事後指導において、実習内容などの講評を行う。		
受講生に望むこと	「保育実習」では、施設の持つ「専門機能」を理解し、社会的役割、使命という視点から考察することが求められる。また、職員の「専門性」である、個々の職員が有する資質・能力、職種として求められる最低限の知識とは何か、について咀嚼されたい。施設機能は未分化の部分（日常性が表出している、その背景にある専門性が見えにくい）が多くあるが、体系的に施設理解が出来るような努力が求められる。「経験」としての実習であり、個人と環境を取り巻く相互作用であることを意識する。			教科書・テキスト	テキストは使用せず、「実習ハンドブック」などの配付資料を用いる。	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	実習施設は受講生の配属希望調査を実施した上で実習担当教員が配属する。その他・事前訪問及び実習にかかる交通費については原則自己負担となる。	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

子ども教育学科
(4年次)

授業科目名	EK305U 専門ゼミ			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・虹釜 和昭・田邊 圭子・中島 賢介・宮浦 国江・村井 万寿夫・永山 亮一・幸 聖二郎・齋藤 英俊・福江 厚啓・高村 真希・谷 昌代（代表教員 向出 圭吾）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
<p>専門ゼミの最終段階として専門ゼミIに引き続き、それぞれの専門分野で設定したテーマに沿って研究を深める。具体的には口頭発表の方法(効果的な発表方法、プレゼンテーション技術等)を身につけ、調査研究、文献研究、ゼミ生相互の検討、意見交換などを通して、レポート執筆などを行う。大学での学びを集約し、その成果を専門ゼミ レポート(16000字程度:該当年度1月下旬締切)としてまとめるとともに、卒業後の課題の探求姿勢を身につける。</p>				<p>各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 専門ゼミ レポート(または作品と副レポート)の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 研究内容をまとめ、効果的に発表することができる。</p>			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指示のもと演習形式で行う。						
履修条件	「専門ゼミI」の単位を修得済みの者						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	専門ゼミ の運営についてのオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
21	ゼミ内中間発表を行う。						各担当教員
22	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
28	各ゼミ内でレポートの発表を行う。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	ゼミ内で、専門ゼミ 発表会のリハーサルを行う。				各担当教員
30	専門ゼミ レポート発表会を行う。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	レポート作成	70	計画的にレポートを作成し、作成要領に従って期限内に提出している。
レポート発表	20	専門ゼミ レポート発表会において、レポート内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する。[90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかり受け止め、納得のいくゼミレポートを作成してください。		教科書・テキスト	ゼミでの指定による。	
指定図書/参考書等	なし/ゼミでの指定による。		その他・特記事項	専門ゼミ とともに卒業研究を履修した場合には、卒業研究の作成により専門ゼミ レポートの作成は不要とします。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	EK360U 卒業研究			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修
担当教員名	向出 圭吾・伊藤 雄二・虹釜 和昭・田邊 圭子・中島 賢介・宮浦 国江・村井 万寿夫・永山 亮一・幸 聖二郎・齋藤 英俊・福江 厚啓・高村 真希・谷 昌代（代表教員 向出 圭吾）						
標準履修年次	4年	開講時期	通年	単位	4単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要				授業の到達目標			
4年間の学びの集大成として、学習内容を論理的・体系的にまとめ、実社会において科学的・論理的視点から物事を捉えることができるようにする。指導方法としては、担当教員の専門分野に分かれ、個別指導のもとに展開し、卒業研究または卒業作品（作品と副研究）としてまとめる。				各自が設定したテーマに沿って、文献・資料検索やデータ収集などを行うことができる。 卒業研究や卒業作品（作品と副研究）の作成を通して、設定したテーマをより深く理解し、文章化することができる。 学習内容を論理的・体系的にまとめ、効果的に発表することができる。			
教授方法	ゼミごとに指導教員の指導のもと各自の研究課題をまとめる						
履修条件	「専門ゼミ」を履修し、単位を修得済みの者。3年次終了時点で累積GPA2.5以上を確保していること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	卒業研究の運営についてオリエンテーションを行う。						各担当教員
2	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
3	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
4	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
5	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
6	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
7	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
8	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
9	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
10	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
11	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
12	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
13	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
14	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
15	ゼミごとに前期のゼミ活動を総括する。						各担当教員
16	ゼミごとに後期のゼミ運営のオリエンテーションなどを行う。						各担当教員
17	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
18	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
19	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
20	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
21	各ゼミの担当教員の指導に従う。各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
22	ゼミ内中間発表を行う。						各担当教員
23	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
24	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
25	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
26	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
27	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員
28	各ゼミの担当教員の指導に従う。						各担当教員

授 業 計 画					
実施回	授業内容・目標				担当教員
29	ゼミ内で、卒業研究発表会のリハーサルを行う。				全員
30	卒業研究発表会で発表を行う。				各担当教員
成績評価方法と基準					
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	10	担当教員の指示に従い、ゼミ内における役割を意識して行動している。	卒業研究の作成	70	計画的に卒業研究を作成し、作成要領に従って期限内に提出している。
卒業研究の発表	20	卒業研究発表会において、卒業研究の内容を効果的に発表している。			
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
設定したテーマに沿って、綿密な研究計画を立てた上で、調査研究・文献研究を行い、テーマをより深く理解することができるように準備する [90分]			課題については、授業の冒頭部にコメントを付して返却		
受講生に望むこと	4年間の学びの集大成であるので、個別指導をしっかりと受け止め、納得のいく卒業研究を作成してください。		教科書・テキスト	ゼミの指定による	
指定図書/参考書等	なし/ゼミの指定による		その他・特記事項	卒業研究の規定文字数は24000字以上(図表等を含む)とする。作品を提出する場合は、研究論文に作品を添えて提出する。卒業研究の提出は当該年度の期限までに大学事務局教務課とする。この場合の副研究論文は16000字以上とする。専門ゼミとともに卒業研究を履修した場合は、卒業研究の作成により専門ゼミ レポートの作成は不要とする。	
実務経験を活かした授業の概要					
なし					

授業科目名	EK350U 初任教と教育		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	必修	選択必修	
担当教員名	楠本 史郎・中島 賢介 (代表教員 楠本 史郎)							
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義	
他学科の履修	不可	関連資格		なし				
授業の概要				授業の到達目標				
<p>キリスト教世界では旧・新約聖書の人間観に基づき、子どもは神に創造され、愛される尊い人格として重んじられる。その人格を養い育てるために、キリスト教保育・教育は重要な役割を担ってきた。その努力と経験、知見の上に、近代の保育・教育理論は立てられている。本講義では、キリスト教保育・教育の基礎である旧・新約聖書の人間観に立ち寄り、子どもの人格の重要性を確認する。その上で、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育のあり方、またそれに続くキリスト教小学校教育との連携のあり方、それぞれの基本を、子どもの発達段階を確認しながら学び、考える。さらに、キリスト教保育・教育の具体的な展開を、礼拝および聖話、聖劇パフォーマンス、音楽・賛美歌、自然環境など、各領域で体験・実践する。キリスト教保育の特徴である賛美歌を理解して歌い、祈りを作成し祈る。</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・保育・教育の展開の基礎に、キリスト教、とくに聖書の人間観があること、その重要性を理解する。 ・保育・教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と特徴、意義を理解する。 ・キリスト教保育・教育の実態に触れ、その根底にある子ども観と、一人ひとりの子どもへの基本的な関わり方、同時に子どもの集団形成の視点を知る。 ・礼拝のお話を作り、子どもに語り、子どもとともに祈ること、幼児賛美歌・子ども賛美歌を理解して歌い、伴奏すること、聖劇を作り演じること、神の創造の業である自然環境に親しみ、それを保育・教育に活かすことを経験し、その準備、実行、振り返りの流れを理解する。 ・子どもの発達段階を理解し、キリスト教保育の役割と小学校教育への接続の課題を知る。 ・幼児、初等・中等教育者となる意味と喜びを理解し、意欲を持つ 				
教授方法	毎回配布するレジュメに基づく講義、グループによる活動と発表、学外保育者・教育者との交流、聖話および聖劇の制作・発表、自然体験などによる							
履修条件	キリスト教関連科目、および教育に関する基本科目を履修していることが望ましい。							
授業計画								
実施回	授業内容・目標							担当教員
1	ガイダンス 授業予定、祈りと賛美歌伴奏についての説明など。教育史におけるキリスト教保育・教育の位置と意義を学ぶ。キリスト教保育・教育者としてのオーベルラン、バスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリなど。							楠本・中島
2	キリスト教保育・教育の基盤である聖書の人間観および、それに基づくキリスト教的発達観を学ぶ。創世記第1章・第2章、マルコ10章など。なぜ、この一人が大切なのかを聖書から学び、「自己肯定感」について考える。							楠本・中島
3	キリスト教保育とは、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」自由な保育である。その内容と実際、また課題を、現場の保育実践から学ぶ。保育における「遊び」の意義を知り、理解する。							楠本・中島
4	キリスト教保育の実際について、現場の保育者から学ぶ。「キリスト教保育の喜び」を主題にシンポジウムを行い、学生と交流し、保育の喜びと課題を分かち合う。							楠本・中島・キリスト教園長・教諭
5	保育現場からの報告をもとに、「一人ひとりが輝き、ともに響きあう」キリスト教保育について振り返り、重要な点について話し合い、課題を整理する。子ども同士の衝突やトラブル、保護者への対応の基本について、学ぶ。							楠本・中島
6	キリスト教小学校の実際について、北陸学院小学校教諭から、「キリスト教小学校教育の喜び」という主題で話を聞く。学生と交流し、教育の喜びと課題を分かち合う。保育と小学校教育の相違と継続について考える。							楠本・中島・北陸学院小学校教諭
7	キリスト教保育と小学校教育の連携について学ぶ。小学校入学までに育っていることが望ましい子どもの姿とは何か。幼児から青年期までの発達段階全体を踏まえて、そのなかでの幼児教育の役割を確認し、小学校との連携の実際を学ぶ。							楠本・中島
8	キリスト教保育における礼拝。聖書のお話（聖話）を作る。指定された聖書の物語の読み方、理解の仕方、礼拝におけるお話の作り方、話し方などについて学ぶ。平和、性、安全・健康、国際理解などなどの主題を意識しながら、各自でお話を作ってみる。							楠本・中島
9	キリスト教保育における礼拝 聖書のお話を実際に話してみる。良かった点と課題を確認し合い、分かち合う。その上で修正を加え、お話し集を作成する。							楠本・中島
10	幼稚園の降誕劇を視聴し、聖劇作成の要点を確認する。グループに分かれ、指定された聖書の物語を題材に、聖劇台本を作り、提出する。聖書の物語の読み方、理解の仕方、台本の作り方、演じ方などについて学ぶ。							楠本・中島
11	賛美歌の歴史、意味、歌い方について学ぶ。幼児さんびか、子どもさんびかを理解し、伴奏し、実際に歌う。子どもが賛美歌を歌う意味を学ぶ。							楠本・中島
12	目標：グループによる聖劇の発表を行う。良かった点と課題を確認し合い、分かち合う。その上で修正を加え、劇台本集を作成する。							楠本・中島
13	キリスト教保育にとって、自然は神が創造し、人間に与えられた重要な環境であり、保育・教育の重要な要素である。その自然に実際に触れる。保育・教育の素材を探し、どんな自然物をどう使うことができるか、考え、体験する。							楠本・中島
14	自然環境から素材を選び、保育・教育に生かすために、どのような方法があるか、経験し、学ぶ。自然体験レポートを作成し、提出する。							楠本・中島
15	キリスト教保育・教育についての小テストと、キリスト教保育・教育についての振り返りとまとめ。							楠本・中島
成績評価方法と基準								
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準	
授業参加度	20	講義での発言、グループ活動への参加、発表や賛美歌伴奏の積極性			提出物	30	祈りの原稿、聖話の原稿、聖劇の台本などの作成と出来栄	
毎回のミニレポート	25	その講義で学んだことの理解度			小テスト	25	キリスト教保育・教育についての理解度	
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
<p>前回授業のレジュメ・資料を振り返り、本シラバスにより次回内容を確認した上で、次の授業に臨む。〔15分〕 提出物（聖話原稿、聖劇台本、自然観察レポートなど）を作成し、提出する。〔60分〕 楽楽練習、祈りの作成など、授業に臨む準備をする〔30分〕</p>				<p>毎回の授業で、前回の授業内容の振り返りと、シートに基づき、必要なコメントをする。</p>				
受講生に望むこと	受け身ではなく、主体的に授業に参加すること 旧・新約聖書、賛美歌集を持参すること 遅刻や欠席、私語をせず、携帯電話等も鞆にしまい、きちんとした授業態度を確立すること			教科書・テキスト	『新共同訳聖書』日本聖書協会、『讃美歌21』日本基督教団出版局			
指定図書/参考書等	『キリスト教保育』2007年 聖公会出版、ISBN978-4-88274-181-7C3037、『新キリスト教保育指針』2011年 キリスト教保育連盟、「キリスト教保育」誌 キリスト教保育連盟、各種絵本など			その他・特記事項	通常授業時間以外に、野外実践を2コマ続けて行う。適切な服装で必ず参加すること			
実務経験を活かした授業の概要								
<p>楠本：教師として聖書・キリスト教研究の成果を、幼稚園園長・宗教教師としての経験を実例として挙げつつ、キリスト教人間観・歴史観・教育観について講義し、学生にレスポンスペーパー記入を義務付け、それに応える形で授業を進めている。 中島：小学校における勤務経験をもとに、北陸学院小学校でのキリスト教教育の経験を授業内で紹介し、協議する。</p>								

授業科目名	EE350U 小学校英語科教育法		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	宮浦 国江・伊藤 雄二 (代表教員 宮浦 国江)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種			
授業の概要			授業の到達目標			
この授業は小学校教諭一種免許状の「または科目」である。本講義では小学校英語科教育法 で学んだことを発展させ、実際の授業場面を想定して指導案を作り、教材を使って模擬授業を行いながら実践的指導力をさらに高める。英語母語話者と共にチームティーチングを準備から行い、ALTとの協同作業による授業実習を行う。			子ども英語教育に関する知識を習得する。 学んだ教授法を実践と関連付けて考えることができる。 第一言語習得と第二言語習得の違いが分かる。 子ども英語指導に必須のチャンツやフォニックスの意味・内容・意義を知り、効果的に指導する態度を持つ。 あらゆる場面で見られる子どもの学び・言語習得に対する鋭い観察眼を持つ。 。クラスルームイングリッシュを適切に用いて英語母語話者とコミュニケーションを図ることができる。			
教授方法	講義・演習・実習・ディスカッション					
履修条件	小学校教諭一種免許状取得希望者で「小学校教育実習」・「小学校英語科教育法」の単位を履修済みであることが望ましい。英語力がSTEP英検2級相当以上ある者が望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション、小学校英語教育実習(5月中1週間)について説明を受け理解する。小学校英語科教育法 で学んだことを振り返り、重要な点を再確認する。					宮浦・伊藤
2	授業づくり--事前準備から振り返りまで小学校英語教育実習について割り当ての発表および指導案作成について学ぶ。					宮浦・伊藤
3	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて模擬授業1回目					宮浦・伊藤
4	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて模擬授業2回目					宮浦・伊藤
5	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて模擬授業3回目					宮浦・伊藤
6	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチングに向けて最終確認と授業準備					宮浦・伊藤
7	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第1日(割り当てられた学年の指導)					宮浦・伊藤
8	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第1日(割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援)					宮浦・伊藤
9	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第2日(割り当てられた学年の指導)					宮浦・伊藤
10	北陸学院小学校におけるALTとのチームティーチング第2日(割り当てられた学年以外のクラスの授業参観・支援)					宮浦・伊藤
11	小学校英語教育実習での学びについての振り返り					宮浦・伊藤
12	言語材料と4技能の指導、評価のあり方、進め方					宮浦・伊藤
13	ALTとのチームティーチングの好ましいあり方を考える					宮浦・伊藤
14	外国語活動の成果、課題と今後の展望について学ぶ					宮浦・伊藤
15	まとめ：これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする					宮浦・伊藤
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加貢献状況	25	予習として教科書を読み、ポイントをまとめたか。課題意識を持って意欲的に授業に参加し、質問や発言をしたか。授業実践に向けて自律的に準備を行ったか。		授業実践	50	ねらいに沿った指導案と授業運営をしたか。チームティーチングの準備をきちんと行ったか。児童を観察しながら授業を進めたか。日本人教師としての役割を果たし、母語話者の特性も活かしたか。
自己省察・ディスカッション	25	小学校英語科教育法 で学んだこと、ALTとのチームティーチング実践を振り返り、これからの小学校英語教育について考えるとともに各々今後の課題を明確にする				
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
予復習をしっかりと行うこと[50分]。 クラスルームイングリッシュ・英会話を頻繁に使用し英語運用力の向上を図ること[40分]。 担当する小学校の授業を参観し児童理解を深め、授業運営を把握しておくこと。 模擬授業の際は十分な時間をかけて準備し、リハーサルをして臨むこと。 ALTとの打ち合わせは効率よく行うこと。				返却時に行う		
受講生に望むこと	意欲的に取り組むこと。 英語にひるまず英語力を高めるチャンスととらえること。 英語力を高めるため、英語力測定を定期的に行うこと。			教科書・テキスト	『新編小学校英語科教育法入門』 樋口忠彦(代表)編著研究社 2017年 ISBN 978-4-327-41098-8 2018年度小学校英語科教育法 と同じ教科書を使用 小学校英語科教育法 で配布した資料 適宜配布するハンドアウト	
指定図書/参考書等	なし/子ども英語関連書籍			その他・特記事項	5月の小学校模擬授業(日程は講義内で指示する)合計10時間分は自分の担当以外の授業も全て参加する。この間はアルバイト等自己都合の用事を入れず、実習に集中すること。詳細は1時間目にハンドアウトを用いて説明をする。	
実務経験を活かした授業の概要						
伊藤：教員の経験をもとに次の授業を行っている。 ・小学校現場における具体的な課題についてグループで解決策を討議、発表させる。ロールプレイを導入している。 ・小学校での経験を短期間の教育実習の指導案作成指導に生かしている。						

授業科目名	EC300U 選択音楽		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択必修
担当教員名	多保田 治江・武田 恵美 (代表教員 多保田 治江)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	1単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	なし			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>「音楽」で身に付けた知識や技能をさらに高める授業である。歌唱や器楽の土台となる音楽理論やソルフェージュに加え、指揮法についても学ぶ。また、保育現場や小学校の授業で必要とされる歌唱教材の弾き歌いや伴奏法等を学び、実践的な知識と技能を身に付けることを目的とする。</p>			<p>小学校音楽科の指導内容について理解するとともに、その背景にある音楽とのつながりについても理解している。子どもの音楽表現を保育活動として進めていくための方法について実践を通して習得している。歌唱教材の弾き歌いとリズム曲が演奏できるようになる。</p>			
教授方法	実技指導					
履修条件	「音楽表現」、「音楽表現」、「器楽」、「音楽」「音楽科教育法」または「保育内容・表現」を履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：科目を学ぶ意義、到達目標、授業の進め方、成績評価等について理解する。					全員
2	楽典：譜表と音名・音符と休符 視唱・視奏：八長調					全員
3	楽典：リズムと拍子・音程 視唱・視奏：八長調					全員
4	楽典：音階 発表					全員
5	楽典：和音とコードネーム 視唱・視奏：ト長調					全員
6	楽典：主要三和音 視唱・視奏：ト長調					全員
7	楽典：記号・用語 発表					全員
8	楽典：編曲 視唱・視奏：ヘ長調					全員
9	楽典：作曲 視唱・視奏：ヘ長調					全員
10	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法・・・4分の4拍子 発表					全員
11	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方法・・・4分の4拍子					全員
12	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方・・・4分の2拍子					全員
13	拍の流れやフレーズを感じ取って演奏する方・・・4分の3拍子					全員
14	指揮法：合唱曲 発表					全員
15	指揮法：合奏曲					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	60	受講態度、課題への取り組みと内容。(「受講生に望むこと」欄を参照)		発表	40	発表への取り組みと内容。
授業外における学習(事前・事後学習等)				課題(試験やレポート等)に対するフィードバック		
毎回の授業後に、自身で振り返り、不明点を調べて下さい。[30分] 次回授業のための課題について準備をして下さい。[60分]				課題は、次回に個人指導します。		
受講生に望むこと	毎回出される課題に積極的に取り組んで下さい。個人で行う課題とグループで行う課題があるので、グループワークはチームワークよく課題に臨んでください。			教科書・テキスト	『幼児のうた楽譜集』小林美実編 東京書籍 2014年 ISBN978-4-487-71121-5 / 『小学校音楽科教育法』有本真紀・阪井恵・山下薫子編著 教育芸術社 2017年 ISBN978-4-87788-491-8 / プリント	
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
なし						

授業科目名	EC310U 教育実践研究B		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択必修	
担当教員名	虫明 淑子						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	講義
他学科の履修	不可	関連資格	なし				
授業の概要			授業の到達目標				
<p>本授業は、実践の研究的検討を目的とし、自身が関わった実践事例について映像を含む諸記録等の情報を総合し、個々の子どもの具体的な学びの内容と学びを支える環境について考察すること、その学びに連続して展開する実践の計画を考えることを演習する。同時に、保育者、教師として協働して子どもを理解することの楽しさを知り、保護者への発信など、対象児と関わる他専門職と共に子どもを育む資質・能力を身につける。</p>			<p>実践においては協働して、子どもの姿を予想し、学びを具体化する教材・環境を準備することができる。 実践を記録し、協働して振り返り、ドキュメンテーションにまとめることができる。</p>				
教授方法	グループ討議・グループワーク・講義・実践（授業外を含む）						
履修条件	幼稚園教育実習、保育実習、小学校教育実習のいずれかを履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標					担当教員	
1	ガイダンス：「保育実践」を見る視点・視野について考える。						
2	子どもの目で見ると：予定する実践における子どもの心の動きをいろいろな子どもについて予想する。						
3	子どもの目で見ると：予定する子どもの遊びにおいて、どのような感覚や動きによって子どもは自らのイメージの世界を創るかを考える。						
4	子どもの目で見ると：予定する遊びのために教材づくりの計画を立て、実際に教材を製作しながら、様々な子どもの動きを想像し、教材を充実させる。						
5	実践（実践の日時、場所、内容はグループによって異なる場合がある。）						
6	実践の記録（映像を含む）から、実践を検証し、次の実践を多方向で考える。						
7	実践から展開する次の実践を具体化する。（指導計画・教材製作・ドキュメンテーションの作成など）						
8	実践（実践の日時、場所、内容はグループによって異なる場合がある。）						
9	実践の記録（映像を含む）から、実践を検証し、次の実践を多方向で考える。						
10	実践から展開する次の実践を具体化する。（指導計画・教材製作・ドキュメンテーションの作成など）						
11	実践（実践の日時、場所、内容はグループによって異なる場合がある。）						
12	実践の記録（映像を含む）から、実践を検証し、次の実践を多方向で考える。						
13	実践から展開する次の実践を具体化する。（指導計画・教材製作・ドキュメンテーションの作成など）						
14	実践を研究報告としてまとめることの意味と方法について理解する。						
15	保育・教育現場において実践を研究発表する場を想定し、それぞれの方法で、授業での実践を報告する。						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準	評価項目	割合(%)	評価基準		
授業参加態度	20	授業や課題に積極的に取り組んでいるか。	記録・報告	30	記録から実践を振り返り、改善につなげているか。		
協働の実践	20	協働的な態度で実践しているか。	研究発表	30	研究までの取り組みと発表内容		
授業外における学習（事前・事後学習等）			課題（試験やレポート等）に対するフィードバック				
「実践」は学外で行うものもあり、学内で行う場合にも来学する子どもたちの都合により、授業外の時間に行うものが多くあることを承知されたい。			実践や協議の中で得られた疑問や質問等については随時に対応する。疑問や質問等については必要に応じ、次回以降の授業において共有化する。				
受講生に望むこと	幼稚園教育実習、保育実習、小学校教育実習いずれかの単位を取得していることが望ましい。		教科書・テキスト	『幼稚園教育要領解説』文部科学省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省フレーベル館 2018年 ISBN：9784577814439 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館			
指定図書/参考書等	なし/授業内で適宜紹介する		その他・特記事項	なし			
実務経験を活かした授業の概要							
園内研修を構築した経験をもとに、保育実践の中にある保育者の研究的視点から保育実践を捉え、研究として報告することや発表を行うこと等を通して、他者と協働することによる実践的学びを自覚できるようにする。							

授業科目名	ET380U 教職実践演習(幼・保)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・谷 昌代・高村 真希 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>本科目は、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための必修科目で、4年間の学びの集大成として位置付けられています。これまでの学修で保育者としての力(保育の専門性)がどの程度身に付いたかを演習によって確かめます。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていきます。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていきます。このように、保育者として最低限必要な力(資質・能力等)について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにします。</p>			<p>幼稚園教諭・保育士資格の取得に関わる学びを履修カルテを通して振り返ることができる。今までの実習体験や本授業での諸ワークを踏まえて、自分の保育者としての力を明確にすることができる。保育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるかを知り、そのように高めていくかを考えることができる。保育者の今日的役割とその対応として求められているものは何かを多様な視点から考えることができる。自分が身に付けるべき力についてボランティア活動や園への訪問などを通して実践的に取り組むことができる。</p>			
教授方法	グループディスカッション・子どもを対象とした実践(あるいは模擬保育・授業)・ロールプレイ・講義					
履修条件	幼稚園教諭免許状・保育士資格取得に必要な実習を含む全科目(本学科を除く)の単位を修得し、幼稚園教諭免許状・保育士資格取得見込みであること。(備考欄参照)					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: 授業の概要と目的及び評価方法などについて知る。履修カルテをもとに自己の学びを振り返る。					全員
2	カリキュラムマップの作成: 履修カルテをもとに振り返ったことをカリキュラムマップで構造的に表す。					全員
3	カリキュラムマップを用いたグループ別討議を経て、他者からの気づきや自己課題をマップに補充する。					全員
4	保育実践(大学祭での活動を予定)に向けて: グループ別に遊びの指導計画を作成、実践の準備をする。					全員
5	保育実践(大学祭での活動を予定)に向けて: グループ別に作成した指導計画をもとに製作した教材、役割分担、実践の流れを確認し、模擬実践を行うことで見直し、改善を行う。					全員
6	グループワーク: 実践(大学祭での活動を予定)を行い、保育者としての力(保育の専門性)がどの程度身に付いたかを確かめる。					全員
7	実践の振り返り: 実践を経て、自分に足りない力や伸ばすべき力を洗い出し、グループ別に討議する。					全員
8	作成中のカリキュラムマップにさらにより具体的な自己の課題を補足して、自分に足りない力や伸ばすべき力をどのように身に付けて行くかを考えたマップに仕上げていく。カリキュラムマップをもとに自己課題と達成状況についてのレポート作成のためのルーブリックについて知り、レポートを作成する。					全員
9	深めたい今日的課題: グループ別に深めたい4つのテーマと各回話題提供者を決定し、深める方法について考える。					全員
10	今日的課題探究の結果報告と討論A: グループワークとミニレポート作成					全員
11	今日的課題探究の結果報告と討論B: グループワークとミニレポート作成					全員
12	今日的課題探究の結果報告と討論C: グループワークとミニレポート作成					全員
13	今日的課題探究の結果報告と討論D: グループワークとミニレポート作成					全員
14	ラウンドテーブルによる意見交換: それぞれのグループで討議した課題探究の結果を報告し合うとともに意見交換する。					全員
15	まとめとレポート作成: 「私のめざす保育者像」のテーマでレポートを構想し作成する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
カリキュラムマップ	10	構造的に自己の学びを表現している。		レポート	30	課題に即して書いている。(2回分)
ミニレポート	40	自己の学びに焦点化して書いている。(4回分)		授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
履修カルテの必要事項の記入。これまでに履修した科目のシラバスの見直し確認をする。[45分] 実習ファイル・授業レポート等を整理し、必要に応じて参照できるよう準備する。[30分] カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。[90分] 学外学習には事前に学習課題を設定して読み、事後に課題を整理する。[30分]			各担当の教員が講義中に指示する「カリキュラムマップ」「レポート」「ミニレポート」に取り組み、期限までに担当教員に提出してください。「カリキュラムマップ」は大学祭の際、子ども教育学科ブースで展示する予定です。			
受講生に望むこと	自身の適性を考え、目指す専門職像を明確にして、それにふさわしい行動を取るようにつに心がけること 実践や見学の日程が変わる場合もある。常に連絡に注意し、必要な連絡・報告を即座に行うこと グループの協働で取り組む授業外課題が少なくない。日程にゆとりをもって行動すること		教科書・テキスト	使用しない		
指定図書/参考書等	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814475 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814499 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN: 9784577814482		その他・特記事項	実習ファイル・履修カルテ(教職カルテ)・全授業シラバスを用意すること。4年次に保育実習を行う者は本演習履修時に保育実習(保育所)・保育実習(施設)・保育実習指導の単位を修得している者のみ受講可。資格・免許に必要な科目で後期に単位取得の可能性のある科目を残す者は受講可		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>向出: 幼稚園教諭としての勤務経験をもとに、図書館での絵本の実践や幼保グループによる現場での今日的課題等のディスカッションを行い、現場に向く準備をする。 谷: 総合的に教育について学ぶ深めのため、各施設における特習や子どもについての諸問題等、学生自身が学びを深めるにあたり、現場の実践として事例をもとに考える機会もある。 高村: 保育士としての経験をもとに、保育現場で求められている力や現代的課題を追求し、グループによるディスカッションを行っている。</p>						

授業科目名	ET385U 教職実践演習(幼・小・中)		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫・中野 聡・虫明 淑子・福江 厚啓 (代表教員 村井 万寿夫)					
標準履修年次	4年	開講時期	後期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	幼一種・小一種・中一種(英語)			
授業の概要			授業の到達目標			
1年次から学修してきた「子ども教育」についての総括的な科目が本科目です。特に、教育実習を終えることにより、幼稚園・小学校・中学校の教職課程の全課程(本科目を除く)を履修したことになります。そのため、これまで(3年半)の学修で教育者としての力(教師力)がどの程度身に付いたかを演習によって確かめます。その過程で、自分に足りない力や伸ばすべき力を明確にしていきます。さらに、その力をどうやって身に付けていくか演習などを通して考えていきます。このように、教育者として必要な力について継続的、かつ、実践的に取り組んでいくようにします。			幼稚園・小学校・中学校の教職課程における学びを履修カルテによって振り返ることができる。 教育実習を振り返りながら、自己のどのような力が発揮できたか明確にすることができる。 教育者を目指す上で必要な力としてどんな力があるか知る。 必要な力(子ども理解力、環境構成力、対人関係能力、学習指導力、自己啓発力など)をどのように高めていくかについて考えることができる。 自己が身に付けるべき力についてボランティア活動や学校訪問などを通して実践的に取り組んでいくことができる。			
教授方法	演習					
履修条件	教員免許状取得に必要な教育実習を含む全科目(本科目を除く)の単位を修得し、教員免許状取得見込みであること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション: 授業の概要と目的及び評価方法などについて知る/履修カルテをもとに自己の学びを振り返る。					全員
2	カリキュラムマップの作成: 履修カルテをもとに振り返ったことをカリキュラムマップで構造的に表す。					全員
3	教育実習の振り返り: 教育実習ノートをもとに実習中に発揮できた力を洗い出し、グループ別に討論する。					全員
4	自己発見と自己啓発: 教育者を目指す上で求められる力にはどんなものがあるか知り、その力をどのように高めていくか討論する。					全員
5	カリキュラムマップの完成と発表: 作成中のカリキュラムマップに自己の課題を補足して完成させ、グループ内でお互いに発表する。					全員
6	レポートの作成: カリキュラムマップをもとに自己課題と達成状況についてのレポート作成のためのルーブリックについて知り、レポートを作成する。					全員
7	教育現場への参加: 幼稚園、小学校、中学校の教育活動の参観、あるいは園・学校が主催する行事や活動に参加する。					全員
8	園・学校における今日的課題: 幼稚園、小学校、中学校における今日的課題についてグループで出し合いながら討論する。					全員
9	深めたい今日的課題: 前時に討論した中から深めたい今日的課題を絞って各担当を決め、深める方法について考える。					全員
10	今日的課題探究の結果報告と討論 : 校種別グループワークとミニレポート作成					全員
11	今日的課題探究の結果報告と討論 : 校種別グループワークとミニレポート作成					全員
12	今日的課題探究の結果報告と討論 : 校種別グループワークとミニレポート作成					全員
13	今日的課題探究の結果報告と討論 : 校種別グループワークとミニレポート作成					全員
14	ラウンドテーブルによる意見交換: 校種混合によるグループで今日的課題探究の結果を報告し合うとともに意見交換する。					全員
15	学習のまとめとレポート作成: 「私の教育者像」のテーマでレポートを構想し作成する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
カリキュラムマップ	10	構造的に自己の学びを表現している。		レポート	30	課題に即して書いている。(2回分)
ミニレポート	40	自己の学びに焦点化して書いている。(4回分)		授業態度	20	積極的に授業に臨んでいる。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
各年次の「履修カルテ」に必要事項を記入し、自己の課題を見出す。[30分] 「実習ファイル」(幼・小・中)の記入内容を確認し、「できたこと」「できなかったこと」を明確にする。[30分] カリキュラムマップを完成させるために自己の時間を見つけて取り組む。[60分] 学外学習(幼・小・中訪問など)には事前に学習課題を設定して臨み、事後に課題整理する。[60分]			各担当の教員が講義中に指示する「カリキュラムマップ」「レポート」「小レポート」に取り組み、期限までに担当教員に提出してください。添削して返却します。「カリキュラムマップ」と「レポート」は栄光祭の際、子ども教育学科ブースで展示する予定です。			
受講生に望むこと	教育者を目指して教員免許状取得に頑張ってきたのですから、最後まで意欲的、主体的に授業に臨んでください。		教科書・テキスト	なし(資料は適宜配付します。)		
指定図書/参考書等	なし/なし		その他・特記事項	「実習ファイル」(幼・小・中)、「履修カルテ」, 『学生要覧2017』を携行して臨んでください。		
実務経験を活かした授業の概要						
<small>村井: 実際の小学校の教職に、「小学校教師に求められること」の観点から関わり取り、それをもとに学生の指導に役立っている。 中野: 小中での経験を生かして小中学校で実際に行った授業を再現し、学生の模擬授業の一助としている。 虫明: 幼稚園副園長として子どものよりよい育ちを求めて保育者や保護者と協働してカリキュラム・マネジメントを行った経験をもとに、幼稚園から小学校・中学校さらにその後の学校教育を見通して子どもに育むべき力とは何か、幼小接続の重要性や特別支援の観点を含む総合的視点から、幼児教育がなぜ重要な現場の取組課題を提示して考えをまとめている。 福江: 幼稚園、小学校それぞれの現場経験から、より実践的なアドバイスをまとめている。</small>						

授業科目名	EC345U 幼児理解		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	向出 圭吾・齊藤 英俊・谷 昌代 (代表教員 向出 圭吾)					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	保育士・幼一種			
授業の概要			授業の到達目標			
<p>幼児一人ひとりとは異なった発達を示す。そのため、幼児期における保育には、一人ひとりの幼児に対する理解が必要である。なので保育者は、幼児一人ひとりの発達の特性を理解し、幼児が抱える発達の課題に応じた援助を考えることが求められる。</p> <p>本授業では、これから教育・保育の場に向かうための、子ども一人ひとりの内面を理解する意義について、実践的及び理論的な学びを目指すとともに幼児の保育・教育相談(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)の理論及び方法について学ぶ。</p>			<p>幼児理解の視点を理解している。</p> <p>子どもの姿の事例(ビデオを含む)から客観的に読み取ったり、実際に子どもと関わることで、幼児の動線や心が動くポイントを捉えることができる。</p> <p>幼児理解の方法(アセスメント)を捉えることができる。</p> <p>幼児の保育・教育相談を進める際に必要な基礎的知識(カウンセリングに関する基礎的事項を含む)を身に付ける。</p> <p>発達や学びの連続性を確保する視点を理解し、小学校教育へつなげて考えられる。</p> <p>保育を評価することを理解している。</p>			
教授方法	講義・演習・グループディスカッション					
履修条件	教育実践研究Bを履修していることが望ましい。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	幼児理解の視点について理解する。幼児の生活、発達、問題を捉え、その意義について考える。					全員
2	生活・遊びの実践を通しての幼児理解 : 子どもの生活・遊びの姿の事例(ビデオを含む)から子どもの内面を個々に読み取る。					向出
3	生活・遊びの実践を通しての幼児理解 : 子どもの生活・遊びの姿の事例(ビデオを含む)から子どもの内面をグループで読み取り討議する。					向出
4	生活・遊びの実践を通しての幼児理解 : 子どもの生活・遊びの姿の事例(ビデオを含む)から子どもの内面を読み取るとともに、遊びの動線や心が動くポイントについて考える。					向出
5	幼児理解の方法 : 幼児を取り巻く状況を理解し幼児の内面理解を深める、生活・遊びの実践の事例を用いて多面的に学び合う。					向出
6	子ども主体の保育実践に向けて。安全・危機管理・衛生管理を徹底して守られた環境の中で、子どもたちは本当に主体的に自己発揮できるのだろうか。保育者の思いと子どもの思いにズレがあることに気付く。					谷
7	子どもたちの成育歴を手掛かりに子どもを総合的に理解する。					谷
8	子どもたちを取り巻く環境の諸問題を理解し、子育てにおける保護者の相談事を知る。親子支援の在り方と今日的課題について学ぶ。					谷
9	幼児理解の方法 : 実践的理解について学ぶ。実習記録のエピソードから個と集団を見ることで幼児理解を深め合う。					向出
10	幼児理解の方法 : 実際に子どもたちと関わる実践を通して、子どもの内面を捉え考察してみる。					向出
11	保育・教育相談の視点から幼児期の心理的特徴や課題、支援のあり方について学ぶ。					齊藤・谷
12	子ども理解における保育・教育相談の意義や方法について学ぶ。					齊藤
13	幼児期の発達支援におけるカウンセリングの理論や方法の活用について学ぶ。					齊藤
14	心理学における研究方法の活用を学ぶ。観察法・評定法・面接法・事例研究法など、実践事例を通して実際に学び合う。					齊藤
15	指導要録や保育の評価及び保幼小の連携について理解する。					全員
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加態度	50	授業への積極的な参加・ディスカッションや保育実践への意欲的な取り組みができていくか。		課題レポート	50	授業内に提示される課題レポートの内容が適切か。
授業外における学習(事前・事後学習等)			課題(試験やレポート等)に対するフィードバック			
<p>事前に実習ファイル等でこれまでのエピソードを検証し、改めて自分なりの読み取りを見直ししておく。[60分]</p> <p>学んだ幼児理解の理論及び方法について、現場体験、インターンシップ、ボランティア活動等で実践できるようにプランを考える。[90分]</p> <p>積極的に現場等で実践を積み重ねる。</p>			<p>各回においてディスカッションを重ね、その都度課題の見直し改善を行い、自分の学びとしていく。</p>			
受講生に望むこと	現場で働くという自覚と意欲をもって授業に臨むこと。		教科書・テキスト	<p>『幼児理解に基づいた評価』文部科学省 チャイルド本社 2019年 ISBN:4805402830</p> <p>『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814475</p> <p>『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814482</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 2018年 ISBN:9784577814499</p>		
指定図書/参考書等	なし/ 『子ども理解と援助』高嶋景子・砂上史子・森上史朗編 ミネルヴァ書房 2011年 ISBN:9784623059621 『子ども理解と保育・教育相談』小田豊・秋田喜代美編 みらい 2008年 ISBN:978-4860151430		その他・特記事項	なし		
実務経験を活かした授業の概要						
<p>向出: これまでの実習を踏まえて、遊びの実践や他学年への指導を踏まえて幼児を理解する力をつける。</p> <p>谷: 子どもを様々な側面から理解するという事象を通して学ぶ。実際の子どもとの関わり場面(実際の保育現場ビデオ)から、学生自身が分析し、子どもを理解することの意味や難しさを知る。</p> <p>齊藤: 心理実践の経験をもとに、事例などをテーマにしたワークやディスカッションを通して子ども理解における心理的視点について説明している。</p>						

授業科目名	EN330U 保育カウンセリング			開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	虹釜 和昭						
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態	演習
他学科の履修	不可	関連資格	保育士				
授業の概要				授業の到達目標			
近年社会情勢の変化と共に、人の生き方が大きく変化し、保育家庭のあり方や抱える問題も多様になってきている。保育者には、そうした保育相談の多様性に対応できる支援技術が求められている。そこで当授業では、「社会福祉」「相談援助技術」での学びを踏まえ、子どもの健やかな育ちを目指した保育相談支援の理論と技術を学ぶ。				保育相談支援の意義と原則について理解している。 保護者支援の基本を理解している。 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解している。 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解している。			
教授方法	個人及びグループでの演習と講義						
履修条件	「相談援助技術」を修得済みであること。「保育実習（保育所）」、「保育実習（施設）」、「幼稚園教育実習」を履修中または履修済みであること。						
授 業 計 画							
実施回	授業内容・目標						担当教員
1	オリエンテーション：「社会福祉」「相談援助技術」との関係や、保育相談支援の意義を確認する。（演習）「話を聴く姿勢」（保育相談とカウンセリングとの関係を理解する。）						
2	（事例検討 演習）：「大切にしたい子どもの思い」「保育所で育てる・子どもの生活を支える」（子どもの最善の利益への取り組み方や、特定の家庭に特別な配慮をする場合の注意点を理解する。）						
3	講義：守秘義務について具体的事例より考える。連絡帳の書き方事例を用いて、信頼される保育者のコミュニケーション方法や「信頼を失わせる事故」について解説する。（全国保育士会倫理綱領を再確認する。）						
4	講義：苦情申し立て制度について説明する。事例検討「親の人生シナリオ」「支えられて親も育つ」より、保護者も子育てを通して成長していくことを理解する。（保護者支援の際の保育者のあり方を理解する。）						
5	講義：事例検討「乳児の夜泣き」より、親の性格と育児行動の関わりを理解する。その上で「虐待の世代間連鎖」という考え方について考える。（保育者が親を受け入れるということについて理解する。）						
6	講義：「ストレスモデル」を学ぶ。保育者が保護者との関係において生じる「転移・逆転移」の対処法について理解する。（演習）「保育者自身を活かす」（保育者自身が親の問題解決の道具であることを理解する。）						
7	講義：保育相談を効果的に行える場所の設定方法（場所、日時、相談にかかる時間等）について学ぶ。（演習）「親とゆっくり話せない時」（忙しい中で保護者の信頼を得る方法について理解する。）						
8	（演習）「先生、うちの子寝ないのです」全体ロールプレイを基に、相談援助の課程（プロセス）を解説する。（保育相談支援のプロセスの中で、保育者が保護者に対して行う具体的な声掛け方法について理解する。）						
9	（講義 演習）：「他機関との連携」連携機関の機能についてグループで再確認し、連携時の注意点を学ぶ。事例検討「保護者に無視される」（他機関連携を理解する。相談を求めない人への関わり方を理解する。）						
10	（演習）「ノンバーバルコミュニケーション」グループで、お互いの聴く姿勢について観察・評価しあう。（話を聴くときの自分の態度を他者からの意見、他者との比較の中で理解する。）						
11	面接の技術（演習 講義）：話しやすい雰囲気作り方を考える。ノンバーバルコミュニケーションの磨くポイントについて解説を聞いた上で、実際にやってみる（ノンバーバルコミュニケーション力を高める。）						
12	面接の技術（演習 講義）：傾聴の言葉かけの解説を聞く。ノンバーバルコミュニケーションも意識しながら、傾聴の言葉かけをやってみて、グループで観察・評価しあう。（傾聴技法とは何かを理解できる。）						
13	面接の技術（演習 講義）：保育相談の数事例の中から、自分が選んだ事例について個人で場面設定を行う。その事例を使って傾聴を行う。（傾聴技法を基にした保育カウンセリングを理解する。）						
14	面接の技術 講義：親の要望をどう受け止めるか、苦情解決に向けた取り組み方法を学ぶ。（演習）「保育者になりきる」自分が実習等で体験した事例を使って、保育カウンセリングを行う。						
15	（演習）「保育相談を受けてみよう」講師が保護者役となり、保育カウンセリングの全体セッションを行う。（授業全体の総括。及び、保育者は「親の人生の同伴者である」ということを理解する）						
成績評価方法と基準							
評価項目	割合(%)	評価基準			評価項目	割合(%)	評価基準
授業参加姿勢	50	演習科目のため、無断欠席、遅刻及び授業参加態度に適切な姿勢に欠けるとみられる場合は減点する。			期末レポート	30	事例をよく読み込み、授業のポイントを踏まえてまとめてあるレポートを評価する。授業に触れず持論を展開するレポートは評価が低くなる。
レポート	20	毎回の授業内容が理解できているか。又、演習から自己洞察を述べてあるかを評価する。					
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック			
授業に関連する部分のテキストを、授業後読んで理解する。[30分] 授業で学んだ傾聴の技法は実際に使ってみること（授業後、日常生活の中で実践する。）				期末レポート課題は、後半の授業中に発表する。授業の内容を理解した上で、事例検討を行う内容となる。 小レポート全員に対し、毎回返却はしないが、内容について個別にコメントをしたり、授業内容に反映させる等を行う。			
受講生に望むこと	「相談援助技術」に引き続き、演習形式の講義である。「相談援助技術」学んだコミュニケーション技術を、この授業では保育場面に特化して、さらに深化させる。			教科書・テキスト	『演習保育相談支援(第3版)』 小林育子著 萌文書林 2018年 ISBN：978-4-89347-303-5		
指定図書/参考書等	なし/なし			その他・特記事項	適宜プリント配布。プリントは大レポート作成に必要なので、各自で整理しておくこと。		
実務経験を活かした授業の概要							
保育所において実際に対応した事例について、ケースメソッドを通して対応の実際を考察する。							

授業科目名	ET340U 介護等体験		開講学科	子ども教育学科	必修・選択	選択
担当教員名	村井 万寿夫					
標準履修年次	4年	開講時期	前期	単位	2単位	授業形態
他学科の履修	不可	関連資格	小一種・中一種（英語）			
授業の概要			授業の到達目標			
高齢者施設や児童施設などの社会福祉施設において5日間、特別支援学校において2日間の介護等体験活動を行う。体験に入る前に事前指導を行い、体験後には事後指導を行う。このように、事前指導+7日間の介護体験+事後指導のセットによる授業が本科目の概要である。事前指導には、介護等体験に係る書類等の説明と作成を含む。なお、書類は大学が一括して石川県社会福祉協議会や石川県教育委員会に提出する。			教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解することができる。 ノーマライゼーションの理念について理解することができる。 高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考えながら体験することができる。 体験によって何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書くことができる。			
教授方法	講義（事前・事後）、体験（5日間+2日間）					
履修条件	3年次生までに必要な教員免許状取得のための科目を履修していること。					
授 業 計 画						
実施回	授業内容・目標					担当教員
1	オリエンテーション：授業概要をもとに学びの見通しを持つとともに介護等体験の意義と手続きについて理解する。					
2	人間の障がいの理解：ノーマライゼーションの理念について理解するとともに介護等体験で出会う障がいについて知る。					
3	社会福祉についての理解：社会福祉の理念（基本的人権と社会福祉）や内容（児童福祉、高齢者福祉、障がい福祉）について理解する。					
4	特別支援教育についての理解：特別支援教育の基本的な考え方（インクルーシブ教育）や教育内容（教育課程など）について理解する。					
5	体験活動の実際：福祉施設における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。					
6	福祉施設での介護等体験：施設利用者の1日の生活に寄り添う。					
7	福祉施設での介護等体験：施設利用者に必要で、自己ができる介護、援助、補助などを見つける。					
8	福祉施設での介護等体験：自己ができる介護、援助、補助などを行う。					
9	福祉施設での介護等体験：自己ができる介護、援助、補助などを繰り返したり、新たに見つける意識をもって臨む。					
10	福祉施設での介護等体験：自己の経験や学びをもとに感謝の気持ちを持って施設利用者と会話するようにする。					
11	福祉施設での介護等体験の振り返り：5日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートA）					
12	体験活動の実際：特別支援学校における活動中の注意点について理解するとともに、『介護等体験日誌』の記録の仕方を理解する。					
13	特別支援学校での体験：児童生徒の1日の学校生活に寄り添い、自分がどんな支援・援助ができるか考えながら接する。					
14	特別支援学校での体験：1日目の体験で気付いたり考えたりしたことをもとに、2日目はどのように関わっていくか考えて接する。					
15	特別支援学校での介護等体験の振り返り：2日間を振り返り、何を学んだか、自己の考え方がどう変わったかを整理して書く。（介護等体験レポートB）					
成績評価方法と基準						
評価項目	割合(%)	評価基準		評価項目	割合(%)	評価基準
介護等体験レポートA	50	福祉施設における5日間の体験によって、どのような学びがあったのかを中心にまとめている。		介護等体験レポートB	20	特別支援学校における2日間の体験によって、どのような学びがあったのかを中心にまとめている。
小レポート	15	福祉施設や特別支援学校における体験についての講義内容をもとに、自己の気付きや発見などを書いている。		授業態度	15	積極的に授業に参加している。
授業外における学習（事前・事後学習等）				課題（試験やレポート等）に対するフィードバック		
第1回目の授業後に課す「ノーマライゼーションとは何か」について自己で調べて第2回目に授業に臨む。（事前学習） 第3回目の授業後に課す「インクルーシブ教育と何か」について自己で調べて第4回の授業に臨む。（事前学習） 7日間の体験中、その日の体験が終わったら毎回、『介護等体験日誌』を書く。（事後学習） 体験終了後1週間以内に『介護等体験日誌』を授業担当者に提出する。（事後学習）				授業（講義・演習）の中で課した小レポートを添削して返却する。 福祉施設や特別支援学校での体験中に記録する「介護等体験日誌」にコメントして返却する。		
受講生に望むこと	教職をめざす学生にとって介護等体験がなぜ必要なのか理解した上で実際の体験に臨むことができるようにしてください。 高齢の人や障がいがある子どもへの接し方について考え、機会があるときには積極的に交流できるようにしてください。 ノーマライゼーションの考え方を理解し、今後の生き方の中でそれを大切にしていこうとする意識を持ってください。			教科書・テキスト	『介護等体験安心ハンドブック』、庄司和史著、学事出版、2018年版、1650円 ISBN978-4-7619-2477-5	
指定図書/参考書等	『介護等体験ハンドブック』、現代教師養成研究会編、大修館書店、2014年版、1320円、『介護等体験ガイドブック フィリア』、全国特別支援学校校長会編者、2014年版、ジ アース教育新社/なし			その他・特記事項	なし	
実務経験を活かした授業の概要						
特別支援学校を訪問したりして介護等体験を行うために必要な連携体制づくりを行っている。						